

史料目録 第117集

信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録
(その15)

令和5年3月

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館
学術資料事業部

史料目録 第117集

信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録
(その15)

The catalogue of historical collections

Vol. 117

The catalogue of papers of the Hatta Family, Merchants and Town Officers
in the Early Modern Japan at Ise-cho, Matsushiro Castle Town, Hanishina County, Shinano Province

No.15

National Institute of Japanese Literature,2023

ISBN 978-4-87592-209-3

ISSN2435-2055



写真1 調書事（9月朔日より12月晦日まで油仕入金ノ高辻金159両余など金銭勘定書付）
（え4702-4）冒頭

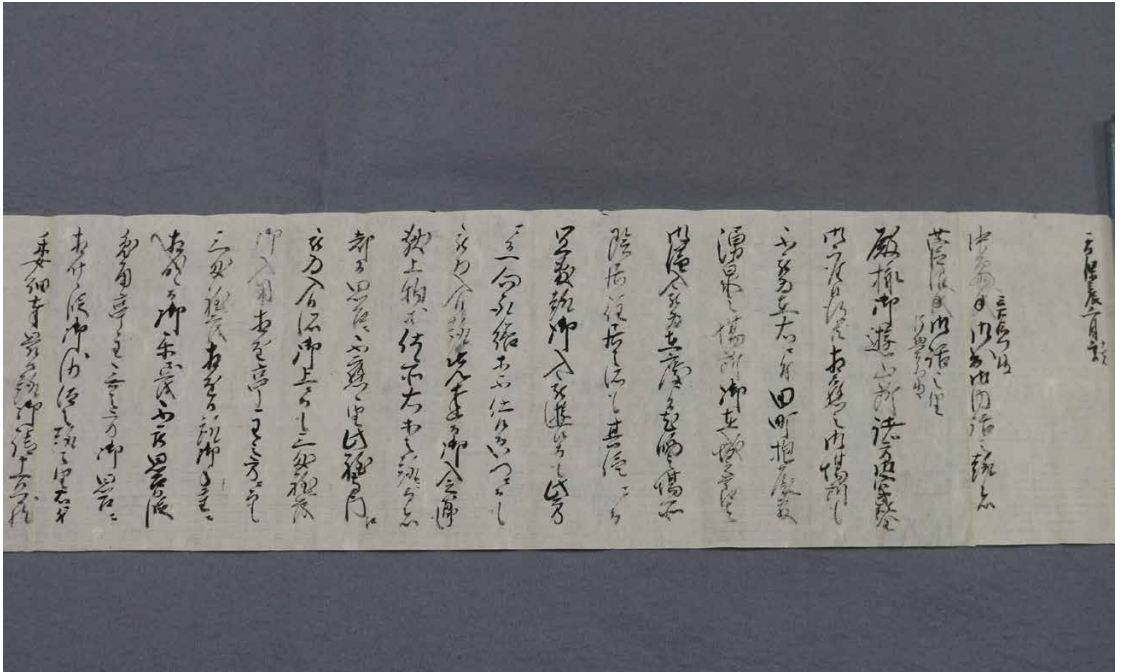


写真2（書状、中島三右衛門殿御内話の趣は菅沼殿御話の由、殿様御遊山所諸方御穿鑿、
田町抱屋敷湧泉の場所御借り入れ在らせられたきに付）（え4689-16）冒頭

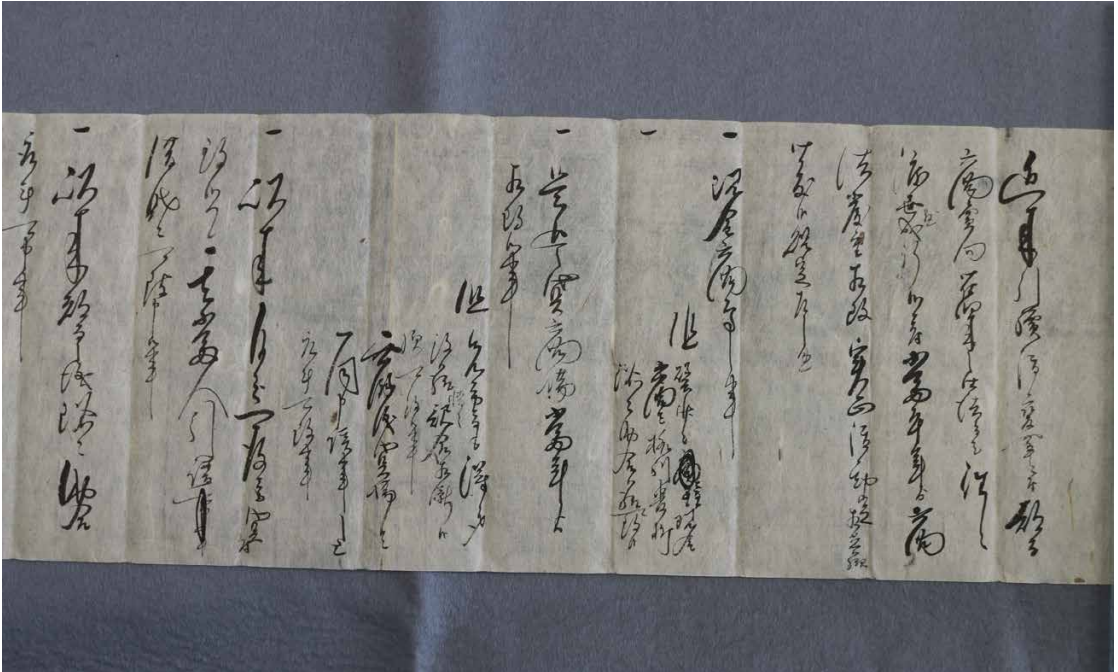


写真3 (書状、近来引き続き御変革、商売向き旧来の仕法渡世成り行き当午年より商法相改め御規則に付) (え 4652-22-8) 冒頭

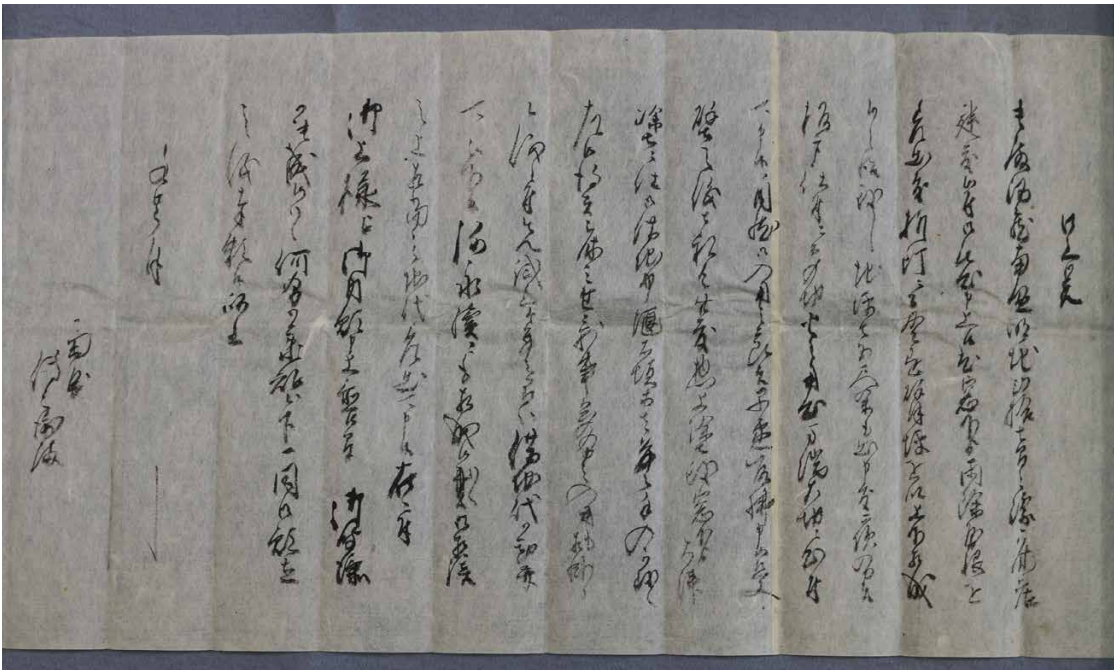


写真4 口上覚 (貴殿酒蔵南通明地 27 間の際床店建てたき旨、多分の入用相掛り 3 ヶ年は借地代御勘弁下さるべきに付) (え 4662-7)

凡 例

- 1 本目録は、『史料目録』第117集として「信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録(その15)」(文書記号:28B)を収めた。信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書(以下、八田家文書と略)に関しては『史料目録』第41集(1985年)・第48集(1989年)・第50集(1990年)・第94集(2012年)・第96集(2013年)・第97集(2013年)・第99集(2014年)・第101集(2015年)・第102集(2016年)・第107集(2018年)・第108集(2019年)・第111集(2020年)・第113集(2021年)・第115集(2022年)にも収録している。合わせて参照頂きたい。
- 2 目録編成にあたっては、ISAD(G)(国際標準・記録記述の一般原則)の考え方も参考にしつつ、文書群を発生させた組織・集団の機能に留意し、文書群の持つ体系的なコンテクストを把握することに努めるとともに、上記既刊八田家文書目録の階層構造を生かすように心掛けた。
- 3 本文記載は、(1)表題、(2)作成者または差出人、(3)宛名、(4)作成年月日、(5)形態・数量、(6)整理番号の順である。一括状況などの情報は、(5)史料形態に続けて/(半角スラッシュ)で区切った上で、これを明記した。また紙質や保存状態などの情報も同様に適宜注記した。原文書の判読不能箇所などは、[]をもって字数を埋めた。
- 4 表題は原表題のあるものはそれを採り、ないものについては()を付して仮表題を与えた。また、表題のみでは内容が判別できないものについても、簡単な内容摘記を行い、同様に()を付した。
- 5 作成年は和年号で示し、干支だけの場合はそれを採録した。推定年月日については、()を付した。
- 6 史料の形態は、本目録の大半を占める書付文書の場合、縦紙、折紙、縦切紙、横切紙、縦継紙、横切継紙、小切紙、小紙、札などと表記することで、料紙の使用法の違いを示した。冊子型史料では、半(半紙縦折判)、美(美濃縦折判)、横長半(半紙横折判)、横長美(美濃横折判)、横半半折(半紙横折紙半折判)などの略称によって原書の大概を示した。また絵図類や定形外の印刷物は、縦横の寸法をセンチ・メートル単位で示し、紙継があるものは鋪、ないもの(1枚もの)は枚とした。
- 7 整理番号は、今回新たにこれを付与した。
- 8 本目録は研究部西村慎太郎がこれを担当し、学術情報部の古畑侑亮がこれを補佐した。文書の目録データの作成にあたっては、大銃地駿佑、北村駿之介、黒滝香奈、菅原一、鈴木萌花、角田くるみ、戸森麻衣子、山田拓実の各氏の協力を得た。

総 目 次

口 絵

凡 例

総目次

信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その15）本文細目次	1
解題	6
1. 伊勢町八田家文書の伝来と整理方法	6
2. 八田家の歴史	6
3. 文書群の階層構造と内容	7
4. 本目録において頻出する人物について	20
伊勢町八田家系図	26
木町八田家系図	28
目録本文	30
内方	30
店方	131
町方	135
松代藩御用	138
会所・商社	140
松木家	153
混入文書	153
欠番	153
既刊目録に見られる八田家文書群の階層構造一覧	154

信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その15）本文細目次

1. 内方	30
1.1. 系図・親類書	30
1.1.1. 扶持方請取	30
1.2. 家訓・規定	30
1.2.1. 条目・遺言	30
1.2.2. 勝手向取締	30
1.3. 人別改	30
1.4. 家族・奉公人	30
1.4.1. 婚姻	30
1.4.2. 鉄治郎不行跡	31
1.4.3. 人名・年齢書上	33
1.4.4. 役代	33
1.4.5. 奉公人勤向	33
1.4.6. 送金	33
1.4.7. 改名	34
1.5. 藩関係	34
1.5.1. 勤務	34
1.5.2. 苗字帯刀	35
1.5.3. 秩禄	35
1.6. 土地経営	36
1.6.1. 持地	36
1.6.2. 借家	37
1.6.3. 持地・抱屋敷絵図	37
1.6.4. 年貢諸役上納	38
1.6.5. 家屋敷建築	38
1.6.6. 下屋敷	38
1.6.7. 土地絵図	38
1.6.8. 小作	39
1.6.9. 矢代村	39
1.6.10. 赤倉温泉	39
1.6.11. 東寺尾村	40

1.7. 小作年貢滞出入一件	40
1.7.1. 中野質地一件	40
1.8. 金融	42
1.8.1. 借入金・預り金	42
1.8.2. 貸付金	43
1.8.3. 無尽	69
1.8.4. 伊勢山田御師広田筑後一件	78
1.9. 岩村田領	82
1.9.1. 貸付金	82
1.9.2. 訴訟	82
1.10. 金銭・穀物請払	84
1.10.1. 店方江下ヶ金・上納金	84
1.10.2. 穀物・諸品請払	84
1.10.3. 金銭勘定	84
1.10.4. 近代税金領収書	92
1.10.5. 入用	92
1.11. 勝手向	92
1.11.1. 勝手向立て直し	92
1.12. 儀礼	92
1.12.1. 出生	92
1.12.2. 元服	93
1.12.3. 献上・進物	93
1.12.4. 贈答・進物	94
1.12.5. 婚姻・離縁	98
1.12.6. 葬儀・法事	99
1.12.7. 引越為知	105
1.12.8. 年賀状・暑中見舞・寒中見舞	105
1.12.9. 御目見・代替・就任挨拶・許可	106
1.12.10. 見舞い	109
1.12.11. 御礼	112
1.13. 旅	115
1.13.1. 寺社参詣	115
1.14. 寺社	115
1.14.1. 菩提寺浄福寺	115
1.14.2. 松代大林寺	116

1.14.3. 和合院	117
1.14.4. 江戸	117
1.14.5. 諏訪宮	117
1.14.6. 高野山蓮華定院	118
1.14.7. 尾張	118
1.15. 家財	119
1.15.1. 武具	119
1.15.2. 衣類・諸道具・書画ほか	119
1.15.3. 武具・印章等注文	120
1.15.4. 諸道具貸出	120
1.16. 見聞・風説書	121
1.17. 諸芸	123
1.17.1. 武芸・文芸	123
1.17.2. 茶の湯	123
1.17.3. 学芸	124
1.17.4. 能	125
1.17.5. 柔術	125
1.17.6. 水術	125
1.17.7. 手習	125
1.17.8. 占い・観相	127
1.17.9. 俳句・和歌	127
2. 店方	131
2.1. 酒造方	131
2.1.1. 酒造鑑札	131
2.1.2. 内方より拝借金・上納金	131
2.1.3. 酒造入用	131
2.1.4. 棚卸	132
2.1.5. 酒蔵・酒店勘定	132
2.1.6. 奉公人	132
2.1.7. 道具調	132
2.1.8. 借地	132
2.1.9. 普請	132
2.2. 呉服店	132
2.2.1. 売買	132
2.3. 油店	133

2.3.1. 金銭請払	133
2.4. 醤油店	133
2.4.1. 内方より拝借金・上納金	133
2.5. 質店	133
2.5.1. 内方より拝借金・上納金	133
2.5.2. 入用	133
2.5.3. 取替	133
2.6. 陶器店	133
2.7. 赤倉松井店	134
3. 町方	135
3.1. 諸役・貢税	135
3.1.1. 年貢諸役	135
3.2. 殿様御用	135
3.2.1. 殿様御入接待	135
3.2.2. 殿様御巡見	135
3.3. 救済	136
3.3.1. 手当・施行	136
3.4. 町政	136
3.5. 貸借	137
3.6. 祭礼	137
4. 松代藩御用	138
4.1. 年貢諸役取立請負・御用米金調達	138
4.2. 御勝手御用役	139
4.2.1. 役人任免・俸禄	139
4.2.2. 褒賞	139
4.3. 川船会所	139
4.3.1. 通船免許	139
4.3.2. 通船取締	139
4.3.3. 金子・田畑屋敷貸下	139
5. 会所・商社	140
5.1. 会所貸下金	140
5.2. 借入金・預り金・貸付金	141
5.3. 冥加金	141
5.4. 絹紬類売捌	142
5.5. 麻・木綿売買	143

5.6. 産物無尽	143
5.7. 産業統制	143
5.7.1. 鑑札	143
5.7.2. 陶器竈場	143
5.7.3. 蚕種・絹紬	144
5.7.4. 甘草	144
5.7.5. 杏仁	144
5.7.6. 木綿	145
5.7.7. 規定	145
5.8. 大坂交易	145
5.9. 近郷での取引	148
5.10. 江戸での取引	149
5.11. 松前での取引	149
5.12. 駄送	150
5.13. 入用	150
5.14. 日記・用留	151
5.15. 会所役人心得方	151
5.16. 会所運営	151
5.17. 役人任免・俸禄	152
6. 松木家	153
6.1. 砲術	153
6.2. 松木家家族	153
7. 混入文書	153
7.1. 信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書	153
8. 欠番	153

信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その15）解題

文書群記号 28B

文書群名 信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書

年代 延享3年(1746)～明治23年(1890)

数量 1926点

1. 伊勢町八田家文書の伝来と整理方法

伊勢町八田家文書は信濃国埴科郡松代伊勢町（現在の長野県長野市松代町）に宝永6年（1709）に居住して以来、今日に至る八田家に伝来した文書群である。昭和28年（1953）、9代目当主八田恭平氏（明治33年、1900年生まれ。昭和36年、1961年死去）によって文部省史料館（現在の国文学研究資料館）に譲渡された。

譲渡当時の整理の様相については不明だが、吉永昭氏（元福山大学学長、当時は文部省史料館臨時筆生）によってカード状の目録が作成された。その後、昭和33年（1958）に吉永氏が愛知教育大学へ転出してしまったため、整理作業が中断されたが、昭和56年（1981）頃、大藤修氏（現東北大学名誉教授、当時は国文学研究資料館史料館助手）によって整理作業が再開された。

大藤氏の整理作業に基づいて、『史料館所蔵史料目録 第41集 信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その1）』（以下、『八田家文書目録』と略す）が昭和60年（1985）に刊行された。その解題には「総点数は書付類を含めると数万点にのぼり、一度に目録化することは不可能であるため、逐次分冊で刊行していくことにした。今回は〈その一〉として、冊子型史料の大半と、伝存形態の上で冊子と密接に関連している書付型史料若干」を収録するという整理・刊行方法が提示されている。以後、『史料館所蔵史料目録』としてその1からその14が刊行された（いずれも国文学研究資料館ホームページ「学術情報リポジトリ」で公開）。

八田家文書は『八田家文書目録』その1～その3までに対応して、あ～うの整理番号が冠されることとなった。『八田家文書目録』その4以降は煩雑となるため、「え」で統一することになった。

2. 八田家の歴史

伊勢町八田家は松代藩御用商人の家柄であり、御用金上納などによって給人格を得て、松代藩産物会所取締役を歴任するなど、松代藩財政に重要な役割を果たした家である。また、町年寄も務めている。

初代孫左衛門重以は宝永4年（1707）6月に木町八田家から分家し、同6年6月より伊勢町に居を構え、商売を始めた。同時に町年寄にも就任している。

2代目嘉助芳茲は初代孫左衛門の弟に当たり、兄の養子となった。寛保3年（1743）7月には町年寄に就任し、初代孫左衛門の死後、兄同様に藩より30人扶持が給されている。さらに、同年12月1日

には御用金の切り捨てにより、代わりに20人扶持が加増され、合計50人扶持が給されることとなった。御用金の総額は不明ながら、寛延元年(1748)12月21日の「覚」によれば、495両の貸し付けが確認できる(え59-20)。

3代目孫左衛門以親は父嘉助が死去した宝暦6年(1756)にはわずか15歳であったが、藩より30人扶持が給付されることとなった。元服後、同11年に町年寄に就任。寛政4年(1792)までの間、30年以上町年寄を務めた。

4代目嘉右衛門知義は父が町年寄在職中の寛政3年(1791)に町年寄に就任している。享和3年(1803)に父孫左衛門が死去すると家督を相続し、藩からは30人扶持が与えられ、父同様給人格御勝手御用役に取り立てられた。さらに、城下町町人の人別からは除かれ、別帳扱いとなっている。この嘉右衛門は多くの役職を務めている。文化13年(1816)には産物御用掛、翌14年には川船運送方御用、文政7年(1824)には社倉調役、同9年には糸会所取締役、天保4年(1833)には産物会所取締役などである。文政7年にはこれまでの一代取り立てではなく、給人永格となっている。なお、八田家文書全体としては、嘉右衛門知義が関わっている文書が多い。

5代目嘉助知則は嘉永元年(1848)に4代目嘉右衛門が死去すると、家督を相続したが、同4年に45歳の若さで死去してしまった。

6代目慎蔵知道は嘉助が亡くなると、家督を相続し、父祖同様に30人扶持が給付され、御勝手御用役に取り立てられた。産物会所の役職を勤めたものと思われ、文書では「御産物御懸り」と記されている(え2-28など)。明治維新後、横浜交易を展開するため、明治2年(1869)、藩内に松代商法社が設立されると、慎蔵は商法掌に任命された(商法社のトップは取締役。商法掌はナンバー2であり、9名任命)。その後、慎蔵は士族に列し、明治12年(1879)には第六十三銀行(明治11年設立。本店は稲荷山村。昭和6年に第十九銀行と合併し、現在の第八十八銀行に至る)頭取に就任した。

以上、簡単に八田家の歴史を述べた。詳細は他の史料目録も参照してもらいたいが、家文書のみならず、藩の御用に関わる文書が多いという特徴が挙げられよう。

3. 文書群の階層構造と内容

既刊目録同様、文書群の階層構造を追求するよう努めた。これは八田家の内部組織を明らかにした上で、その組織を大項目(サブファンド)とし、以下、機能を解明して中項目(シリーズ)・小項目を設定した。なお、明確な組織になっていない部分も多い。

以下、サブファンドごとに階層構造と内容を説明した上で、各シリーズにどのような文書を編成したかについて述べる。但し、すでに従来の史料目録で指摘されている点は割愛して、特徴的なシリーズや新出のシリーズに限定して述べたい。

サブファンド「内方」

「内方」は、八田家の家政機関であり、店方の統轄をも行なった。「内方」にはいくつかの「掛り」があり(材木方・通船方など)、「内方の諸機能の中で特定の機能を分担した掛りの作成したものは、それぞれその

機能にかかわる該当項目に入れている」という編成方針が宣言されており、各シリーズとも断片的に把握できる機能を生かして編成した。

シリーズ「系図・親類書」

1レコード。サブシリーズとして「扶持方請取」を設定した。

八田家の親族関係などについては、後掲の伊勢町八田家系図・木町八田家系図を参照願いたい。

シリーズ「家訓・規定」

4レコード。サブシリーズとして「条目・遺言」「勝手向取締」を設定した。

え 4651-17「口達書取」は店方勤務の者に対する規定であるが、店方を統轄する内方から出されたものであるため、サブfond「内方」シリーズ「家訓・規定」に編成した。

シリーズ「人別改」

1レコード。人別書上であるが、八田家に関わるか判然としない。従来の目録においても奉公人の人別などはサブfond「内方」シリーズ「人別改」に編成されているため、その傾向に従った。

シリーズ「家族・奉公人」

46レコード。サブシリーズとして「婚姻」「鉄治郎不行跡」「人名・年齢書上」「役代」「奉公人勤向」「送金」「改名」を設定した。

6代当主慎蔵の弟である鉄治郎の養子縁組・離縁については、これまでもサブシリーズ「鉄治郎不行跡」に編成している。『八田家文書目録』その10でも述べられているように鉄治郎が実家に戻った際に、自身の書状などを持ち帰ったため、保管されたものであり、八田鉄治郎文書と言い得る一群である。養子先の文書についてはサブシリーズ「鉄治郎不行跡」として編成した方が利用しやすいと思い、「不行跡」かどうかは別としてここに編成した。

また、え 4704-2-87・え 4704-2-90 は年代が不明ながら八田嘉右衛門（名代辰三郎）から八田孫太郎が慎蔵と改名した通知である。改名に関しては、従来の史料目録においてえ 4153-25 のように松平晴三郎が改名した文書はシリーズ「儀礼」サブシリーズ「婚姻・離縁」として編成していたが、八田孫太郎は家族であるため、シリーズ「儀礼」ではなく、シリーズ「家族・奉公人」の中に新たにサブシリーズ「改名」を設定した。

シリーズ「藩関係」

22レコード。サブシリーズとして「勤務」「苗字帯刀」「秩禄」を設定した。

八田家が帯刀を許可された時期は不明だが、早くは初代の孫左衛門が町年寄に着任した後、享保12年（1827）に30人扶持を与えられており、3代目の孫左衛門が享和2年（1802）に給人格に取り立てられていることから、近世中期には非常帯刀は認められていたものと思われる。え 4698-7 は誰の永帯刀

苗字御免願いかは不明だが、八田家に関するものと考え、新たにサブシリーズ「苗字帯刀」を設定した。

また、6代目の慎蔵は明治3年(1870)閏10月に士族となっており、え4669-1-2は慎蔵(知道)に対する秩禄仮渡分1円の書付である。酉年12月とあるから明治6年のことと思われる。秩禄自体は明治政府による公債であるが、藩制期の扶持からの関連を踏まえた方がよいと考え、シリーズ「藩関係」の中に新たなサブシリーズ「秩禄」を設けた。

シリーズ「土地経営」

59レコード。サブシリーズとして「持地」「借家」「持地・抱屋敷絵図」「年貢諸役上納」「家屋敷建築」「下屋敷」「土地絵図」「小作」「矢代村」「赤倉温泉」「東寺尾村」を設定した。

サブシリーズ「下屋敷」はえ4665-11・え4665-12のみであるが、え4665-11は明確に下屋敷の見分と引渡しに関わるので「下屋敷」に編成したが、え4665-12は佐助という人物の転宅に関する箇条書であるため、下屋敷に関わるか判然としなかった。しかし、え4665-11の下に位置するという現状を生かして、サブシリーズ「下屋敷」とした。なお、『八田家文書目録』その10で下屋敷経営関係文書55件が一綴りになっている。

シリーズ「小作年貢滞出入一件」

29レコード。サブシリーズとして「中野質地一件」を設定した。

従来の史料目録でもサブシリーズ「中野質地一件」は設定されており、文政12年(1829)に出府している一件である。なお、川船会所との関係も確認できるために、既刊目録ではサブフォンド「松代藩御用」シリーズ「川船会所」に編成されているものもあるので、合わせて参照されたい。

シリーズ「金融」

665レコード。サブシリーズとして「借入金・預り金」「貸付金」「無尽」「伊勢山田御師広田筑後一件」を設定した。

八田家文書には多く貸付に関わる文書が遺されているが、その貸付が八田家によるものなのか、八田家が取締役を務めた産物会所のものなのかなど判然としない文書が多い。これらを厳密に編成することは困難であるので、産物会所や川船会所などの語が確認できる場合は当該箇所編成した。また、松代藩内外に展開していた無尽についても文書上では類似の文面で表現されている。無尽については「無尽」「頼母子」「鬮」などの語が確認できる場合はサブシリーズ「無尽」に編成した。そのため、他のシリーズでも見られる「貸付」「無尽」を合わせて参照されたい。

「伊勢山田御師広田筑後一件」については、すでに『八田家文書目録』その13でも述べたが、廣田筑後は伊勢神宮外宮の御師である。「信州御旦家数代御勸所」と記されているとおり、代々信濃国を檀家としていた(八田家文書え2336)。廣田筑後と八田家との関わりの中で貸付金が確認されるのは明和年間である。その発端は廣田筑後家を相続した際、家の普請の勤化を松代藩内の檀家に依頼されたことによる。その後長年にわたり続く廣田筑後と松代藩領内の檀家、さらには幕府や公家の花山院家もまき

こんだ争論に発展する。既刊の史料目録では異なったシリーズ名（ないしはサブシリーズ名）に編成されている（例えば「内方・給人格取立」「内方・金融・貸付金」「内方・金融・広田筑後岩出六右衛門無尽一条」「内方・金融・伊勢山田御師廣田筑後一件」「町年寄・一件」など）。

シリーズ「岩村田領」

27レコード。サブシリーズとして「貸付金」「訴訟」を設定した。

岩村田藩は元禄16年(1703)武蔵国赤沼藩15000石藩主内藤正友が転封となり、佐久郡内27か村16000石を与えられ、岩村田に陣屋が置かれたことによる(のちに1000石分知)。八田家は文政5年(1822)より10ヶ年季で岩村田藩に2000両を貸し付けていた。これに対して領内の村々が抵当として質地となり、毎年、作徳米を八田家に納めることとなったが、滞納により訴訟が八田家から起こされている。

「岩村田一件」「岩村田一条」などの表現で登場する文書、また、訴訟期に藩主であった内藤正繩の官職名である豊後守という表現で登場する文書はシリーズ「岩村田領」に編成した。なお、サブシリーズ「貸付金」「訴訟」はそれぞれ編成しにくい文書も多いので、貸付に関わるものだけが記されている場合サブシリーズ「貸付金」に編成し、訴訟に関する内容や訴訟と合わせて貸付も記されている文書はサブシリーズ「訴訟」とした。この訴訟は幕府評定所を巻き込んだ争論であり、沖八・米八という人物が出府している(え4696-7)。

なお、え4681-1・え4681-6・え4681-9は関連が不明ながら、後述するように関田慶左衛門・守之丞に関わる文書は岩村田領の訴訟に関わるが多いため、シリーズ「岩村田領」に編成した。

シリーズ「金銭・穀物請払」

152レコード。サブシリーズとして「店方江下ヶ金・上納金」「穀物・諸品請払」「金銭勘定」「近代税金領収書」「入用」を設定した。

従来の史料目録でも内容が判然としない金銭書上が散見されるが、それらがどのような性質の文書なのか、人物や内容、品目からは即断できないため、シリーズ「金銭・穀物請払」サブシリーズ「金銭勘定」に編成した。

シリーズ「勝手向」

2レコード。サブシリーズとして「勝手向立て直し」を設定した。

嘉永7年(1854)奉公人らに勝手向立て直しに関する「御家法御改革」を行っている。八田家文書の中では「御改革」の文言で多く記されている(え4651-18など)。その「御改革」とは、5代目嘉助が藩御用の実態を整理し、勝手方改革案を作成して、勝手方立て直しを推進したものである。なお、『八田家文書目録』その10には78点の勝手向立て直し関係の文書が収録されているので、合わせて参照されたい。

シリーズ「儀礼」

378レコード。サブシリーズとして「出生」「元服」「献上・進物」「贈答・進物」「婚姻・離縁」「葬儀・

法事」「引越為知」「年賀状・暑中見舞・寒中見舞」「御目見・代替・就任挨拶・許可」「見舞い」「御札」を設定した。

既刊の史料目録でも見られたが、他の項目に編成できない儀礼的な文書を編成している。また、御札状としての意味合い以外見い出せない文書もあるため、それらは新たにサブシリーズ「御札」を設定した。

シリーズ「旅」

4レコード。サブシリーズとして「寺社参詣」を設定した。

天保11年(1840)7月に八田嘉助が伊勢神宮に参詣を願い出ている(え4689-6)。この願いは許可されたようだが(え1818-14)、実際に参宮したかは判然としない。なお、従来の史料目録ではサブシリーズ「社寺参詣」であったが、「社寺」は近代以降の表現であり、ここでは「寺社」に改めた。合わせて参照されたい。

シリーズ「寺社」

46レコード。サブシリーズとして「菩提寺浄福寺」「松代大林寺」「和合院」「江戸」「諏訪宮」「高野山蓮華定院」「尾張」を設定した。

浄福寺については従来の史料目録でも借財や無尽、祠堂金の貸付に関わる文書が確認されており、本目録でも天保2年(1831)の浄福寺再建に関わる無尽が見られた。

大林寺は真田家の菩提寺である長国寺と同様に、真田信之の松代転封に際して上田から移転してきた。八田家文書の中には無尽関係文書として多く見られる。本目録では「寒松山御隠居」が参るといふ書状だが(え4673-3)、寒松山が大林寺の山号である。

諏訪宮は松代城下町の鎮守である現在の諏訪神社であり、文化年間の再建に際して多額の金銭を出している(あ1590・あ1591)。従来の史料目録ではシリーズ「寺社奉加」に編成されていたが、ここでは新たにサブシリーズ「諏訪宮」を設定した。

高野山蓮華定院は真田昌幸が逗留し、その後、真田家の墓所が建てられ、真田家との由緒が深い寺院である。真田家の位牌所が造立されたため、真田家文書の中には高野山月牌料請渡証文などが散見される(か1196など)。本目録には蓮華定院類焼に伴う再建の寄附を依頼された書状や奥の院初穂料が見られたため、サブシリーズ「高野山蓮華定院」を新たに設定した。

また、戸田伊勢・戸田斎宮亮に初穂料を納める文書が確認された(え4656-28・え4704-2-20)。え1371-003に「尾州神職戸田斎宮亮」が八田家系図について尋ねていることから、尾張国の神職であるものと推測される。残念ながらどこの神社であるか判然としないため、ここではサブシリーズ「江戸」と同様にサブシリーズ「尾張」を新たに設定した。

シリーズ「家財」

39レコード。サブシリーズとして「武具」「衣類・諸道具・書画ほか」「武具・印章等注文」「諸道具貸出」

を設定した。

従来の目録ではサブシリーズ「武器」が設定されていたが、名称が的確でないと考え、「武具」と改めた。なお、八田家の書跡手本貸し出しについては、シリーズ「蔵書」に編成することもできるが、ここでは貸し出しという点に着目してサブシリーズ「諸道具貸出」に編成した。

シリーズ「見聞・風説書」

29 レコード。見聞記や風説書のように書物形式になっているわけではなく、書状の類もシリーズ「見聞・風説書」に編成した。主に近世後期から近代にかけての文書が多いが、天明3年(1783)浅間山噴火の図、明和事件の書付なども遺されている(え 4651-26・え 4657-1)。

シリーズ「諸芸」

143 レコード。サブシリーズとして「武芸・文芸」「茶の湯」「学芸」「能」「柔術」「水術」「手習」「占い・観相」「俳句・和歌」を設定した。

サブシリーズ「武芸・文芸」に編成したえ 4656-5 は、藤田外記宛天保11年(1840)日置流雪荷派射法の「起證文前書之事」である。藤田外記にまつわる弓道関係の文書は信濃国松代依田家文書に見えるため(734)、混入文書の可能性も考えられるが、八田家文書の中にも藤田外記の無尽関係文書があるため、そのまま編成した。

サブフォンド「店方」

「店方」は、八田家の営業部門であり、酒造方(酒蔵・酒店)・呉服店・油店・赤倉松井店・醤油店(松井店)・質店の存在が明らかとなっている。文書に「酒造」「酒米」「酒蔵」などの用語が見えた場合、シリーズ「酒造方」に編成した。同じく「呉服」「紬」などの用語が見えた場合はシリーズ「呉服店」に編成したが、産物会所で取り扱っている可能性もある。「質」などの用語が見えた場合、シリーズ「質店」とした。「赤倉」などの用語が見えた場合はシリーズ「赤倉松井店」とした。

酒造方は松代城下の鏡屋町と中町にあり、天保4年(1833)段階では和七が支配人を務めていた。呉服店は「角店」と史料では記され、呉服の仕入・販売、古着の販売も行っている。油店は寛保3年(1743)には確認できる。醤油店は文政年間に城下町の中町と錦町に開設されていた。

シリーズ「酒造方」

21 レコード。サブシリーズとして「酒造鑑札」「内方より拝借金・上納金」「酒造入用」「棚卸」「酒蔵・酒店勘定」「奉公人」「道具調」「借地」「普請」を設定した。

明治6年(1873)に6代目慎蔵(文書では「八田知道」)差出の酒造株400石免許願いを提出している(え 4651-13)。かなりの規模の酒造を展開していたことがうかがえよう。

また、年代不明ながら菊屋傳兵衛宛の「口上覚」が確認できる(え 4662-7)。内容は酒蔵南通り明地27間の際に床店を建てたい旨と、3ヶ年の「借地代御勘弁」を願い出たものである。シリーズ「土地経営」

に編成することも可能だが、酒蔵の南通りという点に着目して、シリーズ「酒造方」に新たにサブシリーズ「借地」を設定した。なお、菊屋傳兵衛については既刊の史料目録でも述べられているように、「役代」「手代」として登場する人物であり、代々傳兵衛を名乗った。以前の目録でも傳兵衛が酒造米高 500 石を代金 700 両で小諸藩内の徳右衛門へ譲渡しているが(え 3889)、酒造方における傳兵衛の位置付けを解明する上で重要な文書といえよう。

え 4700-4 は酒店普請の文書であるため新たに「普請」というサブシリーズを設定した。なお、後述するように、呉服店である角店に関わる文書であっても酒造方と深い文書はシリーズ「酒造方」に編成し、その周辺に保管されていた文書もシリーズ「酒造方」とした。

シリーズ「呉服店」

6 レコード。サブシリーズとして「売買」を設定した。

本目録でシリーズ「呉服店」に編成した文書は差出・宛所も不十分であり、内容も産物会所に関する可能性など判然としない。また、え 4654-3 は書状の冒頭のみで後欠文書であるが、これは現状を生かして、前に保管されているえ 4654-2 と同じシリーズで編成した。

なお、呉服店は「角店」と称されているため、当初、角店佐助・角店清七が登場する文書は呉服方として編成していたが、え 4671-10 の角店佐助宛水井忠蔵書状のように、酒造方内借金に関わる文書もあり、酒造方と呉服方が厳然と区分しがたい点がある。さらに、え 4671-10 に先行するえ 4671-8・え 4671-9 も角店の奉公人と目される人物宛であるので、この現状を生かしてシリーズ「酒造方」に編成した。角店の存在形態については再考を要する。

シリーズ「油店」

1 レコード。サブシリーズとして「金銭請払」を設定した。

え 4702-4 は天保 10 年(1839)9 月朔日から 12 月晦日までの油仕入金メ高金 159 両余の金銭書上である。油店は寛保 3 年(1743)から安永 10 年(1781)の棚卸勘定帳が遺っているものの、安永期以降は急速に衰退したと『八田家文書目録』その 1 で評価されているが、天保 10 年までは仕入れを行っていることがうかがえる。

シリーズ「醤油店」

1 レコード。サブシリーズとして「内方より拝借金・上納金」を設定した。

え 4653-8 の覚は中町醤油方から出された御上納金差し引きの御下げ金の依頼。中町と錦町の醤油店はいずれも文政年間はじめに開設された。

シリーズ「質店」

5 レコード。サブシリーズとして「内方より拝借金・上納金」「入用」「取替」を設定した。

寛政期から質店を開業したが、本目録でも「質店」「取替金」の語句が登場する文書を編成した。なお、

内方の金融との関係は判然としないので、合わせて参照されたい。

シリーズ「陶器店」

4レコード。え 4692-18 に見えるように八田家の陶器方は木町・中町で販売していた。また、製品は松井陶器店でも販売している。陶器竈は荒神町に設けられていたが、え 4667-9 に見えるように寺尾竈からの仕入れも見られる（但し、差出・宛所が確認できないため、今後の検討が必要）。

シリーズ「赤倉松井店」

2レコード。八田家は赤倉温泉の温泉場経営とともに醤油店として松井店の名前で文政年間より出店している。既刊の史料目録もこの2つの店を混在して編成しているが、本目録のえ 4649-5「御内借申金子証文之事」の宛所である「榊原遠江守様御内松本斧次郎」はサブシリーズ「醤油店（松井店）」や「赤倉松井店」として登場していることから本目録でもサブシリーズ「赤倉松井店」に編成した。なお、赤倉温泉は高田藩営の温泉であり、松本斧次郎が温泉奉行を務めている（北條浩『赤倉温泉権史論 - 赤倉温泉の歴史と温泉権の歴史的形態 -』（楡書房、1975年））。

いずれにせよ、赤倉松井店の運営形態については内方のうちシリーズ「土地経営」サブシリーズ「赤倉温泉」も合わせて参照されたい。

サブフォンド「町方」

八田家は初代孫左衛門が宝永4年(1707)6月に木町八田家から分家し町年寄に就任して以来、代々町年寄を務めている。松代城下町に関わる文書が体系的に八田家文書に遺されているわけではないが、町年寄関係や町方に関わる文書をサブフォンド「町方」に編成した。

シリーズ「諸役・貢税」

1レコード。サブシリーズとして「年貢諸役」を設定した。

文化6年(1809)の堤入用・町内年賦に関わる金銭勘定帳なので、町方として編成した。

シリーズ「殿様御用」

17レコード。サブシリーズとして「殿様御入接待」「殿様御巡見」を設定した。

八田家は初代孫左衛門以降、御用金を差し出したことで、享保12年(1727)に藩より30人扶持が与えられ、その後、様々な藩の御用を務めていた。え 4651-1は歌舞伎や浄瑠璃の演目でも著名な「倭假名色七文字」などの書上であるが、端裏書に「文政三庚辰年九月十八日殿様岡嶋平治殿江被為 入候節」と記されており、藩士宅への御成と判断して「殿様御入接待」に編成した。

また、え 4689-16の書状は「殿様御遊山所諸方御穿鑿」の際、田町抱屋敷湧泉の場所を御借りしたいという依頼である。天保3年(1832)11月のことであるが、この田町抱屋敷関係のまともりは「殿様御巡見」として編成した。

シリーズ「救済」

4レコード。サブシリーズとして「手当・施行」を設定した。

いずれも年代が不明であるが、夫食支給などに関わる文書である。え 4701-16 は 12 月 27 付御救い人数と思われる書上だが、1415 人及び 45 人非人とあり、相当の規模の人数であることがうかがえよう。

シリーズ「町政」「貸借」

「町政」は 5 レコード、「貸借」は 1 レコード。町政に全般に関わる文書を編成した。なお、え 4702-20 の飯山物成初めの買入れに関する「一札之事」の差出である「穀屋惣代・八町御役人御連印」は既刊目録でも登場し、シリーズ「町方」サブシリーズ「貸借」に編成していることから、それに従った。

シリーズ「祭礼」

3 レコード。いずれも年代や差出・宛所が判然としない。え 4666-1-13 の端裏書に「御祭礼一件付町方へ及挨拶候一条」と記されていることから、町方の文書と判断し、他に「御祭礼」の語句が確認できる文書をシリーズ「祭礼」に編成した。

サブフォンド「松代藩御用」

八田家は初代孫左衛門以降、御用金を差し出したことで、享保 12 年 (1727) 藩より 30 人扶持が与えられ、その後、享和 2 年 (1802) に 3 代目孫左衛門は給人格御勝手御用役に任じられた。以後、様々な藩御用を担っており、本目録でもサブフォンド「松代藩御用」として編成した。

シリーズ「年貢諸役取立請負・御用米金調達」

「年貢諸役取立請負・御用米金調達」は 13 レコード。既刊目録ではシリーズ「御用金・御用米」に編成されている文書もあるが、年貢や御用米・御用金に関する文書は「年貢諸役取立請負・御用米金調達」に編成した。

シリーズ「御勝手御用役」

「御勝手御用役」は 5 レコード。サブシリーズとして、「役人任免・俸禄」「褒賞」を設定した。

え 4678-16 の八田喜兵衛宗洪に 5 人扶持宛行状であるが、喜兵衛は 4 代目嘉右衛門の義弟であり、文化 10 年 (1813) 11 月に別家として 5 人扶持が与えられ、御勝手御用役に就任している。そこでサブシリーズ「役人任免・俸禄」を設定した。え 4689-2 は天保 14 年 (1843) 12 月 18 日に八田嘉助が勤務出精のため、銀 3 枚が与えられている文書だが、同 5 年 3 月より御勝手御用役見習に就任していることから、シリーズ「御勝手御用役」にサブシリーズ「褒賞」を新たに設定した。

シリーズ「川船会所」

6レコード。サブシリーズとして「通船免許」「通船取締」「金子・田畑屋敷貸下」を設定した。

千曲川の通船は寛政2年(1790)に幕府の中之条代官である野村八蔵が西大滝村(現在の飯山市照岡西大滝)の斎藤太左衛門に対して、越後から陸送される荷物を西大滝村で川船に積み込み、北国脇往還松代通の福島宿(現在の須坂市福島町)まで13里の距離の通船が認められたことにはじまる。文化14年(1817)3月、松代藩は4代目嘉右衛門に対して千曲川における川船運送を申し付けた。松代藩は文政4年(1821)から冥加金を徴収して、本格的な川船就航を行うが、既述の太左衛門との対立も懸念されたため、①松代藩の川船は2艘として、松代-飯山での運航については太左衛門の差配に従うこと、②福島宿から上流の松代まで、太左衛門船の就航は認めるが、米穀は松代に入れない、という取り決めが成された。松代藩川船会所は東寺尾村に設置され、天保年間に塩・穀類・茶・木綿・油・菜種・紙・硫黄・煙草・木製品が2000～3000駄運ばれ、下り荷はわずかに60～100駄ほどであった。この川船を担った人物が八田家文書の中にも川船関係だけでなく、様々な経営にも関与している和七である。また、既刊目録では内方の中にシリーズ「通船方」が設定されており、合わせて確認されたい。

サブシリーズ「通船取締」に編成した4シリーズのうち3レコードは藩士の青柳増太郎による川船・河岸に関する書状である。青柳は幕末・明治期の産物会所を八田家とともに担っており、産物会所に関わる文書である可能性がある。産物会所と川船会所とのつながりなどを検討する上で重要な文書といえよう。

サブファンド「会所・商社」

糸会所・産物会所・松代商法社に関する文書を編成した。糸会所と産物会所は連続性がある組織だが、松代商法社は従来の八田家を中心とした会所とは異なる組織と目されるため、別のサブファンドとするべきかもしれない(既刊目録でも別に設定されている場合もある)。しかし、文書の内容からだけでは会所・商社の相違が判然としない場合も多いので、サブファンド「会所・商社」としてまとめて、機能を重視してシリーズを設定した。

糸会所は文政9年(1826)に製糸業の育成と統制のために設置され、取締役に4代目当主嘉右衛門知義が就任した。糸会所の役割は、①藩からの拝借金と商人からの借入金・預り金といった資金調達、②貸下金、③挽子に糸挽道具の貸与と原料繭を買い付けて挽子に販売、④冥加金を糸元師に課す(文政13年以降)、⑤鑑札発行である。

産物会所は紬生産の興隆に対応するため、糸会所の拡充として、天保4年(1833)に設置された。産物会所の役割は、①藩からの資金調達(中借金)と問屋への貸付、②問屋による産物の集荷、③鑑札を発行して生産者や仲買人を統制し、冥加金の取り立て、④上方・江戸での売り捌きである。

松代商法社は明治2年に産物会所を改めて松代商法社が設立され、御用商人の大黒屋大谷幸蔵(更級郡羽尾村。現在の千曲市羽尾)が頭取に就任した。

なお、「産物会所」「会所」という用語、八田辰三郎・八田喜兵衛が関わっている文書をサブファンド「会所・商社」に編成することとした。

シリーズ「会所貸下金」「借入金・預り金・貸付金」「冥加金」

シリーズ「会所貸下金」は16レコード。シリーズ「借入金・預り金・貸付金」は10レコード。シリーズ「冥加金」1レコード。

貸下金については、糸会所・産物会所から生産者などへ貸し下げた内容の文書を編成した。借入金・預り金・貸付金は既刊目録ではシリーズ「拝借金」に編成されたものと類する文書もシリーズ「借入金・預り金・貸付金」に編成した。

なお、え 4678-17-2 から天保11年(1840)の御産物紬代金御中借分の金5150両の受取が確認できるように、かなり高額の金銭が会所に渡っていたことがうかがえよう。

シリーズ「絹紬類売捌」「麻・木綿売買」

シリーズ「絹紬類売捌」は18レコード。シリーズ「麻・木綿売買」2レコード。

いずれも八田家店方呉服店の可能性も否定できないが、既述のとおり八田喜兵衛が登場する文書、あるいは後述するように産物会所の文書に多く登場する水井忠蔵と関係があると目される水井官作が登場する文書を編成した。

シリーズ「産物無尽」

1レコード。既刊目録でも産物無尽や産物取立無尽の文書は登場するものの、どのような性質かは判然としない。今回の文書も金銭の差し引き高を示したものに過ぎず、端裏書に「産物無尽品々差引」とあることからシリーズ「産物無尽」に編成した。

シリーズ「産業統制」

23レコード。サブシリーズとして「鑑札」「陶器竈場」「蚕種・絹紬」「甘草」「杏仁」「木綿」「規定」を設定した。

サブシリーズ「蚕種・絹紬」については既刊目録で設定された「桑畑」に関わるような文書も合わせた。え 4708-3 は生糸・蚕種代金と人名書上だが、この文書の下にあるえ 4708-4 の文書が生糸冥加金であることから、この現状を生かしてサブシリーズ「蚕種・絹紬」に編成した。

え 4704-2-42・え 4704-3-73 は差出・宛所が記されていないものの、いずれも石川村(現在の長野市篠ノ井石川)に関わる文書であり、この石川村は杏仁売買に関わる文書が既刊目録で散見されることからサブシリーズ「杏仁」に編成した。

え 4652-22-8 の書状は近代初頭の文書で、「御変革」の中で、商売向きの仕法を当午年(明治3年カ)より改正した際の規則である。産物会所から商法社への展開を示したものであり、新たに「規定」というサブシリーズを設定した。

シリーズ「大坂交易」

46レコード。松代藩の大坂交易の開始は炭屋孫七らに出入と扶持が与えられた嘉永2年(1849)頃で

あると思われる。御用場は安政元年(1854)大坂平野町2丁目に設置(貸家。瓦町2丁目住の炭屋孝七所持。津国屋友七支配)、文久3年(1863)網島町に設置されている(炭屋(白山)彦五郎所持、重兵衛支配)。上方留守居を務めたのは関田荘助であり、この蔵屋敷設置を推進したのも関田荘助である。大坂交易は松代の産物を越後今町より北廻り航路で大坂商人炭屋彦五郎に送り、炭屋は西国の塩などを領内にて売り捌いた。松代藩は産物(特に杏仁・甘草)を引当に多額の借金をすることを目指していた(佐久間象山の建策)。炭屋彦五郎は平野町の両替商であり、慶応3年(1867)6月に幕府兵庫商社が設立された際、肝煎のひとりに任命されている。

これら上方・大坂に関わる文書、既述の人物が登場する文書はシリーズ「大坂交易」に編成した。なお、既刊目録ではサブシリーズとして「嘉永期甘草・杏仁等大坂売捌仕法」「西国産物買入」「安政期杏仁大坂売捌仕法」「維新时期京坂交易」を設定しているが、年代や内容から判然としない文書が多いため、サブシリーズを設定しなかった。また、既刊目録ではシリーズ「京都での取引」を設定しているが、京都と大坂、さらには西国での取引引きを厳密に分けることは困難であるし、そもそも意味はない。むしろ、上方と松代との流通構造に奇妙な意味づけをしてしまう恐れがあるため、京都に関わる取引の文書もシリーズ「大坂交易」として編成した。

え 4655-10-1・2は「塩之儀」を塩行司へ深美寿一郎が申し聞かせた書状と俵数書上だが、既述のとおり西国からの塩については会所で領内へ売り捌いており、シリーズ「大坂交易」に編成した。なお、深美寿一郎は深美甚十郎とともに産物会所関係の文書に登場するものの、松代藩士ではなく、どのような人物であるかは今後の課題である。

え 4709-5は八田嘉助宛松本嘉十郎(嘉重郎)書状だが、産物方のため布甚(布屋甚九郎)・鴻池・加島屋などに1万両の融通金を内談している書状である。時期は不明だが、幕末最末期から明治初年と思われ、産物会所の資金調達に大坂の商人が大きな役割を果たしていたこと、嘉永・安政期に多く登場した炭屋以外の商人からの融通も進めようとしていることがうかがえよう。

シリーズ「近郷での取引」「江戸での取引」「松前での取引」

シリーズ「近郷での取引」は6レコード、シリーズ「江戸での取引」は11レコード、「松前での取引」は2レコード。いずれも関係する土地が内容などに記されている場合に編成した。

ここでの「近郷」とは松代領内及び周辺領に関する文書である。

え 4703-2は御在所御掛宛江戸産物掛書状である。既刊目録では「江府産物掛」という役職は確認できないので、松代藩会所の江戸における売り捌きを考える上で重要であろう。また、この書状の内容は「武田氏下金」の金21両を「御取替金」でもって上方へ送付するという内容である。従来、松代会所を取り巻く流通史研究においては上方がメインであり、江戸についてはほとんど触れられていないが、それぞれが無関係に流通しているわけではない。当然、国元の会所を軸として上方・江戸、そして、(本目録では登場しないが)尾張などの諸地域での売り捌きは密接に関わっている。この文書はその点を如実に表しているといえよう。

え 4680-54は八田慎蔵宛八田芳三郎宛書状で新潟よりの来状を依頼した内容で、シリーズ「大坂交易」

に編成すべきかもしれないが、直前のえ 4680-53 が「蝦夷一件」であるため、現状を重視してシリーズ「松前での取引」に編成した。

シリーズ「駄送」「入用」

シリーズ「駄送」は3レコード、シリーズ「入用」は12レコード。

シリーズ「駄送」は会所の荷物輸送に関わる文書、シリーズ「入用」は会所の物資購入に関わる文書を編成した。なお、既刊目録でシリーズ「金銭請払」に編成されている文書も関係するので合わせて参照されたい。

シリーズ「日記・用留」

1レコード。え 4686-41 は「日誌」の閲覧に対する札などで、兵衛という人物の書状だが、人物特定はできなかった。この「日誌」が会所で作成された「日記・用留」であると断定できず、太政官日誌の類である可能性も高い。保管されている現状から判断すると、え 4686-42 が町方に関わる文書であるため、町方の文書とも考え得る。

シリーズ「会所役人心得方」「会所運営」「役人任免・俸禄」

シリーズ「会所役人心得方」は3レコード、シリーズ「会所運営」は20レコード、シリーズ「役人任免・俸禄」は5レコード。シリーズ「会所運営」は内容が判然とせず、会所に関わるか判然としないものの、会所に関わる人物が登場する文書を編成した。

サブフォンド「松木家」

出所が八田家でなく、松木家と目される文書が八田家文書の中には含まれている。八田家5代目当主嘉助の娘であるてふ(長)が松代藩士松木源八重正に嫁いだことに起因する。詳細は『八田家文書目録』その12 解題を参照されたいが、てふ(長)が明治17年(1884)10月31日に亡くなった際、松木家の文書群が八田家に預けられた可能性が指摘されている。

シリーズ「砲術」「松木家家族」

「砲術」は1レコード。「松木家家族」も1レコード。え 4651-4 は松木源八から「お長どの」宛の書状であり、内容に登場する「御父上様」とは八田嘉助のことであろう。

サブフォンド「混入文書」シリーズ「信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書」

1レコード。山田家は戦国大名武田氏の家臣と伝えられ、東江部村初代山田庄左衛門は近世初頭から居住しており、名主を務めていた。文化13年(1816)には村内外で750石を所持していた。『史料館所蔵史料目録』第75集(2002年)、『史料目録』第80・81・84集(2005・2006・2007年)に収録されており、10859レコードに及んでいる。

え 4651-10 は井上村竹前傳右衛門宛東江部村山田理右衛門書状であるので、サブフォンド「混入文書」に編成した。

サブフォンド「欠番」

1 レコード。え 4710-78 は保存・整理のための封筒に入れる際に 1 レコードとして数えたが、え 4710-77 の継紙が剥離したものであることが判明したため、え 4710-77 とした。

4. 本目録において頻出する人物について

松代八田家文書は前世紀以来の目録編成であるため、編成の誤りや編成項目の多様化が見られ、複雑である。また、近年の目録は内容が判然としない書状が多く、編成作業が非常に困難である。したがって、編成作業というよりは既刊目録を頼りに「分類」する作業となってしまうのが実情だ。複数年にわたり複数の担当者が目録刊行を行う巨大文書群を扱う際の課題といえよう。この点、利用者にとっても不便であることは疑いない。

そこで文書に登場する人物に注目して、どのような項目へ「分類」し得るか、作業のためのメモとして当該人物の経歴と関係する項目を以下に掲げたい。これは利用者の視点に立てば、他にどのようなシリーズを参照すればよいかのナビゲートになるものと思われる。

以下、本目録で頻出する 7 名 (7 軒) について述べたい。

岡野弥右衛門・陽之助

高 200 石取り藩士。『真田家家中明細書』63 頁～64 頁には 3 代記されており、最初の弥右衛門は享和 3 年 (1803) に家督を相続、使役・町奉行・職奉行・郡奉行・御預所郡奉行などを歴任している。最初の弥右衛門の息子と目される陽之助は弥右衛門と名乗った形跡は確認できず、文政 5 年 (1822) に番入をし、目付・御城同心頭・御預所郡奉行を勤めている。最後の陽之助はもともと弥太郎を称しており、天保 9 年 (1838) に家督を継ぎ、同 14 年に陽之助と名乗る。使役・目付・吟味役・側役・町奉行・郡奉行を歴任し、明治 2 年 (1869) 10 月に権少参事計政副主事・学政兵政副主事になっている。

八田家から融資を受けている文書が多いが、産物会所における大坂・炭屋彦七書状綴にも見える。明治 2 年の蚕種生糸商人へ株鑑札下げ渡しの達に「真田信濃守産物奉行岡野弥右衛門」とあることから、産物会所運営に関わっていたことがうかがえる (え 871)。但し、主に幕末最末期から明治にかけてである。慶応 3 年 (1867) に勝手元メを兼ね、既述のように計政副主事を務めたことと関係があらう。また、文政年間の浄福寺後住や同寺借財関係の文書も八田家に多く遺されているが、その宛所に弥右衛門の名が多く見られる。これは郡奉行や宗門改役を務めていたことと関連があるものと目される。

なお、本目録所収のえ 4649-15 に見えるように弘化 4 年 (1847) 12 月 18 日に八田嘉右衛門嫡孫慎蔵と岡野陽之助妹の縁組が認められている。

⇒関連する項目：内方 / 金融 / 貸付金、内方 / 寺社 / 菩提寺浄福寺、産物会所 / 冥加金取立、産物会所 / 諸産物の統制、産物会所 / 大坂での取引

関田守之丞

19世紀前半に勘定役を務めている。村からの年貢上納や訴訟に関する宛所、または村への触の差出人として真田家文書にも確認できる。八田家文書においては天保9年(1838)の「発起無尽懸捨引請操合差引帳」(あ740)など無尽に関する文書が多く、無尽の受取人として確認できる。また、え1466の一括のように守之丞自身が八田家より融資を受けている。関田慶左衛門と連名で借用証を記していることから、親子関係が想起されよう。関田慶左衛門は『真田家家中明細書』175頁によると、文政10年(1827)7月に勘定見習、弘化2年(1845)に本役に進んでいる人物である。

なお、天保年間の八田家における飯山領における小作米滞りや質地訴訟にも関与している。これは「飯山一件」として表現されており、水内郡静間村・蓮村(いずれも現在の飯山市内)が関係する一件である。天保3年(1832)に幕府へ訴え出て(い767)、翌年には内済が進められるものの(え3513)、最終的には同9年に両村が返済することで内済となった(え3526)。関田守之丞は出府して対応に当たっている(え1768-6)。

⇒関連する項目：内方／金融／無尽、内方／金融／貸付金、内方／金融／飯山藩・岩村田藩領小作年貢滞一件、内方／飯山領

中島三右衛門

文政11年(1828)6月、領内紙漉き職人から糸会所内に紙方設置することを求めた願書の宛所となっていることから、早くから領内の産物や糸会所の運営に関わっていた(真田家文書け104)。川船会所御用金貸出金証文綴(え63)は必ずしも川船会所だけではなく、領内の産物を扱う人びとからの借入金や小作初上納に関する文書だが、三右衛門は宛所となっている。また、今町(直江津)での塩荷着船と荷送りの大石清右衛門書状の宛所に八田嘉右衛門とともに三右衛門が記されている(え1144-035)。大石家は北国街道関川宿(現在の新潟県妙高市)本陣兼問屋であり、八田家は大石家にも融資を行っていた。

なお、他と同様、三右衛門にも貸付金や無尽関係の文書が確認できる。

⇒関連する項目：内方／金融／無尽、内方／金融／貸付金、内方／土地経営、松代藩御用／産物御用掛、松代藩御用／川船会所、会所／川船会所

水井忠蔵

切米50俵。『真田家家中明細書』301頁～302頁には3代記されており、最初の忠蔵は文化13年(1816)2月に勘定格、文政2年(1819)に勘定役、天保14年(1843)に勘定所元メに進んでいる(その後越石代官兼帯)。2人目は忠治と名乗っており、嘉永3年(1850)5月に番入、文久2年(1862)に御金奉行となっている。最後は収之助と名乗っており、慶応3年(1867)に家督を相続した。

文政2年(1819)12月の「川合新田村卯地押改本田水帳」(真田家文書う1214)の改役、また、天保3年(1832)5月の「山上条村辰田直并開発高請新田水帳」(真田家文書う1233)の立合を勤めており、領内の検地を行っている。領内検地には勘定役が深く関与している様相がうかがえよう。

八田家文書では安政6年(1859)3月改の「蘭中買并香干仁商売御地領蚕種師唐糸師冥加銀上納人別

帳などを春日儀左衛門・佐竹周蔵・松本嘉十郎らとともに作成しているように、産物会所の運営に藩側の人物として関わっている(あ 2545 など)。産物会所による大坂交易の際、炭屋彦五郎への利足金を役代伝兵衛が忠蔵・松本嘉十郎から借用していることが確認できる(う 363 など)。これらはいずれも最初に登場する忠蔵であり、彼が勘定所元メに着任しているためと思われる。当然であるが産物会所と勘定所が密接な関わりがある点を表している。

また、八田家による預り金・借入金の文書も多く見られる(え 3490)。これも水井が勘定所元メであるためである。しかし、八田家の預り金・借入金の家としての借用、敷衍すれば内方としての借用なのか産物会所取締役としての借用なのかは慎重な検討が必要である。従来の目録で内方の預り金・借入金産物会所に関わる可能性も高い。

なお、本目録所収のえ 4704 に見えるように、八田嘉助養女が水井忠蔵悱の忠治に縁組している。
⇒関連する項目：内方 / 金融 / 預り金・借入金、内方 / 金融 / 貸付金、会所全般

佐竹周蔵

切米 4 両 3 人扶持玄米 1 人扶持。『真田家家中明細書』138 頁によると、文化 7 年(1824)6 月に徒士として番入の後、徒目付・御側組徒目付・評定所留役・普請方改役・預所元メ役を歴任している。

天保 4 年(1833)2 月改「御貸下金并引当物取計元帳」は糸会所における糸・繭・操綿などを引当にした貸し下げ金の書き上げであるが、糸会所に勤務する八田喜兵衛・八田辰三郎とともに「立合佐竹周蔵」と記されている(あ 2264)。同様に天保 6 年正月改「市場冥加金上納請取元帳」では産物会所八田喜兵衛・八田辰三郎・八田嘉助・松本嘉十郎とともに「立合佐竹周蔵」とある(あ 2167)。当時は御側組徒目付を勤めている時期であるが、既述のとおり、安政 6 年(1859)3 月改「繭中買并杏干仁商売御地領蚕種師唐糸師冥加銀上納人別帳」などでは春日儀左衛門・水井忠蔵・松本嘉十郎らとともに作成している。

なお、他と同様、貸付金や無尽関係の文書も多く確認できる。
⇒関連する項目：内方 / 金融 / 無尽、内方 / 金融 / 貸付金、会所全般

松本嘉十郎

切米 15 俵 2 人扶持玄米 1 人扶持。『真田家家中明細書』293 頁には 2 代記されており、最初の嘉十郎は天保 14 年 3 月に勘定役、弘化年間(1844～1848)に寺社方留役助となっている(のちに評定所留役兼帯)。もうひとり松本伝と名乗っており、安政 6 年 6 月徒士に番入、直後に勘定役見習となっている。

すでに既述の水井忠蔵・佐竹周蔵の項目でも述べたように多くの産物会所の文書に登場しているが、真田家文書の大坂御用場の文書にも多く登場している。八田家文書の大坂・炭屋彦五郎の書状では、水井忠蔵と松本嘉十郎が連名で宛所になっているものが散見される(う 363 など)。産物会所における松代藩甘草・杏仁、上方からの塩荷の到着などには松本嘉十郎が大きく関わっており、松本嘉十郎が差出・宛所の文書は会所との関連を想起してよいものと思われる。

⇒会所全般

酒井市治

切米 50 俵 2 人扶持 玄米 3 人扶持。『真田家家中明細書』153 頁によると、天保 14 年(1843)勘定役見習、文久元年勘定役に進んでいる。

酒井市治は勘定役であるため、信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書にも、山田家による大名貸の文書の差出として見える(山田家文書 799-12 など)。また、松本嘉十郎同様、真田家文書の大坂御用場の文書にも多く登場している。近世後期から幕末期の勘定役を務めているため、真田家文書には酒井市治の名前が多く登場するものの、従来の八田家文書目録では多くない。これは酒井市治が八田家と関与することが乏しかったこと、糸会所・産物会所との関わりが乏しかったことが考えられるが、一方で、従来の八田家文書目録では慶応年間以降に彼の名前の登場が限られていることも重要な点である(あ 3006 など)。

つまり、八田家文書の中で酒井市治の名が記された文書が出た場合、幕末最末期ないしは明治時代の産物会所・松代商法社に関する文書であるものと目される。

⇒産物会所 / 会所貸下金、産物会所 / 鑑札渡、松代商法社

参考文献

荒武賢一朗「松代真田家の大坂交易と御用場」(渡辺尚志・小関悠一郎編『藩地域の政策主体と藩政 信濃国松代藩地域の研究Ⅱ』岩田書院、2008 年)

荒武賢一朗「在坂役人の活動と蔵屋敷問題 - 幕末維新期の混乱とその特質 -」(荒武賢一朗・渡辺尚志編『近世後期大名の領政機構 信濃国松代藩地域の研究Ⅲ』岩田書院、2011 年)

大藤修「信濃国松代八田家文書の整理を担当して」(『史料館報』第 53 号、1990 年)

大橋毅顕「松代藩御用商人八田家の金融 - 文化・文政期を中心に -」(荒武賢一朗・渡辺尚志編『近世後期大名の領政機構 信濃国松代藩地域の研究Ⅲ』岩田書院、2011 年)

大橋毅顕「松代藩八田家の産物会所運営」(渡辺尚志編『藩地域の村社会と藩政 信濃国松代藩地域の研究Ⅴ』岩田書院、2017 年)

国立史料館編『史料館叢書 8 真田家家中明細書』(東京大学出版会、1986 年)

西村慎太郎「商家文書の史料群構造分析 - 松代八田家文書を事例に -」(国文学研究資料館編『アーカイブズの構造認識と編成記述』思文閣出版、2014 年)

西村慎太郎「糸会所の記録作成・授受・管理と機能 - 記録管理システムと専売制 -」(国文学研究資料館編『近世大名のアーカイブズ資源研究 - 松代藩・真田家をめぐって -』思文閣出版、2016 年)

藤田雅子「天保期松代藩における国産紬の販売」(吉田伸之編『流通と幕藩権力』山川出版社、2004 年)

藤原正克「松代藩の木綿政策 - 天保期の木綿改所を中心に -」(鈴木直樹・渡辺尚志編『藩地域の環境と藩政 信濃国松代藩地域の研究Ⅵ』岩田書院、2020 年)

古川貞雄「松代藩における非常出費時の御用金・借入金政策」(『市誌研究ながの』第 5 号、1998 年)

望月良親「近世後期における松代八田家と松代藩財政」(渡辺尚志・小関悠一郎編『藩地域の政策主体と藩政 信濃国松代藩地域の研究Ⅱ』岩田書院、2008 年)

吉永昭「松代商法会社の研究」(『社会経済史学』第23巻3号、1957年)

吉永昭「専売制度についての一考察」(『史学研究』第65号、1957年)

吉永昭「紬市の構造と産物会所の機能 - 信州松代藩の場合 -」(『歴史学研究』204号、1957年)

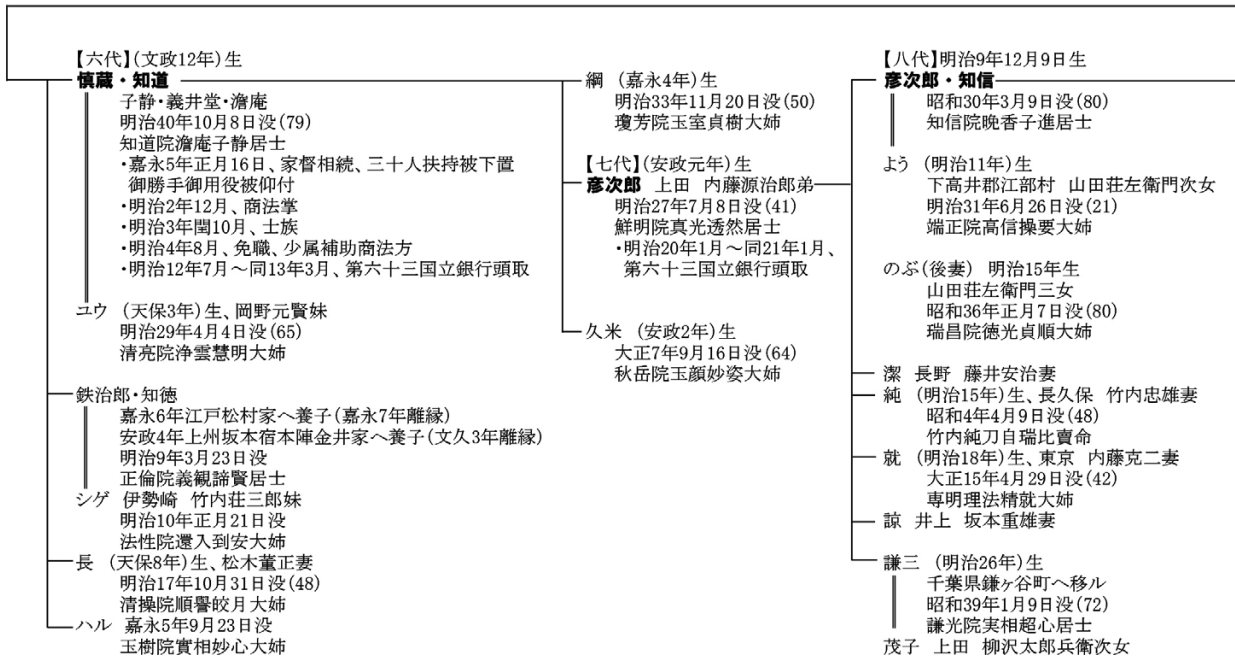
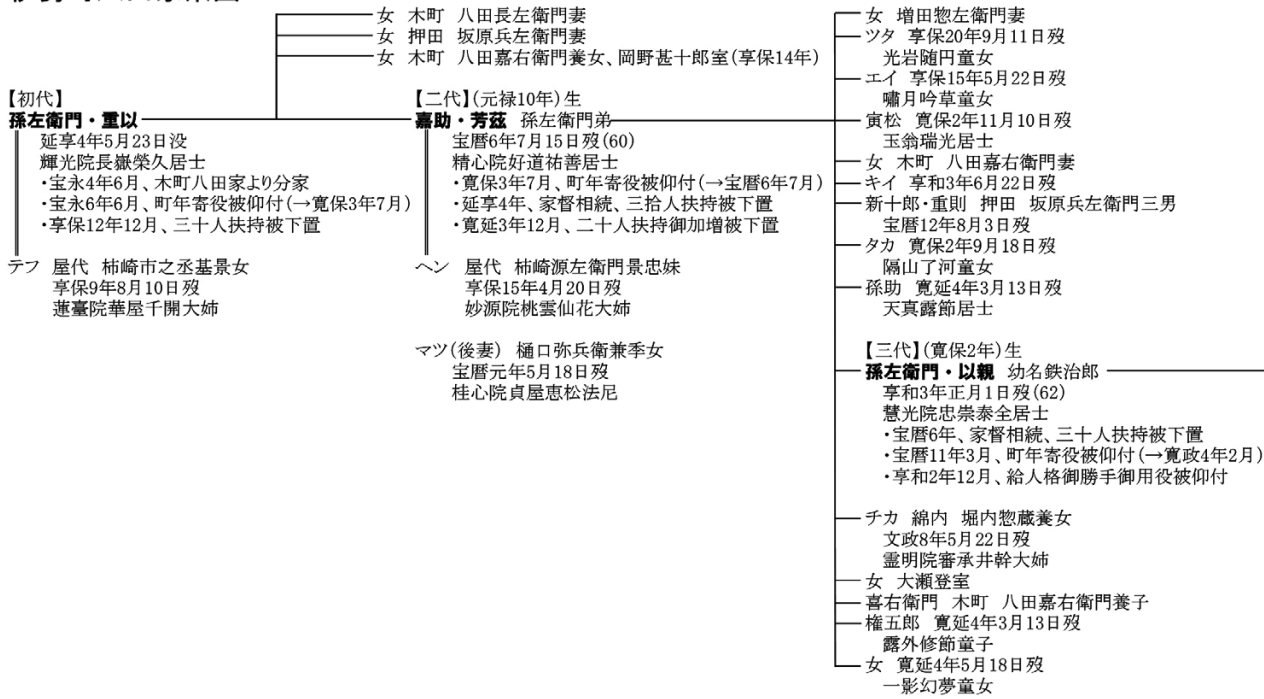
吉永昭「幕末期における専売制度の性格とその機能 - 信州松代藩の場合 -」(『歴史学研究』218号、1958年)

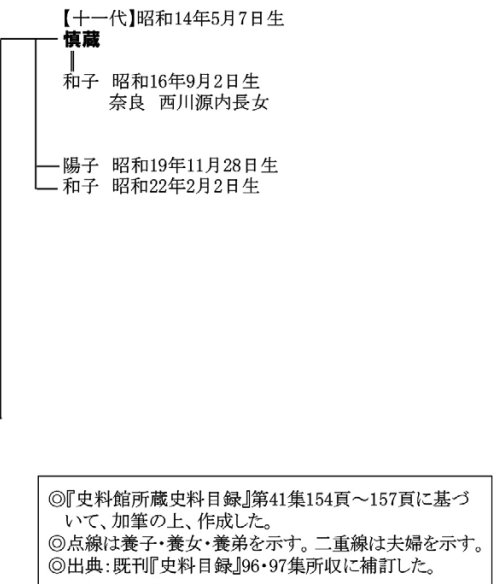
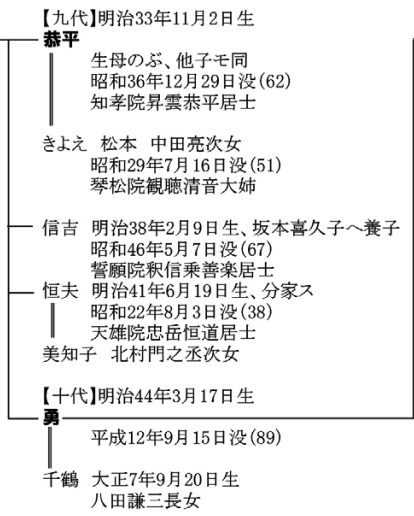
吉永昭「製糸業の発展と糸会所の機能 - 信州松代藩の場合 -」(『史学雑誌』第68編2号、1959年)

その他、既刊の史料館史料目録及び史料目録

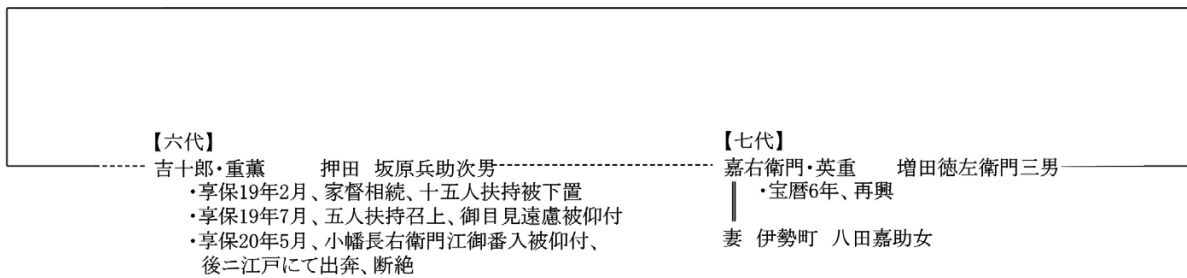
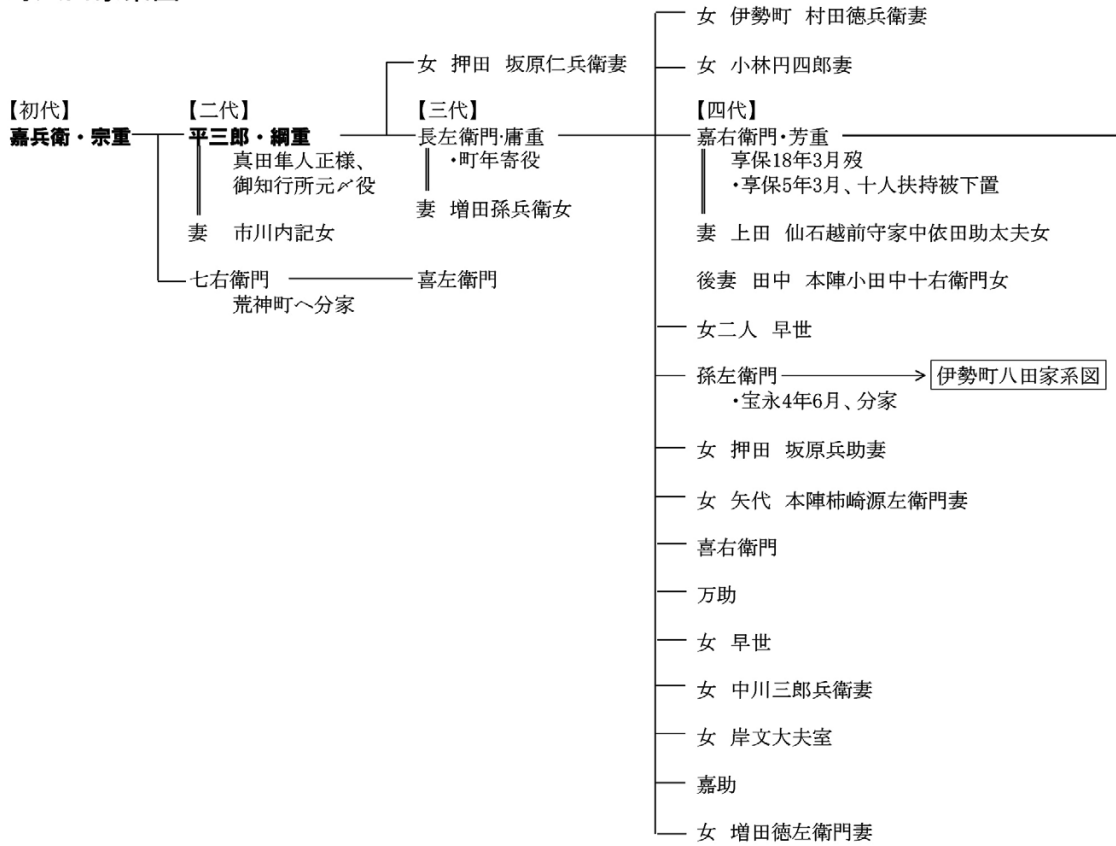
(国文学研究資料館学術情報リポジトリ参照。<https://kokubunken.repo.nii.ac.jp/>)

伊勢町八田家系図





木町八田家系図



養女 伊勢町八田孫左衛門女、岡野甚十郎室(享保14年)

【五代】

長左衛門・昭重

享保19年2月歿

・享保9年7月、被召出七人扶持被下置、刀御免御物成御用勤被仰付

・享保11年12月、給人格被仰付

・享保12年10月、御郡奉行支配ニ被仰付

・享保13年8月、種貸役被仰付

・享保18年3月、家督相続、十五人扶持被下置

妻 伊勢町 八田孫左衛門女

惣三郎 後ニ競ト改ム

・十人扶持被召出御番入

後信安公御近習被仰付

名競ト被下置御加恩百石被下置馬場屋敷被下置

室 岡野甚十郎女

女 樋口一角室

女 高田幾太室

競

室 木町 八田嘉右衛門女

【八代】

喜右衛門・嘉重 伊勢町

八田嘉助四男

女

女 八田競室

女 大瀬登養女

【九代】

長左衛門・贊親

【十代】

喜兵衛

◎『史料館所蔵史料目録』第41集152頁～153頁に基づいて、加筆の上、作成した。
◎点線は養子・養女・養弟を示す。二重線は夫婦を示す。

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

1. 内方

1.1. 系図・親類書

1.1.1. 扶持方請取

(辰年中御渡方取調べ仕るところ、差し引き4石9斗6升御渡過に付申上書) * (端裏書)「慶応四辰年御扶持之石取方調」 理介→(八田)慎蔵様	巳3月	横切継紙/(え4665-1~27は括り紐一括)・1通	え4665-17
---	-----	----------------------------	----------

1.2. 家訓・規定

1.2.1. 条目・遺言

口達書取(店方勤めのもの、親類方は勿論御家中様方途中並びに店方へ御出会会積の儀不行届見聞きに及び、向後心懸け厚く御会積すべきに付)	3月	横切継紙/(え4651-1~34は括り紐一括)・1通	え4651-17
(去申年以來の凶作にて店取続き出来ず、勝手入料縮減など儉約の規定を定めるに付申渡書) * 下書		横切紙/(え4710-1~117は括り紐一括)・1通	え4710-102

1.2.2. 勝手向取締

(書状、今度儉約規定相立申したき趣について心得方申渡しいたす様申し聞かれるにより承知致すに付) * (包紙上書)「暮元取調ニ付 覚 下案」		折紙/(え4656-1~34は括り紐一括)・1通	え4656-6
(書状、その節仰せ聞かれた臨書ようやくこの度出来仕るところ、これは私親の作の家訓に付) * (包紙上書)「松代八田嘉右衛門様御取次中 大嶋村根岸久一郎」 根岸久一郎→八田嘉右衛門玉案下	8月22日	横切紙・1通	え4656-8

1.3. 人別改

(年14女子たつ他人別書上)		縦紙/(え4662-1~25は括り紐一括)・1通	え4662-5
----------------	--	--------------------------	---------

1.4. 家族・奉公人

1.4.1. 婚姻

(八田嘉右衛門嫡孫慎蔵へ岡野陽之助妹縁組したきところ、願いの通り仰せつけられるに付通知書) * (包紙上書)「御書付 弘化四未年十二月十八日縁組願之通被 仰付候」	12月11日	横切継紙/(え4649-1~15は括り紐一括)・1通	え4649-15
(書状、喜右衛門は弥五右衛門きく同居にてきくの役代相勤め、弥五右衛門きく養子罷り成り、弥五右衛門・きく病死仕り、やを髻女仕りたきに付)	未2月	横切継紙/(え4676-1~11は括り紐一括)・1通	え4676-5
(書状、小諸より縁組の件願方に付) (八田)鏡次郎→御母上様・御兄上様	正月20日	横切継紙/(え4682-1~35は紙紐一括)・1通	え4682-16

(書状、後妻一件は小諸家中神戸安左衛門とか来月上旬引取とかの風聞に付)	正月23日	横切紙・1通	え4682-21
(書状、私養女水井忠蔵倅忠治へ縁組み、願いの通り仰せつけられ有り難きに付) 八田嘉助→西村奎右衛門様	8月20日	横切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-1-1~15は括り紐一括)・1通	え4704-1-9
(書状、養女水井忠蔵倅忠治へ縁組み願いの通り仰せ付けられ御知らせに付) 八田嘉助		切紙・1通	え4704-1-15
(書状、養女について水井忠蔵倅忠治へ縁組み願いの通り仰せ付けられ御知らせに付) 八田嘉助		切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-2-1~91は括り紐一括)・1通	え4704-2-11
(書状、養女について水井忠蔵倅忠治へ縁組み願いの通り仰せ付けられ、御知らせに付) 八田嘉助		切紙・1通	え4704-2-48
(書状、養女について水井忠蔵倅忠治へ縁組み願いの通り仰せ付けられ、御知らせに付) 八田嘉助		切紙・1通	え4704-2-49
(書状、養女について水井忠蔵倅忠治へ縁組み願いの通り仰せ付けられ、御知らせに付) 八田嘉助		切紙・1通	え4704-2-50
(書状、養女について水井忠蔵倅忠治へ縁組み願いの通り仰せ付けられ、御知らせに付) 八田嘉助→		切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-3-1~74は括り紐一括)・1通	え4704-3-7

1.4.2. 鉄治郎不行跡

(書状、鉄次郎一条、御相続にも見極めがつくまでは嚴重慎み、よんどころ無ければ仲人源兵衛に引き渡し、離縁を取り計うべきに付ほか)	9月11日	横切継紙/(え4669-1~9は括り紐一括)・1通	え4669-2
(書状、尊君様不行状の件、浅草から家出した事情を尋ね、兄上様・私なども心痛の旨、旦那様より佐久間先生へ頼状も参らせたまに付) (菊屋)市兵衛	9月	横切継紙・1通	え4669-3
(書状、鏡次郎一条、鏡次郎へ申し含め浅草方へ詫び、立ち戻るよう手段頼みたきに付、主人も当人不行状に立腹しているに付) *下書 (菊屋)市兵衛→(久寿田)源兵衛サマ	9月	横切継紙・1通	え4669-4
(書状、無心した金2両受け取るに付、私出立延引に付ほか) * (端裏書)「久寿田源兵衛殿金貳両相替手紙」 久寿田源兵衛→菊屋市兵衛様	3月5日	横切継紙・1通	え4669-5
(書状、鏡次郎一条、追々離縁の懸合に及ぶ節は、貴所様は仲人の事に付御心得置き下されたき旨ほか) * (端裏書)「源兵衛サマ」 (菊屋)一兵衛→(久寿田)源兵衛様	9月6日	横切継紙・1通	え4669-6
(書状、鏡次郎縁談の件、今日浅草松屋様へ参り御内宝様ほか一座にて相談、結納・引き移りの日取りに付ほか) (久寿田)源兵衛→菊市(菊屋市兵衛)様尊下	21日	横切継紙・1通	え4669-7
(書状、鏡次郎へ申し含め浅草方へ詫び、立ち戻るよう手段頼みたきに付ほか) *下書		横切継紙・1通	え4669-8

1.内方/1.4.家族・奉公人/1.4.2.鉄治郎不行跡

(書状、鏡次郎浅草から家出した事情を尋ねるに付、兄上様等も心痛に付、御不縁の場合は私が取り計うべきに付ほか) *下書		横切継紙/(虫損)・1通	え4669-9
(書状、慎蔵と騒論のため尊君様へ粗音申し上げたことの詫び、知音の高崎藩片桐乙治を差し出すのでその申す趣を御聞き取り下されたきに付) * (端裏書)「今度中山氏え遣し候書状之案文」 八田鏡次郎→中山浪江様	5月29日	横切継紙/(虫損)/(え4679-1~10は紙紐一括)・1通	え4679-1
(松屋方のことで用立てた金25両を返済してもらえないため鏡次郎の消息を探した次第、出訴するので左様御心得下されたきに付の中山氏書状案文、並びに書状を受け取ってからの鏡次郎の対応や高橋有右衛門・高橋屋清吉の身元、姓名は金井ではなく八田鏡次郎を使う件など書付) * (端裏貼紙)「中山氏より参り候書状之写并ニ高橋氏高崎屋兩人身元拙者姓名書之事等」	4月3日	横切継紙/(虫損)・1通	え4679-2
(書状、松代表の母の病氣・頻繁な諸大名の中山道通行等、無音に日時が過ぎ、来月15日までに参上するに付) * (端裏貼紙)「中山氏より書状之返事下書甚乱筆少しなをし候処も有之候得ども、筋合は如斯ニ候」 八田鏡次郎→中山浪江様		横切継紙・1通	え4679-3
(書状、中山氏と知音になった馴れ初め、松屋方での差纏れの次第、松代へ戻るも腹立ちの兄と仲たがいた件ほか) * (端裏書)「掛合壺通り之大筋合」 (八田鏡次郎)		横切継紙・1通	え4679-4
(書状、浅草へ罷り越し委細話し、借金の半金はすぐ返して残りは期月を決めて追々返済するよう聞くに付ほか) * (包紙上書)「坂本宿ニ而 金井鏡次郎様 片桐乙司」 (片桐)乙治→(八田)鏡次郎様・御取次中様	6月22日	横切継紙・1通	え4679-5
(書状、江戸より乙司書状到来、返済は半金を当節差し出して残金は期月を区切って返済するよう聞くも、如何とも致しようなきに付) * (包紙上書)「松代 八田慎蔵様 坂本宿 金井鏡次郎 急要用」 (八田)鏡次郎→御兄上様	6月25日	横切継紙・1通	え4679-6
(書状、江戸表の儀を乙司何ともよこし参らざる儀分からざるに付) * (包紙上書)「松代 八田慎蔵様 坂本宿 金井鏡次郎」 (八田)鏡次郎→佐助殿	7月2日	横切継紙/(前後欠)/(え4679-1~10は紙紐一括)/(え4679-7-1~4は包紙一括)・1通	え4679-7-1
(書状、乙司は御供として江戸から帰国、中山一件の話し合が纏れないよう江戸へ人を差し遣わす必要があるに付) (八田)鏡次郎→御兄上様	7月2日	横切継紙・1通	え4679-7-2
(書状、昨年中願い上げたように犬を貰いたきに付)		横切継紙・1通	え4679-7-3
(書状、真白斜子にても宜しく早々遣わされたきに付)		切紙・1通	え4679-7-4
(書状、中村良作よりの書状拜見、向方との掛合の様子、高橋有右衛門恐るべきに付ほか) * (封筒表書)「松代御兄上様 坂本 鏡次郎」 金井鏡次郎→御兄上様	6月12日	横切継紙/(え4679-1~10は紙紐一括)・1通	え4679-8
(讃州高松藩奈良卓二に付書付)		横切紙・1通	え4679-9
(書状、中山一件、乙司と中山氏の掛合の詳細や返金の期月など取り決めに付、ほか江戸表の風説) (八田)鏡次郎→御兄上様	7月9日	横切継紙・1通	え4679-10

1.4.3. 人名・年齢書上

おほへ(八田長左衛門家内7人名前・年齢書上)		横切紙/(え 4701-1~29は括 り紐一括)・1通	え4701-12
(清重・兵吉・文左衛門・栄吉・栄八・市兵衛人名書上)		横切紙/(え 4710-1~117は括 り紐一括)・1通	え4710-93

1.4.4. 役代

乍恐書取を以奉申上候(これ迄の通り指し置かれ御役代相勤め罷り在りたく存じ奉るに付)		横切紙/(え 4651-1~34は括 り紐一括)・1通	え4651-6
---	--	-----------------------------------	---------

1.4.5. 奉公人勤向

(書状、私妹すみその御館へ罷り有る事親嶋田平七申し聞きし由、何卒御面倒願い上げるに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門尊下 馬場廣介」 馬場廣介公(花押)→八田嘉右衛門様参人々御中	6月12日	折紙/(え4648-1~9は括り紐一括)・1通	え4648-2
書取(孫兵衛様より御人下され罷り出でるところ、下女とり一条御内頼に付源吾共申し談じ段々承知致しその通り取り計らうべきに付)	6月	横切継紙/(え 4651-1~34は括 り紐一括)・1通	え4651-25
(書状、おくめ事奉公に上ることを希望し困り居るに付) 母→おこふとの		横切継紙/(え 4671-1~26は括 り紐一括)/(え 4671-25-1~4は 括り紐一括)・1通	え4671-25-4
(書状、店の物を隠す等不埒をした弥助や傳兵衛の取扱に付) 清右衛門→(八田)慎蔵様	2月30日	横切継紙/(え 4680-1~57は括 り紐一括)・1通	え4680-1
(呉服店清重・酒店栄八など当節人割書付)	9月14日	横切紙/(え 4685-1~25は括 り紐一括)・1通	え4685-24
規定(奉公人給金・小遣)		横切継紙/(え 4710-1~117は 括り紐一括)・1 通	え4710-89
(奉公人風呂定日・火の用心ほか規定) * 端裏書あり	寅4月	横切継紙/(天部 割印あり)・1通	え4710-117

1.4.6. 送金

(書状、この方にて小判を買いきたいので至急馬にても駕籠にても御雇いお遣わし下されたきに付)		横切継紙/(え 4682-1~35は紙 紐一括)・1通	え4682-19
(書状、安中表へ番頭を差し向け金のことを穿鑿させたと ころ保字小判1枚あたり3両に替えられるに付御宅にある 小判類をお遣わし下されたき旨) (八田)鏡次郎→御兄 上様		横切継紙・1通	え4682-22

1.4.7. 改名

(書状、嫡孫孫太郎について慎蔵と相改めたく、願いの通り仰せ付けされるに付) 病氣八田嘉右衛門・名代八田辰三郎・八田孫太郎儀慎蔵		切紙/(え4704-1~31は括り紐一括)/(え4704-2-1~91は括り紐一括)・1通	え4704-2-87
(書状、嫡孫孫太郎について慎蔵と相改めたく、願いの通り仰せ付けされるに付) 病氣八田嘉右衛門・名代八田辰三郎・八田孫太郎儀慎蔵		切紙・1通	え4704-2-90

1.5. 藩関係

1.5.1. 勤務

(書状、御仕着の儀は勤中下される様仕りたきに付、及び御給金定めの儀以来無き様に仕り出精に応じ商い御褒美下さる様仕りたきに付)		横切継紙/(え4652-1~31は括り紐一括)/(え4652-22-1~8は括り紐一括)・1通	え4652-22-1
(書状、年限中絹布用いる儀成らざるに付、及び年限中宿下の儀年始の分成交らざるに付ほか)		横切継紙・1通	え4652-22-4
(書状、病気のため加養致し月代近所歩行仕りたき儀、伺いの通り仰せ渡されるに付) *(端裏書)「八田嘉右衛門殿 寺内多宮」	5月20日	横切継紙/(え4689-1~17は括り紐一括)・1通	え4689-7
(書状、病気加養のため月代致し近所歩行仕りたき儀、伺いの通り仰せ渡されるに付) *(包紙上書)「天保五年六月十一日歩行伺之通被仰渡御切紙 御請恩田頼母殿矢沢監物殿興津権右衛門殿御請嘉助勤ル」/(端裏書)「八田嘉右衛門殿 興津権右衛門」	6月11日	横切継紙・1通	え4689-8
(書状、病気快方に付出勤仕りたく願いの通り仰せつけらるに付) *(包紙上書)「天保六乙未年八月六日寺内多宮殿出金奉願候通被仰付候切紙昼時過到来」/(端裏書)「八田嘉右衛門殿 寺内多宮」	8月6日	横切継紙・1通	え4689-10
(包紙) *(包紙上書)「八田嘉助様 酒井権七郎」		包紙/(え4689-1~17は括り紐一括)/(え4689-11-1~4は包紙一括)・1点	え4689-11-1
(書状、嘉助御役成御礼名代願ひ奉り御承知下され、首尾好く御勤め成し下され、委細仰せ下さる奉書落手仕るに付) 一・一 → 一		横切継紙・1通	え4689-11-2
(書状、先達て嘉助様召出され御役仰せを蒙り目出たく、別紙奉書差し上げるに付) *(端裏書)「八田様」(酒井権七郎→(八田)嘉右衛門様・(八田)嘉助様申上	6月朔日	横切継紙・1通	え4689-11-3
(書状、八田家助御役成の御礼仰せ付けられ明日4時染帷子麻上下着用当御殿へ罷り出で名代相勤めらるべきに付) *(端裏書)「酒井権七郎殿 青木忠大夫」	5月27日	横切継紙・1通	え4689-11-4
(書状、御用ありその方病気のため名代1人悴嘉助同道明日4時御城へ差し出さるべきに付) *(包紙上書)「天保五年三月廿七日来恩田鞞負殿より御切紙」/(端裏書)「八田嘉右衛門殿 恩田鞞負」	3月27日	横切継紙/(え4689-1~17は括り紐一括)・1通	え4689-12

卯年中懈怠覚(日数102日煩) 八田嘉右衛門	辰正月	横切紙/(え4689-1~17は括り紐一括)/(え4689-13-1~3は括り紐一括)・1通	え4689-13-2
(書状、殿様御入により御刀懸ほか御差図願い上げ奉るに付) (春日)義左衛門→(八田)嘉助様	28日	横切継紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-2-1~91は括り紐一括)・1通	え4704-2-18
(書状、御用あるにより今夕7時御用番御宅へ罷り出る様奉書到来御知らせに付) (松木)束→(八田)嘉右衛門様・(八田)嘉助様	□日	横切継紙・1通	え4704-2-21
(書状、御用あるにより今夕8時御用番御宅へ罷り出る様奉書到来御知らせに付) (松木)源八→(八田)嘉右衛門様・(八田)嘉助様	7月20日	横切紙・1通	え4704-2-22
(八田孫太郎 病氣八田嘉右衛門 名代八田嘉助 同道 八田喜兵衛 八田辰三郎名前書上)		切紙/(帳崩れ)・1通	え4704-2-30
(白紙)		切紙・1通	え4704-2-31
(書状、御用あるにより明日4つ時登城仕る様に付) 兵慈 →(八田)嘉右衛門様・(八田)嘉助様	12月14日	切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-3-1~74は括り紐一括)・1通	え4704-3-37
(書状、早速差し上げ申すべきところ、御奉行御病身に付) 音之助→(八田)嘉助様	11月11日	横切継紙・1通	え4704-3-43
(書状、勝手向不練廻りのため余儀なく住居引き移るも御用役御疎遠仕るべき心底にはなきに付)		横切継紙/(え4709-1~22は括り紐一括)・1通	え4709-8
(書状、御手元へ伺いたいものの早朝より持病平臥中に付)		横切継紙/(え4710-1~117は括り紐一括)・1通	え4710-77

1.5.2. 苗字帯刀

(永帯刀苗字御免願) *下書		小切紙/(え4698-1~23は括り紐一括)・1通	え4698-7
----------------	--	---------------------------	---------

1.5.3. 秩禄

(八田知道分秩禄仮渡金高金1円書付)	酉12月	小切紙/(え4669-1~9は括り紐一括)/(え4669-1-1~17は括り紐一括)・1通	え4669-1-2
--------------------	------	---	-----------

1.6. 土地経営

1.6.1. 持地

(荒町御高の内上畠2畝10歩、高4斗ほか田畑書上)		横切継紙/(え4651-1~34は括り紐一括)/(え4651-29-1~2は折込一括)・1通	え4651-29-1
記(屋敷高分米何程、御高御水帳御付替え下さるべきに付) 八田知道→荒町村御役人中		横切継紙・1通	え4651-29-2
(寺町通付近家屋絵図)		32.4×28.1/(え4653-1~29は括り紐一括)・1鋪	え4653-4
(書状、私役代伝兵衛飯山領静岡村地面引受け今年手作断り申し入れ中野御支配所柳沢村へ引き移りの趣、同村名主へ送状無心申し入れるに付) 八田嘉右衛門→松本源八様	2月29日	横切継紙・1通	え4653-15
(士族八田知道所持地寸法書付)		縦切紙/(え4662-1~25は括り紐一括)・1通	え4662-8
(八田知道・知礼所持地反別・代価書上)		横切紙・1通	え4662-10
(書状、御引越の給禄俵数御書入れ願ひ上げ奉るに付)		横切紙・1通	え4662-11
(書状、大き色を直した様子、別段申立方手続きも出来とのこと、先ず安心の様子であるので、然るべきよう戸倉へも申し上げらるべきに付)		横切継紙/(え4664-1~24は括り紐一括)・1通	え4664-4
(書状、雇人足・村定・入用出金・開作の趣承知の上は、直之進は申すに及ばず、何方へ相成るとも奥書・印形仕るべき趣これを申す由に付) *写		横切継紙・1通	え4664-5
(書状、井上の持高や地券に関する情報を尋ねるに付) * (封筒表書)「松代八田様 用事 井上坂本拜」 井上坂本→松代八田様		横切紙/(え4671-1~26は括り紐一括)・1通	え4671-15
(書状、木町地所の儀、換地証に加判願ひたきに付) 宗益→伊勢町様	12月21日	横切継紙/(え4671-1~26は括り紐一括)/(え4671-26-1~5は括り紐一括)・1通	え4671-26-3
(御預り所村名・百姓名書付、中嶋村八郎右衛門他8名分)		横切紙/(え4678-1~17は紙紐一括)・1通	え4678-5
(天保3年屋敷住所替書付、鏡屋町側の裏住居に移る事内聞御聞き済まし書付ほか) (関田)守之丞	3月4日	横切継紙/(え4681-1~32は括り紐一括)・1通	え4681-2
(書状、伊勢町新買入屋敷譲り渡すに付) *(端裏書)「天保十二丑年十月六日別屋敷被下候間、受書数右衛門より差出ス屋敷被下来証文被下候」 (八田)嘉右衛門→六右衛門方	文化14丑年12月	横切紙/(割印あり)/(え4682-1~35は紙紐一括)・1通	え4682-2
(書状、居間・次之間の腰張紙の寸法等に付ほか) 梅作→書鳩(八田嘉右衛門)大君机下	孟夏16日	横切継紙・1通	え4682-4

(書状、御田地下案今日返書、御受け取り下されたきに付) 伝兵衛→忠七様	8月28日	横切紙・1通	え4682-15
(書状、地券証御大判をもって御受取御廻し成し下される ところ、確かに落手仕るに付) (八田)知禮→(八田)知道 様印形添	9月20日	横切紙/(え 4686-1~44は括 り紐一括)・1通	え4686-13
(書状、差し控えに及ばず仰せ渡されるに付) *(包紙上書) 「天保十五辰年三月」/(端裏書)「八田嘉右衛門殿 菅沼弥惣 右衛門」	3月17日	横切紙/(彩色あ り)/(え4689-1 ~17は括り紐一 括)・1通	え4689-4
口上覚(私儀今日味噌煎揚仕るところ、煙多く騒々しく罷 り成り、差し控えるべきや八田喜兵衛を以て伺い奉る に付) 八田嘉右衛門→菅沼弥惣右衛門様	3月14日	横切紙・1通	え4689-5
口上覚(先年八郎右衛門より引き受けの屋敷地取り極め に付) *(包紙上書)「和七内願書面文政七壬申十月中中島三 右衛門殿より受取置候、右内願之趣委曲承知之通及挨拶置候 事」(笠井)和七	10月	横切紙/(え 4696-1~20は括 り紐一括)・1通	え4696-13
(いろは順地所東西南北間数14筆、メ1401坪4勺坪数書上)		横長半/(え 4700-1~6は括 り紐一括)・1冊	え4700-1

1.6.2. 借家

(51両3朱、地代残御取替金共ほか、メ金254両程勘定に付)		横切紙/(え 4651-1~34は括 り紐一括)/(え 4651-32-1~3は 折込一括)・1通	え4651-32-1
記(金51両3朱、地代並びに未年迄年々御取替ほか、メ218 両2朱140文金銭書上)		横切紙・1通	え4651-32-2
(建物絵図、34坪、地代金3両5分4厘)		14.2×14.8/(え 4663-1~45は括 り紐一括)/(え 4663-21-1~3は 括り紐一括)・1鋪	え4663-21-1
(建物絵図、35坪、地代金3両5分3厘)		17.8×18.2・1鋪	え4663-21-2
覚(長15間長屋ほか2口、メ地代金10両2朱)	7月	横切紙・1通	え4663-21-3
(書状、上田表御貸家証文の儀相談に付) *(端裏書)「松代 八田伝兵衛様 貴下用事 自上田出張先 小野屋百右衛門」 小野屋百左衛門→八田伝兵衛様	正月25日	横切紙/(え 4706-1~60は括 り紐一括)・1通	え4706-8
覚(家質地代銀134匁1分を差し上げるに付) 西木町惣兵 衛(印)→伊勢町傳兵衛殿	天保8酉年6月	横切紙・1通	え4706-52

1.6.3. 持地・抱屋敷絵図

(穀蔵・大土蔵・中蔵周辺絵図) *(端裏書)「明治五壬申年七 月二日従今差出候」		27.9×39.5/(え 4651-1~34は括 り紐一括)・1鋪	え4651-21
---	--	---	----------

1.6.4. 年貢諸役上納

(5石6斗ほか辰年から巳年分書上)		横切継紙/(え4652-1~31は括り紐一括)/(え4652-22-1~8は括り紐一括)・1通	え4652-22-6
口上(書状、松代町傅兵衛殿地所去る卯年より午年まで4ヶ年御年貢など相済むにより切手御取計い下されるべきに付) 池田源助(印「池田源助」)→並木甚右衛門様他御兩人様・中小田切村同新田御名主中様・上丸戸村飯沼村御嶽室村御名主中様	閏7月8日	折紙/(え4688-1~10は括り紐一括)・1通	え4688-9
(平林村山高年貢不足詮議書付)		横切紙/(え4706-1~60は括り紐一括)・1通	え4706-56

1.6.5. 家屋敷建築

覚(メ銀213匁3分御普請所の入用書上) 大工長左衛門→八田喜兵衛様御内	亥12月	横長半/(え4653-1~29は括り紐一括)・1冊	え4653-11
(書状、徳左衛門宅にて打寄り一件申し談じ家作向700口代金200両と定め質地取決め、これ迄の不当の取計い誤書差し出し以前に立ち戻り和融に付) *(端裏書)「徳左衛門方と融之一件并薙髮之一件並々書取」		縦紙/(え4662-1~25は括り紐一括)・1通	え4662-18
(隠居家の前の居宅間取図)		19.4×23.3・1鋪	え4662-21
(建物増改築略図面)		29×42/(え4667-1~15は括り紐一括)・1鋪	え4667-14
(杉戸・簾戸ほか家屋内修繕箇所の書上)		横切紙/(え4698-1~23は括り紐一括)・1通	え4698-11
(木道具の指図カ)		横切継紙/(え4710-1~117は括り紐一括)・1通	え4710-80
覚(柵の材木・代金金銭書上)		横切継紙・1通	え4710-104

1.6.6. 下屋敷

(下屋敷見分引渡し、畑地付貸渡し他箇条書付)		切紙/(え4665-1~27は括り紐一括)・1通	え4665-11
(佐助転宅の事、三ツ星屋引払い他箇条書付)		切紙・1通	え4665-12

1.6.7. 土地絵図

(書状、東条村伊勢宮社地図、東条村役人等3カ村内寄作成に付)	天保5年5月3日	25.5×30.8/(え4669-1~9は括り紐一括)/(え4669-1-1~17は括り紐一括)・1鋪	え4669-1-10
--------------------------------	----------	---	------------

(宇平次・和吉・宇右衛門・吉左衛門分地所絵図面)	27.6×38.4/(え4702-1～37は括り紐一括)・1鋪	え4702-26
(相之島村御預所・御本領・御給所絵図)	40.3×55.7・1鋪	え4702-27

1.6.8. 小作

小作証文之事(畑1ヶ所、小作粗何程、畑地私年切小作致したきに付) *雛形 何所小作人たれ・請人たれ→伊勢町傳兵衛殿	年号月	堅切紙/(え4650-1～22は括り紐一括)・1通	え4650-4
(包紙) * (包紙上書)「長岡助右衛門様御内 西寺尾村 徳右衛門嘉傳治 望月様御城裏内御小作地書ノ調入」		包紙/(え4659-1～22は括り紐一括)/(え4659-4-1～3は包紙一括)・1点	え4659-4-1
覚(地代金206両の内当月下旬に100両遣わし、残金106両を当12月15日遣わずに付) 西寺尾村御役代徳右衛門・同断嘉伝治→長岡助右衛門様御内	文政9成年10月13日	切紙・1通	え4659-4-2
覚(金73兩家賃小作方ほかメ金135兩上納に付) *(端裏書)「留済」	午大晦日	堅紙/(え4662-1～25は括り紐一括)・1通	え4662-23
(書状、小作隠の儀丸山にて承り相知りかねる由明日御穿鑿申すに付) *(端裏書)「八田嘉助様 関田守之丞」	12月24日	横切継紙/(え4663-1～45は括り紐一括)・1通	え4663-12
(西寺尾村庄左衛門分ほか小作畑地面積・小作人名・分米書上)		折紙/(え4682-1～35は紙紐一括)・1通	え4682-10
覚(当卯年作徳米代金84兩受け取るにより追って仕訳書明細村々へ差し出すに付) 松代町傳兵衛代平兵衛(印墨消)→依田弥五右衛門殿・池田源之助殿	天保2年12月	堅紙/(え4690-1～9は括り紐一括)・1通	え4690-2
覚(矢嶋源左衛門様皆済金1朱44文) 東福寺村御蔵本長蔵→いせ町伝兵衛殿	申12月	堅紙/(え4701-1～29は括り紐一括)・1通	え4701-5

1.6.9. 矢代村

覚(矢代村生蓮寺寄付田地一件、金7兩を預かるに付) (八田)嘉右衛門→願行寺様	文政7申年2月17日	横切紙/(え4682-1～35は紙紐一括)・1通	え4682-26
覚(矢代村証蓮寺田地譲渡し代金の内金44兩請け取るに付) 八田嘉右衛門(印墨消)→願行寺方丈え	文政7申年正月15日	横切紙・1通	え4682-30

1.6.10. 赤倉温泉

(書状、御厚意の金子7月分割合金受け取り奉る所、また御手許より御送りの金子2兩2分赤倉御役所より受け取るに付) 松井和七→上田志摩様御取次中様	8月3日	横切紙/(え4677-1～29は括り紐一括)・1通	え4677-3
(書状、兼ねて御下知を蒙る赤倉表よりの印証昨18日拝戴仕り有難きに付)		横切紙・1通	え4677-4
覚(赤倉出向により土産物代金1兩1朱余りなどメ金15兩3分2朱余り差し引き勘定書付)		横切継紙・1通	え4677-5

(妙高山麓温泉町絵図、並びに湯口より湯壺まで引き湯の図)	33.5×52.0/(え4682-1～35は紙紐一括)・1鋪	え4682-32
------------------------------	--------------------------------	----------

1.6.11. 東寺尾村

(東寺尾村御水帳写し左の通りに付書付)	切紙/(え4702-1～37は括り紐一括)・1通	え4702-19
---------------------	--------------------------	----------

1.7. 小作年貢滞出入一件

1.7.1. 中野質地一件

(包紙) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様上 従関川大石清右衛門」		包紙/(え4646-1～13は括り紐一括)/(え4646-1-1～4は包紙一括)・1点	え4646-1-1
覚(金108両余内42両2朱余り私方へ御渡し下し置かれる筈とのこと中嶋様へ御対談申し上げ置くに付) 大石清右衛門→八田嘉右衛門様	子3月7日	横切紙・1通	え4646-1-2
(書状、千田村七左衛門より取り請け置いた才木書面写し道橋御役所へ1通並びに御元メ中へ1通差し出し置くに付) 大石清右衛門→八田嘉右衛門様	3月7日	折紙・1通	え4646-1-3
(書状、前書の千田村七左衛門等からの一札写御届け申し上げるに付ほか) 大石清右衛門→道橋御元メ衆中様	文政10亥年4月	縦継紙/(虫損)・1通	え4646-1-4
(書状、中嶋氏帰国の程も計りがたく薪才木の分も未だ相分ならず何れ宜しき方にも相成るべき哉に付)		横切継紙/(え4646-1～13は括り紐一括)・1通	え4646-2
(書状、中野一件に付仰せを蒙り委細承知仕る所、中島公よりも御書き取りなされるに付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様要用 関田守之丞」(関田)守之丞→(八田)嘉右衛門様	2月9日	横切継紙・1通	え4646-3
(包紙) *(包紙上書)「岩田村中野一件二付申来候一紙書入」		包紙/(え4646-1～13は括り紐一括)/(え4646-4-1～4は包紙一括)・1点	え4646-4-1
(包紙) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様専用 中島三右衛門」		包紙/(え4646-1～13は括り紐一括)/(え4646-4-1～4は包紙一括)/(え4646-4-2-1～3は包紙一括)・1点	え4646-4-2-1
(書状、13日御縁女様御引越首尾好く相済まされ幾久しく目出たく存じ奉るに付ほか) (中島)三右衛門→(八田)嘉右衛門様	2月21日	横切紙・1通	え4646-4-2-2
(書状、地改青木某へ内々申し談じたき趣、座間氏見込みの上にて一応久須美様へ相伺う積りの由に付) (中島)三右衛門→(堀内)与一右衛門様・(八田)嘉右衛門様	2月21日	横切継紙・1通	え4646-4-2-3

(書状、新源の事仰せ下され、御歎願書御尤のところ、新源のみに拘らず差し出されること然るべきやと存じ奉るに付) 中島(三右衛門)→書鳩(八田嘉右衛門)大君	3月18日	横切継紙/(え4646-1~13は括り紐一括)/(え4646-4-1~4は包紙一括)・1通	え4646-4-3
(書状、その節申し上げた一件については申し上げず、先便申上げ置いた御歎願御下案調べ差し上げ申すに付) 中島(三右衛門)→書鳩(八田嘉右衛門)□君尊下	3月25日	横切継紙・1通	え4646-4-4
(書状、伝兵衛より飯山質地取替金証文取極め方並びに質置人共残らず名主・組頭・百姓代印形仕置に付) *(包紙上書)「文政十一戊(マ)二月六日関田氏より来帖」 (関田)守之丞→(八田)嘉右衛門様	2月6日	横切継紙/(え4646-1~13は括り紐一括)・1通	え4646-5
(書状、愚札御序の時、関様御執り成し願ひ上げ奉るに付) *(包紙上書)「八嘉右衛門様御家来中様 大和屋嘉兵衛」 大和屋嘉兵衛→八(八田)嘉右衛門様御家中様	4月2日	折紙・1通	え4646-6
(書状、当19日喜左衛門他3名御白洲御呼び出しの所、御留役見習恩田仲八郎様御札にて証文差し出す様仰せ付けられるに付) *(包紙上書)「堀内與一右衛門様 従江府」/ (包紙裏書)「四月十九日夜」 (嶋田)喜左衛門・数右衛門	4月19日夜	横切継紙・1通	え4646-7
(書状、一件について差し出しの趣にはなるも来月の方が然るべきに付喜左衛門も昨日帰出に付) 素弓拜→書鳩(八田嘉右衛門)様	弥生17日	横切継紙・1通	え4646-8
(書状、飯山・岩村田の方未だ御人なく御懸け合いも無きところ、何とか御工夫御当り置く様したきに付) 中島(三右衛門)→書鳩(八田嘉右衛門)大君申上	4月16日認置	横切継紙・1通	え4646-9
(書状、喜右衛門・数右衛門取込の上御便存せず書状差し出しかねるに付)	4月16日	切継紙・1通	え4646-10
(書状、今19日御呼出しにて私共寺社御奉行所へ罷り出て御白洲御札恩田仲八郎様1人にて御吟味に付) *(端裏書)「浦野忠七様 嶋田喜左衛門」 (嶋田)喜左衛門・数右衛門→(浦野)忠七様	4月19日夜	横切継紙・1通	え4646-11
(書状、一件についても当16日御差し出しに相成り、御奉行所へ相納り申すに付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様要用無別状 関田守之丞」/(包紙裏書)「卯月廿八日来帖」 素弓→書鳩(八田嘉右衛門)大君	4月18日	横切継紙・1通	え4646-12
(書状、その節御内話貴意を得た一条について早速御取調べ御送り下され忝く落手致すに付) *(端裏書)「三月十五日来帖返報下案」 八田嘉右衛門→大石清右衛門様貴報	3月16日	横切継紙・1通	え4646-13
(書状、中野一件昨21日双方共御評定所へ御呼び出し有り、何れ跡々御様子申し上げるべきに付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様要用 関田守之丞」 素弓→恣水園様	6月22日	横切紙/(え4666-1~19は括り紐一括)/(え4666-1-1~13は括り紐一括)・1通	え4666-1-3
(包紙) *(包紙上書)「中島三右衛門殿より来状五月六日返書指出申候」		包紙/(え4666-1~19は括り紐一括)/(え4666-2-1~6は包紙一括)・1点	え4666-2-1
(書状、中嶋三右衛門様桑売払う分、妻料土場に積み置いた桑御上げ申すべき他、帰宅次第本紙写し取り差し上げ申すべきに付) 大石清右衛門→八田嘉右衛門様上	2月27日	横切継紙・1通	え4666-2-2

1.内方/1.7.小作年貢滞出入一件/1.7.1.中野質地一件

(書状、塩田氏薪桑一件ともに否や申し遣わしかねるにより惣八郎招呼御手状差し出すも不快により私が罷り出る様申し来るに付ほか) *(端裏書)「三」/勸返状	4月13日	横切継紙・1通	え4666-2-3
(書状、先達て相頼み置いた家内取縮方取調一件何分御取調べ願ひ上げ奉るに付) *(端裏書)「式」/勸返状	4月13日	切継紙・1通	え4666-2-4
(書状、飯山・岩村田手始について私一了簡にては手始め出来かねるにより、北沢公へ御伺いなど願ひ上げるに付) *(端裏書)「壹」/勸返状 (八田)嘉右衛門→堅葉様尊下	4月13日	横切継紙・1通	え4666-2-5
口上覚(喜福寺様より御口上では明23日は在寺も折柄ゆゑに諸方へ他出致すにより御出直されても参会出来ずに付) *(端裏書)「御一覽可被下候」		豎紙/(一部破損)/(え4666-1~19は括り紐一括)/(え4666-2-1~6は包紙一括)/(え4666-2-6-2が貼付)・1通	え4666-2-6-1
(書状、岩村田・飯山一件書面は上置申すによりこの度一件の方とも御頼上方召出すべく存じ奉るに付)		横切紙・1通	え4666-2-6-2

1.8. 金融

1.8.1. 借入金・預り金

証(金200円、今回東京支店へ出行、旅費など中借り受け取り帰行の上返金申すべきに付) 八田知道(印墨消)→第六拾三国立銀行御中	明治16年2月19日	横切紙/(え4653-1~29は括り紐一括)・1通	え4653-14
(書状、昨日御申上げの吟味へ罷り越すところ御出来なし下されたきに付)	8日	横切継紙/(え4649-1~15は括り紐一括)・1通	え4649-1
(袖方去12月迄御内借金書付)		横切継紙・1通	え4649-2
(文政元寅7月中御預金20両など元利金ノ金279両余勘定書付)		折紙/(え4649-1~15は括り紐一括)/(え4649-3-1~2は一綴)・1通	え4649-3-1
(文化13年子12月御下金70両など金229両余り勘定書付ほか)		折紙・1通	え4649-3-2
覚(荒野堂再建金去寅年出し分金3分などノ2両3分早速持参に付) 役本→八田役代幸右衛門	卯7月	横切継紙/(え4649-1~15は括り紐一括)・1通	え4649-4
(書状、中野へ御領分湯田村温泉引湯目論見の所、入料金の内不調達により中野町役人に金200両内借りしたきに付) 八田嘉右衛門	6月	横切継紙・1通	え4649-7
(名主米屋広右衛門など村役人引受人名書付)		横切継紙・1通	え4649-8
覚(平九郎金18両・手元より金6両合わせて金24両など預金・借金など金銭書付) *包紙共		横切継紙・1通	え4649-10
(50両拝借金・75両時節御引渡金ほか書上)		横切継紙/(え4651-1~34は括り紐一括)/(え4651-32-1~3は折込一括)・1通	え4651-32-3

(メ金18両1朱余、坂本様より預り金書上)		横切継紙/(え4651-1~34は括り紐一括)/(え4651-33-1~2は括り紐一括)・1通	え4651-33-1
覚(辰7月10日金30両宗左衛門、上納に付)	9月朔日	横切紙/(え4653-1~29は括り紐一括)・1通	え4653-16

1.8.2. 貸付金

(包紙) * (包紙上書)「松代関田庄助様安全用 常圓寺」/(包紙裏書)「敬□ 伊奈郡伊奈部」		包紙/(え4648-1~9は括り紐一括)/(え4648-1-1~3は包紙一括)・1点	え4648-1-1
(書状、秋々頃御頼み挙げた高遠向より御頼み筋一件について先様へ宜しき様に御示談下さるべきに付)	同日	横切紙・1通	え4648-1-2
(書状、御発起立について桜翁寺様御出でなされるところ、20両御加入仕る様仰せ下され承知仕るに付) 東運僧→関庄助様□右下	子蠟月13日	横切継紙・1通	え4648-1-3
(包紙) * (包紙上書)「八田嘉右衛門机下 柄沢孝左衛門」		包紙/(え4648-1~9は括り紐一括)/(え4648-4-1~3は包紙一括)・1点	え4648-4-1
(書状、式左衛門弟忠蔵と申すもの浮腫の病にて私へ頼みの事も有るにより一身について飛脚を以て申し上げるに付) * (端裏書)「差兼相認乱文御高免可被下候」 柄沢孝左衛門→八田嘉右衛門様机下	4月20日	横切継紙・1通	え4648-4-2
(書状、私儀去々年出府の節取集め金4両余り衣類は夏物と綿入3つ等逗留仕り曲淵様へ差し出されるも殊の外物入に付ほか) * (端裏書)「御内覧奉願候」 柄沢照懿→八田君机下	4月20日	横切継紙・1通	え4648-4-3
(書状、密話の趣御役柄相整う身分にて兼ねて相心得のこと、御遁れ申し上げたき趣にては不忠の筋に相当たるに付) * (包紙上書)「申上 茂右衛門」/(端裏書)「一覽後可被致返却候」	22日	横切継紙/(え4648-1~9は括り紐一括)・1通	え4648-5
(書状、御約束の源吾証文差し遣わすにより御落手下さるべきに付並びに金12両証文の通り差引残金5両2分差し遣わすに付) 竹(竹内)源兵衛→八(八田)辰三郎様	12月25日	横切継紙・1通	え4648-7
(書状、差し廻し金について夏中より仰せ下されるところ、工夫に及びかねるも松代八田嘉右衛門金子御繰廻し下されるに付) * (包紙上書)「江都中橋鋸町木曾屋弥兵衛様平安用書 堀内千吾」/(包紙裏書)「從信州綿内村」 堀内千吾→木曾屋弥兵衛様	11月27日	横切継紙/(え4649-1~15は括り紐一括)・1通	え4649-11
(書状、昨日朝御内話に及び御日延下さるべきに付) 千義溪→(松木)東様急内用差置	臘月末3日	横切継紙/(え4650-1~22は括り紐一括)・1通	え4650-2
(書状、地京原勘重郎へ相分る趣御咄し申し談じ呼び出すところ別紙の趣相違なきに付) * (端裏書)「東様内用御直覧 丈助」	12月20日	横切継紙・1通	え4650-3

1.内方/1.8.金融/1.8.2.貸付金

(書状、旧臘差し上げた50金の儀、20日迄に御廻し成し下される様願い奉るに付) *(端裏書)「嘉助様差上置 与一右衛門」	5月16日	横切継紙・1通	え4650-5
覚(金1両請け取るに付) 瀬津内相澤藤吉[印]→大室村利右衛門殿	天保11年子12月晦日	切紙・1通	え4650-6
(金6両、亥年分12月26日上納に付)		切紙・1通	え4650-7
覚(金15両、御操廻金利足受け取るに付) 八田喜兵衛(印)→八田嘉助殿	天保9戌年12月	横切紙・1通	え4650-8
(書状、丹波嶋村問屋太郎右衛門借入金年賦取極め同人証文差し出し御手元へ差し上げた古証文御引き替え御下げ成し下さるべきに付) *(端裏書)「嘉右衛門様・嘉助様 助右衛門」	11月6日	横切継紙・1通	え4650-9
覚(金5両3分、寅年滞りの分追々取り立て返上仕るべきに付) 長岡助右衛門(印)→八田嘉右衛門殿	天保2卯年4月	横切継紙・1通	え4650-10
覚(金3両2分余紀伊國屋助右衛門へ金3両2分余品々御取替分ほか金銭勘定に付)		横切継紙・1通	え4650-11
覚(金3両、要用の儀、御時借仕り請け取り、来月下旬まで御返済致すべきに付) 長岡助右衛門(印)→八田嘉右衛門殿	天保2卯年4月	横切継紙・1通	え4650-12
(書状、当入用書付一両日にも御頼み申し上げるに付) いわ五郎は、→(八田)嘉助様人々御申上		折紙・1通	え4650-13
覚(6両八田嘉助殿ほかメ32両余金銭書上)		折紙・1通	え4650-14
覚(金3両山岸文太夫殿ほか元利合23両2分余時借分など金銭書上)		折紙・1通	え4650-15
(金5両1分新田村ほかメ34両3分程金銭書上)		横切継紙・1通	え4650-16
覚(金2分2月22日受け取る他時借へ返す分・法事入用など金銭書上)		折紙・1通	え4650-17
(書状、山中百姓参り願いさいかく金差し上げる様申しつけ金1両御借り下され忝きに付) いわ五郎は、→(八田)嘉助様人々御申上		折紙・1通	え4650-18
覚(高75石本口碓108表程の内飯米の積り差し引き分他2口メ11両1分程借金の方へ積る分書上)		折紙・1通	え4650-19
(「松木岩五郎様諸色書附」)		切紙・1通	え4650-20
(書状、御内談の儀御両人と私と佐藤氏松代表にて談合の向きあり御出張下されたきに付) *(端裏書)「中野御張先菊屋傳兵衛様貴下 野田屋庄兵衛」	12月22日	横切紙・1通	え4650-22
(書状、旧臘差し上げた50金、20日迄に御廻し下される様願うに付) 信州松代幾久屋傳左衛門→東京大伝馬塩町上州屋平助殿	5月16日	横切紙/(え4656-16に巻き込み)/(虫損)/(え4651-1~34は括り紐一括)・1通	え4651-5
記(金1朱徳田残分ほかメ金1朱290文金銭書上)		横切継紙・1通	え4651-9
申上(角店より兼々願い置き奉る金子の儀、私より申し聞いても如何仕り宜しきか初年の事ゆえ不分明に付)	3月6日認	横切継紙・1通	え4651-22

(書状、寿平名目にて清治儀、当節必至と差支え極貧、御手宛成し下される様当人私方へ相継り見捨てがたく私より貴所様まで相願うに付) * (端裏書)「六右衛門様 米山八百治」	12月23日	横切継紙/(え4652-1~31は括り紐一括)・1通	え4652-1
覚(申10月28日の元利金1両2分余に付) 伊セ屋金蔵→庄左衛門様	戊4月8日	横切紙/(え4652-1~31は括り紐一括)/(え4652-14-1~2は折込一括)・1通	え4652-14-1
覚(金1両1分、抛んどころなき入用に付借用申すところ、返済の儀は病氣全快次第皆済仕るべきに付) 下谷上野町常德院(印)→松代平兵衛殿	天保9年戊4月10日	横切紙・1通	え4652-14-2
(金1両2朱、雄治)		切紙/(え4652-1~31は括り紐一括)・1通	え4652-16
(金15両内2両2分余札、残り正金に付)		切紙・1通	え4652-17
(金1両2分、雄治)		切紙・1通	え4652-18
覚(金5両、御援兵御用御控仰せ付けられ御手元として御頂戴成されるところ御入用の節迄御預け置くに付) * (包紙上書)「覚 寅三月七日 長谷川藤五郎より預り金致候處此元利返済ニ付印書受取」 八田嘉右衛門→長谷川藤五郎殿	文政7申年正月13日	横切紙・1通	え4652-21
覚(金3両2分と206文飯米4名6升ほか、金7両と675文、丑年中入用御情け仰ぎ奉るに付) * (包紙上書)「文政十三年寅正月三日 数右衛門」	正月	横切継紙・1通	え4652-25
(丑年より午年まで元利、金66両3分金銭書上)		横切紙/(え4653-1~29は括り紐一括)・1通	え4653-5
覚(御檀家より祠堂金・田畑山林など御寄附成さる節は方丈世話人立会の席にて御取極め成さるべきに付ほか惣檀中示談の上取極めに付)		折紙・1通	え4653-6
口上(昨日拜見下された御草稿御貰い申すに付) 中村→八田慎(慎蔵)公	8月3日	横切紙・1通	え4653-18
(書状、別紙の通り申し来り何分願ひ上げ奉るに付)	4日	横切紙/(虫損)・1通	え4653-19
(書状、江戸廻り御代官取扱いの御貸付金、以来馬喰町御用屋敷請御代官の取扱いに相成るに付ほか)		横切継紙/(虫損甚大)・1通	え4653-26
(書状、紺屋町久兵衛儀抛無き儀に付金子2両御恩借申したく相願うに付) * (端裏書)「常左衛門 前大英寺」	5月9日	横切紙/(虫損甚大)・1通	え4653-27
(書状、金子の儀、新右衛門借用分返金いたし最初の通りいたしたきに付) * (端裏書)「喜兵衛様 藤左衛門」	正月20日	横切継紙/(え4654-1~27は括り紐一括)・1通	え4654-5
(2月中金130両御礼金11両3分余ほか、金79両3分余御礼金書上)		横切継紙・1通	え4654-13
(書状、当年中御勘定成し下され利分御渡し成し下されたく願ひ上げ奉るに付) * (端裏書)「喜兵衛様用事 藤左衛門」	12月24日	横切継紙・1通	え4654-14

1.内方/1.8.金融/1.8.2.貸付金

(書状、3月19日より4月26日迄に40日たたざるごと其の御積りにて御願ひ上げ奉り、何日頃差し上り申すべきや御伺い申したきに付) * (包紙上書)「木町八田様へ 力石村道作以」/ (包紙裏書)「廿日認急用ニ候」 道作以→八田様へ	極月20日	横切紙・1通	え4654-17
(書状、平屋3俵付出し 済付相渡さざる由御繰り合わせ、3俵付出しの内1俵拝借方相成るまじくや御承知成し下され、私より平屋へ申し談じ仕りたきに付) * (端裏書)「八田喜兵衛様 水野友作 三百九拾七番」	2月4日	横切継紙・1通	え4654-18
(書状、500匁400匁の内御受け取り落手仕り、又上納受取通物借懸り相廻し同所受取御預け置き、追て差し上げ申すべく御承知下さるべきに付) * (端裏書)「喜兵衛様 友作・重之助 堀内氏への百四十文是又同人遣落手仕候由私より申上候」	正月25日	横切紙・1通	え4654-19
(書状、御証文2通・帳面差し上げ奉り御改め御落入成し下さるべきに付) * (端裏書)「喜兵衛様」	12月28日	横切紙・1通	え4654-20
(書状、別紙御下げ御別紙の通り仰せ渡されるに付) * (端裏書)「八田喜兵衛殿 岡嶋莊藏」	正月13日	横切継紙・1通	え4654-21
(元金120両ほか辰年利足メ金11両1分余金銭書上)	11月29日	横切継紙・1通	え4654-22
十一月御礼金覚		横切継紙・1通	え4654-23
(書状、この外にある由申し話し置き日を定め申し上げかねに付)		横切紙・1通	え4654-24
(書状、袖方江戸出調帳の儀仰せ付けられ畏まり奉り別帳差し上げ御入手成し下さるべきに付ほか) * (端裏書)「喜兵衛様 八兵衛」	9月18日	横切継紙・1通	え4654-25
(包紙) * (包紙上書)「慎蔵様内用 周蔵」		包紙/(え4655-1~11は括り紐一括)/(え4655-1-1~4は包紙一括)・1点	え4655-1-1
(書状、当暮中より度々出店往返路用嵩み、長々出店内証向不都合の儀出来に付50金の内10両御下金成し下さる様願ひ上げ奉るに付)	12月16日	横切継紙・1通	え4655-1-2
覚(元利メ66両、元金の内10両当暮御渡し成し下され、残金40両来午5分利にて御預り置き成し下される様願ひ奉るに付)		横切継紙・1通	え4655-1-3
覚(金15両、御預ケ金の内御渡し成し下され受け取るに付) 佐竹周蔵(印)→八田慎蔵様	安政4巳年12月25日	横切紙・1通	え4655-1-4
覚(金2両2分、古茂右衛門御預金当巳利分受け取り相渡し申すに付) 片桐重之助(印)→八田慎蔵殿	安政4巳年12月27日	横切継紙/(え4655-1~11は括り紐一括)・1通	え4655-6
(書状、嘉吉願ひ立て金子八田本之進役代へ貸し分・借得分、原半之丞殿兩名にて借用願ひ奉る済し方に付)		横切紙/(え4655-1~11は括り紐一括)/(え4655-7-1~2は括り紐一括)・1通	え4655-7-1
①覚(金5両余、八田本之進様御役代へ御時借に帳面借の分)、②覚(金5両、御持合金の内御意に及び御承知下され受け取り、御時借用申すに付) ①十人町上つ組嘉吉、②原半之丞八田本之進印→②嘉吉殿	①午4月、②安政4年巳12月	横切紙・1通	え4655-7-2

(包紙) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 山極亦兵衛」		包紙/(え4655-1 ~11は括り紐 一括)/(え4655- 8-1~3は包紙一 括)・1点	え4655-8-1
(「明治九年子十一月調差向不用之書簡」)		切紙・1通	え4655-8-2
(書状、相願い埋木早速先日下され相用い申すべく有難く御札申し上げるに付) 定国→書鳩(八田嘉右衛門)大老人侍童	9月16日	横切継紙・1通	え4655-8-3
(書状、薬方相認め差し上げ御唾気の節は即功ある様御用御試し遊ばされるべきに付) *(包紙上書)「山極氏より到来痰妙薬製法書取」 亦兵衛→(八田)嘉右衛門様	8月28日	横切継紙/(え 4655-1~11は括 り紐一括)・1通	え4655-9
(関田守之丞・田中村長五郎など出入諸関係者名前書付)		切継紙/(え 4656-1~34は括 り紐一括)・1通	え4656-17
(書状、喜三七組親類にて同人身上限り申付方有るに付拙者より300金計りも助成致すに付) *(端裏書)「書鳩君山若舎君 桜兆相上」 桜兆相上→書鳩(八田嘉右衛門)君・山若舎君	7月11日	横切継紙・1通	え4656-27
(「上諏訪城下町宮坂作左衛門書状出场上田町成沢七郎右衛門迄右迄差出候得者早速為差引合」書付)		切紙・1通	え4656-32
(書状、永井氏の儀御懸念格別の過失などあるやにより金談一件の様子にも風説致す由に付) *(包紙上書)「松代御家中八田嘉右衛門様無別条用酬 須坂藩中壕内茂一郎」 桜兆拝具→書鳩(八田嘉右衛門)様玉几下	7月晦日	横切継紙・1通	え4656-33
(書状、兼ねて拝借仕る御方へも片付けかね金子にて上納仕るべきと存ずるにより何分当月下旬まで御延引願うに付) *(包紙上書)「松代菊屋傳兵衛様尊下 松本より」 □宮牧太→上	6月11日	横切継紙・1通	え4656-34
(書状、先般は初めて罷り越し、御馳走仰せつけられ、御厚志の事ども申すべきに付) *(包紙上書)「松代町 八田嘉右衛門様 岩村田家中 後閑又衛」 後閑又衛→八田嘉右衛門様	10月29日	横切継紙/(え 4659-1~22は括 り紐一括)・1通	え4659-8
(書状、甚左衛門儀26日婦村仕り段々貴家にて相談の趣、倉持寛左衛門儀来月5日・6日の頃貴地へ参着の積、その節御相談下されるべきに付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様 伊藤重蔵、後藤良佐」/(包紙貼書)「子十月廿日来帖」 後藤良佐・伊藤重蔵→八田嘉右衛門様・八田嘉助様・八田孫兵衛様・八田鉄次郎様人々御中	10月29日	横切継紙・1通	え4659-9
(書状、御仕送りの委細は16日差し上げ、御証文御取替の儀は直談なられるべき由、臨時御入用金子共は当11月中旬までには70両余御返金下される等に付) *下書/(端裏書)「嘉右衛門様 左一兵衛」/(包紙貼書)「子十月十三日丸子より来帖、岩村内へ返書下案共」 左一兵衛→八田嘉右衛門様机下	10月13日	横切継紙・1通	え4659-10
(書状、当16日弊院御出光も下されべき段仰せ下されるにつき、御返済方の儀も当人より窺うところ御叮嚀仰せ下され、御入念の儀委細承知に付) *下書/(端裏書)「後閑氏へ返書下案」 八田嘉右衛門→後閑又衛様貴報	10月13日	横切継紙・1通	え4659-11
(書状、御太守様貴敬へ相成られる等に付口上覚) *(包紙上書)「嘉右衛門様 貴下 市兵衛」/(包紙裏書)「白 三心口演」 市兵衛→(八田)嘉右衛門様座右	3月20日	横切継紙・1通	え4659-13

1.内方/1.8.金融/1.8.2.貸付金

(書状、御上御身上向追年御借財増せられ、段々御内借仰せ聞かせられる趣、私儀御勝手向に立ち入り、御仕送り等仕る様に仰せ下されるに付) *下書/(端裏書)「岩村田草稿」		横切継紙・1通	え4659-15
(包紙) *(包紙上書朱書)「二月二日堅葉返書済」		包紙/(え4659-1~22は括り紐一括)/(え4659-17-1~5は包紙一括)・1点	え4659-17-1
(書状、赤倉の方は帰宅の後、群神嶺申し談じ掛合の趣申し上げるべきのところ、上田の方へ御掛合なし下されるべきに付) *勘返状/(端裏朱書)「認入尊院」 恣水園拝→堅葉様尊下	10月13日	横切継紙・1通	え4659-17-2
(書状、西条の方内実の趣御書取のところ200両にて借財は済切、頼母敷の方は御引請の旨、240両借財は御承知の上御内談も整うに付) *(端裏書)「下案源左衛門様 嘉右衛門」/(端裏朱書)「○奉返上候」 (八田)嘉右衛門→(柿崎)源左衛門様	9月28日	横切継紙・1通	え4659-17-3
(書状、大島氏御出下され今朝和尚罷り越され相決めたき趣あるによるも借財引受と申す場合の取決迷惑に付) *勘返状/(端裏朱書)「恣水園右□□書入尊酬」 恣水園拝→堅葉大君几下	9月26日	横切継紙・1通	え4659-17-4
(書状、鳥居より御頼みの一条翌朝孫兵衛呼び内実を話したことを伊七へ話したところ、未だ取り決めのこと無きに付) *勘返状カ/下書カ/(端裏朱書)「書入尊□」	26日	横切継紙・1通	え4659-17-5
(書状、金700両余抛無く入用のこと返済下される様御掛合下されるところ、委細私より御意を得るべき旨承知致すに付ほか) *(端裏書)「十月十三日工藤氏へ返書下案」(八田)嘉右衛門→(工藤)左一兵衛様	10月13日	横切継紙/(え4659-1~22は括り紐一括)・1通	え4659-18
(包紙) *(包紙上書)「十一月三日来状十四日返書出ス 八田嘉右衛門様 中島三右衛門」		包紙/(え4659-1~22は括り紐一括)/(え4659-19-1~4は包紙一括)・1点	え4659-19-1
(書状、中野の方町方役人より私方より頼みも無く前廣無心申し入れざるところ、ようやく今朝添簡も相渡る様子にて迷惑いたすに付) *勘返状 書鳩(八田嘉右衛門)拝→中島(三右衛門)大君几下	10月22日	横切継紙・1通	え4659-19-2
(書状、面白からざることばかり申し上げるも今夕頃仲直りしたく御笑くださるべきところ、御覽後御家中伺願ひ上げ奉るに付) *(端裏書)「認入尊院」	16日	横切継紙・1通	え4659-19-3
(書状、喜左衛門中野金子取立方にて御添簡願ひ奉る所、伝兵衛請負印形仕る様仰せのところ、取立金御厄介にて相成るまじきに付)		横切継紙・1通	え4659-19-4
(書状、今井普請一件について南原など穿鑿のところ、大島氏より外口より150金御出来の挨拶あるに付) *(端裏書)「書鳩大君尊忝下 隠居」 隠居→書鳩(八田嘉右衛門)大君	12月17日	横切継紙/(え4659-1~22は括り紐一括)・1通	え4659-20
(書状、中野へ御領分湯田中温泉引湯の目論見あるところ、入用金不調達により中野町役人金200両内借りたき趣頼むに付) 八田嘉右衛門→名主米屋廣右衛門・年寄永楽屋倉之丞・組頭米屋彦之丞・同伊賀屋彦兵衛・同袋屋清左衛門	6月3日	横切継紙・1通	え4659-21

口上覚(私儀御援兵出役仰せ付けられるところ勝手向極難渋にて出役用意も出来かね、兵具その外細々までも御世話下され忝きに付) * (外包紙上書)「文政六未年同名慶助殿援兵御用被仰付所武具不足之分者有之候付無心被申候間有合候品用立可申旨及挨拶候五年間調達有之候様」/(外包紙裏書)「右年限相立候得者用立不申旨及示談置候間以来右之心得を以及挨拶可申事 知義」/(内包紙上書)「覚 八田慶助」 八田慶助→八田嘉右衛門様	10月6日	横切継紙/(え4660-1~3は括り紐一括)・1通	え4660-3
(書状、2朱判10両差し上げ小判2分判の内にて御引替下さる様御頼みに付) * (端裏書)「嘉右衛門様内用 惣之進」	10月14日	横切紙/(え4662-1~25は括り紐一括)・1通	え4662-14
(書状、一紙御添金子遣わし下され落手奉り今年は別して種々御厄介罷り成り有り難きに付ほか) * (端裏書)「嘉助様 陽之助」	12月24日	横切紙/(え4663-1~45は括り紐一括)・1通	え4663-4
(書状、御不快に付御使いの者へ金子相渡し御落手なさるべく、利足書入の儀畏まり奉るに付ほか) * (端裏書)「嘉助様貴答 友作」	24日	横切継紙・1通	え4663-5
(書状、先日相願う藤田金子念を入れ御印書遣わされ御預り申し上げるに付ほか) * (端裏書)「嘉助様貴答 友作」	2月17日	横切継紙・1通	え4663-7
(書状、河村より別封到来に付差し上げ御入手成し下さるべきに付) * (端裏書)「嘉助様 太泉」	9月19日	横切紙・1通	え4663-9
(書状、今朝書面の儀承り、この節払底の由ニ付) * (端裏書)「嘉助様差置 熊三郎」	19日	横切継紙・1通	え4663-10
(書状、今朝も御願ひ申し上げ御様子いかがか、両様御様子伺い、漸くかり受け只今取りに郷方より参るに付) * (端裏書)「嘉助様当用 健三郎」	12月25日	横切紙・1通	え4663-13
(書状、御願ひ申し上げおき半かつ・はかわ・ぶんこ御願ひ申し上げるに付) はなより→お梅さま御願申上		横切紙・1通	え4663-16
(書状、御役料金9両3分余尊公様相願いくれ、御廻し成し下され落手奉るに付) * (端裏書)「伊勢町様 竹山丁拜」	極月24日	横切継紙・1通	え4663-17
(書状、200金御繰合御書き添え成し下さるべきところ、持病にて平臥致し使いを以て願ひ奉るに付)		横切紙/(え4663-1~45は括り紐一括)/(え4663-20-1~2は括り紐一括)・1通	え4663-20-1
(書状、御内咄の分200金願ひ入れ、今日4ツ過迄ニ御来駕待ち奉るに付) * (端裏書)「嘉助様要用申上御内々 友作」	12月28日	横切紙・1通	え4663-20-2
(書状、8分拝借切替150両致し他借返金25年賦として返金の積りほか)		横切継紙/(え4663-1~45は括り紐一括)・1通	え4663-24
八田慶助殿江取替金指引		横長半・1冊	え4663-27
(書状、明朝迄に宅の方へ御戻り成さるべく直談など願ひすべき儀申し上げるべきに付) * (端裏書)「伊勢町様包添代官丁」	朔日	横切紙・1通	え4663-29
(書状、嘉右衛門様へ申し上げる掛物御書抜御廻し成し下され落手仕るに付) * (端裏書)「嘉助様御受申上 弥左衛門」	9月20日	横切継紙・1通	え4663-30

1.内方/1.8.金融/1.8.2.貸付金

八田慶助殿勝手向之儀二付見込取調書 * (裏書)「御用八田嘉右衛門様八田喜兵衛様 水井忠蔵」		縦紙・1通	え4663-31
(書状、昨日は多勢堂上御馳走成し下され有難く、今日は役所の方も去り難く御請堂上仕らざる段御海容仰せらるに付) * (端裏書)「松山丁様申上 嘉助」	8月29日	横切継紙・1通	え4663-32
(書状、御指し越さる御下書の儀御認め置き下さるべきに付) * (端裏書)「八田嘉右衛門様 矢野倉惣之進」	5月20日	横切継紙・1通	え4663-33
(書状、御調書・御勘定帳の人数引き合う様に御呑み込み成さるに付) * (端裏書)「八田嘉助様 矢野倉惣之進」	9月21日	横切継紙・1通	え4663-34
(書状、古金銀御役所の方にある分引き替えの儀、御面談仕り御熟談したきに付) * (端裏書)「嘉助様御答 友作」	9月21日	横切紙・1通	え4663-37
(書状、御話しあり明朝より相願うところこの節払底にて明朝迄御見合せ願ひ奉るに付) * (端裏書)「嘉助様 熊三郎」		横切紙・1通	え4663-38
(書状、その節申し上げた通り100疋差し上げ御差し引き成し下さるべきに付ほか) * (端裏書)「略紙御免し奉願上候」	25日	横切継紙/(え4663-1~45は括り紐一括)/(え4663-39-1~2は折込一括)・1通	え4663-39-1
(包紙) * (包紙上書)「嘉助様 恐入御請御免可被成候 五百人」		包紙/(え4663-1~45は括り紐一括)/(え4663-41-1~3は包紙一括)・1点	え4663-41-1
御差引覚(差し引き金1分2朱余、取り調べ御内々御覧に入れ奉るに付) (八田)嘉助→(徳田)五百人様	12月24日	横切継紙・1通	え4663-41-2
(書状、仰せ蒙る取り調べ延引御高免成し下さるべく、取り調べ別紙御覧に入れ奉るに付) * (端裏書)「内用」	12月24日	横切継紙・1通	え4663-41-3
(書状、延金仕り気向も悪しく御憐憫願ひ奉るに付) * (端裏書)「嘉助様 弥兵衛已上」 弥兵衛→(八田)嘉助		横切紙/(え4663-1~45は括り紐一括)・1通	え4663-43
(書状、兼ねての一件、昨日位にも土屋様へ御呼出しに相成り、御尋ねの御口振り如何か先方へ一寸御申遣わされるよう致したきに付) * (包紙上書)「菊屋四郎兵衛様 成瀬内水谷八郎右衛門」/(端裏書)「菊屋四郎兵衛様 成瀬内水谷八郎右衛門」 成瀬内水谷八郎右衛門→菊屋四郎兵衛様	3月17日	横切継紙/(え4664-1~24は括り紐一括)・1通	え4664-2
(包紙) * (包紙上書)「三月十三日九つ時過相届 嘉右衛門様内用 源左衛門」		包紙/(え4664-1~24は括り紐一括)/(え4664-6-1~3は包紙一括)・1点	え4664-6-1
乍恐以書付奉申上候(私共一件示談に及ぶが、村方で証文差し入れることは迷惑、領主御家来より借用証文相渡すに付申し、対談行届き申さずに付) * 写 御領分松代伊勢町嘉右衛門代平兵衛印・年寄差添人孫兵衛印→御留守居様御役所	天保4巳年2月29日	縦紙・1通	え4664-6-2
(書状、一昨日御呼出し御吟味、何れ次の御便りに委曲申し上げるべし、決して御心配成下さるまじきに付) 源左衛門→(八田)嘉右衛門様申上	3月7日	横切継紙・1通	え4664-6-3

(包紙) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 八田嘉助様 近藤六左衛門」		包紙/(え4664-1~24は括り紐一括)/(え4664-7-1~3は包紙一括)・1点	え4664-7-1
(書状、先日は初めて参上仕り、種々御馳走罷成り、忝き仕合せに存じ奉り、御家内様へも宜しく御礼願上げ奉るに付) 近藤六左衛門駄穹(花押)→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	6月28日	折紙・1通	え4664-7-2
(書状、御内々御咄合仕る儀、岡野公へ申し上げ、御同人様より御断あるべきこと御承知下さるべきに付)		切紙・1通	え4664-7-3
(書状、昨日御内話申し上げ、思召しも伺った淳吉向後取締方の儀、一通り認取り、御覧に入れるに付) * (端裏書)「源八様 五百人様 陽之助」(岡野)陽之助→(松本)源八様・(徳田)五百人様	3月22日	横切継紙/(え4664-1~24は括り紐一括)・1通	え4664-8
(書状、一昨日申し上の趣、昨日御同姓様へも申し上げのところ御同意に付その段上村氏へ挨拶に及び、御承知至られくださるべきに付ほか) * (端裏書)「辰三郎様 陽之助」(岡野)陽之助→(八田)辰三郎様	閏7月4日	横切継紙・1通	え4664-10
(書状、八田氏よりの返済金2分2朱御送り下され、慥かに落手仕るに付) 大嶋→岩下様貴答	閏7月3日	横切継紙・1通	え4664-11
(書状、5日御調よりは大きに色を直したとのこと、まづまず安心仕るに付) * (端裏書)「徳左衛門様御報 直之進」直之進→(増田)徳左衛門様御報	3月18日	横切継紙・1通	え4664-12
(書状、当5日御呼出し御吟味、格別ながら御心配も成し下され、戸倉へ申し越さるべきに付)	3月13日	横切継紙・1通	え4664-13
(書状、流地済口証文迄も御披見に入れる儀であれば郷借引請けは勤め申すまじくやと存じ、進退の儀御賢察成し下さるべきに付) * (端裏書)「三月廿二日書下案」		横切継紙/(え4664-1~24は括り紐一括)/(え4664-14-1~2は括り紐一括)・1通	え4664-14-1
(書状、孫兵衛儀、万一気後れ仕るか又は気向き等に差障りては一大事の段、悪しからず御勘弁下され座公へも品能く仰せ取られ下さるべきに付)		横切継紙・1通	え4664-14-2
(書状、元の借用証文になれば切金ともなり用立たないことは歴然のこと等は私も同意と申すに付ほか) * 前欠	3月7日	横切継紙/(え4664-1~24は括り紐一括)・1通	え4664-15
(包紙) * (包紙上書)「嘉右衛門様 源左衛門」		包紙/(え4664-1~24は括り紐一括)/(え4664-16-1~4は包紙一括)・1点	え4664-16-1
(書状、紺屋町伊勢屋傳八、成瀬隼人正様へ格段の御出入り仕り来たり、殊の外懇意の仁これ有り、この度の一件相断し申すに付) * (端裏書)「極御内々御直覧之上御火中可被成下候」		横切紙・1通	え4664-16-2
(書状、当5日評定殊の外悪しく、蓮・静岡両村、平兵衛双方より、来る16日迄御日延願い奉り、引取り申すに付) 源左衛門→(八田)嘉右衛門様申上	3月12日夕方	横切継紙・1通	え4664-16-3

1.内方/1.8.金融/1.8.2.貸付金

(書状、昨16日迄御日延内熟整いかね、則ち今日破談御届これ有る由、右に付、近日又々御白洲御吟味あるべきに付) 源左衛門→(八田)嘉右衛門様申上	3月17日夕七時出	横切継紙・1通	え4664-16-4
(書状、孫兵衛見込の方尤も存じ奉り、縦令右金子残らず減金罷成るとも御公儀御裁許を以て仰渡されたことは余儀無く存じ奉るに付ほか) * (端裏書)「三月十四日 中島君へ遣候下案」 (八田)嘉右衛門→中島(三右衛門)様尊答	3月14日	横切継紙/(え4664-1~24は括り紐一括)・1通	え4664-17
乍恐以書付奉申上候(私共一件示談に及ぶが、村方で証文差し入れることは迷惑、領主御家来より借用証文相渡すに付申し、対談行届き申さずに付) * 写 御領分松代伊勢町(八田)嘉右衛門代平兵衛印・年寄差添人(増田)孫兵衛印→御留守居様御役所	天保4巳年2月29日	横切継紙・1通	え4664-19
(書状、当月5日御吟味の儀は即刻御答えも申し上げかね、差し添え孫兵衛より御腰懸迄の御猶予願い奉り、日延べ願書差し上げ、引き取り申すに付ほか) * (包紙上書)「八田嘉助様当用無事 増田孫兵衛」 平兵衛→若旦那様	3月15日認当賀	横切継紙・1通	え4664-20
(書状、拙者罷り出た一条、勝手方掛役人中帰国次第御相談申し上げるので、延引のところ、御猶予下さるべき等に付) * (包紙上書)「松代町宮澤徳左衛門様用事 佐久塚原村池田源助」 池田源助→宮澤徳左衛門様	4月10日	横切継紙・1通	え4664-21
(書状、濟方別段手段もこれ無く、この上は質地流地よりほか致方もこれ無き趣、然るところ何共等閑の儀にも存ぜられる委細申し聞けらるべきに付) * (包紙上書)「辰十月廿四日改入用 書状有」		横切紙・1通	え4664-22
(包紙) * (包紙上書)「松代伊勢町菊屋傳兵衛様当用 江戸神田二而増田孫兵衛(印)」		包紙/(え4664-1~24は括り紐一括)/(え4664-23-1~3は包紙一括)・1点	え4664-23-1
(書状、当地の一件、岩村田赤倉表の儀も内談仕りたく、万一差し支えもあれば、儀左衛門にても御遣わし下されるよう仕りたきに付)		横切継紙・1通	え4664-23-2
(書状、佐右衛門殿帰村につき一簡啓上仕り、一件の儀追々書中を以て申し上げるに付) 出府兩人→上	3月20日	横切継紙・1通	え4664-23-3
(包紙) * (包紙上書)「三月五日七時半時」		包紙/(え4664-1~24は括り紐一括)/(え4664-24-1~4は包紙一括)・1点	え4664-24-1
(書状、当月4日御吟味の後、私煩いの由にて昨15日迄日延べ懸合中につき、双方昨15日夕三河屋へ罷出、懸合った趣意に付) 平兵衛→若旦那様	2月16日	横切継紙・1通	え4664-24-2
(書状、御留守居中へ申立ての写しは御懸りへ差し出し申すべし、片岡氏内状は書取りにて申立てるので返上仕るに付) * (端裏書)「書鳩大君御下 素弓拝」 素弓拝→書鳩(八田嘉右衛門)大君御下	3月7日	横切紙・1通	え4664-24-3
(書状、一件先便平兵衛よりも申し上げた通り、対談手切御届け申し上げおいたところ、当24日御呼出しにて別紙の趣御利解に付等ほか) * (端裏書)「三月十日返書認別段之義も無之下案無シ」 源左衛門→(八田)嘉右衛門様申上	2月26日	横切継紙・1通	え4664-24-4

(手元金25両ほかメ金66両金銭書上) * (端裏書)「十一月廿三日式分金引替 小野老へ遣し候員数」		切紙/(え4665-1~27は括り紐一括)・1通	え4665-3
覚(野口氏より受け取りの分札600両など金銭勘定書付)		横切継紙・1通	え4665-7
(書状、来午年より御手許御暮らし方の儀凡そ取調べ、御暮らし方にて御減少又は御不足金にて御手段にて御工風願い奉る等に付)	巳10月	横切継紙・1通	え4665-8
(書状、大豆・糶・塩代金5両借用仕りたく、何方にも願い上げ奉るに付) * (端裏書)「伊勢町様願用申上 本之進」 本之進→伊勢町様願用申上	3月20日	横切紙/青色紙・1通	え4665-14
(2月12日東京金札相場書付)		切継紙・1通	え4665-15
覚(卯7月29日改めの御下金900両の内金670両元金上納利金42両など貸付金銭勘定書付)		横切継紙・1通	え4665-24
(慶応3年9月利率1割2分金15両利金3両金銭勘定書付) * (端裏書)「右岡村軍右衛門へ所替金の調」		切紙・1通	え4665-26
(書状、善蔵よりも申遣わす書状只今相届き御覧に入れるべきつもの所、又々委しく申し来りて安心するところ、明朝伺うべきに付) * (端裏書)「嘉右衛門様 与右衛門」 与右衛門→(八田)嘉右衛門様	6月29日	横切継紙/(別紙書付あり)/(え4666-1~19は括り紐一括)/(え4666-1-1~13は括り紐一括)・1通	え4666-1-4
(書状、松本の兩人貴家へ伺われ、罷り出でくれるよう申すこと、家内無人により失敬ながら書中を以て申上げるに付) * (端裏書)「八田嘉右衛門様侍右 唐沢孝左衛門」 唐沢孝左衛門→八田嘉右衛門	6月18日	横切継紙・1通	え4666-1-5
(書状、北沢公の御口上書先般返却仕り、奥津公へ御差出しの所、先日預りの由に付、中嶋公へ仰越された趣御尤存じ奉るに付ほか) * (封筒表書)「六月一日関田氏より北沢江申立喜左衛門左惣二着廿五日御尊判返上安否申来候紙面」 素弓拜→書鳩(八田嘉右衛門)君公翁	5月25日	横切継紙・1通	え4666-1-6
(書状、御暇について伺うところ、御内用向片付かず北沢公も仰せ含まれるも秋中まで差し置かれるやにより差繰悪しく迷惑に付) * (包紙上書)「子六月七日来状入用候紙面入 八田嘉右衛門様 関田守之丞」 素弓→書鳩(八田嘉右衛門)様	6月朔日	横切継紙/(別紙巻き込み)・1通	え4666-1-7
口上(御頼み申上げた金子忝く存じ奉り、御印書1通、金子3両1歩など忝く慥かに落手仕るに付ほか) * (端裏書)「八田嘉右衛門様 木内求喜」 木内求喜→八田嘉右衛門様	12月12日	横切紙/(え4666-1~19は括り紐一括)/(え4666-19-1~2は括り紐一括)・1通	え4666-19-1
(書状、去年中御印書差し出したので、帰宅次第早速持参仕り返済仕るよう申し聞かせ申すべく、左様御承知下さるべきに付) (木内)求喜→(八田)嘉右衛門様	12月12日	切紙・1通	え4666-19-2
(書状、久兵衛談じ参る儀、書類御覧に入れるに付) (金児)丈助→東様内用	11月29日	横切継紙/(え4667-1~15は括り紐一括)・1通	え4667-2
覚(関田守之丞時借金1両請け取るに付) 長谷川源四郎(印)→伊勢町菊屋傳兵衛殿	文政9戌年3月	横切継紙・1通	え4667-4

1.内方/1.8.金融/1.8.2.貸付金

(書状、旧臘与三よりの75両の内訳を御尋ね蒙るところ、 本金は岡本殿御渡しの拝借金その他諸品差し引きの 私預かり金などに付) * (端裏書)「喜兵衛様 内用」(水 井)忠藏→(八田)喜兵衛様	正月23日	横切継紙・1通	え4667-5
覚(寅年分2両2分余・卯年分2両2分余指引銀3匁3分5厘銭 換算371文返上に付)		横切紙・1通	え4667-6
覚(文政9年預金元利×15両1分9匁勘定書付ほか)	(文政9年)	横切継紙/(え 4667-1~15は括 り紐一括)/(え 4667-12-1~7は 括り紐一括)・1通	え4667-12-1
(元金239両2分1朱ほか金銭書付)		切紙・1通	え4667-12-2
覚(午正月御中借金高2227両余ほか金銭書付)	(午正月)	横切紙紙・1通	え4667-12-3
(正月より2月まで上納受取辻689両1分9匁3分6厘ほか金 銭書付)		横切継紙・1通	え4667-12-4
(正有金239両2分1朱内御貸下金上納130両ほか金銭書付)		切紙・1通	え4667-12-5
覚(辰年御預り金15両の元利金銭書付)		横切継紙/(虫 損)・1通	え4667-12-6
(天保4年中佐竹殿貸金10両ほか金銭書付)	(天保4年2月~9月)	横切継紙・1通	え4667-12-7
(書状、増田方差し引き問合せのところ、別紙の通りに相成 るに付) * (封筒表書)「伊勢町様 寺町」寺町→いせ町様	10月5日	横切紙/(え 4667-1~15は括 り紐一括)・1通	え4667-13
(包紙) * (包紙上書)「安政五年四月 中山一条ニ付坂本より 之来状」/(包紙裏書)「中山一条 書類」	安政5年4月	包紙/(え4668-1 ~9は包紙・括り 紐一括)・1点	え4668-1
(書状、この程中仙道坂本宿へ御縁付なされる由重畳の 所、用立てた25両を返済下されたきに付) * (包紙上 書)「坂本宿八田鉄次郎様 江戸浅草中山浪江」 江戸浅草 中山浪江→坂本宿八田鉄次郎	4月3日	横切継紙・1通	え4668-2
(書状、三郎については隠宅の方にて一端娘へ娶せ事に より万一本陣跡式混雑するとも相応に暮らし方相立つ さま見継ぎ存念したきに付)		横切紙・1通	え4668-3
(書状、山堂肆孝・常山紀談・小学五経等の書物借用に付 ほか)		横切継紙・1通	え4668-4
(書状、絹地物の御蔵画を1枚おめぐみ下されたきに付) * (端裏書)「画壺枚奉願上候」		横切継紙・1通	え4668-5
(書状、この度の次第鉄治郎も返金致したき様なれど先帰 宅の節兄弟不和に相成るに付)		横切継紙・1通	え4668-6
(書状、中山一条借金に関する釈明、金子手段なし下され たきに付ほか) (八田)鉄次郎→御兄上様		横切継紙・1通	え4668-7
(書状、山堂肆孝他の書物を借り集めてお遣わし下された きに付ほか)		横切継紙・1通	え4668-8
(書状、中山一条、中山・高橋へ紬縞を土産物として遣わす 件、音司方へ25両の半金にて済み切りを頼むに付ほか) * (封筒表書)「後御母上様無□ 鉄次郎」(八田)鉄次郎→ 御母上様	6月16日	横切継紙/(え 4668-1~9は包 紙・括り紐一括) /(え4668-9-1~3 は括り紐一括)・ 1通	え4668-9-1

(書状、中山氏一件兄上様にも御聞き済まし、書物借用の件、犬を貰いたきに付ほか) * (封筒表書)「八田前御母上様用事 金井鏡次郎」(八田)鏡次郎→御母上様		横切継紙・1通	え4668-9-2
(書状、中山一条、金銀調達に御骨折下された由に付御礼、高橋氏・中山氏へ紬縞差し遣わしの件ほか) * (封筒表書)「松代幾久屋佐助殿 坂本宿金井鏡次郎」(八田)鏡次郎→佐助丈	6月13日	横切継紙・1通	え4668-9-3
申上(喧嘩一件吟味下げ御下知に付) (松本)嘉十郎→寺學様	21日	横切紙/(え4669-1~9は括り紐一括)/(え4669-1-1~17は括り紐一括)・1通	え4669-1-5
(書状、時借金内定差支えもあるにより返済猶予願うに付) * 下書カ		縦紙/(え4669-1~9は括り紐一括)/(え4669-1-1~17は括り紐一括)/(え4669-2を巻き込み)・1通	え4669-1-7-1
(書状、返済内定差し支えあるにより今暫く御勘弁願ひ上げ奉るに付)		切紙/(え4669-1~9は括り紐一括)/(え4669-1-1~17は括り紐一括)/(え4669-1に巻き込み)・1通	え4669-1-7-2
(争論済口により御添簡返上の旨書付) * 前欠 伊勢町伝兵衛→御町御奉行所	天保10亥年9月	縦継紙/(え4669-1~9は括り紐一括)/(え4669-1-1~17は括り紐一括)・1通	え4669-1-15
口演(申し上げの始末中野様ほか御両所御異見より内済和談に相成り、栄八婦館に付) 中仙道追分宿ニ而沖八→伊勢町和七様・勝之助様	8月25日	縦紙・1通	え4669-1-16
(書状、先日金20円請け取るに付) 井上亀之助→松代御伯母迄	第2月18日	横切継紙/(え4671-1~26は括り紐一括)・1通	え4671-2
(書状、金子借用に付) 井上亀之助→松代八田様	第2月18日	横切紙・1通	え4671-5
(書状、拝借金証文下案に加筆依頼) (八田)慎蔵→(水井)忠蔵様	10月6日	横切紙・1通	え4671-7
覚(元金・利金計算書、卯12月元金300両に付)	(卯)	折紙・1通	え4671-12
(書状、御印証と金子を下げ渡し願いたきに付) 水井(忠蔵)→八田様	2月3日	横切継紙・1通	え4671-24
(書状、おくめ事を弥右衛門へ話したが、年も致さず御用立ちも致さず「おそしやう」でき申さざるに付) 母→おこふとの		横切継紙/(え4671-1~26は括り紐一括)/(え4671-25-1~4は括り紐一括)・1通	え4671-25-1
覚(元利金差引勘定書、元金230両、利金メ36両3分余)		横切継紙/(え4672-1~11は括り紐一括)・1通	え4672-7
(書状、日々差し支え、鳥目銭如何の品にても御下げ渡し下されたきに付) 水野清右衛門→八田慎蔵様	正月19日	横切紙・1通	え4672-8

1.内方/1.8.金融/1.8.2.貸付金

(寅年利分御渡し分金額×21両、ほか卯年分米石高×5石9斗6升6合ほか金銭書上)		横切紙・1通	え4672-10
(書状、別紙の通り不足金11両3分余を御廻し下されたきに付) 重助→(八田)嘉助様	正月19日	横切紙・1通	え4672-11
(書状、お梅より差し上げ松本よりの来書、私より伺いたき儀あるに付ほか) * (端裏書)「嘉右衛門 陽之助」	2月11日	横切継紙/(え4673-1~7は括り紐一括)・1通	え4673-4
(書状、只今御金子1両借用仕りたく御願ひ上げ奉るに付) * (包紙上書)「松代伊せ町八田嘉助様人々御中 坂原佐十郎」/(端裏書)「八田様 坂原より」	正月10日	横切紙/(え4674-1~35は括り紐一括)/(え4674-5-1~3は括り紐一括)・1通	え4674-5-1
(書状、小宮山一件引替の儀、村方との申談じ済みかね今日には相成るべきに付) * (端裏書)「八田嘉右衛門様 関田守之丞」	閏11月6日	横切継紙・1通	え4674-5-2
口上覚(先年関田守之丞口入を以て私預り金の内網懸村久右衛門・和助連名借主の金子返済相滞る一件内済相整うに付) 八田嘉右衛門→岡嶋莊藏様	11月	横切継紙・1通	え4674-5-3
①覚(金50両八田嘉右衛門ほか×金241両余金銭書上)、 ②覚(金22両2分田中清右衛門ほか×金191両1分金銭書上)		横切継紙/(え4674-1~35は括り紐一括)・1通	え4674-10
預り申金子之事(金3両3分御地頭入用借用申すに付) 妻科村三之丞(印)・勝右衛門(印)、(裏書)松本源八(印)→御駕籠組定右衛門殿	延享3年寅12月	堅紙・1通	え4674-18
(右の通り受け取り貸出証文に付) * 前欠 徳嵩甚藏(印)→八田嘉右衛門殿	寅正月	堅紙・1通	え4674-19
覚(金3両2分ほか藤田様行金銭書上) * (裏書)「藤田様行」		横切紙・1通	え4674-23
(包紙) * (包紙上書)「上 からつ勇吉」		包紙/(え4674-1~35は括り紐一括)/(え4674-24-1~4は包紙一括)・1点	え4674-24-1
覚(山口屋甚右衛門、金25両の内差し引き勘定×12両余相渡すに付)		横切継紙/(下札あり)・1通	え4674-24-2
①覚(金5両より利1割雪納村へ用立ほか×金3両1分受け取るに付)、②覚(金5両3分樋口様御懸け不足、その節御切にて請け取るに付) * ②は①の貼紙 ①②勇吉→①旦那様	①天保14卯(年)12月	横切継紙・1通	え4674-24-3
覚(天保6年10月御用立金5両、元金残・利分申し上げるに付) 勇吉→旦那様	午11月	横切継紙・1通	え4674-24-4
(4日100文貫人ほか金銭書上)		堅紙/(貼紙あり)/(え4674-1~35は括り紐一括)・1通	え4674-33
(書状、御無心申し上げたところ早速御承知下され有難く、悴差し遣わし証文御引替金子御渡し下さるに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様参人々御中 児玉圓右衛門」 児玉圓右衛門→八田嘉右衛門様参人々御中	7月10日	折紙/(え4676-1~11は括り紐一括)・1通	え4676-1

(書状、先月中金子入用差し支え御無心仕るところ御承知下され名代親類嘉重郎差し遣わし証文御落手下され金子御渡し下さるべきに付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様貴下 渡邊民治郎」 渡邊民治郎→八田嘉右衛門様	4月2日	横切継紙・1通	え4676-2
(書状、川上蕎麦3斗入1駄進上仕り歳暮の御祝儀申し上げるに付) *(包紙上書)「松代八田嘉右衛門様□拔式□添岩村田家中後閑莎右衛門藤田百助」 藤田百助・後閑元吾・後閑莎右衛門→八田嘉右衛門様	12月27日	横切継紙・1通	え4676-6
(書状、分知主水殿勝手入用の儀御願ひ承知下され、分知方割元役池田源助差し遣わし宜しく願うに付) (藤田)百助・(後閑)元吾・(後閑)莎右衛門→(八田)嘉右衛門様	2月5日	横切紙・1通	え4676-7
(書状、300金御渡し申し上げるところ御受け取り下さる由承知仕り、成丈早く上げるべきに付ほか) *(端裏書)「八田嘉右衛門様用書 後閑元吾」 後閑元吾→八田嘉右衛門様	12月17日	横切継紙・1通	え4676-8
(書状、兼ねて相願ひ置き一条、私方役所より御返金御渡し申し付けられるに付) *(包紙上書)「松代御藩中八田嘉右衛門様梧右緊用 池田寛蔵」 池田寛蔵→八田嘉右衛門様梧右	18日	横切継紙・1通	え4676-9
(書状、田野口御陣屋より金子御用弁の儀御頼み申上げ私御引き受け加判を以て御聞き済み下され忝きに付) *(包紙上書)「松代八田嘉右衛門様要用貴下 岩村田渡邊武左衛門」 渡邊武左衛門→八田嘉右衛門様	12月7日	横切継紙・1通	え4676-10
(書状、五右衛門内借金の儀承知下され有難きに付ほか) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様 後閑人堂」 後閑人堂→八田嘉右衛門様	12月20日	横切継紙/(え4678-1~17は紙紐一括)・1通	え4678-9
(書状、手紙を認めたのでこれにて宜しいか尋ねるに付) 一郎右衛門→七郎兵衛	9月16日	横切紙・1通	え4678-10
(書状、御才覚金手形400両の儀周旋願) 酒井市治→八田慎蔵様	2月29日	横切継紙/(え4680-1~57は括り紐一括)・1通	え4680-2
(書状、要右衛門代人差し遣わし、別紙掛紙を直すので勘弁下されたきに付) 江右衛門→(八田)慎蔵様	27日	横切継紙・1通	え4680-3
(書状、飯米差し支え、御取替なし下されたきに付) (八田)本之進→伊勢町様	3月5日	横切紙・1通	え4680-8
(書状、400円を4月晦日返済の約定にて借入ほか先頃中1400両借入手形の取計いに付ほか) 清右衛門→(八田)慎蔵様	2月29日	横切継紙・1通	え4680-9
(書状、味噌仕入方のため糶代借用仕りたきに付) (八田)本之進→伊勢町様	4月12日	横切紙・1通	え4680-12
(書状、飯米差支えにて困りいるに付) (八田)本之進→伊勢町様	4月21日	横切紙・1通	え4680-14
(書状、柴町の儀、差し支えのため明日昼後より御打寄願いたきに付) 遊蔵尾→(八田)慎蔵様	4月5日	横切紙・1通	え4680-17
覚(味噌焚材料の大豆・塩・糶代金拝借歎願)		横切紙・1通	え4680-18
(書状、味噌大豆代・塩代借用した事に付) (八田)本之進	□月16日	横切紙・1通	え4680-19
(書状、飯米差支えのため難渋、お願いしたきに付) (八田)本之進→おこふ殿	3月5日	横切紙・1通	え4680-20

1.内方/1.8.金融/1.8.2.貸付金

(書状、硝石・龍腦・シンシヤウを調合しての薬の製法に付) 清右衛門→(八田)慎蔵様	3月5日	横切継紙・1通	え4680-24
(書状、飯米に困り入り、おすがり申し上げたく内歎願) (八田)本之進	2月22日	横切紙・1通	え4680-25
(書状、大豆塩代御渡し下され、切手差し上げの件、飯米 差し支え困り入るに付勸弁下されたきに付) (八田) 本之進	20日	横切紙・1通	え4680-30
(書状、佐市方へ下金・取立金50両のうち新札にて34、5両、 残りは古札にて上納したきに付) (青柳)増太郎→(八田) 慎蔵様	5月8日	横切継紙・1通	え4680-36
(書状、4月晦日に間違いなく返済するので御借入れなし 下されたきに付)	2月27日	横切紙・1通	え4680-47
(書状、田中には18俵の内5俵差し引きに付) * (端裏書)「御 答」 (八田)本之進	6日	横切紙・1通	え4680-49
差上申拝借証文之事(当村高辻引当にて金750両拝借) * 雛型 何村御借主一印・親類一印・組合一印、(奥書)名主一 印・組頭一印・長百姓一印→八田慎蔵様	明治3年2月	横切継紙・1通	え4680-52
(書状、金札500両・印書900両御受け取り下されたきに付) * 別紙		横切紙・1通	え4680-57
(書状、仁礼村要右衛門へ御口入れ下された金子の内返 金並びに諸差し引き残金落手に付ほか) * (包紙上書) 「八田嘉右衛門様 堀内千吾」 (堀内)千吾→(八田)嘉右衛 門様	3月20日	横切継紙/(え 4681-1~32は括 り紐一括)・1通	え4681-10
寛(仁礼村要右衛門へ御貸付金子のうち済戻金50両ほか 都合82両2分請け取るに付) 堀内千吾(印)→八田嘉右衛 門殿	文政5年3月	横切継紙・1通	え4681-11
(包紙) * (包紙上書)「松代八田嘉右衛門様要用 戸隠小川録 兵衛」		包紙/(え4681-1 ~32は括り紐 一括)/(え4681- 19-1~3は包紙 一括)・1点	え4681-19-1
(書状、当山入院かれこれ金子30両借用仕りたきに付) 小川六兵衛→八田嘉右衛門様	12月9日	横切継紙・1通	え4681-19-2
(書状、この表当年作方不熟にて格別の才覚金申し付け られ拙家迷惑の折柄貸金の件はお断り申すに付) 八 田嘉右衛門→小川六兵衛様貴報	3月11日	横切継紙/(虫 損)・1通	え4681-19-3
(書状、無心金を弟子法恩坊・惣右衛門に御渡し下され たきに付) * (包紙上書)「松代八田嘉右衛門様要用 戸隠山 善法院」 善法院→八田嘉右衛門様	12月26日	横切継紙/(え 4681-1~32は括 り紐一括)・1通	え4681-21
(書状、直書を数寄屋河岸へ昨夕届けたに付、先年拝借金 のうち1両上納に付ほか) * (包紙上書)「山本孝次郎殿書 状不用之書状ニ候得共懇意致候仁ニ付残置申候」 真齋→ 書鳩(八田嘉右衛門)様人々申上	12月14日	横切継紙/(虫損 甚大)・1通	え4681-22
(書状、春中江戸表送り金50両借用のうち10両返上仕り たきに付) 竹山町→伊勢町様	12月28日	横切継紙/(虫損 甚大)・1通	え4681-24
辰三郎え申聞候趣(喜兵衛方舎兄江戸表より罷り越し主 人家難渋に付金子調達方を無心の件、気の毒ながらお 断りに付) * (端裏書)「入用書類」 (八田)嘉右衛門→中島 様・関田様几下	正月七種徳	横切継紙・1通	え4681-26

覚(金5両当年中請分の内御前借遣に受け取り、追って本証文差し出すに付) *(包紙上書)「先日競様御印証当時不用ニ付返上仕候」 八田競(印)→八田嘉右衛門殿	文政3辰年6月	横切紙・1通	え4681-29
(書状、金子55両の残金を、忠七へ渡した飯米代を差し引きのうえ御渡し下されたきに付) *(端裏貼紙)「差当入用追而見調反古可致事」 竹山町→伊勢町様	12月28日	横切継紙・1通	え4681-30
(分金294両1分余、卯年利足分金38両1分ほか金銭書上)		折紙/(え4682-1~35は紙紐一括)/(え4682-5-1~2は括り紐一括)・1通	え4682-5-1
(きせるや内借金ほか元利金など差し引き勘定差し引き39両3分8匁6分5厘不足金銭書上)		折紙・1通	え4682-5-2
(書状、中町五郎作証文が御手元に御着き金子と引き替えに付) 隠居→いせ丁様	25日	横切紙/(え4682-1~35は紙紐一括)・1通	え4682-6
(書状、御時借の御金をこの者へ拝借なしくだされたきに付) (岡野)陽之助→(八田)嘉助様	10月16日	横切紙・1通	え4682-12
覚(金87両3分銀4匁7分6厘を新町村名主九八郎へ無利足30年賦にて貸す取り極めに付) *(端裏書)「小野只右衛門殿江相頼候差引書下書」 (八田)嘉右衛門	2月16日	横切紙・1通	え4682-13
(書状、先年用達金利分を今年は御下げ金なし下されたきに付) 善三郎・甚右衛門→(八田)慎蔵様	12月25日	横切継紙/(虫損)・1通	え4682-14
(書状、このところへ13両を結びある訳、喜右衛門請合金、喜右衛門も連印致し置きに付)		横切紙・1通	え4682-23
(書状、小遣給金や味噌仕入のため金子2両2分無心に付) 堀江弥兵衛→菊屋儀兵衛殿	2月13日	横切紙・1通	え4682-25
覚(金5両2分2朱より引いて金4両3分400文金銭書上)		横切紙・1通	え4682-27
(書状、金子利分3両遣かに落手に付) 弥友→(八田)嘉右衛門様	臘月23日	横切紙・1通	え4682-28
覚(巳年差し引き金5両2分2朱と銀4匁4厘金銭書上) 菊屋傳兵衛→菊屋繁弥様	子7月	横切継紙・1通	え4682-29
覚(卯元金2分1朱余に利足をつけメ金2分6匁5分7厘) いせ町傳兵衛→木町伊三郎殿	弘化元辰年12月	横切紙/(え4683-1~19は紙紐一括)・1通	え4683-5
(差し引き3両3分15匁500文金銭書上)		横切紙/(え4683-1~19は紙紐一括)/(え4683-6-1~3は紙帯一括)・1通	え4683-6-1
口上(御割合分10匁6分1厘を差し上げるに付) 三平→和七様	8日	横切紙/(え4683-1~19は紙紐一括)/(え4683-6-1~3は紙帯一括)・1通	え4683-6-2
(書状、拝借の分御印形成し下されたならば水野氏へ御頼みの一筆添万作へ御渡し願ひ奉るに付) *(端裏書)「嘉助様 喜兵衛」 (八田)喜兵衛→(八田)嘉助様	17日	横切継紙/(え4685-1~25は括り紐一括)・1通	え4685-1

1.内方/1.8.金融/1.8.2.貸付金

(寺町様・松本源八様・山越様・師岡様今夕皆々様御出成し下される様仕たきに付書付) *下書		切継紙・1通	え4685-2
(書状、90両余金は差し出すところ、追々貸し渡すにより70両・50両の利足金など勘定不足成されるに付)		横切紙・1通	え4685-3
(書状、別紙三井拝借分について増田より例の振り合いをもって願ひ立て仕るに付) *(端裏書)「嘉助様 喜兵衛」(八田)喜兵衛→(八田)嘉助様	11月17日	横切紙・1通	え4685-4
覚(金6両1分余差し引き勘定書付)		横切紙・1通	え4685-5
(書状、その節御話のこと組合へ申し談ずるところ、大いに難しきとことに付) 量之助→(八田)嘉助様	12月3日	横切継紙・1通	え4685-6
(書状、先頃蔵本給の儀仰せに付) *後欠		横切紙・1通	え4685-11
(書状、留守中の儀同人私方差し置き申すに付ほか) *下書		横切紙・1通	え4685-12
(書状、別紙御印形成し下さるべきに付) *(端裏書)「嘉助様 喜兵衛」(八田)喜兵衛→(八田)嘉助様	11月22日	横切紙・1通	え4685-15
覚(金11両元利金差引勘定書付)		切継紙・1通	え4685-18
(浄福寺・青木五郎兵衛など人名・寺社名書付)		切紙/(虫損)・1通	え4685-20
(八田氏伊右衛門様など諸人名・事物書付)		切継紙・1通	え4685-21
(金80両の内34両返済に付書付)		切紙・1通	え4685-25
(書状、昨年柴町引越の節渡辺氏差し支えるにより急場御繰合御取り替えの金子今以て皆納ならざるに付) *後欠		横切継紙/(え4686-1~44は括り紐一括)・1通	え4686-25
(書状、御便り次第証文のことは御手元に願ひ置き奉りたきにより何分御含み成し下さるに付) *勘返状 (八田)慎蔵→(水野)清右衛門様御用上	6月15日	横切継紙・1通	え4686-29
(書状、この間藤田氏をもって相伺うところ、本込院思し召しもある御様子に付) 小平太→(八田)慎蔵様御用上置	8月26日	横切紙/(虫損甚大)/(後半開披不能)・1通	え4686-34
(書状、仰せを蒙る節荒町へ返金方手段差し支えるにより拗んどころなく内願仕る次第に付) 渡(渡辺)承之助→(八田)慎蔵様	7月4日	横切紙/(虫損甚大)・1通	え4686-39
(書状、小林名目にて拝借金の御礼金20金上納仕るべきところ当年手元如意差支え難渋により半金猶予願うに付) (田中)増治	12月28日	横切継紙/(え4688-1~10は括り紐一括)・1通	え4688-6
差出申一札之事(去巳年御借用の金子去申年年季明も源助出府により江戸表問合中ゆえ当4月まで日延猶無心に付) *(包紙上書)「日延一札」/(包紙貼紙書)「塚原村源太郎」池田新田源助・源太郎(印)→八田嘉右衛門殿御名代平兵衛殿・和七殿	天保8酉年2月	堅紙・1通	え4688-10
(書状、拝借について段々御日延のみ申し上げ恐れ入り、今日元利上納仕るべきところ、出来かねるに付) *後欠 伊左衛門→(八田)嘉助様		横切継紙/(え4691-1~50は括り紐一括)・1通	え4691-6
(元方より借入金2両と銭1貫文などメ金6両3分2朱余り他金銭書付)		折紙/(虫損甚大)・1通	え4691-8
(書状、願ひ置いた願書認め、差し上げ申すに付) *下書		横切紙/(虫損)・1通	え4691-17

(水井殿より預かり金の内金元金返済分15両など金銭勘定書付) *前後欠		横切紙/(虫損甚大)・1通	え4691-31
(包紙)		包紙/(虫損)/(え4692-1~26は括り紐一括)/(え4692-9-1~3は包紙一括)・1点	え4692-9-1
(書状、この度白川様仰せ下されるところ、誠に有難く大瀬様思し召し武士道なるに付)	3月12日	横切継紙・1通	え4692-9-2
(書状、今の所は申し上げ置くほかは出来かね瀬太夫様へも申し上げ親類孝助・善蔵へも申し置くに付)		切紙・1通	え4692-9-3
(書状、椎谷御内証向御入用により金300両御無心も出来かねるに付)		切紙/(え4692-1~26は括り紐一括)・1通	え4692-19
(書状、400石半知200石の金銭書付により奢侈致さず質素儉約心懸けられるに付) *下書		横切継紙/(虫損)・1通	え4692-21
覚(金5両差引金3両1分2朱返金に付) 惣代源五兵衛→伊勢町様御手元江	申9月2日	横切紙/(虫損)・1通	え4692-22
覚(金9両恩借に付き) 大瀬登(印)→山越六郎右衛門殿	安永9子(年)12月	横切継紙/(虫損甚大)/(え4695-1~28は括り紐一括)・1通	え4695-1
(書状、何とやら心ほそきため借用証文2通御貰い下げくだされたきに付) 堤隠居→七郎兵衛様	9月4日	横切継紙/(虫損甚大)・1通	え4695-3
(書状、先年借用した10両と7両の借用証文お返し下され、落手に付) 堤一郎右衛門→八田嘉右衛門様	9月16日	横切継紙/(虫損)・1通	え4695-4
(書状、証文返上に付今夕御出で下されたきに付) (大島) 磯右衛門→(八田)嘉助様	12月15日	横切継紙・1通	え4695-5
(書状、約束の差し引き出来に付) (関田)庄助→(八田)嘉右衛門様	2月27日	横切紙・1通	え4695-6
(書状、1400数両84ヶ村願い立ての出訴は一色山城守白洲にて甚左衛門方負けに付ほか) *(封筒表書)「八田慎蔵様要書 金井啓次郎」(金井)啓次郎→御兄上様	11月8日	横切継紙/(え4695-1~28は括り紐一括)・1通	え4695-20
(書状、この度こん母参上にて相談行き届き、同道にて道中帰家に付) *(包紙上書)「松代八田慎蔵様貴下 従坂本宿金井三郎左衛門」 金井三郎左衛門→八田慎蔵様	11月3日	横切継紙・1通	え4695-21
(書状、この度はこん母始め大勢罷り出て懇情を受け、道中滞りなく帰宅に付) *(包紙上書)「松代水井忠次様 御取次申様 坂本宿金井三郎左衛門」 金井三郎左衛門→水(水井)忠次様参入々御中	11月3日	横切継紙・1通 (2枚)	え4695-22
(印鑑のみ押してある折紙)		折紙/(虫損甚大)・3通	え4695-23
(書状、江府永詰年限借財取り片づけ出府したく御憐察を願うに付) 安右衛門→(八田)嘉右衛門様内用	5月13日	横切継紙・1通	え4695-28

1.内方/1.8.金融/1.8.2.貸付金

(包紙) * (包紙上書)「七月十四日慶左衛門殿より相達ス 八田嘉右衛門様 関田守之丞」 関田守之丞→八田嘉右衛門様		包紙/(え4696-1~20は括り紐一括)/(え4696-1-1~2は括り紐一括)/(え4696-1-1~3は包紙一括)・1点	え4696-1-1-1
(書状、金子受け取り切手を江戸本町二丁目十軒店川岸陸奥大掾へ送り、築地門跡脇の赤沢氏長屋へ届けるに付ほか) (関田)守之丞→(八田)嘉右衛門様	文月8日	横切継紙・1通	え4696-1-1-2
覚(金1両入御状宇治河村宗順殿行を受け取るに付) 川端佐右衛門(印)→大澤久茲様	酉7月5日	横切紙・1通	え4696-1-1-3
(北村茂兵衛受け取り他追って末へ入れるべきに付書付)		切紙/(え4696-1~20は括り紐一括)・1通	え4696-2
(書状、金子に関する同心町への懸合に関する御沙汰の尋ねに付ほか) (八田)嘉助→立田様	12月28日	横切継紙・1通	え4696-3
(書状、持病の頭痛・眩暈のため参上できざるに付) (大草)玄樹→(八田)慎蔵様		横切紙/(え4698-1~23は括り紐一括)・1通	え4698-16
(書状、御口入金残金50両は江戸表御入増のため済み切りになされ難きに付) *下書 →高田六右衛門様・山田太五右衛門様・北原多蔵様・北原覚左衛門様		横切継紙/(え4699-1~40は括り紐一括)・1通	え4699-1
(書状、御口入金返済分50両を駒村善右衛門へ渡すようにとの紙面の趣は承知に付) 北原多蔵・北原覚左衛門・高田六右衛門・大和田理右衛門→八田喜右衛門様	5月8日	横切継紙・1通	え4699-2
(書状、この間愚母参上して御馳走に預かった御礼、年賦返上金の件ほか) 柏原兵左衛門→八田喜右衛門様人々御中	11月14日	横切継紙・1通	え4699-3
(書状、御口入金借り継ぎなされたいが、先方との掛合の結果、一先ず返金下されたきに付) *下書 →北原多蔵様・北原覚左衛門様・高田六右衛門様・大和田理右衛門様	10月24日	横切継紙・1通	え4699-4
(書状、御口入金借り継ぎの申し立てがあるも今般返金下されたきに付、私の身分が立つよう御取計らい下されたきに付) *下書 →矢部通俊様	10月24日	横切継紙・1通 (2枚)	え4699-5
(書状、喜右衛門殿へこの表役人共並びに拙者より書状にて御意を得た件、気の毒千万ながら承知下されたきに付) 矢部通俊根典(花押)→駒村善右衛門様・吉野屋等右衛門様人々御中	11月2日	折紙・1通	え4699-6
(書状、御口入金については去冬宮沢勘右衛門殿と面談するも相済まざるに付)		折紙・1通	え4699-7
(書状、卯右衛門方よりも返書申し上げよう御承知下されたきに付)		横切紙・1通	え4699-8
(書状、御口入金当7月中御返金の約談のところ10月まで延ばす旨) 八田喜右衛門→北原多蔵様参人々御中	8月11日	折紙・1通	え4699-9
(書状、去冬宮沢勘右衛門を以て相談に及びし御口入金の返済、元金の内50両と300両の利金分を飛脚にて差し遣わすに付) 北原多蔵・北原覚左衛門・高田六右衛門・大和田理右衛門→八田喜右衛門様御報	4月12日	横切継紙・1通	え4699-11

(書状、先月御約束の通り御口入金元利御返済申すべきところ、差し掛り旦那方役所入用、元利返金相成らざるは気の毒に付ほか)		横切継紙・1通	え4699-12
(書状、御口入金返済に付元々役所へ罷り越し元々役人へ色々相談するも返済しがたきに付) 矢部通俊→八田孫左衛門様	11月28日	折紙・1通	え4699-13
(書状、金子当冬皆済の御契約のところ返済なり難く、役人共より紙面にて気の毒千万の挨拶致すは申し方もなきに付) *(包紙上書)「八田喜右衛門様 矢部通俊」 矢部通俊根典(花押)→八田喜右衛門様人々御中	11月2日	折紙・1通	え4699-14
(書状、抛んどころ無き儀御無心の御世話筋を御承知下され忝きに付) 宮澤勘右衛門歳安(花押)→八田喜右衛門様参人々御中	12月15日	折紙・1通	え4699-15
(書状、旦那勝手向不如意のため同姓喜右衛門殿より借用した用金の残金50両の返済、暫く御断りに及ぶに付) *(包紙上書)「松代御城下八田孫左衛門様 内藤鉄之進内奥津紋左衛門・[]右衛門 安永七戌十一月五日夜飛脚書状」 仁科伴右衛門貞弘(花押)・奥津紋左衛門利玄(花押)→八田孫左衛門様	(安永7年)11月2日	折紙・1通	え4699-16
(書状、用金の返済相成りかね飛脚にて申し入れに付) 北原多蔵・北原覚左衛門・高田六右衛門・大和田理右衛門→八田喜右衛門様	4月17日	横切継紙・1通	え4699-17
(書状、金子返済暫く御断りの紙面を受け取り、驚き入り迷惑に罷り在り、喜右衛門死去後の身上難洪の件ほか) *下書 八田孫左衛門→矢部通俊□	戊11月7日	縦紙・1通	え4699-18
(書状、御口入金返済を十月迄延ばし証文を引き替えたものの、この度繰廻し才覚差支えを理由に借居えを無心に付) 北原多蔵・北原覚左衛門・高田六右衛門・大和田理右衛門→八田喜右衛門様	10月18日	横切継紙/(虫損甚大により開披不可)・1通	え4699-19
(書状、御出立遠路気の毒、御世話ながら返書を遣わすのでいか様にも頼み入るに付) 矢部通俊→松代菊や嘉兵衛様	7月20日	横切紙・1通	え4699-20
(書状、元利返済を願うに付) 高田六右衛門・北原多蔵・北原代治	(安永7年)11月7日	折紙・1通	え4699-21
(書状、同苗喜右衛門より御領内弥勒村祖助への口入金、返済を御断り、各様より仰せ下されるも御請申し上げ難きに付) *下書 八田孫左衛門→奥津紋左衛門様・仁科伴右衛門様御披露	(安永7年)戊11月7日	折紙・1通	え4699-22
(書状、気の毒千万ながら貴丈様迄当役所より御沙汰あるに付) 祖助→嘉兵衛様貴答	11月14日	横切継紙・1通	え4699-23
(書状、八田喜右衛門口入金の内50両の済切を求めるに付) *下書 卯右衛門→(矢部)通俊様・(北原)多蔵様		横切継紙・1通	え4699-24
(書状、勝手向差し支え、3ヶ年御断りを申し入れている金子の返済、気の毒ながら元利とも今暫く断ることを頼み入れたきに付) *(包紙上書)「松代御城下八田孫左衛門様 内藤鉄之進内高田六右衛門北原代治 安永七戌十一月五日夜飛脚到来書状」 北原代治・北原多蔵・高田六右衛門→八田孫左衛門様	(安永7年)11月2日	横切継紙・1通	え4699-25
(書状、口入金の返済なくては差し障るため願い上げるに付) *下書/後欠		折紙・1通	え4699-26

1.内方/1.8.金融/1.8.2.貸付金

(書状、仰せ越されしに付並びに孫左衛門様より多藏方への御状の件も承知に付) 弥勒祖助→松代嘉兵衛様	11月々20日	横切継紙・1通	え4699-27
(書状、善右衛門殿より返済の手段相見えざる由申し渡され空しく退役に付ほか) 北原多藏・北原覚左衛門・高田六右衛門・大和田理右衛門→吉野屋宇右衛門様	6月3日	横切紙・1通	え4699-28
(書状、会に御連席頂いたこと忝きに付) *(端裏書)「中島様八田様玉床下 ぼり内」 梅兆敬具→中嶋様・八田様・八田様・八田様	首夏17日	縦紙・1通	え4699-29
覚(メ金106両2分、河原惣兵衛ほか14名金高名前書上)	未3月29日	横切継紙/(虫損)・1通	え4699-30
(書状、旦那要用金300両は3月中返済のつもりであったが段々心拍子と相違いたし先月中延引になり、元金の内50両は飛脚にて差し越すに付ほか) 北原多藏・北原覚左衛門・高田六右衛門・大和田理右衛門→八田喜右衛門様人々御中	4月6日	横切継紙/(虫損甚大)・1通	え4699-31
(書状、この方甚だ濟難き訳合あり金子返済延引に付)(矢部)通俊復→宮澤勘右衛門殿		折紙・1通	え4699-32
(書状、先達て同苗喜右衛門より北原多藏殿へ口入致した300両の内50両返済下されず、喜右衛門死後迷惑致し居るに付ほか) *下書		折紙・1通	え4699-34
(書状、主人喜右衛門死去後甚だ難渋用立金返済を押しして願ひ上げたきに付) 松代嘉兵衛→祖助様	7月13日	横切継紙・1通	え4699-35
(書状、金子借用なされたき儀承知、金主は領主の用筋にて出府のためすぐには熟談しがたきに付ほか) *(端裏書)「矢辺文通」		横切継紙/(え4699-1~40は括り紐一括)/(え4699-36-1・2は括り紐一括)・1通	え4699-36-1
(書状、飛札と御肴一折拝受忝きに付) →矢(矢部)通俊様参人々御中		横切継紙・1通	え4699-36-2
(書状、金子借用なされたき儀承知、金主は領主の用筋にて出府のためすぐには熟談しがたきに付ほか) *(端裏書)「矢辺[]」/え4699-36-1と同文		横切継紙/(え4699-1~40は括り紐一括)・1通	え4699-37
覚(八田喜右衛門口入金300両のうち残金50両の利金として5両受け取るに付) *(端裏書)「控」 八田孫左衛門印→北原多藏殿・矢辺通俊老	酉11月	横切紙・1通	え4699-38
(書状、旦那方へ御調達下された金子の残金50両を請け取りなされたき儀は御用捨くだされたきに付ほか) 北原多藏→八田孫左衛門様	11月28日	横切紙/(虫損甚大)・1通	え4699-39
(書状、同姓喜右衛門殿御死去の由驚き入り、兼ねて矢部通俊取次を以て喜右衛門殿より旦那方用金300両調達の残金50両、この節受け取りたき趣は承知するが難渋のため返金相成り難きに付) 北原多藏→八田孫左衛門様	11月10日	横切紙/(虫損甚大)・1通	え4699-40
覚(金100両借用証文) *下書/(端裏書)「上 西長沢村弥八」→大竹儀右衛門殿・西村源藏殿	天保3辰年間11月	縦紙/(え4701-1~29は括り紐一括)・1通	え4701-1
覚(路銀に差し支え、金2両内借を願うに付) *(端裏書)「かん寿様 善右衛門」 善右衛門→かん寿様	正月16(ママ)	縦紙・1通	え4701-8
(書状、金子を昼前までにお遣わし下されたきに付)	15日	横切紙・1通	え4701-11

(書状、弘方に遣わす金子を渡したかをこの者へ御申し越し下されたきに付)		横切紙・1通	え4701-15
(当26日に飯山表出向の者旅宿堅田屋に着し、中野表にて金子入用に差し支える儀、金子の掛合を行う儀書付)	7月	横切継紙・1通	え4701-18
(上人方勝手向差し支え、勝手向規矩立直り方や金子調達に付書付) *(端裏書)「御直披もの 御火中」		縦継紙・1通	え4701-21
(西大瀧村太左衛門年賦割合並びに御貸出金元利滞りに付、取り計らい方手續伺書)		縦継紙・1通	え4701-22
(書状、その節申し上げた通り印証大小1通差し上げ申すにより御落手成し下されるに付) *(端裏書)「嘉助様 祖輪」 祖輪→(八田)嘉助様	10月13日夜	縦紙/(え4702-1~37は括り紐一括)・1通	え4702-5
(書状、江府借用14両の利差し上げらるべき所、19両の利差し上げとのこと、御請過ぎにより、示談の上でなければ差し引き決め難きに付) *(端裏書)「嘉助様 守之丞」 (関田)守之丞→(八田)嘉助様	5月6日	縦紙・1通	え4702-6
口上書取(勝馬儀、養子に罷り越す入料金3両程引き足り申さず御恩借成し下されるよう願うに付) (関田)守之丞	12月	横切継紙・1通	え4702-7
(書状、日又々伊勢町へ御越し下され、度々御苦惱成し下され忝き次第、且金7両1朱と100文慥かに受け取るに付) *(端裏書)「守之丞様 尼巖山密秀」 尼巖山密秀→(関田)守之丞様	臘晦	横切継紙・1通	え4702-8
田中御寺御差引覚(大嶋氏より御口入の分金49両など金銭差し引き勘定書付)	西7月	横切継紙・1通	え4702-9
(書状、何とも指し困る病人であり、この度は何分御救い成し下されるようお願い上げ奉るに付) *(端裏書)「嘉右衛門様 学三」 学三→(八田)嘉右衛門様	2月11日	横切紙・1通	え4702-10
覚(卯利足金3両3分慥かに請け取り申すに付) *(端裏書付紙)「卯三月金三両三分 小幡公より御預金利分受取印書」 小幡助市内山岸作右衛門(印)→中村金七殿	卯12月17日	横切紙・1通	え4702-12
(書状、金100疋受納仕り、右御礼申し上げたきに付) 永井潤兵衛→八田孫左衛門様	5月29日	横切紙・1通	え4702-13
借用申金子証文之事(御時借成し下されたく願ひ奉り、金3両慥かに請け取り、忝き仕合せ存じ奉るに付) 橋本茂左衛門(印)・証人古川健治(印)	天保7申年正月	縦紙・1通	え4702-22
覚(よんどころなき要用の儀、金2両御恩借仕るに付) 但馬屋太右衛門(印)→菊屋傳兵衛殿	西6月	横切紙・1通	え4702-23
覚(差し掛かりよんどころなき儀願う所、金39両御時拝借成し下され、慥かに受け取り、有難き仕合せ存じ奉るに付)		縦切継紙・1通	え4702-32
(書状) *(包紙上書)「八田喜右衛門様御□ 矢部通俊」/(虫損甚大のため開披不可)		横切紙/(え4703-1~13は括り紐一括)/(え4703-4-1~4は括り紐一括)・1通	え4703-4-2
(書状、昨日仰せ下された力石村証文書入高相認めかねるとのこと仰せ下され、右指印にてこの度は御承知願ひ奉るに付) *(端裏書)「嘉右衛門様 主計」 (片岡)主計→(八田)嘉右衛門様	12月27日	横切紙・1通	え4703-4-4

1.内方/1.8.金融/1.8.2.貸付金

(書状、為替証文御廻し成し下されたく願ひ奉るに付) *(端裏書)「嘉助様 喜兵衛」(八田)喜兵衛→(八田)嘉助様	27日	切紙/(え4703-1 ~13は括り紐一 括)・1通	え4703-6
覚(信濃屋佐兵衛文金76両差し引き26両余り江府上納し たきに付)		切紙・1通	え4703-8
(御預り金33両金銭差し引き勘定書付)		横切継紙/(え 4703-1~13は括 り紐一括)/(え 4703-10-1~3は 括り紐一括)・1通	え4703-10-3
(封筒) *(封筒表書)「信州善光寺在和合村昌禅寺様貴下 五十 嵐安兵衛」/(封筒裏書)「上州甘楽郡 従南蛇井村」 五十嵐 安兵衛→信州善光寺在和合村昌禅寺様貴下		封筒/(え4703-1 ~13は括り紐 一括)/(え4703- 11-1~4は封筒 一括)・1点	え4703-11-1
(書状、十二村に真言宗の寺有り、年寄を頼み寺の過去帳 ・御水帳迄改め申した他、菊の子孫と申す者これ無きに 付ほか)		横切紙・1通	え4703-11-2
(書状、十二村において中里と申すところ字ごりん畑に菊 の墓有るに付ほか)		横切紙・1通	え4703-11-3
(書状、年頭の御祝詞申上げ奉りたきに付) 五十嵐安兵衛 →昌禅寺様	正月15日	横切紙・1通	え4703-11-4
(書状、昨日は御懇々御紙表成し下されるところ、代引仕 り御請け延引に相成るに付) *裏面に献立書付 上田町 →伊勢町様	正月6日	横切継紙/(え 4704-1~3は括 り紐一括)/(え 4704-1-1~15は 括り紐一括)・1通	え4704-1-2
(書状、その節差し上げ奉る50金について何分御繰合成 されるべきに付) *勘返状 (八田)嘉助→(片桐)重之助様 差上置	5日	横切継紙/(え 4704-1~3は括 り紐一括)/(え 4704-2-1~91は 括り紐一括)・1通	え4704-2-2
口上(御話の金子について先日の通り御繰り合せ成し下 される様伺うに付) 弥左衛門→栄八様専用	20日	横切継紙・1通	え4704-2-23
(書状、100文先日付拝借に付) *前欠		横切紙・1通	え4704-2-54
申上(市兵衛よりも申し上げ置いた書状青柳氏へ遣わし たきにより御披見御添書願ひ奉るに付)		切継紙・1通	え4704-2-55
(書状、先日御用立置く金子差し詰まるにより何卒この者 へ御遣わし願ひ上げ奉るに付) 八田内藤五郎→大木伊 左衛門様		横切継紙・1通	え4704-2-56
(書状、笈尾張介をもって出立仕らせるにて下される方の こと伺い奉るに付) *勘返状 八田辰三郎・八田嘉助・八 田嘉十郎→金児丈助様	11月12日	横切継紙・1通	え4704-2-64
(書状、御出金3両御廻し成し下されるところ、確かに落手 仕り御出金取り計らい仕るに付) *前欠	10月25日	横切継紙・1通	え4704-2-76
(書状、私泉頭への御状御遣わし下されるところ、確かに お預かり申すにより明後日人遣わずに付) *前欠 尾 三郎→(八田)嘉助様	24日	切紙・1通	え4704-2-81

(書状、片桐氏の方へ佐竹氏より15両の懸合の由に付) 嘉一郎→(八田)嘉助様御中	17日	切紙・1通	え4704-2-82
(書状、支配調懸村高借財にて取り続き難き趣願い出るに付) 山田兵次→八田嘉右衛門様	11月3日	横切継紙・1通	え4704-2-84
(書状、繰廻御返し下される様に付) *上半分欠 紫都雄		横切継紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-3-1~74は括り紐一括)・1通	え4704-3-12
(書状、何卒借用したきに付) 紫都雄拜→五柳鯉介		折紙・1通	え4704-3-13
(書状、御内話申し上げた為替金100両御上納、明日は御上納成し下される様したきに付) (片桐)重之助→(八田)嘉助様	11月27日	横切継紙・1通	え4704-3-21
(書状、東海道各所御金何卒借用したきに付) 紫都雄→五柳鯉介		折紙・1通	え4704-3-22
覚(金3両などメ金36両余り御下ヶ金控書)		横切継紙・1通	え4704-3-24
覚(金30両抛んどころなく借用に付)		切紙・1通	え4704-3-41
(書状、この程中相願うところ、何分手詰まり難渋により御貸し成し下される様願い上げるに付) 尾三郎→(八田)嘉助様	5日	横切紙・1通	え4704-3-47
(書状、細籠は来月中旬頃入用、その時分までに御調べ下されたきに付) *(端裏書)「左助様 吉左衛門」 小山田主膳内小林吉左衛門→きく屋左助様	閏3月3日	横切紙/(え4705-1~17は括り紐一括)/(え4705-2-1~3は巻込一括)・1通	え4705-2-2
(子年分利足金6両金銭書上)	(子)	小切紙/(え4706-1~60は括り紐一括)・1通	え4706-9
覚(御取集金の内10両請け取るに付) *(端裏書)「八田嘉右衛門殿切手 御引替済」 八田嘉右衛門(印)→長岡助右衛門殿	天保5午年12月28日	横切継紙・1通	え4706-10
覚(時借金3両請け取るに付) *(端裏貼紙)「文政十三寅九月 金三両也 済切 長岡助右衛門殿江時貸」 長岡藤吉(印)・長岡助右衛門(印)→八田嘉右衛門殿	(文政13年)寅9月	横切紙・1通	え4706-11
覚(7月中御取替金5両1分請け取るに付) *(端裏書)「御引替済 八田嘉右衛門殿切手本証文者引替可申事」 八田嘉右衛門(印)→長岡助右衛門殿	午12月23日	横切紙・1通	え4706-13
覚(金40両時借に付) *(端裏書)「済切」 八田嘉右衛門(印)→堀内与一右衛門殿	天保3年11月3日	横切継紙・1通	え4706-15
覚(当子利分金67両と金8両3分受け取るに付) 水野友作(印)→八田嘉右衛門殿	天保11子年12月27日	横切紙・1通	え4706-16
覚(金児丈助・水野友作宛返金証文等下書) *下書		横切紙・1通	え4706-17
覚(金17両借用に付) 八田嘉右衛門(印切取)→柗津綾之介殿	天保10亥年12月	横切継紙・1通	え4706-22
舌代(金子拝借したく、このものへ御渡し下されたきに付) *(端裏書)「二月十一日 金四両御預金之内御渡書」 寺町→(八田)嘉助様	11日	横切紙・1通	え4706-23

1.内方/1.8.金融/1.8.2.貸付金

覚(茂右衛門預金金利分金2両2分受け取るに付) 片桐重之助(印)→八田嘉助殿	12月15日	横切紙・1通	え4706-24
覚(金5両請け取るに付) 八田義三郎	戌12月大晦日	横切紙・1通	え4706-25
覚(借入金の内利足ほか差し引き残金9両3分正金下るに付)		横切継紙・1通	え4706-26
覚(御取替金当子利足金10両受け取るに付) *(端裏書)「嘉助様 印書入 友作」 水野友作(印)→八田嘉右衛門殿	天保11子年12月25日	横切継紙・1通	え4706-27
覚(当亥利分金93両2分受け取るに付) 池田良右衛門・西村源藏・大嶋磯右衛門(印)→八田嘉右衛門殿	天保10亥年	横切紙・1通	え4706-28
覚(御用達金300両の当子利足御下金分30両受け取るに付) 水野友作(印)→八田嘉右衛門殿	12月	横切継紙・1通	え4706-29
覚(元金に対する子年御礼金5両・39両・4両2分請け取るに付) 池田良右衛門・吉沢十助(印)・大嶋磯右衛門(印)→八田嘉右衛門殿	閏正月4日	横切継紙・1通	え4706-30
覚(当卯取集金の内金3両受け取るに付) *(端裏書)「巳済」/抹消墨あり 八田嘉助(印)→長岡藤吉殿	天保2卯年12月20日	横切継紙・1通	え4706-32
為替請取通(分金83両1分) 八田嘉助(印)	天保11子年8月	横半美・1冊	え4706-35
(書状、引替金を御廻し下されたきに付) 水野友作→八田嘉助様専用	4月1日	横切継紙・1通	え4706-36
覚(引替金×3両3分12匁5分御渡しに付) 十八屋文三郎	5月25日	横切紙・1通	え4706-37
覚(数32の代金御渡し下されたきに付) *下書 大伝馬塩町十八屋店平兵衛→菊屋傳兵衛様	8月12日	横切紙・1通	え4706-38
覚(金1両受け取るに付) 祢津内相沢藤□(印)→大家村利右衛門殿	天保11年子2月5日	横切紙・1通	え4706-39
覚(取替金当卯利金10両受け取るに付) 堀内与一右衛門(印)→八田嘉右衛門殿	天保14卯年12月	横切継紙・1通	え4706-40
覚(金2両借用に付) *(端裏書)「済切」 作治→雄治様	巳5月4日	横切紙・1通	え4706-41
(書状、金50両拝借したきに付) *(端裏書)「喜兵衛様当用鉄之助」 八田鉄之助(印)→(喜兵衛様)	文政12年丑6月19日	横切継紙・1通	え4706-54
覚(文化14年平林村・東条村春藏・水内村・丹波嶋村等への貸金・返金滞り書上)	(文化14年)	折紙/(下札あり)・1通	え4706-57
切手一札(金1両2分借用に付) 佐々木友三(印)→八田嘉助様	巳7月	横切紙・1通	え4706-58
(書状、中嶋氏御咄の金子を村方で拝借のため罷り出るに付) 岡川左十郎(印)→八田嘉右衛門殿	4月8日	横切紙・1通	え4706-60
(書状、徳山寺金子御渡しなし下されたきに付) □水→(八田)嘉助様	5月19日	横切継紙/(え4709-1~22は括り紐一括)・1通	え4709-7
(金9両と金1両1分1朱預り証) 八田嘉右衛門→長井主計様	亥12月27日	横切紙/(え4710-1~117は括り紐一括)・1通	え4710-79
(書状、左へ御印願いたきに付) *下書		横切継紙・1通	え4710-82
(書状、打沢村助右衛門上納金10両2分落手に付) (八田)喜兵衛→(八田)嘉助様	正月19日	横切継紙・1通	え4710-83

覚(金4両に29ヶ年1割利にて元利メ金15両2分6匁金銭書上)	丑正月	横切紙・1通	え4710-84
天保十二丑年十二月調(金4500両丑利金450両など書上)		横切紙・1通	え4710-86
(書状、私弟子出情金元利分を早速返済願うに付)		横切紙・1通	え4710-92
(書状、水村氏へ金100両は嘉助手にて才覚するもそれ以上は出来ざるに付) (八田)孫兵衛→(堀内)樹一郎様	12月26日	横切紙・1通	え4710-94
(書状、別紙御願の件を貴方様御含み下されたきに付)	正月18日	横切紙・1通	え4710-95
(書状、利足金をお遣わし下されたきに付) (金児)丈助→(八田)嘉助様	12月晦日	横切紙・1通	え4710-106

1.8.3. 無尽

(書状、来月15・16日の内集会したき心願にて大和屋三四郎差し出すにより委細は同人申し含むに付) 高田茂左衛門→八田嘉右衛門様貴報机下	10月24日	折紙/(え4648-1~9は括り紐一括)・1通	え4648-9
(辰年取入なき無尽分松屋惣左衛門金75両など無尽金書付)		折紙/(え4649-1~15は括り紐一括)・1通	え4649-6
覚(5両2分余無尽金御預り、5両御時借ほか差し引くに付)		横切継紙/(え4652-1~31は括り紐一括)・1通	え4652-11
覚(金5両ほか懸戻・懸入分書上)		折紙・1通	え4652-19
覚(130両清兵衛・松本ほか競様かけ金など金銭書上)		横切継紙・1通	え4652-23
覚(金1両、差し引き残金差し上げ申し御落手下さるべきに付) 八田鉄之助→増田孫兵衛様	文政8年酉11月7日	横切継紙・1通	え4652-24
(書状、内々御寄合申し無尽の儀御思し召しも気の毒御物入に付) *(包紙上書)「八田孫左衛門様用事 大草宗四郎」 大草宗四郎→八田孫左衛門様		横切継紙/(え4653-1~29は括り紐一括)・1通	え4653-12
覚(大和屋御貸下金元利金175両3分余ほかメ金275両3分受取に付) 八田喜兵衛→専助殿・治助殿	未正月3日	横切紙/(え4654-1~27は括り紐一括)/(え4654-7-1~2は折込一括)・1通	え4654-7-1
覚(金155両3朱余受け取るに付) 八田喜兵衛→専助殿・治助殿	未正月2日	横切紙・1通	え4654-7-2
(3月中納方御中借不足の分、金266両余に付金銭書上)		横切継紙/(え4654-1~27は括り紐一括)・1通	え4654-8
(書状、先達で同苗差し上り、御願申上げる金子の儀、御かし下される趣、山極御氏より御返金なられる趣仰せられるに付) *(包紙上書)「松代御家中八田嘉右衛門様御侍中様 五加村甲田清右衛門」/(包紙貼書)「子十一月二日来扣」 甲田清左衛門→八田嘉右衛門様	11月朔日	横切継紙/(え4659-1~22は括り紐一括)・1通	え4659-1
覚(私発記無尽旧冬御遣出分など2口メ金75両1分3匁1分2厘、金銭書付)	子10月	横切継紙・1通	え4659-2

1.内方/1.8.金融/1.8.3.無尽

(書状、先達て金子の御無心仰せ聞かされ、手塚御口入金返済ならば、御取替申すべきところ、この節右金子引き取り、御仕入方差し止める趣に付) *下書 八田嘉右衛門→甲田清右衛門貴報	11月2日	横切継紙・1通	え4659-3
(書状、当屋敷発記頼母子講の儀御加入下され、会合済むに付御礼状) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様 吉村富右衛門」 吉村富右衛門→八田嘉右衛門様	12月28日	横切継紙・1通	え4659-6
(書状、私発起無尽差し支えの儀今年は休会仕りたく御承知下さるべきに付) 岡野陽之助		切紙/(え4663-1~45は括り紐一括)・1通	え4663-6
(書状、座間百人殿徳嵩恒吉殿無尽は会合あり一統出金し、両所へ懸戻しの金5両2分小幡公出金なく、私方へ御廻し成し下さるに付) *(端裏書)「嘉助様当用 勇紀」	12月24日	横切継紙/(虫損)・1通	え4663-45
(書状、先月24日掛金仰せ付られ、3月朔日に破談御届け申し上げ、然るところ同5日御呼出しこれ有り、御吟味筋少々むづかしく相成り申すに付) *(端裏書)「伊セ丁様」(増田孫兵衛→伊勢町様参人々御中	3月7日認	横切継紙・1通	え4664-3
(書状、去年中御割合の金1分2朱拵え上げるので、御落手成し下さるべきに付) *(端裏書)「深寿一郎様 大文内金子添」 大文内→深寿一郎様	閏7月12日	横切継紙・1通	え4664-9
(包紙) *(包紙上書)「嘉助様 守之丞 書類入」		包紙/(え4664-1~24は括り紐一括)/(え4664-18-1~4は封筒一括)・1点	え4664-18-1
覚(金22両御引替え成し下さるべきに付) (関田)守之丞→(八田)嘉助様	戊4月	横切継紙・1通	え4664-18-2
覚(金13両2分慥かに御預り置き、追って本証文を以て御引替え仕るべきに付) 八田嘉助→関田守之丞様	酉2月18日	切紙・1通	え4664-18-3
覚(御手段の金子5両御頼みにつき慥かに預り置き申すに付) 八田嘉助(印)→関田守之丞殿	未年12月29日	切紙・1通	え4664-18-4
覚(御物成金1000両・入上代金金120両ほか金銭勘定書付により来丑年500両無尽会金で御返納ある様取り計らい申したきに付)		横切継紙/(え4666-1~19は括り紐一括)/(え4666-1-1~13は括り紐一括)・1通	え4666-1-11
(包紙) *(包紙上書)「覚 七月十四日 金三両 徳田様」		包紙/(え4667-1~15は括り紐一括)/(え4667-1-1~4は包紙一括)・1点	え4667-1-1
覚(徳田発起無尽鬮金の内、金3両2分12匁取り立て、差し遣わずに付) *(端裏貼紙)「三両式分銀拾貳匁 徳田様無尽」 徳田次郎左衛門内役人(印)→八田嘉右衛門殿	寛政6寅年12月	横切紙・1通	え4667-1-2
(書状、金子3両時借申したく御頼むに付) 代官町→伊勢町様用事	閏7月13日	横切継紙・1通	え4667-1-3
覚(金3両時借に付) 徳田次郎左衛門(印)→八田孫左衛門殿	巳閏7月13日	横切紙・1通	え4667-1-4
(元金メ8両3分、利金メ4両3分 3匁7分5厘、2口メ12両2分 3匁7分5厘など拝借元金・利金勘定書付)	(天保12~13年)	堅切紙/(え4667-1~15は括り紐一括)・1通	え4667-3

(書状、御譲渡地証文30両に相成る訳、26両質地5ヶ年季証文に無尽鬮金分増金に付)		横切紙・1通	え4667-7
(包紙) * (包紙上書)「松代八田嘉右衛門様用事 海野駅石和志摩」/(包紙裏書)「乍御面倒急用御座候早東二御届被下候此段御願申候以上十二月廿八日 藤田傳三郎[印]信州海野宿御本陣問屋」 柿崎源左衛門様		包紙/(え4670-1~2は括り紐一括)/(え4670-1-1~13は括り紐一括)/(え4670-1-1~3は包紙一括)・1点	え4670-1-1-1
(書状、南堀村・三輪村利足金8両8分差し上げるに付) 小沢平蔵→八田嘉右衛門様	12月22日	横切紙・1通	え4670-1-1-2
(書状、岩村田一件内々窺い、下深井村御高出入・無尽に付) 石和志摩→八田嘉右衛門様	12月25日	横切紙・1通	え4670-1-1-3
(書状、岩村田一件、評定所吟味差日のため出府に付ほか) * (端裏書)「座間殿へ之文通下案」 (八田)嘉右衛門→(座間)百人様	6月5日	横切紙・1通	え4670-1-2
(書状、2口の利分は当年初年のため私方より直に差し上げるべきに付) 殿町→伊勢町様	25日	横切紙・1通	え4670-1-3
覚(無尽配当金の内訳書上、初当・和合院・栋津・加賀井徳右衛門ほか、金50両)		横切紙・1通	え4670-1-4
覚(江府渡辺(ママ)方へ遣わし金2分7匁請け取るに付) 渡部純六父嘉兵衛→八田嘉右衛門様御内金次殿	子12月21日	横切紙・1通	え4670-1-5
(書状、利金18両お遣わし下され御礼に付) 勘解由→(八田)嘉右衛門様	12月27日	横切紙・1通	え4670-1-6
(書状、借入金利分差し上げを27日まで日延願) 片岡主計→八田嘉右衛門様	12月22日	横切紙・1通	え4670-1-7
覚(御助力金10両請け取るに付) * (端裏付箋)「馬場丁 金拾両助成遣候印書」 八田競(印「綱寛」)→八田嘉右衛門様	文化3寅年12月	横切紙・1通	え4670-1-8
覚(利足金8両2分受け取るに付) 小沢平蔵(印)→三輪村・南堀村	亥12月23日	横切紙・1通	え4670-1-9
覚(三輪村・小堀村・大塚村・土口村分金金15両3分差し上げるに付) 小沢平蔵→八田嘉右衛門様	12月27日	横切紙・1通	え4670-1-10
覚(無尽当り金・掛金書上、掛金金59両2分2朱余) 工藤傳兵衛	丑12月	横切紙・1通	え4670-1-11
(書状、無尽取金25両に極めるに付) 宮原庄蔵→八田嘉右衛門様	12月22日	横切紙・1通	え4670-1-12
(書状、無心申し上げた金子頼み申すに付) 瀬下七左衛門→八田嘉右衛門様	12月20日	横切紙・1通	え4670-1-13
(金9両証文に仕り出借・金6両無尽掛金内訳書上)		縦紙/(え4674-1~35は括り紐一括)・1通	え4674-16
覚(金12両2分、御無尽へ伊藤盛太郎御加入仕り当亥取替御鬮金御預り申すに付) * (包紙上書)「伊藤盛太郎殿 覚金子五十治」 金子五十治(印)→松木東殿	天保15辰年12月26日	横切紙・1通	え4674-25
覚(鬮金25両差し引き金17両2分請け取るに付) 御既町新平(印)		横切紙・1通	え4674-26

1.内方/1.8.金融/1.8.3.無尽

覚(金6両、御無尽金受け取るに付) 牛島宗兵衛(印)	巳12月25日	横切紙・1通	え4674-27
覚(金1両3分余当子懸金ほか御無尽寄金受け取るに付) 仙田忠左衛門(印)→松木東殿	天保11年子12月	横切紙・1通	え4674-28
覚(金18両、御無尽寄金請け取るに付) 仙田忠左衛門(印) →松木東殿	天保11年子12月	横切紙・1通	え4674-29
覚(金6両1分、御無尽金割取の分受け取るに付) かつ町万 吉(印)・栄治→松木東殿御内	巳12月29日	横切継紙・1通	え4674-30
借入金証文之事(金何程、稀の違作に付米穀差支え艱買 入融通貴殿へ御無心申し入れたところ、今も済みかね 借用諸雑用金御取延ばし下さる様御頼み申すに付)		縦紙・1通	え4674-31
(書状、飯山町大和屋三四郎500両頼母敷相企てるところ、 御上様御願により御加入成し下されるに付) *下書		折紙/(え4677-1 ~29は括り紐一 括)・1通	え4677-29
大林寺無尽指引(大林寺より預かり金50両・田中井右衛門 殿より預り金40両など書付)	(丑~寅年)	横切継紙/(え 4678-1~17は紙 紐一括)・1通	え4678-3
(戌から子年分無尽懸金・取金など書付、戌12月22日二会 目懸金2両3分ほか)		縦継紙・1通	え4678-11
覚(無尽鬮当たり金・利足金・先会下り金など差引、過渡分 5貫72文) 藤本日徳方周蔵→お琴さま	9月19日	横切紙・1通	え4678-13
口上(無尽懸金2朱2匁4分頂戴仕りたきに付) (富沢)勇之 進→(八田)慎蔵様	3月24日	横切継紙/(え 4680-1~57は括 り紐一括)・1通	え4680-28
(書状、御用紙代御廻しの際端銀取り落とすに付) 清治→ (八田)慎蔵様	3月17日	横切継紙・1通	え4680-29
覚(当已懸金52両3分余受け取るに付) 駒沢式左衛門(印) →八田嘉右衛門殿	巳12月19日	横切紙/(え 4681-1~32は括 り紐一括)・1通	え4681-13
覚(飯山米300俵代金ほか2口、99両余より宮沢長四郎様 御取替分など差し引き金71両余を渡すに付) 質屋喜 曾七(印「信州縮内しちや」)→菊屋六右衛門様	午閏正月	横切継紙・1通	え4681-14
覚(御懸戻し金・別段御無心金、52両3分3匁御渡しに付) 喜曾七→六右衛門様	午12月19日	横切継紙・1通	え4681-15
覚(駒沢氏発起無尽懸戻し金など、91両余、私方へ御取替 金高と差し引き下されたきに付) *(端裏書)「文政六未 年五月到来差曳書」 堀内茂一良→八田嘉右衛門様	未ノ春	横切継紙・1通	え4681-16
覚(発起無尽懸戻し金、89両2朱より飯山米代差し引きの 上差し上げるに付) 堀内千吾→八田嘉右衛門様	午閏正月	横切紙・1通	え4681-17
(無尽掛金・懸戻し金・利分等差し引き、金6両1分2朱余を出 金込に付書付)		横切継紙・1通	え4681-23
①覚(高山氏無尽金のうち50両要用受け取るに付)、② (書状、無尽金32両を慥かに受け取るに付) *(包紙上 書)「文政六未年十二月廿八日高山仰殿頼母布松木氏取入分 此方預置候分五拾五両渡金已来先方ニ而懸戻可被申趣印書 入」/(端裏書)「伊勢町 竹山町」 ①松木源八(印)、②竹山町 →①八田嘉右衛門殿、②伊勢町様	①文政6未年12月28日	横切継紙・1通	え4681-25

覚(当年懸金不調達、金7両2朱は無尽利合に差し引き下されたきに付) * (包紙上書)「金七両式朱松木氏無尽ニ付杉田源藏殿かし 西十二月廿五日」 杉田源藏(印)→松木源八殿	文政8酉年12月	横切紙・1通	え4681-27
(包紙) * (包紙上書)「大林寺發起頼母子割合取置ニ相成候付 覚 庄助 差引書大林寺頼母子書類ニ入置申候」/紙背文書抹消墨あり 庄助		包紙/(え4681-1~32は括り紐一括)/(え4681-32-1~4は包紙一括)・1点	え4681-32-1
(書状、下案の紙面を一同へ御廻し置き下されたきに付、小野氏へ金54両御渡し下されたきに付ほか)	27日	横切紙/(虫損)・1通	え4681-32-2
覚(大林寺頼母子卯辰巳年割合金元金15両に付) * (端裏書)「大林寺様差曳」		横切紙/(虫損)・1通	え4681-32-3
(大林寺頼母子残金残金122両余より諸費差し引きして残54両余は出金書付)		折紙/(虫損)・1通	え4681-32-4
覚(岡野弥右衛門殿發起無尽鬮金30両受け取るに付) * (端裏書)「翌正月十一日帰る」 八田慎藏(印墨消)→水井忠治殿	文久3癸亥年12月26日	横切紙/(虫損)/(え4682-1~35は紙紐一括)・1通	え4682-3
(書状、御礼に参上すべきところ、御朱印や御勘定の通行のため延引していたが、明日頃には御伺いたきに付) * (包紙上書)「八嘉右衛門様安專要用 矢代駅柿崎源左衛門」 (柿崎)源左衛門→(八田)嘉右衛門様	3月5日	横切継紙・1通	え4682-17
(書状、この程中は会所無尽について御手数のご相願う所、御取り計らい成し下され有難きに付) * 後欠		横切継紙/(え4686-1~44は括り紐一括)・1通	え4686-1
御仕送覚(志賀村神津半右衛門金300両ほかメ2710両為替御用達・御臨時御用達など金銭人名書付)		横切継紙/(虫損)/(え4692-1~26は括り紐一括)・1通	え4692-1
覚(発当金15両ほか金195両請取金書付)		横切紙/(虫損)・1通	え4692-5
(包紙) * (包紙上書)「卯三月廿二日岡川御陰宅より被参候書状此方より返書下案外ニ増田より手紙□残置可申候事」		包紙/(え4692-1~26は括り紐一括)/(え4692-14-1~3は包紙一括)・1点	え4692-14-1
(書状、先年私發起無尽片岡俊藏分辰三郎様へ御談じ申上げ懸戻しのところ、当年この無尽終会に付) 高田孝七→六右衛門様	12月13日	横切紙・1通	え4692-14-2
(書状、兼ねて仰せの事油断なく催促致すところ、別紙の趣により白川公も御心配の御様子に付) * (端裏書)「岡川御兩人江遣候下案」 (八田)嘉右衛門→御両方様	3月12日	横切継紙・1通	え4692-14-3
(書状、終会無尽来る25日立会仕るところ、私弁金抛無きにより何分御考弁下される様願奉るに付) 高田孝七→菊屋六右衛門様	12月23日	横切紙/(え4692-1~26は括り紐一括)・1通	え4692-20
口上覚(無尽滞りなく仕廻の御礼) * (包紙上書)「嘉右衛門様 兵庫」 (鎌原)兵庫→(八田)嘉右衛門様	12月22日	横切紙/(虫損)/(え4695-1~28は括り紐一括)・1通	え4695-2
覚(無尽発当戌亥金2分2朱、壱口前い七分金10両1分余) * (端裏書)「卯年馬場町無尽差引書」		横切紙・1通	え4695-7

1.内方/1.8.金融/1.8.3.無尽

(八田辰三郎懸金2両8匁1分9厘書上)		小切紙・1通	え4695-8
(無尽卯拾会目懸金45両受け取るに付) 厚村六左衛門→八田嘉右衛門様	12月20日	横切紙・1通	え4695-9
覚(卯無尽懸戻金1両12匁受け取るに付) 飯嶋楠左衛門(印)	卯12月15日	横切紙・1通	え4695-10
(堀内茂一郎・八田辰三郎・八田喜兵衛・慶左衛門分・水内村勘助分の金高書上、分金11両2分3朱)		横切紙・1通	え4695-11
覚(石坂柳右衛門発起無尽当子七会目取番出金分受け取るに付) 小林内蔵太・代判和田九郎右衛門(印)→八田嘉右衛門殿	文政11子年12月20日	堅切紙・1通	え4695-12
覚(御伯母様御分・木町分・重大夫殿分分金1両10匁7分8厘) * (端裏書)「卯年堀田無尽掛出之切手」	卯	横切紙・1通	え4695-13
覚(預金1分2朱・1朱61文金銭書上) 預主丸山平左衛門・生萱村銀左衛門		横切紙・1通	え4695-14
覚(無尽懸出金ノ7両1匁7分受け取るに付) 坂内与一郎(印)→八田嘉右衛門殿	天保2卯年12月	横切紙・1通	え4695-15
(無尽九会目懸戻・懸出金、受け取り分金50両金銭書上) →八田嘉右衛門様	寅12月20日	横切紙・1通	え4695-16
覚(無尽懸金・懸戻分差し引き、ノ25両1分1匁5分金銭書上) →い・セ町様		横切紙・1通	え4695-17
覚(天保2年流浪無尽初会分懸出金3両受け取るに付) * (端裏書)「無尽帳へ引取済」 中島三右衛門(印)→八田嘉右衛門殿・八田嘉助殿	午12月	横切紙・1通	え4695-18
(書状、別紙にて金子請け取り下されたきに付) * (包紙上書)「小林唯蔵殿松石町無尽江此方名目ニ而加入被致置候、取入有之候ニ付引当証文請取置」 (岡野陽之助→(八田)嘉助様)	12月20日	横切紙・1通	え4695-19
(乙亥・丙子・丁丑・戊寅まで各年の拝受金銭書上)		横切紙・1通	え4695-25
(書状、野村金四郎殿元帳と私手控金子払帳を突き合わせたところ、金子員数相違に付) 練光寺鑑司→八田嘉右衛門様	9月5日	横切紙・1通	え4695-26
覚(取替金23両の返済御難渋、無尽を無利足にて引き取り残金分とするに付)		横切紙・1通	え4695-27
(包紙) 庄助→(八田)嘉右衛門様要用書類		包紙/(え4696-1~20は括り紐一括)/(え4696-4-1~4は包紙一括)・1点	え4696-4-1
(卯冬初会から午未七番まで無尽出入金高帳簿)		横長美・1冊	え4696-4-2
(書状、無尽差引別紙を御目に懸けるに付) 庄助→(八田)嘉右衛門様	3月6日	横切紙・1通	え4696-4-3
巷口分(卯冬懸初より午暮七番まで無尽懸口・懸戻金など差し引き書上)		折紙・1通	え4696-4-4
(封筒) * (封筒表書)「慎蔵様印書入 弥右衛門」		封筒/(え4696-1~20は括り紐一括)(え4696-12-1~5は封筒一括)・1点	え4696-12-1

(書状、先年発起無尽金に関し、追々金札の通用難しくなり取番金高減少に付ほか)	2月19日	横切継紙・1通	え4696-12-2
(書状、100両の切手を差し上げるに付)		横切継紙・1通	え4696-12-3
覚(金100両預るに付) 伊東賢治(印)→岡野彌右衛門殿	明治2巳年2月	縦紙・1通	え4696-12-4
(書状、借入金証書別紙差し上げるに付) 松山丁→伊勢町様	3月27日	横切継紙・1通	え4696-12-5
九月中用書(袋) *(袋上書)「九月中用書 病中 知則 追而御調、不用もの者被捨可然事」 (八田)知則		袋・1点	え4696-20
(書状、この度も役所より委しく申し進めるので左様思し召し下されたきに付) (矢部)通俊→(八田)喜右衛門様	4月18日	横切継紙/(え4697-1~12は括り紐一括)・1通	え4697-1
(書状、先達で御世話御頼みにより御口入金子の渡し方に件) →矢部通俊様		横切継紙/(え4697-1~12は括り紐一括)/(え4697-2-1~3は括り紐一括)・1通	え4697-2-1
(書状、御口入金を8月に返金なし下されたしとの依頼に付ほか)		横切継紙・1通	え4697-2-2
(書状、返金願うに付) *下書 →北原多蔵様・北原覚左衛門様・高田六右衛門様・大和田理右衛門様	10月23日	横切紙・1通	え4697-2-3
(書状、先達で口入金の返済期月、先方との掛合のうえ10月20日限りとしたきに付ほか) →矢部通俊様		横切継紙/(え4697-1~12は括り紐一括)・1通	え4697-3
(書状、喜右衛門御口入金残金返済の方法等に付、喜右衛門相果て跡目身上向難洪等により) 八田孫左衛門→矢部通俊様	11月23日	横切継紙・1通	え4697-4
(書状、喜右衛門口入金御済金残り50両の返済に付) *下書 八田孫左衛門→北原多蔵様	11月23日	横切継紙・1通	え4697-5
(書状、御口入金は一先ず返金いただきき儀承知、役所においてもかれこれ評談に付ほか) 北原多蔵定刑(花押)→八田嘉右衛門様御報	8月11日	折紙・1通	え4697-6
(書状、金子返済は来1月中まで御延ばし下され忝きに付) 北原多蔵・北原覚左衛門・高田六右衛門・大和田理右衛門→八田嘉右衛門様	12月15日	横切継紙・1通	え4697-7
(書状、御口入金返済の延引は申し訳なく、役所差し支え中のため用捨下されたきに付)	4月12日	横切継紙・1通	え4697-8
覚(金50両に対する利足金2両2分に付)	11月2日	横切紙・1通	え4697-9
(書状、口入金残金50両について3ヶ年1割の利足にて御立て置くよう御役人中様より御細書、不承知に付) *(端裏書)「内藤様返書下書」 八田喜右衛門→矢部通俊様	2月8日	横切継紙・1通	え4697-10
(書状、元金300両の内50両と利足25両を差し越すに付) 北原多蔵・北原覚左衛門・高田六右衛門・大和田理右衛門→八田嘉右衛門様	4月6日	横切継紙・1通	え4697-11
(書状、金子日限10月20日証文引き替えに付) 北原多蔵・北原覚左衛門・高田六右衛門・大和田理右衛門→八田嘉右衛門様	8月28日	横切継紙・1通	え4697-12
(書状、中澤無尽掛金当年にて満会のところ懸け戻し出来ざるに付)	11月7日	横切紙/(え4698-1~23は括り紐一括)・1通	え4698-18

1.内方/1.8.金融/1.8.3.無尽

(書状、先年竹山町御用達金御請け取り分と松山丁無尽懸戻諸勘定金指し引きを取り調べ下されたきに付) (小林唯藏→(八田)嘉右衛門様尊下	9月24日	横切継紙・1通	え4698-21
(書状、今夕宮の寄合懸金3分、7匁5分差し上げるに付) 賦相→高明様	3月30日	横切紙・1通	え4699-33
口上(懸合分7両を入帳なさるべきに付) *(端裏書)「五両式分式朱五百四十七文」	7月18日	横切継紙/(え4701-1~29は括り紐一括)・1通	え4701-20
覚(浄福寺無尽割合金2両2分と銀10匁請け取るに付) 戸隠山善法院(印)→笠井和七殿	文政12年丑9月	横切紙・1通	え4701-27
覚(文政2年私発起無尽の取入金残金は年限取り縮め割崩し、終会迄の御差し引き取り究め、金20両と7匁11分8厘受け取るに付) 会主小川録兵衛(印)・連中惣代善法院(印)→笠井和七殿	丑9月	横切紙・1通	え4701-28
(書状、水井忠藏・堀内与一右衛門よりの書状御届けに付) 八田嘉助→菅沼弥惣左衛門様	7月28日	横切紙・1通	え4701-29
(前書きの金高、糸会所へ受け取り御貸下げ御引当金の内へ差し出すにより御戻下願ひ次第、この証文を以て元利相渡し申すべき旨証文) *前欠 八田辰三郎(印)・八田喜兵衛(印)→浄福寺衆寮祖戒長老		堅切継紙/(え4702-1~37は括り紐一括)・1通	え4702-1
覚(今晚懸金3両調達しかねるので、来る25日迄御日延下され、忝く存じ奉り、右日限相違無く差し出し申すべしに付) 厚木釣玄(印)	享和元酉年12月21日	切紙/(破損)・1通	え4702-21
妙儀太々講差引目録(子年掛金2両2分等金銭など差引文金7両2分余り勘定書上) 若林庄兵衛→八田嘉介様	巳9月18日	折紙/(虫損)・1通	え4702-24
覚(去る寅暮れ私儀発記無尽仕り、2口分藤田傳左衛門殿御名前分借用仕り、金6両慥かに請け取り申すに付) *(包紙上書)「天保元寅年三拾両無尽止立ニ付式口加入致候ニ付掛金受取書迄通 右無尽済切之節者此印書返却可致事長岡助右衛門殿」 長岡藤吉・長岡助右衛門(印)→八田嘉右衛門殿	天保2卯年4月	横切紙/(虫損甚大)/(え4703-1~13は括り紐一括)・1通	え4703-1
(50両の内3両2分余懸金・20両余正金・7両余岡野氏・18両余八田氏金銭割合書付)		横切継紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-2-1~91は括り紐一括)・1通	え4704-2-52
(「一当年より無尽掛出金高同程」)		切紙/(虫損)/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-3-1~74は括り紐一括)・1通	え4704-3-10
(書状、昨晚は寺まで御出下され御礼に付) 堀田覚兵衛→八田嘉助様	11月29日	切紙/(虫損)・1通	え4704-3-19
(松木御新造様無尽・池田要人殿無尽ほか懸戻金・懸出金書付)		横切紙/(虫損)/(え4706-1~60は括り紐一括)・1通	え4706-6
(書状、来る14日8時より当戌懸金3分1匁3分7厘に付)	戌	小切紙/(虫損)・1通	え4706-7

(書状、無尽の寄合14日8時よりに付ほか) 弥太郎→(八田嘉助様	12月	横切継紙/(虫損)・1通	え4706-12
覚(田中泰右衛門口入金利分金2分6匁請け取るに付) 矢野倉惣兵衛(印)→長井村七郎治殿	3月7日	横切継紙・1通	え4706-18
覚(願行寺什金貸付利分金2分12匁請け取るに付) 矢野倉惣兵衛(印)→上田町方佐左衛門殿	天保9戌(年)3月7日	横切紙・1通	え4706-19
覚(松山丁差し引き金式口ノ10両2分11匁金銭書上)	西正月3日	横切継紙/(虫損甚大)・1通	え4706-20
覚(無尽残金7両2朱銀2匁7分3厘受け取るに付) 柘植嘉兵衛(印)→八田嘉助殿	戊12月	横切継紙・1通	え4706-21
覚(春日儀左衛門御無尽掛金16両3分と5分6厘請け取るに付) 策田森之助(印)→八田嘉右衛門様	天保11酉年12月23日	横切紙・1通	え4706-42
覚(御発起無尽式番会取番送りに付金10両請け取るに付) 八田嘉右衛門内久保米八(印)→小幡又兵衛様御内田中勇三郎殿	文政7申年12月	横切継紙・1通	え4706-43
覚(無尽7回目寄金10両請け取るに付) 藤田伝左衛門(印)→小幡様御内小林市郎治殿	文政11子年3月	横切紙・1通	え4706-44
(書状、無尽初会増田氏懸金・初回入用に付) 馬場丁→嘉助様	12月26日	横切紙/(虫損)・1通	え4706-45
覚(佐久間様無尽金4両6匁受け取るに付) 小山伝四郎(印)	12月27日	横切紙・1通	え4706-46
(書状、お金をどのくらいにても遣わさせ下されたきに付) はな→御おち様御内々返事		折紙/(虫損甚大)・1通	え4706-47
覚(金7両・御町場大家村利右衛門他3名分、ノ45両金銭書上)		横切紙/(虫損)・1通	え4706-48
覚(当卯取集金14両受け取るに付) 八田嘉助(印、抹消)→長岡助右衛門殿	天保2卯年12月26日	横切紙/(虫損)・1通	え4706-49
覚(当卯取集金10両受け取るに付) 八田嘉助(印、抹消)→長岡助右衛門殿	天保2卯年12月28日	横切紙・1通	え4706-50
覚(当寅取集金3両受け取るに付) 八田嘉助(印、抹消)→長岡助右衛門殿	天保元寅(年)12月27日	横切紙・1通	え4706-51
覚(当巳取集金30両受け取るに付) 八田嘉助(印、抹消)→長岡助右衛門殿	天保4巳年12月	横切継紙/(虫損甚大)・1通	え4706-53
覚(当巳取集金10両受け取るに付) 八田嘉助(印、抹消)→長岡助右衛門殿	天保4巳年12月27日	横切紙・1通	え4706-55
覚(当巳取集金20両受け取るに付) 八田嘉助(印、抹消)→長岡助右衛門殿	天保4巳年12月26日	横切紙・1通	え4706-59
(書状、柴津村無尽の件は御院后勘考するも勘弁浮かび申さず、来月上旬までに御報を認めて家来共へ御渡し下されたきに付) *(包紙上書)「松城八田嘉右衛門様貴下 隠山善法院」 善法院→八田嘉右衛門様貴下	(卯)11月15日	横切継紙/(え4709-1~22は括り紐一括)・1通	え4709-1
(書状、柴津村無尽鬮当りの儀、和七様御承知の儀があるなら御報下されたきに付) *(封筒表書)「松の城八田嘉右衛門様当用 戸隠山善法院」 善法院→八田嘉右衛門様	11月29日	横切継紙・1通	え4709-2

1.内方/1.8.金融/1.8.3.無尽

(書状、芝津村斧右衛門文化9年発起頼母子の始末について尋ねを受け、大凡の廉を申上げるに付) *下書 笠井和七→善法院様尊下	11月25日	横切継紙・1通	え4709-3
(書状、竹山丁より御出で下され金子取り調べの件、よろしく願うに付) (岡野)陽之助→(八田)嘉助様	12月25日	横切紙/(え4709-1~22は括り紐一括)/(え4509-12-1~3は帯封一括)・1通	え4709-12-1
(書状、無尽取入の始末柄に付) 東→(八田)嘉助様	26日	横切紙・1通	え4709-12-2
(書状、無尽懸戻し・返金ほか頼むに付) 東→(八田)嘉助様 内用御直披		横切紙・1通	え4709-12-3
(書状、徳島氏無尽差し引き金5両の件、師岡氏出府前無尽金片付けの件ほか) □水→(八田)嘉助様	5月6日	横切紙/(え4709-1~22は括り紐一括)・1通	え4709-14
(書状、尊君様身分を離れ三高院とか浄福寺の名目にて二百七十人講を立てるか並方の無尽を立てるかに付ほか) (松本)嘉十郎→(八田)嘉助様	11月6日	横切継紙・1通	え4709-19
(書状、無尽貴所様懸戻金を西条七野右衛門方へ何とぞ御渡し下されたきに付) (堀田)覚兵衛→(八田)嘉助様	12月26日	横切継紙/(え4710-1~117は括り紐一括)・1通	え4710-111

1.8.4. 伊勢山田御師広田筑後一件

(書状、安兵衛風聞の儀はこの地は欠落同様の様との風聞に付)	7月25日	横切紙/(え4651-1~34は括り紐一括)・1通	え4651-19
口上覚(紀州御領仁口村安兵衛、竹原惣右衛門相手取り口入金)の儀数度に及び願ひ出るに付) 伊勢町伊兵衛印・惣右衛門印→吉村嘉右衛門殿	天明4壬寅年4月	折紙/(え4653-1~29は括り紐一括)・1通(2枚)	え4653-25
(書状、京都御金の儀、利は利、儀は儀相分り申す事と存じ、岩出より御約束通り出来仕らなければ私為にならん等と申し来るは了簡違いに付) *(端裏貼紙)「用立不申□」 鈴木安兵衛→佐藤伊兵衛様人々御中	6月18日	横切継紙/(え4658-1~26は括り紐一括)・1通	え4658-1
(断簡、「別啓仕候」) *断簡		切紙・1通	え4658-2
(断簡、替七金間違い、証文にて相済ますに付) *断簡		切紙・1通	え4658-3
(書状、前分の通り不快故、先達て岩出氏より撰州借金の儀尋ね、外々の儀一向に存ぜざる訳に付) *(端裏書)「松代いせ町佐藤伊兵衛様 鈴木安兵衛 用書入」 鈴木安兵衛→佐藤伊兵衛様		横切継紙・1通	え4658-4
口上(10月新助殿参られた節に書状差上げた内材木代の儀、算用書いたし差し上げるに付) すゝき(鈴木安兵衛)→佐藤(伊兵衛)さまへ	6日	横切紙・1通	え4658-5
(金17両ほか金銭書付)		横切紙・1通	え4658-6
覚(鈴木安兵衛方より先達て遣わした飛脚入用残金等、本金へ相添え相渡さるべきに付) 花山院殿家一色治部・山中采女・横山左近→佐藤伊兵衛殿・菊屋兵助殿	卯ノ6月15日	横切紙・1通	え4658-7
覚(久兵衛飛脚料等、久兵衛へ相渡さるべきに付) 花山院殿詰所[印]→佐藤伊兵衛殿・菊屋兵助殿	6月	堅切紙・1通	え4658-8

覚(御ほか家御願い、給金慥かに請け取り申すに付) 鏡屋町長蔵(印)→佐藤伊兵衛殿	寅12月晦日	横切紙・1通	え4658-9
(書状、誠に重き金子差し遣わされず余り御非道、私儀も今日に至り仕方無く、身上相仕廻より外無きに付) 鈴木安兵衛□→佐藤伊兵衛様	9月13日	横切継紙・1通	え4658-10
[]札之事(金何百両、奉加金の内慥かに請け取るに付) *下書 八田孫左衛門代増田宗右衛門・宇佐美清十郎代佐藤伊兵衛→小町屋善右衛門殿・木屋彦十郎殿	月日	横切紙/(え4658-1~26は括り紐一括)/(え4658-11-1~2は括り紐一括)・1通	え4658-11-1
口上(廣田筑後殿御旦中へ御願い申した奉加金残りの儀、帳元小町善右衛門殿御立て替え、松代表慥かに請け取り申すに付) *下書 廣田筑後殿名代吉村嘉右衛門・世話人佐藤伊兵衛・同断増田宗右衛門→何村誰・何村[]	何月	横切紙・1通	え4658-11-2
(書状、先月20日に宮川船のり、天より右の船の上へ御祓ふり、これに依り人々無難に付ほか) *前後欠		横切継紙/(え4658-1~26は括り紐一括)・1通	え4658-12
(書状、私方より金子請取りに差し遣わしたところ、金子調わざるの由仰せ下され、またぞろや不埒なる御返答なされるに付) 鈴木安兵衛→菊屋兵助様・佐藤伊兵衛様	6月18日	横切継紙/(え4658-1~26は括り紐一括)/(え4658-13-1~2は括り紐一括)・1通	え4658-13-1
(断簡、卯7月小妻次右衛門同断に付)		切紙・1通	え4658-13-2
掛り合諸入用(駕籠賃など金銭書上) *(下ヶ札)「右之通慥ニ請取申候已上 二月廿二日 鈴木安兵衛(印)山田 鈴木安兵衛 浦ノ橋」 岩出六右衛門様」 鈴木安兵衛(印)山田 鈴木安兵衛浦ノ橋」		横長半/(虫損)/(え4658-1~26は括り紐一括)・1冊	え4658-14
(書状、段々断り申す金子外に5両、私取り替えて西国へ相渡し申し、この訳は岩出氏御帰りの上相分り申すに付) 鈴木安兵衛→佐藤伊兵衛様・岩出六右衛門様	3月17日	横切継紙・1通	え4658-15
(書状、岩出氏証金26両の儀、当月の内長蔵殿へなりとも御持たせ遣わされ下さるべく御頼み申し上げ奉るに付ほか) 鈴木安兵衛→佐藤伊兵衛様人々御中	4月4日夕	横切継紙・1通	え4658-16
覚(証文・利足ほか金銭書上)		横切紙・1通	え4658-17
(当春の路銀御取替え金等金銭書上) *前欠		横切継紙・1通	え4658-18
(書状、岩出氏方相替わる儀なく、取り替え遣わした金子この節一所に遣わされるよう御申し下されるべきに付) すゝき(鈴木安兵衛)→佐藤(伊兵衛)様・岩出(六右衛門)様		横切紙・1通	え4658-19
(書状、昨日より段々喜右衛門証文の儀、内川より認めるに付) []→佐藤伊兵衛様	2月18日	折紙・1通	え4658-20
(書状、春中御懇志下された金子2両今般御飛脚へ相渡し申し、何れ私御面談の上、逐一御勘定仕りたきに付) 菊や兵助・佐藤伊兵衛→鈴木安兵衛様	7月20日	横切継紙・1通	え4658-21
(書状、下辺の金子手延び、松代へ御談じ成されて早々御返答待ち入り申すに付) 鈴木安兵衛→松代惣代佐藤伊兵衛様	極月18日	横切紙・1通	え4658-22
(書状、去る春御認め成された御証文の金子の儀、御上納相違無く当月の内御済まし成さるべきに付ほか) 鈴木安兵衛→増田宗右衛門様・佐藤伊兵衛様人々御中	正月15日	横切継紙・1通	え4658-23

1.内方/1.8.金融/1.8.4.伊勢山田御師広田筑後一件

(書状、万一御上納成されるならば御金の儀は、御兩人の内、私方へ迄なりとも、京都迄なりとも、御持参成さるべきに付) 鈴木安兵衛→佐藤伊兵衛殿・菊屋兵助殿	卯6月	横切継紙・1通	え4658-24
借用申金子証文之事(今度の一件に付御無心申したところ、御口入成し下され、金23両本金慥かに請け取るに付) 佐藤伊兵衛→鈴木安兵衛殿	庚寅年2月	縦紙・1通	え4658-25
(書状、来月10日迄に御兩人の内御登り下さるべし、御登り成され難き儀であれば飛脚に金子遣わされ下さるべきに付) 鈴木(安兵衛)→佐藤(伊兵衛)様	10月18日夕	横切紙・1通	え4658-26
(書状、今度厳しく御飛脚遣わし下され甚だ驚き入るところ、大難渋仕ること早速相片付けたき所存に付) *(端裏書)「橋本久兵衛飛脚」 佐藤伊兵衛→鈴木安兵衛様	5月26日	横切継紙/(え4687-1~19は括り紐一括)・1通	え4687-1
(書状、春中御懇志下された金子20両今般御飛脚へ相渡し申すにより左様思し召し下されるべきに付) 佐藤伊兵衛→鈴木安兵衛様人々御中	7月20日	折紙・1通	え4687-2
(書状、貴前様御取替金は岩出・私身を捨てる程の覚悟で相片付けたきにより当分の御引当御用捨下さるべきに付) *(包紙上書)「寅十二月朔日佐藤吉村小方武兵衛証文認不申内金子断書面」 佐藤伊兵衛→鈴木安兵衛様人々御中	12月朔日	横切継紙・1通	え4687-3
(書状、岩出氏並びに私了簡手段をもって大勢の旦中気分宜しくいたすところ、金銀沙汰に及びかねるに付) 佐藤伊兵衛→鈴木安兵衛様人々御中	5月17日	横切継紙・1通	え4687-4
(書状、中野・小布施筋まで佐藤氏参られるも私共存寄の一件当時相済かねるにより金子出来申さざるに付) *(包紙上書)「卯四月増田より金子断之事」 増田宗右衛門正旁(花押)→鈴木安兵衛様御報	4月22日	横切継紙・1通	え4687-5
(書状、娘について終に死去仕るにより残念、並びに勸化金残り140両の証文名儀などについて相談に付) *(包紙上書)「ろ印 卯二月中野奉加金拝借証文頼之事」	2月16日	横切継紙・1通	え4687-6
(書状、貴所様などの思し召し忝きところ、今般金子差し遣わされざるにより身の置き所もなく御繰廻し頼み奉るに付) *(包紙上書)「鈴木安兵衛様 佐藤伊兵衛」/(包紙貼紙)「寅七月五日」/(包紙裏書)「従信州」 佐藤伊兵衛→鈴木安兵衛様	7月5日	折紙・1通	え4687-7
(書状、かねて貴意を得た一件、当13日の願書について御都合より仰せを待てども御沙汰なきに付) *(包紙上書)「丑極月十六日勢州ニ而伊兵衛殿広田借金抜之事」/(端裏書)「鈴木安兵衛様用事 佐藤伊兵衛」 佐藤伊兵衛→鈴木安兵衛様用事	11月19日	横切継紙・1通	え4687-8
(書状、仰せ下された如く約束の金子今般御渡し申したき所存のところ、掃部殿難渋の筋ばかりのみにて迷惑仕るに付) *(包紙上書)「鈴木安兵衛様 佐藤伊兵衛菊屋兵助」/(包紙貼紙)「木田半兵衛飛脚」 菊屋兵助・佐藤伊兵衛→鈴木安兵衛様人々御中	4月21日	横切継紙・1通	え4687-9
(書状、御厚志顧みず本意に背き一言の申し訳もなきところ、去りながら大借金片付けについては私共存寄も叶わざるに付) *(包紙上書)「寅九月廿九日 ら印金拾両袖山新助差越」 佐藤伊兵衛→鈴木安兵衛様人々御中	9月29日	横切継紙・1通	え4687-10

(書状、岩出氏については甚だ難しきも万端相片付け申すにより来春貴所様御出下され御片付け願うに付) * (包紙上書)「れ印 卯極月飛脚へ金八両三歩証文訳」 佐藤伊兵衛→鈴木安兵衛様	12月23日	横切継紙・1通	え4687-11
(包紙) * (包紙上書)「み印 寅極月廿七日八田金子引請ニ付中の勸金御名目頼之事」		包紙/(え4687-1~19は括り紐一括)/(え4687-12-1~3は包紙一括)・1点	え4687-12-1
(包紙) * (包紙上書)「鈴木安兵衛様要用 佐藤伊兵衛」		包紙・1点	え4687-12-2
(書状、八田氏申し聞かされるところ、鈴木氏明日にも御帰国なされたら如何様とも工夫作り金子差し遣わし申すべきに付) 佐藤伊兵衛→鈴木安兵衛様要用	11月27日	横切継紙・1通	え4687-12-3
(包紙) * (包紙上書)「な印 寅七月五日松代より印鑑ヲ以金子可差送との事」		包紙/(え4687-1~19は括り紐一括)/(え4687-13-1~3は包紙一括)・1点	え4687-13-1
(包紙) * (包紙上書)「鈴木安兵衛様 増田惣右衛門佐藤伊兵衛」/(包紙裏書)「印形ニ而金子断」		包紙・1点	え4687-13-2
①(書状、今般御飛脚遣わされるところ、貴様御方へ如何様とも金子差し送りに付)、②(書状、大借金の片付するも今以て手取に相成り申さず本意に背き是非なきに付) ①信州松代いせ町増田惣右衛門(印)・同所佐藤伊兵衛(印)、②佐藤伊兵衛・増田惣右衛門→①鈴木安兵衛殿、②鈴木安兵衛様人々御中		折紙・1通	え4687-13-3
一札(家城六右衛門殿金70両余等メ金180両余広田筑後殿普請払残り金について一件相済の上は相違なく送るに付) * (包紙上書)「り印 去ル丑年松代惣代六右衛門方へ材木代引請写し」/(端裏書)「材木代之事」		縦紙/(え4687-1~19は括り紐一括)・1通	え4687-14
(書状、岩出氏当月下旬までに帰国致すところ、その節御礼申上げるによりこれまでの遅滞御用捨下されるべきに付) * (包紙上書)「寅九月増田佐藤證文無之内金子断之事」 佐藤伊兵衛・増田惣右衛門→鈴木安兵衛様参人々御中	9月5日	横切継紙・1通	え4687-15
(書状、大金の才覚のため難しきところ、貴公様御懇意の上金子まで御才覚下され忝きに付) * (包紙上書)「去々九月よ印佐藤別紙ニ而金子催促いたし呉候様頼之事」		横切紙・1通	え4687-16
(書状、重き金子才覚了簡をもって岩出氏など首尾相詰め出精仕るところ、金子差し遣わされず余りに御非道のなされ方に付) * (包紙上書)「か印 金子催促呉候様下書」 鈴木安兵衛→佐藤伊兵衛様	9月20日	横切継紙・1通	え4687-17
(書状、私罷り帰り岩出氏同道仕るところ、松代御上よりも御褒美なし下され町中の評判外聞とも宜しく大慶仕るに付) * (包紙上書)「鈴木安兵衛様 佐藤伊兵衛」 佐藤伊兵衛→鈴木安兵衛様人々御中	5月5日	横切継紙・1通	え4687-18
覚(金20両利足金2両1分余今般差し遣わすこと出来かねるにより私罷り越す節御勘定仕るに付) * (包紙上書)「鈴木安兵衛様 佐藤伊兵衛」/(包紙貼紙)「卯七月廿日五口勘定書」 佐藤伊兵衛幸春(花押)→鈴木安兵衛様	卯7月20日	折紙・1通	え4687-19

1.内方/1.8.金融/1.8.4.伊勢山田御師広田筑後一件

(書状、安兵衛願書初筆に去る12年以前伊勢町惣左衛門など4人の者共より花山院様御名目拝借金頼む旨全くの偽りに付) *前後欠/本文墨消		堅切継紙/(え4702-1~37は括り紐一括)・1通	え4702-34
(書状、新年の挨拶並びに御初尾金100疋・御神馬料金100疋献上仕るにより宜しく御祈禱願いに付) 八田嘉右衛門知義(花押)→廣田筑後様参人々御中	正月6日	横切継紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-2-1~91は括り紐一括)・1通	え4704-2-33
(書状、廣田への御書状文言振について仰せ下されたく願ひ上げ奉るに付) (八田)喜兵衛→(八田)嘉助様	正月21日	横切継紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-3-1~74は括り紐一括)・1通	え4704-3-66

1.9. 岩村田領

1.9.1. 貸付金

(書状、御約諾の金銭定書に豊後守と役人共が調印したものを差し遣わすため落掌下されたきに付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様 倉持寛左衛門」 倉持寛左衛門(印)→八田嘉右衛門様	5月6日	横切継紙/(え4682-1~35は紙紐一括)・1通 (2枚)	え4682-1
---	------	-----------------------------------	---------

1.9.2. 訴訟

(書状、岩村田のことについて詳細は栄八より平兵衛へ申し述べるころ御承知無下されるに付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様無事要用 八田嘉助」/(包紙裏書)「十一月二日出ス」 (八田)嘉助		横半/(え4656-1~34は括り紐一括)・1冊	え4656-11
(書状、岩村田一件御高判御差日により例の兩人へ平兵衛御差添御差出すところ、相手のもの不当の儀のみ申し立てるに付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様御取次中 小沢彦太夫」/(端裏書)「申上」 (小沢)彦太夫→(八田)嘉右衛門様申上	7月2日	横切継紙・1通	え4656-12
(書状、一件の儀について相手方より一向の掛合もなく日限遅滞恐れ入るによりまず栄八出府仕らせるに付) *(端裏書)「七月廿四日栄八出立之節江府へ申遣候紙面下案小沢へも右之趣申遣ス」 (八田)嘉右衛門→(座間)百人様	7月24日	横切継紙・1通	え4656-13
(書状、先般当地へ御逗留の節は御懇命蒙り有難きに付) (八田)嘉右衛門→(津田)転様申上	7月24日	切紙・1通	え4656-14
(書状、少子のこと別して足痛み宜しくなく迷惑仕るに付)	8月23日	横切継紙・1通	え4656-15
(包紙) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様 座間百人」		包紙/(え4656-1~34は括り紐一括)/(え4656-26-1~3は包紙一括)・1点	え4656-26-1
(書状、例の御一件について御理解如何の存慮か相手方より一向に掛合も申さざるに付) (座間)百人→嘉右衛門様	8月8日	横切継紙・1通	え4656-26-2
(書状、下札の趣委細承知仕るに付並びに伝兵衛金子一条早速清水へ罷り越し申し談じ仕るべきに付) *(包紙上書)「座間百人様御答 中村道唯」/(端裏書)「御答」 中村道唯→座間百人様御答	8月8日	横切継紙・1通	え4656-26-3

(書状、別紙岩村田より到来仕り、御請状・挨拶状共御認め成し下さるべきに付) * (端裏書)「寺町様 嘉助」	11月20日	横切継紙/(え4663-1~45は括り紐一括)・1通	え4663-11
(書状、拙宅類焼、御懇志仰せ下され御礼、及び岩村田一条、御丁寧御挨拶御念入の儀存じ奉るに付ほか) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 中野左膳」 中野左膳→八田嘉右衛門様	4月11日	横切継紙/(え4674-1~35は括り紐一括)・1通	え4674-3
(書状、平兵衛5歳悴抱えては奉公致すべきところなく此方へ縋り申し談じの上取り決めほか諸事勘弁致すに付) * (端裏書)「申談心得方」		横切継紙・1通	え4674-8
口上(山田氏へ申し述べたところ豊後守様御覧成されたく巳之助殿を以て申上げるに付)	6月12日	縦紙・1通	え4674-20
(包紙) * (包紙上書)「松代笠井和七様有賀半兵衛様 成野宗弥」/(包紙裏書)「従岩村田宿」		包紙/(え4690-1~9は括り紐一括)/(え4690-9-1~5は包紙一括)・1点	え4690-9-1
(書状、牛嶋村油屋代次郎と申す者について当18日佐久郡へ登り岩村田へ伝言いたすところ、書面持参着仕る旨に付)	23日	横切紙・1通	え4690-9-2
(書状、別段御書面差し上げざるところ、御会所と御寺様へも承諾の御伝言下されるべきに付) 宗弥	12月20日	切紙・1通	え4690-9-3
(書状、21日4つ時着にて手紙拝見仕るところ、用向については塚原村源助罷り出るとの趣御承知下されるべきに付)	22日	切紙・1通	え4690-9-4
(書状、私16日岩村田宿亀屋元右衛門方へ着き仕るところ、塚原村源助殿御出向と承るも一向に出向なく同人宅へ訪ねるに付) 宗弥→(笠井)和七様・(有賀)平兵衛様	12月20日	横切継紙・1通	え4690-9-5
(書状、岩村田一件、寺社役青山家家臣金森与左衛門と申す仁に付) * (包紙上書)「信州松代 八田嘉右衛門様 要用 江府 中野左膳 平安」/(包紙貼紙)「本八丁堀三丁目」 中野左膳→八田嘉右衛門様	3月20日	横切継紙/(え4696-1~20は括り紐一括)・1通	え4696-6
(書状、岩村田一件出訴となり沖八・米八出府に付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 御取次中様 北澤彦太夫」 北沢彦太夫→八(八田)嘉右衛門様御請	2月3日	横切継紙・1通	え4696-7
(書状、岩村田一件、御心添により御尊判頂戴、沖八は追分宿に着き、相手村々へ尊判引き渡すに付) * (端裏書)「子四月 中野左膳殿江返事」 →中野左膳様御取次中	3月	横切継紙・1通	え4696-8
(書状、岩村田一件伝兵衛代沖八ほか、追分宿にて相手村々へ尊判引き渡しに付) * (端裏書)「子四月 座間様へ文通」 (八田)嘉右衛門→(座間)百人様	4月5日	横切継紙・1通	え4696-9
(書状、岩村田一件首尾よく御尊判頂戴、追分宿にて相手村々へ尊判引き渡しに付) (八田)嘉右衛門→(北沢)彦太夫様	4月5日	横切継紙・1通	え4696-10
(包紙) * (包紙上書)「二月廿三日着」 座間百人→八田嘉右衛門様	正月21日	包紙/(え4696-1~20は括り紐一括)(え4696-11-1~3は包紙一括)・1点	え4696-11-1
(年賀状) 座間百人→八田嘉右衛門様貴報	正月21日	横切紙・1通	え4696-11-2

1.内方/1.9.岩村田領/1.9.2.訴訟

(書状、岩村田の儀出訴のため傳兵衛出府の件承知に付 ほか)	正月26日	横切継紙・1通	え4696-11-3
覚(金125両預りに付) 八田嘉助	天保元寅年12月20日	縦紙/(え4696-1 ~20は括り紐一 括)・1通	え4696-14

1.10. 金銭・穀物請払

1.10.1. 店方江下ヶ金・上納金

(御貸下金1602両3分1朱余内訳)		横切紙/(え 4654-1~27は括 り紐一括)・1通	え4654-15
(4両3分1朱坂西ほか×8両2朱金銭書上)		横切紙・1通	え4654-16

1.10.2. 穀物・諸品請払

(「此方中沢屋直八」など書付)		切紙/(え4704-1 ~3は括り紐一 括)/(え4704-3-1 ~74は括り紐一 括)・1通	え4704-3-59
(麻がら2本など諸品書付ほか)		横切紙・1通	え4704-3-63
(包紙) 自大坂鉄屋平右衛門→八田佐助様		包紙/(え4705-1 ~17は括り紐一 括)・1点	え4705-1
(書状、別紙注文書の通り御誂え遣わさるべく旦那の申し 付けに付) 小林吉左衛門→菊屋左助様	閏3月5日	横切継紙/(え 4705-1~17は 包紙一括)/(え 4705-2-1~3は巻 込一括)・1通	え4705-2-1
覚(ほうろく・ふくへ・茶杓等×5品到来に付) (小林)吉左 衛門→きく屋左助様	閏3月	横切紙/(虫損)・ 1通	え4705-2-3

1.10.3. 金銭勘定

覚(南籙一片・酒二升中村惣右衛門ほか書上)	巳3月	横切継紙/(え 4651-1~34は括 り紐一括)・1通	え4651-2
記(31匁大魚ほか×46匁1分諸品代書上) 入マヤ満作→上	12月18日	横切継紙・1通	え4651-11
(御筆方金物注文内容書上、代料何程か御問合せ申すべ きに付)		横切継紙・1通	え4651-12
記(32匁2分朝夕昼飯代ほか酒肴代など縮金3分3朱と492 匁請け取るに付) 臼井承(印「郷宿長野大門町臼井」)→松 代八田知道様御名代御兩人	7月21日	横切継紙・1通	え4651-15
記(80匁寺尾舟膳ほか×金2両1歩1朱310匁、長の行の入 用書上)		横切紙・1通	え4651-16
覚(2匁小本1冊、7分5厘赤本1組ほか書物など諸品代書上)		横切継紙・1通	え4651-20
覚(48匁かじめ三重ほか諸品代×147匁5分請け取るに付) 梅村義兵衛→八田嘉右衛門様御内浦野長七様	9月	横切継紙・1通	え4651-24

記(金1分未曾斗代諸品代書上) 伊原春一郎→上	6月18日	横切紙/(え4651-1~34は括り紐一括)/(え4651-27-1~3は一綴)・1通	え4651-27-1
記(3分小新鞆呂色代請け取るに付) 青沼(印)→中村様	5月4日	横切紙・1通	え4651-27-2
記(2匁5分奈舞良世手間代ほか/13匁諸品代金書上) 白銀師清次郎→上	亥5月	横切紙・1通	え4651-27-3
(129匁3分2厘番付お鍼ほか/152両2分余6月24日までに納めるべき分金銭書上)		横切継紙/(え4651-1~34は括り紐一括)・1通	え4651-28
(80文寺尾船ちん他/2分と430文諸品代勘定に付)		横切継紙/(え4651-1~34は括り紐一括)/(え4651-30-1~2は折込一括)・1通	え4651-30-1
記(15匁1分飯代ほか/1分2朱諸品代受け取るに付) 長野郷宿白井承(印[郷宿長野大門町白井])→松代町徳田房人様	8月4日	横切紙・1通	え4651-30-2
記(1分下むら油ほか諸品代金書上) *(端裏朱書)[善次より出し候書付甲戌六月廿二日之所へ留ル] 善治郎→上	戊6月28日	横切継紙/(え4651-1~34は括り紐一括)・1通	え4651-31
覚(200文清吉手間代ほか/金1朱と221匁余受け取るに付) 喜左衛門	酉7月	横切継紙/(え4652-1~31は括り紐一括)・1通	え4652-2
覚(金1分、唐彫碗付1つほか諸品代請け取るに付) *(端裏書)[東海道唐原柴田捨左衛門] 松代大坂屋与兵衛・スンプ靴屋庄助→浦野忠七様	2月25日	堅切紙・1通	え4652-5
覚(800文、大々竹木10ほか諸品代請け取るに付) みなとや吉左衛門→浦野長七様	12月25日	横切継紙・1通	え4652-6
覚(1両1分1朱、当懸金ほか/1両2分2朱余金銭書上)		横切紙・1通	え4652-7
覚(15匁、幼学詩員詩語粹金取合四部請け取るに付) 浜屋為吉[印「天壺堂松代紺屋町北側西入口浜屋為吉」]→八田嘉右衛門様御内御役人中様	亥6月22日	横切継紙・1通	え4652-8
(払方/26両1分余内訳金銭書上)		横切継紙・1通	え4652-9
覚(金1両3分余勘定に付)		横切紙・1通	え4652-10
(真木50駄棒21束ほか書上)		切紙・1通	え4652-12
(銀7匁5分米倉新左衛門様へほか未年から申年分金銭書上)	申正月調	横切継紙・1通	え4652-13
覚(1匁5分ちりれんけ3本受け取るに付) 大坂屋喜兵衛(印「柴井町新通角大坂屋」)→上	10月23日	横切紙/(え4652-1~31は括り紐一括)/(え4652-22-1~8は括り紐一括)・1通	え4652-22-2
覚(1匁5分てんひゆう3つほか金銭書上)	12月5日	横切紙・1通	え4652-22-3
七月頃之米相場(白米金1両に付1斗1升位)		切紙・1通	え4652-22-7
覚(正月~6月/3両2歩ほか/4両154文金銭書上) →八田様		横切紙/(え4652-1~31は括り紐一括)・1通	え4652-26

1.内方/1.10.金銭・穀物請払/1.10.3.金銭勘定

覚(538文和吉様ほかメ7貫792文金銭書上) 伊三郎→八田様御内傳兵衛様	卯11月	横切紙・1通	え4652-27
覚(髪結伊三郎殿差引調書)	天保14卯(年)11月25日	横切紙・1通	え4652-28
覚(4貫476文御上様ほか金銭書上) →八田様御内(笠井和七様)	子12月	横切紙/(貼紙あり)・1通	え4652-29
覚(64文水ひさし他メ2貫720文諸品代書上) 西小越町八右衛門→八田様御内御茶間御役人中様	戌12月	横帳・1冊	え4652-30
(取衣馨帖1冊・源次末つむ花巻1冊ほか書物書上)		折紙・1通	え4652-31
覚(2匁大豆代ほかメ3両1分と3匁6分余諸品代書上) 直七	閏正月	横切継紙/(え4653-1~29は括り紐一括)・1通	え4653-7
覚(1俵5斗入目方3貫250匁)		横切紙/(え4655-1~11は括り紐一括)・1通	え4655-3
覚(金3朱請け取るに付) 武蔵屋甚蔵[印「信州松代西木町武蔵屋」]→神戸角治様	9月24日	切紙・1通	え4655-4
覚(6日泊り御壱人様金1歩1朱66文請け取るに付) 長野や利太郎→上様	3日	横切紙/(え4662-1~25は括り紐一括)・1通	え4662-4
票(大般若経帙入200巻請銀610匁取領に付) *(端裏書「宗門帳」 黄檗山寶藏院一切経印房[印]→八田孫左衛門殿	寛延元戊辰年霜月20日	堅切紙・1通	え4662-6
覚(3匁3分極上沈香代銀請け取るに付) 越前屋源兵衛(印)→御役人衆中様	7月晦日	堅紙・1通	え4662-13
(出穀繭1箇代金聞書)	明治23年8月11日	横切紙・1通	え4662-22
差上申御受一札之事(当舟渡常灯明の儀年来志願仕り油料出方手段御発言下され御出錢成し下され有難きに付) 西寺尾村組頭三之丞(印)・□□□五郎(印)→八田嘉助様御内御取次中様	嘉永3戌年12月	横切継紙・1通	え4662-25
(金9両この札13両2分の旨金銭書付)		切継紙/(え4665-1~27は括り紐一括)・1通	え4665-6
(書状、干鱈133枚代金1両2分2朱慥かに請け取り申すに付) 高田関町間物屋三吉→松代元吉様	3月7日	切紙・1通	え4665-10
覚(茶代金8匁5分慥かに受け取り奉るに付) *(端裏書「明治二巳年十月善光寺ニ而買上もの」 高松屋忠七[印「信州善光寺石堂町高松屋忠七」]→上	10月18日	切紙/(え4665-1~27は括り紐一括)/(え4665-13-1~2は括り紐一括)・1通	え4665-13-1
覚(鉄小手1本6匁慥かに請け取り申すに付) 菊屋喜兵衛→上	10月18日	切紙・1通	え4665-13-2
覚(干たら163枚代金1両2分2朱慥かに請け取り申すに付) 高田関町四十物屋三吉→松代元吉様	3月7日	横切紙/(え4665-1~27は括り紐一括)・1通	え4665-18
(丹波島御城200文ほか金銭書上)		横切継紙/(え4665-1~27は括り紐一括)/(え4665-19-1~2は括り紐一括)・1通	え4665-19-1

(薪10束代金1分など代金書付) *(端裏書)「明治二巳年八月求む薪代付」		切紙/(え4665-1~27は括り紐一括)・1通	え4665-20
(塩1駄35貫目・1駄8斗4升など升貫目書付) *(端裏書)「明治二巳年八月会所ニ而承り塩升貫目之覚」		横切継紙・1通	え4665-21
(喜太郎文2両2分2朱など金銭書付)		横切継紙・1通	え4665-22
(辰之助分御奉行所銀3枚などメ13両2分分御書替御印形頂戴ほか金銭書付)		横切継紙/(え4665-1~27は括り紐一括)/(え4665-23-1~3は括り紐一括)・1通	え4665-23-1
(1株分御奉行所銀3枚ほかメ銀18枚半金銭書付)		横切紙・1通	え4665-23-2
(岡田100文・名主藤七100文ほか金銭書付)		切紙・1通	え4665-23-3
(幸七分1両2分ほかメ15両1分金銭勘定書付)		横切継紙/(え4665-1~27は括り紐一括)/(え4665-25-1~2は括り紐一括)・1通	え4665-25-2
覚(唐紙12枚6両糙かに受け取り奉るに付) 増田店[印「信州松城増田」]→伊勢町様御茶之間		横切継紙/(え4666-1~19は括り紐一括)/(え4666-1-1~13は括り紐一括)・1通	え4666-1-12
覚(染付引手2組代金2朱余り糙かに受け取るに付) 中村や魯助[印]→上	10月14日	切紙/(え4666-1~19は括り紐一括)・1通	え4666-4
覚(新渡染付引手3組差引代金受け取り申すに付) 四村源兵衛(印)→上	10月16日	切紙・1通	え4666-5
覚(中字御筆1本代18匁糙かに受け取り申すに付) 古梅園新助(印「日本橋南二丁目古梅園」)	午7月21日	切紙・1通	え4666-6
覚(瀧本房1軸ほか差引代金1両糙かに請け取り申すに付) 松本道具屋牧太(印)→浦野忠七様	閏4月16日	横切継紙・1通	え4666-10
(書状、売上並びに御注文書差し上げるので、御入掌下さるべき等に付) *(端裏書)「鉄之助様」 重大夫→(八田)鉄之助様	6月5日認置	横切継紙・1通	え4666-12
(書状、なて牛の引手について御注文には南京と仰せ越され、それとは違ふも先ずは差し上げるほか案文高覧なし下されるべきに付) *(端裏書)「鉄之助様 三右衛門」(中島)三右衛門→(八田)鉄之助様	10月7日	横切継紙/(え4666-1~19は括り紐一括)/(え4666-13-1~3は括り紐一括)・1通	え4666-13-1
覚(黒味亀引手諸品代金メ7匁7分代金糙かに受け取るに付) *(端裏書)「八田君」 名古や久次郎(印「本店芝神明前名古屋」)→上	亥ノ10月4日	横切継紙・1通	え4666-13-2
覚(黄茶間かへ20枚銭332文糙かに受け取るに付) *(端裏書)「八田君」 万や小兵衛(印)→中嶋参右衛門様	10月7日	横切紙・1通	え4666-13-3
覚(岸しま7尺9匁金銭書付) 増田店→八田鉄之助様御内浦野忠七様	亥7月29日	横切紙/(え4666-1~19は括り紐一括)・1通	え4666-14
覚(一蝶小三幅対など3品代金2両2分糙かに受け取り奉るに付) 越後嘉も三河屋喜七→八田嘉右衛門様御取次中	辰12月5日	縦紙・1通	え4666-15

1.内方/1.10.金銭・穀物請払/1.10.3.金銭勘定

覚(3ヶ所請け取り金1両3分など金銭勘定の上余銭納めるに付) 酒店→上	酉11月朔日	横切継紙・1通	え4666-17
覚(長柄杓1本などメ3匁余り代金慥かに受け取るに付) 山本嘉兵衛代茂兵衛[印]→上	8月15日	横切紙/(え4666-1~19は括り紐一括)/(え4666-18-1~3は一綴)・1通	え4666-18-1
覚(植木無地千鳥形御盃5枚代金慥かに受け取るに付) 黒口屋九兵衛[印]→上	8月15日	横切紙・1通	え4666-18-2
(書状、兼ねて仰せ蒙る庭柄杓2本など差し上げ申すに付) (関田)守之丞→(八田)鉄之助様	8月20日	横切継紙・1通	え4666-18-3
(生絹863文ほかメ74両1分9匁5分金銭勘定書付)		折紙/(虫損甚大)/(え4669-1~9は括り紐一括)/(え4669-1-1~17は括り紐一括)・1通	え4669-1-8
覚(大工手間賃・材料費、荒壁小舞・土台より古敷居仕込手間代差引2分余受け取るに付) 大工敬司→八田様御内	4月2日	横切継紙/(虫損)・1通	え4669-1-9
(縮綿110疋代金172両2分5匁ほか金銭書付)		折紙・1通	え4669-1-11
(書状、菜大根漬物入用のため金1分2朱恩借願) *(端裏書)[伊勢町様歎願申候 本之進] (落合)本之進→伊勢町様	9月21日	横切紙・1通	え4669-1-12
覚(戌年品々細工分3分2朱余などメ金1両1部余りなど諸代金勘定書付) 左官松五郎→八田嘉右衛門様御内	丑7月	横切継紙/(え4677-1~29は括り紐一括)・1通	え4677-1
覚(未年勘定分杓手間渡し分3両1分余などメ11両1分余り差引3両2朱余り差引御受け取り下さるべきに付) *(包紙上書)[久保寺村岩次郎殿差引書] 久保寺村岩治郎→杓代伊勢町(笠井)和七様	12月	折紙・1通	え4677-2
覚(塚原分忠右衛門殿より金9両など柴八方受取金書置に付)	8月3日	横切継紙・1通	え4677-6
(片桐良作ほか9名名前書付)		横切継紙・1通	え4677-7
(諸品代金メ480文勘定書上) *前欠 大和屋半兵衛→深美様	10月朔日	切継紙・1通	え4677-8
覚(本正書付引切1枚2匁8分ほかメ4匁2部余り受け取るに付) ますや太七(印)→松代(笠井)和七様	寅10月元(マ)日	横切継紙・1通	え4677-9
覚(男山札10引代1貫144文勘定書付) 菊屋伊右衛門→深美様	寅10月朔日	切紙・1通	え4677-10
覚(白滝1把20文ほかメ1貫234文勘定書付) *後欠 しまや助三郎	10月朔日	横切紙・1通	え4677-11
(買物代66匁・塀塗代ほか差し引き勘定書付) *前欠 傳兵衛→松五郎殿	丑7月	横切継紙・1通	え4677-12
(戌年分家賃金など4両2分余り差引1両2分余り受け取りの心得書付)		切継紙・1通	え4677-13
覚(戌年分金1両2分ほかメ3両勘定書付)		切紙・1通	え4677-14
覚(御鍋屋敷分金1両2朱余りなどメ3両1朱余りほか差引勘定書付)		横切継紙・1通	え4677-15

(1両3分余り11月30日2分渡し金に付書付)		縦紙・1通	え4677-16
(「六匁六分」書付)		切紙・1通	え4677-17
覚(北角屋敷様20坪中塗銀33匁ほかメ金1両3分余り差し引き勘定書上) 左官松五郎→八田様御内	亥7月	横切継紙/(虫損)/(破損)・1通	え4677-18
覚(戌年家賃滞文金1両2分余ほか勘定書上) 傳兵衛→松五郎様	寅7月	横切紙・1通	え4677-19
(先方にて受け取りの心得1両3分余り他勘定書付)		切紙・1通	え4677-20
覚(亥年家賃1両2分余り差し引き1両3分3朱勘定書付)		横切継紙・1通	え4677-21
覚(綱屋敷分金1分2朱余りメ金1両1分1朱余り差し引き勘定書付)		横切継紙・1通	え4677-22
覚(金9両1分余りほか差し引き勘定書付) →松五郎殿		横切継紙・1通	え4677-23
覚(西木町助七郎分4坪半銀5匁ほかメ31匁1分など差し引き勘定書付) 左官松五郎→八田御内	亥12月	横切継紙・1通	え4677-24
覚(戌年家賃金1両2分ほか家賃勘定書付)		横切継紙・1通	え4677-25
覚(松井文964文ほかメ2貫748文勘定書付) 左官松五郎→八田様御内(笠井)和七様	子7月	横切継紙・1通	え4677-26
(書状、私のこと去年中より不取締に付御尋ね恐れ入るにより去年中よりの不埒の事何卒御宥免願うに付)		横切継紙・1通	え4677-27
覚(三和4本正月7日4匁5分ほかメ14匁勘定書付) □まや松五郎→八田嘉右衛門様御内	卯7月	横切紙・1通	え4677-28
(酉年中所々御葉払立田様御葉92服御新造様ほか品物書上)	(酉年)	折紙/(え4678-1~17は紙紐一括)・1通	え4678-4
覚(名茶代金184文受け取るに付) なこや久治郎	7月16日	横切紙/(下札あり)・1通	え4678-6
覚(印鑑3種代金3両1朱333文請求に付) [印「版木師江戸橋四日市角御印判師高松勘四郎」]→佐々木様	とり5月18日	堅切紙・1通	え4678-14
(書状、昨晚のばけもの代を差し上げるに付) *(端裏書)「手形入」(岡野)敬一郎→おこう様	3月朔日	横切継紙/(え4680-1~57は括り紐一括)・1通	え4680-50
(相場書、くり綿・ちんき・油水白・加賀米ほか) 信のや弥左衛門	8月12日	横切紙/(え4681-1~32は括り紐一括)・1通	え4681-5
覚(式朱判1つ・下廻2枚代金を差し引きのうえ残り銭375文を渡すに付) 近江屋治兵衛(印「てんまおとわ町近江治」)	7月23日	横切紙・1通	え4681-8
(書状、注文の詔物代金ほか7両2分1朱6厘、為替証文御廻し下されたきに付) *(端裏書)「八嘉様」久右衛門→(八田)嘉助様	4月29日	横切継紙/(え4682-1~35は紙紐一括)・1通	え4682-8
覚(上ふり・なは棒・扇子・小杉など代金惣メ金5両2分2朱書上)		横切継紙・1通	え4682-31
覚(黒蒔絵付硯箱代金1分2朱受け取るに付) 彦兵衛[印「信州松代上中町小舩屋」]→嶺村吉兵衛様	戌2月11日	横切紙/(え4683-1~19は紙紐一括)・1通	え4683-14

1.内方/1.10.金銭・穀物請払/1.10.3.金銭勘定

(粃129俵3斗9升代金32両1分11匁7分に付書付)		切継紙/(え 4685-1~25は括 り紐一括)・1通	え4685-7
(書状、その節御断の一軸価2円1分にて何とぞ御譲り渡し 願いたきに付) 子静拝→斎藤様悴下		横切継紙/(え 4686-1~44は括 り紐一括)・1通	え4686-11
覚(鉄之助様分御上下・御扇子・畳紙3種1荷代金ほか金銭 書上) 樋村勇助	2月13日	横切継紙/(え 4691-1~50は括 り紐一括)・1通	え4691-9
覚(蓮根148文などメ480文諸品勘定書上) →上		横切継紙・1通	え4691-20
覚(餅米2石ほか受け取るに付) 菊屋傳兵衛[印]→岡川太一 郎様御内井田与三郎殿	未11月27日	横切継紙/(え 4692-1~26は括 り紐一括)・1通	え4692-4
覚(御料理代ほか金1両1匁余り受け取るに付) 松屋万藏 [印]→板倉様	6月8日	横切継紙・1通	え4692-17
覚(小麦代金10両1分余り受け取るに付) 斎藤善藏(印)・ 岡川太一郎→中町喜助殿	文政7申年正月	横切紙・1通	え4692-23
(品物代金領取書類綴)		綴/(え4698-1~ 23は括り紐一 括)・1綴	え4698-1
覚(御詔煙草盆代金43匁余の内28匁余請け取るに付) *(端裏書)「イセ」 黒江屋弥七[印]日本橋通□町目□塗物 品々くろゑや太兵衛]]→松木善八様	7月6日	横切紙/(え 4698-1~23は括 り紐一括)/(え 4698-1-1~9は綴 り一括)・1通	え4698-1-1
覚(大杉形御茶碗30代金572文受け取るに付) *(端裏書) 「いせ町」 松屋治兵衛(印「新橋松屋」)	7月10日	横切紙・1通	え4698-1-2
覚(面太織・絵絹地代金メ8匁7分受け取るに付) *(端裏 書)「イセ丁」 壺泉伊平次(印)→松木様御用	7月13日	横切紙/礼紙あ り・1通	え4698-1-3
覚(御琴爪袋代金15匁6分請け取るに付) *(端裏書)「イ セ」 菊屋藤藏(印「江戸芝神明前菊岡」)→松木様	6月晦日	横切紙・1通	え4698-1-4
覚(御茶盆代金2朱400文受け取るに付) *(端裏書)「イセ 丁」 相模屋忠兵衛(印「京橋中□因幡町相忠」)	戌6月22日	横切紙・1通	え4698-1-5
覚(御きせる2本など代金56匁受け取るに付) *(端裏書) 「イセ」 藤田屋弥左衛門(印「□□□藤田屋弥左衛門」)	7月16日	横切紙・1通	え4698-1-6
覚(茶31斤代金6匁受け取るに付) *(端裏書)「イセ」 鈴木 源助(印「芝神明前三嶋町新道鈴木」)→上	7月16日	横切紙・1通	え4698-1-7
覚(花入繕代・花入箱代など代金メ484文預かり金より返 すに付) *(端裏書)「いせ町」		横切紙・1通	え4698-1-8
覚(腰物2枚代金メ586文請け取るに付) *(端裏書)「いせ 町分売上ケ品也」 永の□藏(印「芝口式丁目経師」)	7月10日	横切紙・1通	え4698-1-9
覚(飯米・大麦・粃俵数並びに飯米代金・味噌代金・酒有金 など金銭書上)		横長半/(え 4700-1~6は括 り紐一括)・1冊	え4700-2
覚(懐中铁炮1挺御売上代金2分余り慥かに受け取り奉る に付) 彦兵衛[印]→金治様	卯11月	横切紙/(え 4702-1~37は括 り紐一括)・1通	え4702-25

覚(御はいはいらい2本代金慥かに受け取り申すに付) 鍵師 清太郎(印)→上	10月28日	縦紙・1通	え4702-31
(木綿1疋120文ほか諸品金銭勘定書付)		折紙/(え4703-1 ~13は括り紐一 括)・1通	え4703-5
(焼酎5合8勺など代金メ金22両余り勘定書付) *(端裏書) 「七月十八日申上候酒買上之覚」		切紙/(え4703-1 ~13は括り紐 一括)/(え4703- 10-1~3は括り 紐一括)・1通	え4703-10-1
慶応四辰年三月十八日相場付(粳・大麦・小麦など相場書付)		横切継紙・1通	え4703-10-2
(書状、去年中江戸表へ茶を頼むところ、代払不足あるに より去10月中より催促致すも申し延ばし置くに付) *(端裏書)「御内々申上」 (八田)義三郎	正月10日	横切紙/(え 4704-1~3は括 り紐一括)/(え 4704-2-1~9は 括り紐一括)・1通	え4704-2-16
(白米2石9斗3升6合など米穀高ほか書付)		横切紙/(え 4704-1~3は括 り紐一括)/(え 4704-3-1~74は 括り紐一括)・1通	え4704-3-9
(信州松代木町生本巻掛御蠟燭所印書)		切紙・1通	え4704-3-18
(包紙) *(包紙上書)「八田嘉助様 大塚孝三郎」		包紙・1点	え4704-3-26
(酒札1枚132文の時1割引にて9を掛118文余に付ほか書付)		横切紙・1通	え4704-3-27
覚(未年より戌年まで4両2分ほど金銭勘定書上) 中まな 屋善兵衛→八田嘉助様御内	卯7月	横切継紙・1通	え4704-3-40
覚(金4両3分余受け取るに付) 杉野屋御薬所(印「伊勢町杉 野屋薬種所」)→黒川様	12月14日	切継紙・1通	え4704-3-45
覚(金58両2分余金銭書上)	10月13日	切紙・1通	え4704-3-68
(うみきね2疋・脇差2本など残金3両1分余金銭書上)		横切継紙・1通	え4704-3-69
覚(葛粉・タンヒヨウ・鉄コンロ・銀きせるほか合金22両2分 3朱余金銭書上) (堀内)与一右衛門	戌12月	横切継紙/(え 4706-1~60は括 り紐一括)・1通	え4706-14
(書状、耳竹・牡丹皮・芍薬・はらひ粉・半夏・硝石など、買い 入れたき品に付) *(端裏書)「申六月廿五日 佐竹より来」 堀江(与一右衛門)→八田様	(申)6月19日	横切紙/(え 4709-1~22は括 り紐一括)/(え 4709-4-1~5は包 紙一括)・1通	え4709-4-4
覚(旅籠代・酒肴代メ1メ380文受け取るに付) ちこや鉄 蔵→上	11月3日	横切継紙/(え 4710-1~117は括 り紐一括)・1通	え4710-68
(書状、米5俵位確保願ひ、此節私人より買人多いため直 段が張り入手できざるに付) *勘返状 (八田)嘉助→ (関田)専之丞様	4月12日	横切継紙/(え 4710-1~117は括 り紐一括)・1通	え4710-73

1.10.4. 近代税金領収書

記(現地目調費第三期仮割分金7銭4厘に付領収書) 東條村惣代会計掛野分耕右衛門(印)→豊田傳兵衛殿	明治20年3月4日	小切紙/(え4669-1~9は括り紐一括)/(え4669-1-1~17は括り紐一括)/(え4669-1-1-1~2は一綴)・1通	え4669-1-1-1
記(現地目調費第三期仮割分金68銭7厘に付領収書) 野分耕右衛門(印)→八田知道殿	明治20年3月4日	小切紙・1通	え4669-1-1-2

1.10.5. 入用

年中家内入用調(非常手元として除き置く分ほか取り決めに付) *下書		切紙/(え4652-1~31は括り紐一括)・1通	え4652-15
-----------------------------------	--	--------------------------	----------

1.11. 勝手向**1.11.1. 勝手向立て直し**

御内々奉言上候(御家中外々迄流紙あり種々御心配御改革も在らせられたき御思し召しの御時節疑心と承知罷り在るに付)		横切紙継/(え4651-1~34は括り紐一括)・1通	え4651-18
乍恐以書取奉申上候(御改革のため昨夜御両所様より勤役も仕る様御内評仰せ付けられ成し下され御請け仕りかねるに付ほか)		横切紙継・1通	え4651-23

1.12. 儀礼**1.12.1. 出生**

(包紙)		包紙/(え4656-1~34は括り紐一括)・1点	え4656-23
(書状、私役替により越石御代官勘定所元ノ役兼帯仰せつけられるに付) * (端裏書)「八田嘉右衛門様・八田嘉助様 菊池孝助」 菊池孝助→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	2月朔日	切紙・1通	え4656-24
(書状、慎蔵様御内政様御安産、女子出生御祝いに付)	11月7日	横切紙/(え4698-1~23は括り紐一括)・1通	え4698-17
(書状、妻について男子出産、江府より申し来たるにより御承知下されるべきに付) 樋口健之丞→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	8月24日	切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-1-1~15は括り紐一括)・1通	え4704-1-5
(書状、妻男子出産御知らせに付) 菊池浪治→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	10月18日	切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-2-1~91は括り紐一括)・1通	え4704-2-8

1.12.2. 元服

(書状、水野敬之丞と改名、切鬘斗とも進上) *(上書)「水野大右衛門殿改名頼ニ付若斯相認候而御着代巻朱遣ス」		横切紙/(え4670-1~2は括り紐一括)/(え4670-2-1~3は括り紐一括)/(え4670-2-1-1~2は括り紐一括)・1通	え4670-2-1-1
口上(水野大右衛門改名文字、敬之字・之丞もよろしきに付) 竹花勘兵衛	8月7日	横切紙・1通	え4670-2-1-2
(書状、水野大右衛門御改名御頼み、折紙の通り進上に付)	8月19日	横切継紙/(え4670-1~2は括り紐一括)/(え4670-2-1~3は括り紐一括)・1通	え4670-2-2
(書状、水野大右衛門御改名御頼み、折紙の通り進上に付) *下書		横切紙・1通	え4670-2-3

1.12.3. 献上・進物

(青銅20匹進上品目録) *(付箋)「進上 八田鏡之助」 八田鏡之助知則		折紙/(え4667-1~15は括り紐一括)・1通	え4667-15
(黒柿仕立彫刻の御筆筒献上の次第、松木氏より御側役を通じて献上の品書付) *(端裏書)右之趣御用日記江書載申度候尤此趣相認候絵面一同袋入ニ致置可申事」	文政2卯年7月16日	堅切紙/(え4669-1~9は括り紐一括)/(え4669-1-1~17は括り紐一括)・1通	え4669-1-14
(書状、福嶋寺・浄徳寺・正行寺ほか決め事に付) *(封筒表書)「八田御二方様 秀」 坂本ひて(秀)→八田御母上様・御兄上様人々申上給へ	9月22日(近代)	横切継紙/(え4671-1~26は括り紐一括)・1通	え4671-14
(書状、到来の品軽微ながら貴覧に入れるに付) 寺町→いせ町様	朔日	横切紙/青色罫紙(10行)/(え4680-1~57は括り紐一括)・1通	え4680-7
(書状、北征日誌差し上げるに付) 松山丁→伊勢町様	2月27日	横切紙・1通	え4680-26
(書状、きせるを遣わし下されたことの御礼に付ほか) ちやう→おつる殿	15日	横切継紙・1通	え4680-27
御請(昨夜御使にて種々頂戴に付) (坂本)斎助	5月11日	横切紙・1通	え4680-34
(書状、軽少ながら柿三郎より差し上げるに付) 半蔵→(八田)慎蔵様	5月4日	横切紙・1通	え4680-38
(書状、蠟燭の形を差し上げるに付) *朱書にて返信書込み有 (八田)慎蔵→(坂本)斎助様	25日	横切紙・1通	え4680-44
(書状、大手御屏風献上仕立方何うに付) 八田嘉右衛門→三村養益様人々御中	12月28日	横切継紙/(え4684-1~15は括り紐一括)・1通	え4684-2
(書状、江戸表へ献上の御屏風内密御目に懸けるに付) 九左衛門→(八田)嘉右衛門様内要用	2月16日	横切継紙・1通(2枚)	え4684-3

1.内方/1.12.儀礼/1.12.3.献上・進物

(江戸上屋敷類焼の際大手御屏風焼失に付、八田方より御品内献上の件殿様より褒詞写) (御用番真田志摩守)→八田嘉右衛門	文化9壬申年4月18日	横切継紙・1通	え4684-4
(書状、江戸表にて御屏風御品献上に付) 甚蔵→(八田)嘉右衛門様	12月27日	横切継紙・1通	え4684-5
(書状、献上の大手御屏風仕立方など承知に付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様 鹿野外守」 鹿野外守→八田嘉右衛門様人々御中	正月7日	横切継紙・1通	え4684-6
(書状、大手御屏風献上相談したきに付) 八田嘉右衛門→鹿野外守様尊下	12月28日	横切継紙/(虫損)・1通	え4684-7
(書状、大手御用屏風内献上御挨拶を蒙り忝き次第に付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様 野本鍔治」 野本鍔治→八田嘉右衛門様	4月12日	横切継紙/(書状別紙カ)・1通	え4684-8
(書状、御屏風献上一条明日三村氏に申し置くに付) 渡辺友右衛門→八田嘉右衛門様	12月29日	横切継紙・1通	え4684-9
(書状、大手御屏風献上一件取り扱いに付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様 高山内蔵進」 (高山)内蔵進→(八田)嘉右衛門様	12月16日	横切継紙・1通	え4684-10
(書状、大手御屏風御献上の件、御郡方再応内談に及び御聞き済み大慶に付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様 鹿野外守」 (鹿野)外守→(八田)嘉右衛門様	12月11日	横切継紙・1通	え4684-11
(書状、大手御屏風内献上取り扱い、御念の入った御紙表を頂き忝なきに付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様 高山内蔵進」 高山内蔵進→八田嘉右衛門様貴答	2月25日	横切継紙・1通	え4684-12
(書状、大手御屏風献上御聞き済み、仕立方を仰せ付けられたきに付) 八田嘉右衛門→鹿野外守様人々御中	12月28日	横切継紙・1通	え4684-13
(書状、八田嘉右衛門より内献上の品の件にて丁寧の御挨拶と肴代30疋落手に付) 野本鍔治→松本源八様	3月21日	横切継紙・1通	え4684-14
(書状、野沢氏方の御礼取計い返書を御覧に入れるに付) *(端裏書)「いせ町様」 松本源八拜→八田様尊下	3月22日	横切紙・1通	え4684-15
(書状、今夕相伺った盃頂戴したく御様子伺うも有り合わせの品にてよろしきに付) 半兵衛→(八田)慎蔵様	23日	横切紙/(え4686-1~44は括り紐一括)・1通	え4686-35
(書状、先達て祐介が罷り出るところ、御珍しい一曲をかけられ芳慮浅からず御賞玩申すに付) *下書カ		横切継紙/(え4688-1~10は括り紐一括)・1通	え4688-7
(菓子・吸物など四月九日七十年賀献立書付)		折紙/(え4702-1~37は括り紐一括)・1通	え4702-36
(書状、御内話の炭燈御貰い遊ばれたき御様子によりその御心得にて御取り計らい成されるべきに付) 左吉→(八田)嘉右衛門様・(八田)嘉助様内用	7月18日	横切継紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-2-1~91は括り紐一括)・1通	え4704-2-1

1.12.4. 贈答・進物

(御礼金100疋) *(端裏書)「天保十五辰年八月八日塩屋義兵衛拂」 善光寺綿仲間		横切紙/(え4651-1~34は括り紐一括)・1通	え4651-7
---	--	---------------------------	---------

(書状、下駄二足・かけ帶うちひも他私書きおき申すに付)		横切継紙/(え4651-1~34は括り紐一括)/(え4651-33-1~2は括り紐一括)・1通	え4651-33-2
覚(御肴代・御奥様へ小杉1包ほか諸品願ひ奉るに付)		横切継紙/(え4652-1~31は括り紐一括)・1通	え4652-4
(書状、来る晦日離山にて角力興行仕る由にて、御神酒の儀藤田氏と御連名の下札にて差し越される様御頼み申し上げるに付ほか)	8月27日	横切継紙/(え4653-1~29は括り紐一括)・1通	え4653-24
(包紙) *(包紙貼書)「文政九丙戌年五月廿五日牟礼宿御本陣高野駒次郎先達中野元分大塚庚作殿同道致候付書翰持参内々委細返翰下案等入置此方より縮三反箱入ニテ行廻斗添書翰内ニ入候而右高野氏へ藤兵衛を以先達遠方御尋右三包致演説呉候相頼遣候」		包紙/(え4660-1~3は括り紐一括)/(え4660-1-1~7は包紙一括)・1点	え4660-1-1
(書状、最鄙生誘引のもの言語を謀す故間違いの儀御厄介に付) *(端裏書)「八田嘉右衛門様 大塚庚作」	5月23日	横切紙・1通	え4660-1-2
(書状、遠境御光来成し下され品々御恵投成し下され忝く存じ奉るところ、行き違いの儀思し召しにも差し障り恐れ入り奉るに付) 八田嘉右衛門→大塚庚作様	5月26日	横切継紙・1通	え4660-1-3
(書状、御面倒ながらこの下案の通り一寸相認め下さるに付) (八田)嘉右衛門→源左衛門様		横切紙・1通	え4660-1-4
(お香)		お香・1点	え4660-1-5
(書状、越後縮3反進上に付) 八田嘉右衛門→大塚庚作様		横切紙・1通	え4660-1-6
(書状、仰せ付けられ認物捧げるに付) *(端裏書)「口上」源右衛門→(八田)嘉右衛門様		横切紙・1通	え4660-1-7
(書状、当年の御参府日を楽しみ居り、大造の掛りを蒙り思念の事も一向ならず(に付) *(端裏書)「勢陽街大人座下裏街老人拝」	初秋13日	横切継紙/(え4660-1~3は括り紐一括)・1通	え4660-2
(書状、むぎ飯願ひ奉り御透にも御役所へ到来成し下され待ち奉るに付) *勘返状/(端裏書)「下々中松山丁様御答申上 上々嘉助」	2月27日	横切継紙/(え4663-1~45は括り紐一括)・1通	え4663-14
(書状、松兵衛へ下され物の儀、別紙の通りにて御承知置き成し下さるべきに付) *(端裏書)「嘉右衛門様嘉助様会所」	9月14日	横切継紙・1通	え4663-28
(書状、年尾の御祝儀として金100疋・妻方へ100疋ほか下し置かれ受納仕るに付) *(端裏書)「八嘉右衛門 友三」	12月25日	横切紙・1通	え4663-42
(書状、昨年中御煩うところ、養生湯早々御納御送り下され千万有難きに付)		横切継紙/(え4665-1~27は括り紐一括)・1通	え4665-5
(書状、昨日孝七が立ち寄り呉れ、栄太郎へ結構の品を下されたことへの御礼に付) *(封筒表書)「松代伊勢町八田慎蔵様 一幅添 村山村 松木董正」(松木)董正→伊勢町様	10月5日	堅紙/(え4671-1~26は括り紐一括)・1通	え4671-16
(書状、品々頂戴の御礼として西京婦人連月尼・桜木尼の短冊写し呈上に付) *(封筒表書)「八田新造様 佐々木了総」佐々木了総→八田知道様尊下	2月14日	横切継紙/(え4671-1~26は括り紐一括)/(え4671-26-1~5は括り紐一括)・1通	え4671-26-1

1.内方/1.12.儀礼/1.12.4.贈答・進物

(書状、珍葉恵投浪花以来の珍味御礼に付) 真田主人魏慶 (花押)→八田嘉右衛門君	仲春17日	横切継紙/(え 4674-1~35は括 り紐一括)・1通	え4674-9
覚(殿様へ青銅200疋ほか贈答品書上)		横切紙・1通	え4674-32
(書状、昨日何よりの御品頂戴し方丈へ差し出し御礼申し 上げるに付ほか) *(端裏書)「い勢町様御内見 田中銀司 従真山より書 包銭」	3月16日	横切継紙/(え 4674-1~35は括 り紐一括)/(え 4674-34-1~2は 括り紐一括)・1通	え4674-34-2
(書状、明28日御約束御故障の趣残念至極、その内御尊顔 申し上げるべきに付) *(端裏書)「八田様包添 □□」	卯月27日	横切継紙/(え 4674-1~35は括 り紐一括)/(え 4674-35-1~9は 括り紐一括)・1通	え4674-35-6
貴答(御賓客御名製の佳肴御投恵成し下され有難きに付) 叔玉拜→書鳩(八田嘉右衛門)様	卯月25日	横切紙・1通	え4674-35-7
(書状、御濃茶1袋御恵投下され忝きに付) *(包紙上書) 「松代御家中八田嘉右衛門様玉几下 岩村田法華堂」 法華 堂→八田嘉右衛門様参人衆中	12月8日	横切継紙/(え 4676-1~11は括 り紐一括)・1通	え4676-11
(書状、別通落手、廉荷の方もいづれ伺うに付) 廉助→(八 田)慎蔵様	3月16日	横切紙/(え 4680-1~57は括 り紐一括)・1通	え4680-51
(書状、今晚江部荘に盃振舞、帰りに持たせる酒肴を入れ る重箱をお借りしたきに付) つね→おこう様	2月29日	横切継紙・1通	え4680-56
(書状、昨日馳走御礼に付)		折紙/(え4681-1 ~32は括り紐一 括)・1通	え4681-20
(書状、百味祈禱執行、家内安全火災消除の御礼進覧に付) 大善院覚良(花押)→福地太左衛門殿	9月吉日	折紙/(え4682-1 ~35は紙紐一 括)・1通	え4682-7
(書状、この品子共衆へお遣わし下されたきに付)		横切紙・1通	え4682-20
(青銅30匹進上の目録) *文化10年12月22日馬場介作(印) の受取文言を後筆 八田嘉右衛門知義		折紙/(え4683-1 ~19は紙紐一 括)・1通	え4683-1
(青銅100匹進上の目録) *文化10年12月22日馬場介作(印) の受取文言を後筆 八田嘉右衛門知義		折紙・1通	え4683-2
(200疋ほか金銭書上)		横切紙/(え 4683-1~19は 紙紐一括)/(え 4683-6-1~3は紙 帯一括)・1通	え4683-6-3
(書状、家老・用人・勘定吟味役等へ御礼廻勤の際の御礼 金・礼物・目録に付) *(端裏書)「いせ町様」 松木拜→八 田公御机下	正月9日	横切継紙/(え 4683-1~19は紙 紐一括)・1通	え4683-13
口上(御肴料20疋並びに御遠来の御品御恵投成し下され 有り難きに付) 原民→伊勢町様	29日	切紙/(虫損)/ (え4685-1~25 は括り紐一括)・ 1通	え4685-13
(書状、この程中御殊多の御中品々御投恵成し下され有難 きに付) 寺町呈上→伊勢町様	7月念8日	横切継紙/(え 4686-1~44は括 り紐一括)・1通	え4686-2

(書状、この品甚だ如何なるも貴覧に入れるにより御一笑成し下されるべきに付) (三沢)刑部丞→(八田)慎蔵様		横切継紙・1通	え4686-7
(書状、寒製蕎麦粉1袋・麦粉1袋粗末ながら貴覧に入れるにより御取納成し下されるべきに付) 坂本丑之助拜→八田慎蔵様尊下	水無月8日	横切継紙/(虫損)・1通	え4686-43
(書状、昨日御品頂戴の方返上仕ること恐れ入るにより暫くの間落手の儀を御訴訟申上げ願ひ奉るに付)		切紙/(虫損)/(え4692-1~26は括り紐一括)・1通	え4692-12
(書状、御内話にあった所持の刀9腰御覧に入れるところ、相改めたところ2尺8寸位の外なく長き所選び出し差し上げるに付) (堀内)太一郎→(八田)嘉右衛門様	10月6日	横切継紙・1通	え4692-16
(書状、結構之品頂戴忝きに付) (八田)慎蔵→松山丁様		横切紙/(え4698-1~23は括り紐一括)・1通	え4698-3
(書状、先刻御預りの品差し上げるに付) (堀内)与一右衛門→(八田)鉄之助様	2月15日	横切紙・1通	え4698-8
松露(松露進上目録) 柳沢新田村源九郎		小切紙・1通	え4698-9
(書状、探幽三幅対を一寸御下げ下されたきに付) (八田)慎蔵→松雪庵先生	10月29日	横切紙・1通	え4698-19
(書状、御荷物御注文の通り受け取るに付) 坂原兵左衛門内山内惣七→八田孫左衛門様御内安川幸七殿	2月晦日	縦紙/(え4702-1~37は括り紐一括)・1通	え4702-14
覚(御大小柄巻片稔り10匁などノメ67匁代金勘定書上) 戸田専助[印]→小山田重太夫様	6月26日	縦紙・1通	え4702-15
(書状、歳暮の御祝儀麦粉1袋進上のところ、めでたく御祝納下されたならば忝く存じ奉るに付) *(端裏書)「八田孫左衛門様安 坂原兵助」	12月24日	縦紙・1通	え4702-17
(書状、この程御願ひ上げの御品沢山下され有り難く存じ上げるに付) 片山丁→いせ町様	14日	横切継紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-2-1~91は括り紐一括)・1通	え4704-2-19
(書状、先日御話の掛物兩幅方丈より差し上げられるに付) *(端裏書)「嘉助様掛物添 久慈」 久慈→(八田)嘉助様	20日	横切紙・1通	え4704-2-66
(書状、御大切の御品恩借忝きところ、拝領品少々配分申上げに付) 大英寺→(八田)嘉助様	10月26日	横切紙・1通	え4704-2-70
(書状、御有来品々御恵投成し下されるところ、御礼申上げるに付) 松雪	26日	横切紙・1通	え4704-2-71
(書状、見事なる御蕎麦下され有り難く御礼申上げたきに付) 矢野倉惣之進様より	12月7日	切継紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-3-1~74は括り紐一括)・1通	え4704-3-29
(書状、品々御恵投下され千万忝きに付) 乗庵→山長舎君	正月2日	横切紙・1通	え4704-3-30
(書状、その節御咄について代官町御使成し下されるも返報参り申すにより差し上げ奉るに付) 一泡庵→(八田)嘉助様	20日	横切紙・1通	え4704-3-31

1.内方/1.12.儀礼/1.12.4.贈答・進物

(書状、拙僧について白絹3反頂戴仕り冥加至極有り難きに付) 大林寺→八田嘉助様・八田嘉右衛門様	12月21日	横切紙・1通	え4704-3-38
(包紙) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様御役人様 横谷源八郎紙年添」		包紙・1点	え4704-3-44
(札「進上鯉節」)		札・1点	え4704-3-50
(白紙)		切紙・1通	え4704-3-51
(師岡御奥様・中村おみを様ほか名前書上)		横切継紙・1通	え4704-3-65
(八田孫太郎従東100疋など御祝料ほか書付)		切継紙・1通	え4704-3-67
(書状、世役仁平下される物について当年は御失念なく御増し願ひ奉るに付)		切継紙・1通	え4704-3-71
舌代申上(嘉右衛門様御機嫌伺として粗品差し上げ奉るに付) 忠兵衛	4月朔日	切紙・1通	え4704-3-72
(書状、御両品を恵投いただき御礼に付) 素弓→書鳩(八田嘉右衛門)様御下	閏11月6日	横切紙/(え4706-1~60は括り紐一括)・1通	え4706-31
(書状、享保その外の御書付等御覧に入れたところ御感佩、大切に御しましておかれると仰せ、差し上げるに付) 松本嘉十郎→八(八田)嘉助様	10月23日	横切継紙/(え4709-1~22は括り紐一括)・1通	え4709-21
(書状、挽蕎麦を一箱差し上げるに付) *反古		横切紙/(え4710-1~117は括り紐一括)・1通	え4710-87
(書状、遺品を御贈りいただきありがたきに付) 惣三郎→(八田)嘉助様	正月22日	横切継紙・1通	え4710-97
(書状、御祝儀として鶏卵を送るに付)	3月4日	横切紙・1通	え4710-103
(書状、今日口切の納豆進上に付) 本池□→八(八田)嘉助様	12月24日	横切紙・1通	え4710-110
(書状、藤中窺いとして鹿末の品進上に付) 藤左衛門→(八田)嘉助様	12月24日	横切紙・1通	え4710-112

1.12.5. 婚姻・離縁

(書状、先達て仰せ出された御養女のご御双方御届けにて相済むに付) (堀内)太一郎→(八田)嘉右衛門様	2月22日	横切継紙/(え4648-1~9は括り紐一括)/(え4648-8-2を巻き込み)・1通	え4648-8-1
口上覚(私養女岡野弥右衛門倅陽之助へ縁組したく御家老中まで御執り成し頼み奉るに付) 八田嘉右衛門→金井左源太殿・岡島莊藏殿	月日	縦紙/(え4648-1~9は括り紐一括)/(え4648-8-1に巻き込み)・1通	え4648-8-2
(書状、御関所の事は如何の訳柄相分り申さず、参るにも不親儀の事のみにて永統致さず離縁相成る様御声掛りを御願ひ申し上げるに付)		横切紙/(え4662-1~25は括り紐一括)・1通	え4662-1
(書状、藤田氏一条御懇情仰せ下さる趣、其儀能わざる段御海容下さるべきに付) *(端裏書)「未十二月十八日石和氏へ遣候下案」 八田嘉右衛門→石和志摩様貴報	12月18日	横切継紙/(え4673-1~7は括り紐一括)/(え4673-7-1~3は括り紐一括)・1通	え4673-7-1

(書状、藤田伝左衛門殿上田表情妓ありお房殿追出し仕る存寄に付、内談仕りたく私病身ゆえ御使迄御同道下されたきに付) 石和志摩頭→八田嘉右衛門様	12月16日夜認	折紙・1通	え4673-7-2
(書状、私松平伊賀守様御家来大橋五右衛門娘縁組みしたく願ひ出るに付) 小幡長右衛門→八田嘉助様	11月朔日	横切紙/(え4691-1~50は括り紐一括)・1通	え4691-5
(書状、弟弘衛について上原喜左衛門殿より養子に致したく申し聞くにより御届けに付) 樋口旗之助→八田嘉助様		切紙・1通	え4691-33
(書状、私娘松木東倅源太郎と縁組みしたきに付) *下書		横切紙・1通	え4691-36
(書状、御祝儀首尾良く相済む場合、御用役より手紙をもって申し遣わすべきに付)		切紙・1通	え4691-45
(御祝儀使者受け答え・対応ほか書付)		切紙・1通	え4691-50
(書状、倅源太郎の縁組願書差し出すに付) *下書 →寺町・別増田・小林・八田・徳田・小山田・師岡・水井・大瀬・岡野・矢野・樋口・竹口・□地・村田・三沢	11月16日	横切継紙/(え4698-1~23は括り紐一括)・1通	え4698-20
(書状、妹について友野俊蔵へ縁組したき願ひの通り仰せつけられ有り難きに付) 小野喜平太→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	11月4日	切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-11~15は括り紐一括)・1通	え4704-1-4
(書状、娘について真田勘解由へ縁組したきに付願ひ上げるところ、願ひの通り仰せつけられるに付) 横田甚五左衛門→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	4月18日	切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-2-1~91は括り紐一括)・1通	え4704-2-17
(書状、縁女について来る24日引き取り婚姻整うはずと申し合わせ御知らせに付) 中村左兵衛→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	12月28日	切紙・1通	え4704-2-35
(書状、私小野喜平太妹と縁組したく、願ひの通り仰せつけられ有り難きところ、御知らせに付) 友野俊蔵→八田嘉右衛門様・八田嘉助様		切紙・1通	え4704-2-75
(書状、娘について皆神山和合院と縁組したく願ひの通り仰せつけられるにより御知らせに付) 長谷川左馬介→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	12月4日	切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-3-1~74は括り紐一括)・1通	え4704-3-46
(書状、私志村又市姉縁組したく願ひの通り仰せつけられるにより御知らせに付) 大沢兵慈→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	12月18日	切紙・1通	え4704-3-62

1.12.6. 葬儀・法事

(書状、御同姓嘉右衛門殿御内室様御病気のところ、御養生叶わず御死去により御愁傷御察し申すに付) *(包紙上書)「八田嘉助様返書済 池田要人」 池田要人昌昭(花押)→八田嘉助様	4月14日	横切継紙/(え4647-1~16は括り紐一括)・1通	え4647-1
(書状、御内室様御病気御養生叶わず御死去罷りなるところ、御愁傷御察し奉るに付) *(端裏書)「片岡源左衛門殿返書済」 片岡源左衛門→八田嘉右衛門様	5月朔日	横切紙・1通	え4647-2

1.内方/1.12.儀礼/1.12.6.葬儀・法事

(書状、御内儀様御病氣御養生叶わず御死去とのこと御愁傷察し奉るに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様返書 済 河原理助 草間元司」 草間元司・河原伊右衛門・赤沢嘉兵衛・長谷川深美・村田覺兵衛・磯田小藤太・成澤勘左衛門・綿内右門・鹿野茂手木・河原理助→八田嘉右衛門様	4月27日	横切継紙/ (虫損)・1通	え4647-3
(書状、御不幸御愁傷に付並びに願光院様御遺物縞縮緬1端反物御送り下され有り難きに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様返書 済 小山田重太夫」 (小山田)重太夫→(八田)嘉右衛門様・(八田)嘉助様・御惣容様	5月6日	折紙/(虫損)・1通	え4647-4
(書状、御内室様御病氣御養生叶わず御死去になられるところ、御愁傷察し奉るに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様返書 済 杉田九八郎」 杉田九八郎→八田嘉右衛門様	4月11日	横切継紙/ (虫損)・1通	え4647-5
(包紙) * (包紙上書)「八田嘉助様返書 済 坂本常左衛門」		包紙/(虫損)/(え4647-1~16は括り紐一括)/(え4647-6-1~3は包紙一括)・1点	え4647-6-1
(書状、御母上様御病氣御養生叶わず御死去になられるところ、御愁傷察し奉るに付) 坂本常左衛門→八田嘉助様	4月13日	横切継紙/ (虫損)・1通	え4647-6-2
(書状、御母上御病氣御養生叶わず御死去察し奉るところ、御縁中御惣容様御障り遊ばれること無き哉伺いたきに付) (坂本)常左衛門→(八田)嘉助様	4月13日	横切紙/(虫損甚大)・1通	え4647-6-3
(書状、御内室様御病氣御養生叶わず御死去のこと御愁傷の程察し上げ奉るに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様返書 済 樋口与兵衛」 (樋口)与兵衛→(八田)嘉右衛門様	5月21日	横切紙/(え4647-1~16は括り紐一括)・1通	え4647-7
(書状、御母上様御病氣御養生叶わず御死去なされるところ、御愁傷の程察し上げ奉るに付) * (封筒表書)「八田嘉助様返書 済 樋口与兵衛」 (樋口)与兵衛→(八田)嘉助様	5月6日	横切継紙/ (虫損)・1通	え4647-8
(書状、御内室様御病氣御養生叶わず御死去なされるところ、御愁傷の御儀察し奉るに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様返書 済 落合弾蔵」 落合弾蔵朝貴(花押)→八田嘉右衛門様	5月14日	折紙/(虫損)・1通	え4647-9
(書状、御内室様御病氣御養生叶わず御死去なされるところ、御愁傷の段御察し申すに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様返書 済 赤澤只右衛門 赤澤寛次郎」 赤澤寛次郎・赤澤只右衛門→八田嘉右衛門様	5月25日	横切紙/(虫損)・1通	え4647-10
(書状、奥方様御病氣御養生叶わず御死去なされ察し奉るところ、御煎茶1袋呈上により御霊備なし下されるべきに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様返書 済 堀内半右衛門」 堀内半右衛門→八田嘉右衛門様	4月9日	折紙/ (虫損甚大)・1通	え4647-11
(書状、御内室様御病氣御養生叶わず御死去の由、御愁傷御察し遊ばされるべく申し上げ奉るに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様返書 済 坂井直太郎」 坂井直太郎→八田嘉右衛門様	4月5日	折紙/(虫損)・1通	え4647-12
(書状、御病人様御養生も叶わず御死去の段驚き入り御愁傷の程察し奉るに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様返書 済 徳田五百人」 (徳田)五百人→(八田)嘉右衛門様・(八田)嘉助様	4月8日	横切継紙/(虫損)・1通	え4647-13

(封筒) * (封筒表書)「嘉助様返書 済 周蔵」		封筒/(虫損甚大)/(え4647-1~16は括り紐一括)/(え4647-14-1~3は封筒一括)・1点	え4647-14-1
(包紙) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 佐竹周蔵」		包紙/(虫損)/(え4647-1~16は括り紐一括)/(え4647-14-1~3は封筒一括)/(え4647-14-2-1~3は包紙一括)・1点	え4647-14-2-1
(書状、御母上様御病氣御養生叶わず御死去の段御愁傷の程推察奉るに付) 佐竹周蔵→八田嘉助様	4月9日	横切紙/(虫損)・1通	え4647-14-2-2
(書状、御内方様御病氣御養生叶わず御死去の段御愁傷の程推察奉るに付) 佐竹周蔵→八田嘉右衛門様	4月9日	横切紙/(虫損)・1通	え4647-14-2-3
(書状、御不幸の折御霊前へ粗品ではあるものの御備なし下される様願上げ奉るに付) (佐竹)周蔵→(八田)嘉助申上	11月11日	横切継紙/(虫損)/(え4647-1~16は括り紐一括)/(え4647-14-1~3は封筒一括)・1通	え4647-14-3
(書状、御内室様御病氣御養生叶わず御死去なされる段御愁傷御察し申上げるに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様返書 済 池田要人」 池田要人昌昭(花押)→八田嘉右衛門様	4月14日	横切紙/(え4647-1~16は括り紐一括)・1通	え4647-15
(書状、御内室様御病氣御養生叶わず御逝去の段御愁傷察し奉る所、煎茶2袋進上するにより御悔みに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様返書 済 中澤与三右衛門」 中澤与三右衛門宴熙(花押)→八田嘉右衛門様	4月7日	折紙/(虫損)・1点	え4647-16
(包紙) * (包紙上書)「松代中町野池六郎兵衛様無事用 両僧」/(包紙裏書)「自原市久間奉書 宝昌寺圓福寺」		包紙/(え4648-1~9は括り紐一括)/(え4648-3-1~4は包紙一括)・1点	え4648-3-1
(書状、別紙御家内様へ宜しく御伝達の程願ひ奉るに付)		切紙・1通	え4648-3-2
覚(御葬式1卷代金7両1分ほか差引メ金7両1分余来る20日迄出来仕るに付) 小越町尾右衛門(印)→御世話人中様	酉2月9日	横切継紙・1通	え4648-3-3
(書状、拙寺共晦日4つ時出立するも室間寺病により上田まで漸く罷り越し朔日終日上田井筒屋宗兵衛殿方に逗留に付) 両僧(宝昌寺・圓福寺)→野池六郎兵衛殿	2月4日	横切継紙・1通	え4648-3-4
(書状、同姓儀も旧冬より病床に平臥致し去月11日死去致すに付) (片岡)俊蔵→(八田)嘉右衛門様	5月21日	横切紙/(え4653-1~29は括り紐一括)・1通	え4653-21
(書状、御養生叶わず御終焉を在らせられ、御時節柄御葬式省略、御棺・御埋葬など御例を以て取り計らうに付)		折紙/(え4662-1~25は括り紐一括)・1通	え4662-15

1.内方/1.12.儀礼/1.12.6.葬儀・法事

口上(宝勝院一回忌法事執行に付) 八田知道	(明治15年)10月	横切紙/(え4669-1~9は括り紐一括)/(え4669-1~17は括り紐一括)・1通	え4669-1-6
(書状、盆前参上仕り種々御馳走仰せ付けられ御礼に付) *(包紙上書)「信州松代八田嘉右衛門様上 七尾傳左衛門・中村屋五郎七」/(包紙裏書)「より越後高田」 中村屋五郎七・七尾屋傳左衛門代利右衛門→八田嘉右衛門様	9月27日	折紙/(え4674-1~35は括り紐一括)・1通	え4674-1
(書状、お安死去、遺品の衣服其外諸道具をどちらで引き取るべきか相談に付)	(7月21日)	豎切紙/(え4678-1~17は紙紐一括)・1通	え4678-8
(書状、上本陣当主甚左衛門殿当正月19日死去の次第) (八田)鏡次郎→御兄上様	正月20日	横切継紙/(え4682-1~35は紙紐一括)・1通	え4682-18
覚(3月29日・朔日分の饅頭・飛龍頭・豆腐・銀杏・干瓢・湯葉ほか品物書上)		横切継紙/(え4683-1~19は紙紐一括)・1通	え4683-7
三月廿九日より四月朔日迄御法事献立		横切継紙/(虫損)・1通	え4683-8
覚(饅頭・今飯・飛龍頭・豆腐ほか品物書上)		横切継紙/(虫損)・1通	え4683-9
(猷光院法要招待客名書上、寺町佐々木友三老ほか8名)		横切紙/(虫損)/(え4683-1~19は紙紐一括)/(え4683-10-1~3は紙紐一括)・1通	え4683-10-1
(雇人・御頼人名前書付、久米吉ほか4名)		横切紙・1通	え4683-10-2
(書状、来29日猷光院一周忌法要招待に付) 八田嘉右衛門	3月	横切紙/(虫損)・1通(3枚)	え4683-10-3
(書状、清香院初七日来る5日相当により御宅法事致すにより御家内様御出成し下さるべきに付) (山越)嘉膳→(八田)慎蔵様	7月2日	横切紙/(え4686-1~44は括り紐一括)・1通	え4686-14
(書状、御法事について昨夜までは山崎の両氏罷り出るか存じ居り見合罷りあるに付) (八田)喜兵衛→(八田)慎蔵様	6月17日	横切継紙・1通	え4686-19
(書状、昨年2月中出生の孫女病気に罷り在るところ、養生相叶わず死去仕るに付)	9月3日	横切継紙・1通	え4686-23
(書状、来る23日の夜より24日昼中まで大法会執行仕るにより遠路御苦労ながら御尊来願うに付) 坂本幸右衛門→八田慎蔵様尊下	8月11日	横切継紙・1通	え4686-40
(書状、玄曠院法事により御備物なし下され有難く御礼申上げるに付) *墨消 (八田)慎蔵→□助様	11月30日	横切紙/(え4691-1~50は括り紐一括)・1通	え4691-3
(書状、玄曠院法事により御備物なし下され有難く御礼申上げるに付) *墨消 (八田)慎蔵→□殿様	11月30日	横切紙・1通	え4691-4
(書状、玄曠院法事により御備物なし下され有難く御礼申上げるに付) *墨消 (八田)慎蔵→□文様	11月30日	横切継紙・1通	え4691-12
(長谷川藤五郎ほか6名人名書付) *後欠		横切紙・1通	え4691-13

(書状、玄曠院法事に付) *下書		横切紙・1通	え4691-14
(書状、終日御馳走仰せ付けられるところ、甚だ酩酊致すにより御厚礼に付) *後欠		横切継紙・1通	え4691-15
(書状、同姓嘉助について病気のところ養生叶わず死去致すに付)	11月24日	横切紙・1通	え4691-19
(書状、玄曠院法事御出御焼香に付) *下書		横切紙・1通	え4691-21
(書状、玄曠院法事により御備物なし下され有難く御礼申しあげるに付) *下書/(端裏書)「嘉十郎様書用 慎蔵書損」(八田)慎蔵→(松本)嘉十郎様	11月30日	横切継紙・1通	え4691-22
(書状、玄曠院法事により御備物なし下され有難く御礼申しあげるに付) *墨消 (八田)慎蔵→常左衛門様	11月30日	横切紙・1通	え4691-23
(うどん・井など献立書付)		横切紙・1通	え4691-24
こふ上(玄曠院法事により御備物なし下され有難く御礼申しあげるに付) (八田)慎蔵内→村田御奥様		横切継紙・1通	え4691-25
こふ上(玄曠院法事により御備物なし下され有難く御礼申しあげるに付) (八田)慎蔵内→三沢御新造様		横切継紙・1通	え4691-26
(御祝儀使者受け答え・対応などにつき指南書) *前後欠		横切継紙・1通	え4691-27
(「弥御得不被成御座候由」書付)		横切紙・1通	え4691-28
(書状下書)		切紙・1通	え4691-29
(白紙)		横切紙・1通	え4691-30
こふ上(玄曠院法事により御備物なし下され有難く御礼申しあげるに付) (八田)慎蔵内→上村御新造様		横切継紙・1通	え4691-32
(書状、同姓嘉助当月16日より不快のところ、養生叶わず今晚死去致すに付)	11月24日	横切紙・1通	え4691-34
口上(玄曠院法事により御備物なし下され有難く御礼申しあげるに付) (八田)慎蔵内→矢野御奥様		横切継紙・1通	え4691-35
(書状、同姓嘉助養生叶わず今晚死去致すに付)		横切紙・1通	え4691-37
(「唐沢上」)		切紙・1通	え4691-38
(白紙)		切紙・1通	え4691-39
(書状、同姓嘉助病気のところ、病状重きに付)	11月24日	横切紙/青色罫紙・1通	え4691-40
口上覚(私実母方の親八田嘉助死去仕るにより忌福日数など御届けに付) 八田慎蔵→神戸美濃輔様	11月24日	横切紙・1通	え4691-41
(書状、来る20日晚より21日朝まで執行するにより御焼香御出下されるべきに付) 八田嘉助	3月18日	切紙/(え4692-1~26は括り紐一括)・1通	え4692-6
(書状、御悔の名代に預かり忝きに付) 真田志摩→八田嘉右衛門様	7月	横切紙/(え4698-1~23は括り紐一括)・1通	え4698-10
(書状、安山初七日・五七日法事執行、御出で下されたきに付) 宗三郎→(八田)慎蔵様	5月18日	横切継紙・1通	え4698-22

1.内方/1.12.儀礼/1.12.6.葬儀・法事

(書状、悴繁太郎死去の知らせ) 柳春幾久→八田嘉右衛門様	7月28日	横切紙/(え4701-1~29は括り紐一括)・1通	え4701-23
(書状、差し合いの節は御悔顔として御長く忝きところ、忌明なれど病気に付) 小幡又八郎		切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-1-1~15は括り紐一括)・1通	え4704-1-11
(書状、母病気のところ、養生叶わず死去致すに付) 斎藤善蔵→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	11月27日	切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-2-1~91は括り紐一括)・1通	え4704-2-5
(書状、兄縫殿之輔病気のところ、養生叶わず死去致すに付) 蟻川賢之助→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	10月16日	切紙/(虫損)・1通	え4704-2-24
(書状、同姓弥惣右衛門病気のところ、養生叶わず死去致すに付) 菅沼源之丞→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	8月20日	切紙・1通	え4704-2-25
(書状、昨晚は寺まで御出下され御礼に付) 蟻川賢之助→八田嘉助様	10月18日	切紙・1通	え4704-2-26
(書状、昨晚は寺まで御出下され御礼に付) 蟻川賢之助→八田孫太郎様	10月18日	切紙・1通	え4704-2-44
(書状、法事御出の上仏前へ御備者下されること御礼に付) 典せん内→(八田)嘉助さま之御内方さま		横切紙・1通	え4704-2-57
(書状、娘について病気のところ、養生叶わず死去致すに付) 大瀬義八郎→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	10月18日	切紙・1通	え4704-2-60
(書状、この程御悔預として御出くだされ忝きにより御礼申し達するに付) 真田圖書→八田孫太郎様	10月	切紙・1通	え4704-2-62
(書状、悴源太郎について初めて御目見え首尾よく申上げること有り難く御知らせに付) 松木東→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	11月朔日	切紙・1通	え4704-2-63
(包紙) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様御内 東木町彦之助」		包紙・1点	え4704-2-85
口上覚(次男幸太郎病気養生叶わず死去仕るに付) 東木町彦之助→八田嘉右衛門様御役人中様	11月16日	横切紙・1通	え4704-2-86
(書状、小龍院一月忌相当により私方法事執行致すにより御焼香下さるべきに付) (徳田)五百人→(八田)嘉右衛門様・(八田)嘉助様	正月16日	横切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-3-1~74は括り紐一括)・1通	え4704-3-55
(書状、風邪にて今夕の法事には出られないため、御霊前へこの品を御備え下されたきに付) 治左衛門→(八田)嘉助様	12月13日	横切紙/(え4710-1~117は括り紐一括)・1通	え4710-109
(書状、御同姓様の死去を御悔み申し上げるに付) 小池いね→八田嘉助様	12月18日	横切紙・1通	え4710-113
(書状、御愁傷につきこの品を御霊前へ御備え下されたきに付) (堀田)覚兵衛→(八田)嘉助様	12月14日	横切紙・1通	え4710-115

1.12.7. 引越為知

(書状、東京出立、当月下旬には帰国したきに付) 同喜兵衛 →角喜清七様・孝七様	2月24日	横切紙/(え 4680-1~57は括 り紐一括)・1通	え4680-46
--	-------	-----------------------------------	----------

1.12.8. 年賀状・暑中見舞・寒中見舞

(書状、この度寒中御見舞いとして常田氏同勤佐藤伝次 殿大和屋弟嘉兵衛殿仰せつけ罷り越すにより呈上す るにも不順なき様一統祈るに付) *(端裏書)「西十二月十三日和七より来帖裏ニ下 案留置候」 笠井和七→小出六右衛門様	12月11日	横切継紙/(え 4648-1~9は括 り紐一括)・1通	え4648-6
(書状、作物等も只今の様子にては宜しき由、この上のところ も不順なき様一統祈るに付) *(包紙上書)「八田嘉右衛 門様申上 近藤淳輔」(近藤)淳輔→御祖父様・御叔父様申上	7月2日	横切継紙/(え 4653-1~29は括 り紐一括)・1通	え4653-1
(書状、前封御達し成し下されるに付)		切紙・1通	え4653-2
(書状、暑中御見廻迄に縞縮2反相贈り年寄共も宜しき御 意を得る様申し付けるに付) *(包紙上書)「八田嘉右衛 門様 高田茂左衛門浅山仁兵衛杉原勝太夫」杉原勝太夫 教包(花押)・浅山仁兵衛正明(花押)・高田茂左衛門良容(花 押)→八田嘉右衛門様	6月9日	折紙・1通	え4653-3
(書状、飯山より暑中御尋ねとして縞縮2反下し置かれ御 請両通相認め差し遣わずに付)	文政13年寅6月9日	切紙・1通	え4653-13
(書状、盆中は御使い成し下され御事多の中仏前へ御一 品御供え下され有り難きに付) *(端裏書)「八田嘉右衛 門様同廿四日返書遣ス 岡川太一郎」	7月20日	横切継紙・1通	え4653-20
(書状、私儀去年出府、昨年中も帰宅申し付けられ出府以 来用儀多く当年に至りても多用、帰宅申し付けられる 儀、計り難きに付ほか) 栢窓拜→書鳩(八田嘉右衛門)君 侍右		横切継紙・1通	え4653-29
(包紙) *(包紙裏書①)「小山田重太夫様用事 松木源八」、(包 紙裏書②)「松木源八様 くし本神主」		包紙/(虫損)/(え 4656-1~34は括 り紐一括)/(え 4656-10-1~4は 包紙一括)・1点	え4656-10-1
(年賀状) 小山田重太夫→八田嘉右衛門様・八田嘉助様・八田 孫兵衛様・八田鉄次郎様人々御中	正月2日	横切継紙/(虫 損)・1通	え4656-10-2
(梅庵雅兄伊勢参詣に際する送り歌) 書鳩(八田嘉右衛門)		切紙・1通	え4656-10-3
(年賀挨拶状返信状) *下書カ 浄福寺崇愿禅師墨跡→六左 衛門様・惇輔様几下	正月14日	折紙・1通	え4656-10-4
(年賀状) *(包紙上書)「伊勢松代 發田嘉右衛門様 参人々御 中[印] 中村貞助」/(裏書)「正月 從江戸 浅草裏川戸 戸 沢長左衛門」 中村貞助忝順(花押)→發田(八田)嘉右衛門様 参人々御中	正月	折紙/(え4659-1 ~22は括り紐一 括)・1通	え4659-5
(年賀状) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様参人々御中 宮川 安右衛門」 宮川安右衛門桐泰(花押)→八田嘉右衛門様	正月2日	折紙・1通	え4659-14

1.内方/1.12.儀礼/1.12.8.年賀状・暑中見舞・寒中見舞

(書状、冷氣相増し御安静召し出され御勤め珍重に付) *後欠/下書		横切紙/(え 4663-1~45は括 り紐一括)/(え 4663-23-1~3は 括り紐一括)・1通	え4663-23-1
(書状、冷氣相増し御安静成され御勤め珍重に付) *後欠 /下書		横切継紙・1通	え4663-23-2
(書状、その後は何かと御互いに首尾通り御海容成し下さ るべきに付) *後欠/下書		横切紙・1通	え4663-23-3
(書状、年賀状並びにこの節武州滝山大善寺と申す檀林 所に精務仕るにより御休意なし下されるべきに付ほ か) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様人々御中 了玉」/(包紙 裏書)「武州滝山大善寺発 御苔三十枚済」/(端裏書)「勢州 様」 了玉→八田嘉右衛門様人々	正月5日	横切継紙/(え 4666-1~19は括 り紐一括)/(え 4666-1-1~13は 括り紐一括)・1通	え4666-1-1
(年賀状、出立の節御厚情をなし下されたことの御礼ほか) * (封筒表書)「伊勢町八田知道様平安信 豊前国小倉県旧三 ノ丸新宮水井周礼」	1月5日	縦継紙/(え 4671-1~26は括 り紐一括)・1通	え4671-23
(年賀状) * (端裏書)「八田様」 松木源八→八田嘉右衛門様 人々御中	正月3日	横切紙/(え 4683-1~19は紙 紐一括)・1通	え4683-11
(山城市之丞殿ほか同道名前書上)		横切紙・1通	え4683-12
(書状、寒冷のところ、益々御機嫌宜しく恐悦に付) *下書		横切紙/(え 4685-1~25は括 り紐一括)・1通	え4685-14
(「拜見仕候冷氣相増候得共」書付) *下書		横切紙・1通	え4685-23
(書状、年末御祝儀として3種拜受仕るにより何とも痛み 入り有難きに付) * (端裏書)「御請 片葉」 片葉	12月29日	横切継紙/(え 4692-1~26は括 り紐一括)・1通	え4692-13
(年賀挨拶状) 佐竹周蔵→八田辰三郎様・八田嘉助様		横切紙/(え 4704-1~3は括 り紐一括)/(え 4704-2-1~91は 括り紐一括)・1通	え4704-2-83
(年賀挨拶状) *後欠		横切紙/(え 4704-1~3は括 り紐一括)/(え 4704-3-1~74は 括り紐一括)・1通	え4704-3-8

1.12.9. 御目見・代替・就任挨拶・許可

(書状、嫡孫孫太郎儀初めての御目見首尾能く申上げるに 付) 八田嘉右衛門知義(花押)→望主水様尊報		横切紙/(え 4655-1~11は括 り紐一括)・1通	え4655-5
(書状、御安全御勤役なされるところ、また今般結構な仰 せを蒙り幾久しく目出たきに付) 八田嘉介・八田嘉右衛 門→壕内楳一郎様尊報	正月26日	折紙/(え4656-1 ~34は括り紐一 括)・1通	え4656-3
(書状、改名仰せ付けられ御歓びとして御氏の面忝く御 礼申し達すに付) * (包紙上書)「八田嘉助様 青木数馬」 青木数馬直益(花押)→八田嘉助様御報	8月28日	横切継紙/(え 4663-1~45は括 り紐一括)・1通	え4663-15

(久治郎煙草御許容、元治郎羽織御許容、庄治郎元服の旨書付) * (端裏書)「巳十月」		切継紙/(え4665-1~27は括り紐一括)/(え4665-25-1~2は括り紐一括)・1通	え4665-25-1
(書状、先刻御咄の写し2通上げ申し御落手下さるべきに付) * (端裏書)「嘉右衛門様 庄助」	11月8日	横切紙/(え4674-1~35は括り紐一括)・1通	え4674-12
(書状、先刻の儀尊公様御取次計らいにては御奉公筋薄く成る故御勘弁に付) * (端裏書)「嘉右衛門様 庄助」	11月8日	横切継紙・1通	え4674-15
(書状、黛新右衛門御賞典、名代を以て申上げるに付) 齊助→(八田)慎蔵様	3月12日	横切紙/(え4680-1~57は括り紐一括)・1通	え4680-21
(書状、田鶴助が節句に罷り出たく申し越し、支配頭へ仰せ立て下されたきに付) 五郎八→八田様	5月3日	横切紙・1通	え4680-31
(書状、端午節句不快のため罷り出ず、急腹痛届なし下されたきに付) 柳沢一郎→八田慎蔵様	5月2日	横切継紙・1通	え4680-32
申上(明後日登城の節、菊太様御病気の趣を理事へ御断りしたきに付) 清十郎	5月3日	横切紙・1通	え4680-41
(書状、田鶴助の年齢に付) 五郎八→(八田)慎蔵様	3月13日	横切紙/(虫損甚大)・1通	え4680-55
(亡父嘉右衛門願い置いた通り家督相続に付書付) 八田嘉助	2月2日	切紙/(え4692-1~26は括り紐一括)・1通	え4692-8
(書状、私儀勘定役兼帯仰せ付けられるに付) 田中増治→八田嘉助様	9月13日	横切紙/(え4698-1~23は括り紐一括)・1通	え4698-2
(書状、私儀役場方御番士仰せ付けに付) 近藤友喜→八田嘉助様・八田慎蔵様	10月21日	横切紙/(虫損)・1通	え4698-12
(書状、私儀若殿様近習役仰せ付けに付) 河原惣兵衛→八田嘉助様・八田慎蔵様	3月13日	横切紙・1通	え4698-13
(書状、私儀若殿様近習役仰せ付けに付) 河原惣兵衛→八田嘉助様・八田慎蔵様		横切紙・1通	え4698-14
(書状、御前において旧禄御直し仰せ付けに付) 篠原□□→八田嘉助様	6月28日	横切紙/(虫損)・1通	え4698-15
(書状、犀川辺広土地について申し談ずるところ、出精により一代給格仰せ付けられ有り難きに付) 大塚善平→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	12月25日	切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-1-1~15は括り紐一括)・1通	え4704-1-12
(白紙)		切紙・1通	え4704-1-13
(書状、倅治郎右衛門について初めての御目見仕らせたまき願書今朝差し出し申すに付) 菅沼源之丞→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	10月28日	切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-2-1~91は括り紐一括)・1通	え4704-2-7
(書状、倅源太郎について初めての御目見仕らせたまき願書今朝差し出し申すに付) 松木束→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	10月25日	切紙・1通	え4704-2-9

1.内方/1.12.儀礼/1.12.9.御目見・代替・就任挨拶・許可

(書状、私について御役替により御城詰仰せ付けられ御知らせに付) 小野肇→八田嘉右衛門様	6月3日	切紙・1通	え4704-2-12
(書状、倅権之助について袖留初での御目見首尾好申上げ有り難きところ、御知らせに付) 山田兵次→八田嘉介様・八田孫太郎様	10月15日	切紙・1通	え4704-2-28
(書状、倅権之助について袖留初での御目見首尾好申上げ有り難きところ、御知らせに付) 山田兵次→八田嘉右衛門様	10月15日	切紙/(虫損甚大)・1通	え4704-2-29
(書状、倅友喜について初めての御目見首尾能申し上げ有り難きところ、御知らせに付) 近藤弥吉→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	9月28日	切紙/(下部欠)・1通	え4704-2-37
(書状、私について家督後初めての御目見首尾能申し上げ有り難く、御知らせに付) 岡川弥三郎→八田嘉右衛門様・八田嘉助様・八田孫太郎様	9月28日	切紙・1通	え4704-2-38
(書状、嫡孫惣吉について初めての御目見え首尾良く申し上げる有り難く、御知らせに付) 矢野倉惣之進→八田嘉右衛門様・八田嘉助様・八田孫太郎様	9月21日	切紙・1通	え4704-2-43
(書状、倅玄樹について初めての御目見え願ひ上げ、御知らせに付) 大草仲岱→八田嘉右衛門様・八田嘉助様・八田孫太郎様	9月21日	切紙・1通	え4704-2-46
(書状、次男三郎兵衛を嫡子とたく願書今朝御用番へ差し出すにより御知らせに付) 長谷川藤五郎→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	2月13日	切紙/(虫損甚大)・1通	え4704-2-47
(書状、私について藤田典膳殿御組へ御番入仰せ付けられ有り難きところ、御知らせに付) 白川捨藏→八田嘉右衛門様・八田嘉助様・八田孫太郎様	10月14日	切紙・1通	え4704-2-61
(書状、倅忠之進について初めての御目見首尾能有り難きに付) 佐藤三治→八田嘉右衛門様・八田嘉助様・八田孫太郎様	10月15日	切紙・1通	え4704-2-72
(書状、倅弘人の御目見方首尾良く申上げ有り難きに付) 片岡此面→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	10月15日	切紙・1通	え4704-2-73
(書状、私知足と改名仰せ付けられ御知らせに付) 森知足→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	10月22日	切紙・1通	え4704-2-74
(書状、私永給人格仰せつけられ有り難きところ、御知らせに付) 西村空右衛門→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	10月15日	切紙・1通	え4704-2-77
(書状、私御厚心掛により次男直人召し出され新知100石下し置かれ御足軽10人永成し下されるに付) 根津俊之介→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	12月25日	横切紙・1通	え4704-2-79
(書状、私御加増頂戴の御礼首尾能申上げる御知らせに付) 佐藤安喜→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	正月15日	切紙・1通	え4704-2-80
(書状、倅正司について初めての御目見仕らせたく、願書差し上げるに付) 大日方兵衛→八田嘉右衛門様・八田嘉助様	9月11日	切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-3-1~74は括り紐一括)・1通	え4704-3-36
(書状、家督相続の御祝いに付) 藤原良意・立川泰順→八田嘉助様人々御中	2月23日	横切紙/(え4710-1~117は括り紐一括)・1通	え4710-100
(吸物・いひ・青菜・うと他2月15日宴席献立)		横切紙・1通	え4710-101

1.12.10. 見舞い

(包紙) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様無異要用 須坂壕内茂一郎」		包紙/(え4656-1~34は括り紐一括)/(え4656-7-1~3は包紙一括)・1点	え4656-7-1
(書状、木曾七跡一件について近々御呼出しもあるところ、この方としても大切の器物を損さしては如何に付) *下書		横切継紙・1通	え4656-7-2
(書状、御心痛の師岡家のことについて委細仰せ越される ところ、未だ御跡式相定まり申さずも程なく御極めなれるに付) * (端裏書)「書鳩様尊洲 墨坂在番先より梅兆拜具」 墨坂在番先より(堀内)梅兆拜具→書鳩(八田嘉右衛門様孫孫)	初秋19日	横切継紙・1通	え4656-7-3
(書状、この表とかく火事ありて弱り果てるところ、先月26日夜常盤橋松平越前守様御上屋敷御出火丸焼きに付) * (包紙裏書)「八田嘉右衛門様 小山田重太夫」 (小山田)重太夫→(八田)嘉右衛門様	2月7日	横切継紙/(え4656-1~34は括り紐一括)・1通	え4656-9
(包紙) * (包紙上書)「七月八日到来丸葉入八田嘉右衛門様岡川隠宅」		包紙/(え4656-1~34は括り紐一括)/(え4656-29-1~4は包紙一括)・1点	え4656-29-1
(書状、私方この度養子斎藤善蔵弟又治こと内談取り極め去々年子年相定め善蔵方にて衣服も私方印付などするに付) * (端裏書)「別段申上」		横切継紙・1通	え4656-29-2
(書状、その節御丸葉切間にて御用立てかね早速煎じ差し上げたきも私方にて母3月より平臥致切に付)		横切継紙・1通	え4656-29-3
(書状、この程土口へ妻薬用の品相願うところ、別紙到来仕り段々御心配もあらせられる儀により何とも気の毒に付) 恣水園→片葉様	7月8日	横切継紙・1通	え4656-29-4
(書状、喜曾七死去により彼是御心配の儀とも恐察奉るところ、14日罷り出る様孫兵衛方も罷り出ること仰せ承知致すに付)	7月	横切継紙/(虫損)/(え4656-1~34は括り紐一括)・1通	え4656-30
(書状、親類掛橋兵司儀大病を煩い、養生叶わず遠行仕り、病中より御厚志の思し召し、御世話罷り成るに付) * (包紙上書)「亥十一月十九日来帖 八田嘉右衛門様 河崎少膳」 河崎少膳→八田嘉右衛門様	11月2日	折紙/(虫損)/(え4659-1~22は括り紐一括)・1通	え4659-7
(書状、先頃は出火の由御宅御類焼成された様子御難渋遊ばさるべく存じ奉り御見舞い申し上げたきに付) * (包紙上書)「松代八田孫左衛門様参人々御中 山屋清助」 山屋清助→八田孫左衛門様参人々御中	6月19日	折紙/(虫損)/(え4661-1~28は括り紐一括)・1通	え4661-1
(書状、大火あり御けがなく目出たきに付) 三右衛門より→御まいさま御申上より	6月18日	横切継紙・1通	え4661-2
(書状、其地大火にて御類焼御進いなされ御難渋遠察仕り御見舞いとして麦粉1袋進上仕るに付) * (包紙上書)「八田孫左衛門様 宮沢儀兵衛」 宮沢儀兵衛→八田孫左衛門様参人々御中	6月16日	折紙/(虫損甚大)・1通	え4661-3

1.内方/1.12.儀礼/1.12.10.見舞い

(書状、先日は其御地出火にて御類焼成され御難儀察し入り、御家内様へ頼み奉り御見舞いその意を得たきに付) 宮沢六郎右衛門→八田孫左衛門様人々御中	6月16日	折紙・1通	え4661-4
(書状、出火御類焼成さる由御難儀成さるべく御見舞いに付) 宮沢六郎左衛門吉賢(花押)→八田孫左衛門様人々御中	6月16日	折紙・1通	え4661-5
(書状、この品御笑納希い奉るに付) *(端裏書)「孫左衛門様又三郎」	6月17日	横切紙・1通	え4661-6
(書状、類焼にて御家内御障りもなく御見廻いとして申し入れるに付) *(端裏書)「八田孫左衛門殿 金井縫之助」	6月20日	横切継紙・1通	え4661-7
①口演(荷魚一荷、御用にて相立ち申すまじく御見舞い印御納め下さるべきに付)、②(書状、御家内様御疵次第に罷り出るべく察し入り奉り御用心遊ばされ御見舞い申し上げたきに付) *(包紙上書)「松代伊勢町八田孫左衛門様貴下 横田甚左衛門」/(包紙裏書)「より中野町」 ①②横田善太郎→①②八田孫左衛門様	①②6月15日	折紙・1通	え4661-8
(書状、其地大火にて貴宅にも御類焼の由驚き入り御難儀のほど推察奉り、相応の御用等御遠慮なく仰せ遣わさるべきに付) *(包紙上書)「八田孫左衛門様貴下 坂爪九郎兵衛」 坂爪九郎兵衛→八田孫左衛門様貴下	6月13日	横切継紙・1通	え4661-9
(書状、御類焼御難儀察し奉り御看一折進上仕るに付) 武田角兵衛規重(花押)→八田孫左衛門様人々御中	6月13日	折紙・1通	え4661-10
口上覚(大火御居宅御類焼、屋根板20束進覧致すに付) *(包紙上書)「八田孫左衛門様 駒澤勇左衛門」 駒澤勇左衛門→八田孫左衛門様	6月13日	横切継紙・1通	え4661-11
(書状、先日は御取込の中御馳走に成され忝く御見舞い進上に付) *(包紙上書)「八田孫左衛門様 宮沢佐左衛門」	6月15日	横切継紙・1通	え4661-12
(札、割板2駄) 堀内宗三→八田孫左衛門様		切紙/赤色罫紙(10行)・1通	え4661-13
(書状、火災にて貴宅御類焼の儀、御家内御怪我等も無く、不快に付使いを以て御家内様へ御見舞い御伝口願ひ奉るに付) 斎藤曾右衛門→八田孫左衛門様	6月15日	横切継紙・1通	え4661-14
(書状、大火に及び貴家御類焼の由承知致し御見舞いに付) *(包紙上書)「真田弾正大弼様御内八田孫左衛門様 松平弾正小弼内都筑三太夫」 都筑三太夫→八田孫左衛門様	6月26日	横切継紙・1通	え4661-15
(書状、黄色菊帽御医師近藤へ御相談後僧遣わし御返事給うべきに付) 愿より→垣然徒子	6月12日	横切紙・1通	え4661-16
(書状、木町御家内様へも宜しく願ひ上げ奉るに付) 孫兵衛→(八田)孫左衛門様	6月17日	切紙・1通	え4661-17
(書状、御近所出火致し御類焼成さる由、御見舞申上げるに付) 中沢孫兵衛→八田孫左衛門様人々御中	6月17日	横切継紙・1通	え4661-18
(書状、御類焼に御見舞に開板など進上致すに付) *(端裏書)「八田孫左衛門様 二宮藤兵衛」	6月12日	横切紙・1通	え4661-19
(書状、私半やけ同様御無沙汰に付) □□→(八田)孫左衛門殿	12日	横切紙・1通	え4661-20
(書状、御見舞打入1組進上致し使いを以て案否承りたきに付) *(端裏書)「八田孫左衛門様御返事御口上披仰下候大嶋隠居」	6月15日	横切継紙・1通	え4661-21

口上覚(この品いかがわしくとも御見舞として御目に懸け たきに付) * (包紙上書)「八田孫左衛門様 高久重吉」	15日	横切紙・1通	え4661-22
(包紙) * (包紙上書)「八田孫左衛門様貴下 坂爪九郎兵衛」		包紙/(え4661-1 ~28は括り紐 一括)/(え4661- 23-1~3は包紙 一括)・1点	え4661-23-1
(書状、御家内様御病気なきように御心付け遊ばさるべく 食籠の内進上致すに付)	6月18日	横切継紙・1通	え4661-23-2
(書状、十左衛門様へ金子入書状1通指し遣し申したきに 付) 九郎兵衛→(八田)孫左衛門様	(6月)18日	横切継紙・1通	え4661-23-3
(書状、御見舞として一品進上申上げたきに付) * (端裏書) 「八田孫左衛門様 平林村小林万五郎」	6月15日	横切紙/(え 4661-1~28は括 り紐一括)・1通	え4661-24
(書状、御類焼御難儀御察し申上げ、御安否承知致したく肴 一種進上致すに付) * (包紙上書)「八田孫左衛門様 赤沢 只右衛門」 赤沢唯右衛門→八田孫左衛門様	6月4日	横切継紙・1通	え4661-25
(書状、御難儀御察し奉り御見舞として食籠内進上仕り御落 手下さるべきに付) * (包紙上書)「八田孫左衛門様貴下 宇都宮勇八」 宇津宮勇八→八田孫左衛門様	6月12日	折紙・1通	え4661-26
(書状、御当所大火の由御家内様御安否承りたきところ、 ほか出延引に罷り過ぎ宜しく仰せ達され下さるべきに 付) 竹□伊右衛門→八田孫左衛門様人々御中	6月12日	折紙・1通	え4661-27
(書状、先頃出火あり家数も焼失の由風聞承り、貴家御安 否承りたきに付) * (包紙上書)「八田孫左衛門様人々[] 常[]」 常泉院→八田孫左衛門様人々御中	6月20日	折紙・1通	え4661-28
(書状、そよば、死去仕り取り込み、今日も上り兼ね御不沙 汰申し上げる段御免成し下さるべきに付ほか) * (端裏 書)「嘉助様内用 陽之助」	9月18日	横切継紙/(え 4663-1~45は括 り紐一括)・1通	え4663-25
(書状、扱なき儀あり延引の段御後面成し下さるべきに付) * (端裏書)「嘉助様御受申上置 五百人」	19日	横切継紙・1通	え4663-26
(書状、持病宜しからず風邪平臥の趣御見舞い申し上げ ず御不調法御許容下さるべきに付ほか) * (端裏書)「嘉 右衛門様 与一右衛門」	12月26日	横切継紙・1通	え4663-44
(書状、御戴きの御丸薬服用し御灸治成し下されるも先月 10日より灸穴も破れ膿汁も出るに付) * 下書		横切継紙/(え 4665-1~27は括 り紐一括)/(え 4665-9-1~2は括 り紐一括)・1通	え4665-9-1
(書状、御戴きの御丸薬服用し御灸治成し下されるも先月 10日より灸穴も破れ膿汁も出るに付) * 下書 菊屋佐助 →様御取次中様	9月13日	横切継紙・1通	え4665-9-2
(書状、知徳様へは長々御疎音、おしげ様には俄に御中症 とのことに付) 八田知絡→八田知路様	12月30日	横切継紙/(え 4671-1~26は括 り紐一括)/(え 4671-26-1~5は 括り紐一括)・1通	え4671-26-4

1.内方/1.12.儀礼/1.12.10.見舞い

(書状、老君御快容と察し御尊君御同伴の御寸暇なく御閑歩願ひ奉るに付)	9月9日	横切継紙/(え4674-1~35は括り紐一括)/(え4674-35-1~9は括り紐一括)・1通	え4674-35-1
(書状、傳三と申す者先年御召、八丁村山に万吉親類のよしに御館中様へもよろしく御伝え上げ成し下さるべきに付) (堀内)梅兆→書鳩(八田嘉右衛門)伯玉几下	2月7日	横切継紙・1通	え4674-35-3
(書状、老母不快の趣夕刻迄には参るべきや、御光駕の儀は御延引成し下されたきに付) *(端裏書)「嘉助様 喜兵衛」	5月18日	横切継紙・1通	え4674-35-4
(書状、別紙の趣御承知成されるや、昨便小山田氏より申し来るに付) *(端裏書)「伊勢町御老人様 竹山丁拜」	9月□日	横切紙・1通	え4674-35-8
(書状、松山方書外より持参のところ、私は真疑分りかね御鑑みの儀願ひ奉り売物故御伏臆なく御教諭成し下さる様願ひ奉るに付) *(端裏書)「書鳩老賢君 周徹」	10月16日	横切継紙/(虫損)・1通	え4674-35-9
(書状、この節世上霍乱かコレラの症か急病のもの多くあり承り申すに付) (八田)慎蔵→佐々木様	22日	横切継紙/(え4686-1~44は括り紐一括)・1通	え4686-9
(書状、御厚礼申し上げ置くべきところ、病後故成し下され兼ねるに付)	7日	横切紙/(え4691-1~50は括り紐一括)・1通	え4691-18
(書状、体調が勝れず隠居願ひを提出し暫く保養に付ほか) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様様 三橋新五右衛門」 三(三橋)新五右衛門→八(八田)嘉右衛門様	6月7日	横切継紙/(虫損)/(え4696-1~20は括り紐一括)/(え4696-1-1~2は括り紐一括)・1通	え4696-1-2
(書状、今朝の御薬と人參も加えるように付) (立田)玄道→(八田)孫左衛門様	3月7日	横切紙/(え4696-1~20は括り紐一括)・1通	え4696-15
(舜・黄香・唐夫人・孟宗・郭巨・王褒ほか薬種書上)		横切紙・1通	え4696-16
(書状、この表病人の病状や表向を申し立てるに付) *後欠		横切継紙/(え4698-1~23は括り紐一括)・1通	え4698-23
(書状、宅より急病人にて迎えが参り、暇乞いも申さず退出したことを詫びるに付) *(端裏書)「松本様 御内々御直披 秀碩」 (甲田)秀碩→松本様	22日	横切継紙/(え4701-1~29は括り紐一括)・1通	え4701-7
(書状、孫太郎君御不快、小生近日長屋へ引き移りに付ほか) *(端裏書)「若 伊勢町様 貴酬御口上ニ而 したゝめん」 したゝめん→若伊勢町様	7月8日	横切紙・1通	え4701-9
(書状、御不快と聞き、御肴代10疋を献ずるに付) *下書	正月12日	横切紙/(え4710-1~117は括り紐一括)・1通	え4710-81

1.12.11. 御礼

(書状、燭台は小野方願ひ申し聞くにより御送り方については種々御手数も成し下された御様子御礼に付ほか) *後欠		横切継紙/(え4665-1~27は括り紐一括)・1通	え4665-4
--	--	----------------------------	---------

(書状、地租改正郡村着手方説諭のため出張の際、宿泊の御世話になった御礼) *後欠/(封筒表書)「埴科郡松代町八田知道様 長野県ヨリ色部義太夫」色部(義太夫)拜→八田知道様	第10月19日	縦紙/(え4671-1~26は括り紐一括)・1通	え4671-1
(書状、疎遠に打ち過ぎていたところ御懇書など下されたことへの御礼) * (封筒表書)「八田知道様 貴翰 一苞添 小林元辰」 小林元辰→八田知道様閣下	第2月11日	縦紙・1通(2枚)	え4671-22
(書状、角店より金子の御礼、おしげ様病状等尋ねに付ほか) 井上村坂本秀→松代八田御兄上様	1月6日	横切継紙/(え4671-1~26は括り紐一括)/(え4671-26-1~5は括り紐一括)・1通	え4671-26-5
(書状、昨22日御加恩御名代の御礼相済むに付) *後欠(松木)源八→(八田)嘉右衛門様	12月23日	横切継紙(え4683-1~19は紙紐一括)・1通	え4683-15
(書状、御礼を今日首尾よく相勤めたこと大慶に付) (中村)元尾→(八田)嘉右衛門様	12月22日	横切継紙・1通	え4683-16
(書状、今日滞りなく御礼相済み目出たきに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 中村元尾 吉江将監」 中村元尾→八田嘉右衛門様人々御中	12月22日	横切紙・1通	え4683-17
(書状、昨22日御加増の御礼を名代中村元尾・同道浅川久治郎と大瀬儀八郎・殿中取持高場介作にて首尾よく勤めたに付) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 大瀬義八郎」(大瀬)義八郎→(八田)嘉右衛門様	12月23日	横切継紙・1通	え4683-18
(書状、御礼のため明4時御屋敷へ罷り出て、殿様・大殿様へ青銅献上仕るべきに付) * (包紙上書)「十二月廿一日御奉書」/(端裏書)「中村元尾殿 小山田主膳」 →八田嘉右衛門	12月21日	横切継紙・1通	え4683-19
(書状、御種々の御馳走下され忝き次第に付) *後欠/下書		横切紙/(え4685-1~25は括り紐一括)・1通	え4685-22
(書状、御文とは御馴れ馴れしきところ、拝し何より存じ上げるに付) * (包紙上書)「いせ町孫左衛門様 花弟」/(包紙裏書)「卯月廿八日」 とみより→(八田)孫左衛門様		横切継紙/(え4688-1~10は括り紐一括)・1通	え4688-1
(書状、御しおらしくも御仰下されるところ、たとえ偽りになしてもいくへならぬに付) より	うつき17日	横切継紙・1通	え4688-2
(包紙) * (包紙上書)「孫左衛門様 姿屋正兵衛」		包紙/(え4656-17を巻き込み)/(え4688-1~10は括り紐一括)/(え4688-3-1~3は包紙一括)・1点	え4688-3-1
(雛鶴・扇屋揚巻など遊女または芸者名前書付) 松屋庄兵衛		折紙・1通	え4688-3-2
(書状、御きかせに預り如何ばかりか有難く嬉しきに付) のし→土こ様上	4月6日	横切継紙・1通	え4688-3-3
(書状、今一度御けんも様御成申したく朝夕願うに付) * (包紙上書)「旦那様」/(包紙裏書)「卯月十四日」 みやのへより→旦那様		折紙/(え4688-1~10は括り紐一括)・1通(2通)	え4688-4
(書状、一夜二夜のちきりをもよそならず御嬉しく思う事限りなく存ずるに付) 御存よりみやのへより→旦那様	卯月12日	折紙・1通(2通)	え4688-5

1.内方/1.12.儀礼/1.12.11.御礼

(書状、御祝あそばすに付) より→きこ様	さつき5日	折紙/(え4690-1~9は括り紐一括)・1通	え4690-1
(書状、まずは御礼早々申上げるに付) *(包紙上書)「孫左衛門様 荒屋九左衛門」/(包紙裏書)「卯 廿六日」	26日	横切継紙・1通	え4690-3
(書状、忝きよろこび申上げるに付) *(包紙上書)「きこ様参御中 まつやみよ」/(包紙裏書)「九月十七日より」 まつやみよ→きこ様参御中		横切継紙・1通	え4690-4
(書状、19日は御用ありしとて御出なき様に付) *(包紙上書)「きこ様参御中 まつやみよ」/(包紙裏書)「九月廿三日より」 みよ→きこ様参御中	ゆ月23日	横切継紙・1通	え4690-5
(書状、折から御出のことひとえに頼み上げるに付) *(包紙上書)「喜八様きこ様参御中 まつやみよ」/(包紙裏書)「四月十一日より」		横切継紙・1通	え4690-6
(書状、昨日は緩々御日通しなし御嬉しく存ずるところ、御障りなきに付) *(包紙上書)「まこ様 いら」/(包紙裏書)「十七日」 いら→まこ様		折紙・1通	え4690-7
(書状、明日は御帰るの由何卒供この里へ御出で願うに付) *(包紙上書)「旦那様 より」/(包紙裏書)「卯月そふ 見わのへ」 とねより→旦那様	卯月15日	横切継紙・1通	え4690-8
(書状、御謝儀として3円痛み入り有難く拝受仕るところ、この節御繁用の程察奉るに付) 月嶺→八田嘉右衛門様	12月23日	横切紙/(え4702-1~37は括り紐一括)・1通	え4702-2
(書状、伊勢町公へ御紐りのこと段々御承知下される由御懇情の程よろしく御礼仰せ上げられること願ひ上げ奉るに付) *(端裏書)「一泡庵様 認之申上」 →一泡庵様	7月13日	横切継紙・1通	え4702-11
(書状、昨夜は段々有り難き仕合わせに存じ奉るに付) *書き損じ		切継紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-1-1~15は括り紐一括)・1通	え4704-1-14
(書状、昨晩は寺まで御出になり忝く存ずるところ、御礼に付) 鎌原仲佑→八田嘉右衛門様	12月13日	横切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-2-1~91は括り紐一括)・1通	え4704-2-6
①(書状、先日は御祝成し下されるところ、御礼申し上げたく御目に掛けたきも御面倒により申し置くに付)、 ②(書状、先日は御馳走に罷りなり有り難きにより御礼申し上げたく参上仕るに付) ①山田兵次、②岡田伴之助	①10月27日	横切紙・1通	え4704-2-10
(書状、今朝は恐れながら有り難き仕合わせに存じ奉るに付) *書き損じ		切紙・1通	え4704-2-13
(書状、先刻は御光臨下され有り難きところ、御用密仰せを蒙るに付)		切紙・1通	え4704-2-27
(書状、いずれ御礼罷り出るべきところ、官所より申し上げられる様方丈分申し聞くに付) 玄甫→山長舎君品々添	22日	横切紙・1通	え4704-2-69
(書状、御祝下され忝きに付) 藤田外記→八田慎蔵様・八田鉄次郎様		切紙・1通	え4704-2-91

(書状、先日は色々御馳走有り難きに付) *書き損じ		折紙/(え4704-1 ~3は括り紐一 括)/(え4704-3-1 ~74は括り紐一 括)・1通	え4704-3-14
(書状、先日御出くだされ御馳走万謝奉るに付) □□→書 鳩(八田嘉右衛門)君	11月21日	横切紙・1通	え4704-3-32
口上覚(昨夜大頂戴御礼に今朝罷り出るも御留守により 申し上げ置くに付)	10月13日	横切紙・1通	え4704-3-33
(書状、柴川老人の御頼みに任すに付) 松代八田嘉助→松 下瀬庵		横切紙・1通	え4704-3-35
(書状、昨日は御出下されるところ、その節は色々御厄介罷 り成るに付)		切継紙・1通	え4704-3-57
(書状、先日当地御参詣の節御目見仰せ付られ、冥加至極 に付) *え4710-96と関連 能登屋ニ而米蔵拜→八田鉄治郎 様参人々御中	8月10日	横切継紙/(え 4710-1~117は括 り紐一括)・1通	え4710-50
(書状、去月29日帰国に付)	3月20日	横切継紙・1通	え4710-69
(書状、道中滞りなく帰宅の段伺い奉るに付)		横切紙・1通	え4710-70
(書状、出府中に厚情を受けるに付)		横切紙・1通	え4710-74
(書状、私儀29日夕着くに付)		横切紙・1通	え4710-75
(書状、願の儀、御聞濟下され有り難きに付) (八田)嘉助→ 寺町様	6月26日	横切継紙・1通	え4710-85
(書状、華墨拝見仕るに付)		横切継紙・1通	え4710-88

1.13. 旅

1.13.1. 寺社参詣

(八田嘉右衛門、同道人10名、郡中取持6人名書上)		横切紙/(え 4689-1~17は括 り紐一括)・1通	え4689-3
(書状、勢州参宮仕りたく願いの通り仰せ付けらるに付) *(包紙上書)「天保十一子年七月十八日被仰付八月十四日出 立十一月晦日着仕候」/(端裏書)「八田嘉助殿 金児丈助」	7月18日	横切継紙・1通	え4689-6
慶応二寅年四月十一日発足 田中温泉より飯山通富倉山 領を越 荒井へ出高田より直井(ママ)津見物 古太ヶ 濱より名立迄夫より引返し 五智如来参詣 中山通り ニ而帰宅 遣ひ払覚(旅行中小遣帳)	(慶応2年4月11日~)	横美半/(え 4708-1~4は括 り紐一括)・1冊	え4708-1
(旅行小遣帳)	(慶応2年4月11日~)	横美半・1冊	え4708-2

1.14. 寺社

1.14.1. 菩提寺浄福寺

遺書(越前国蒲生郡澤海村大栄寺衆寮智泉長老ほか2名 の内、拙者遷化の後住職仰せ付けられたきに付) 浄福 寺瑞峯印→奉本山堂頭大和尚侍司下	文政4辛巳年6月10日	横切紙/(え 4653-1~29は括 り紐一括)・1通	え4653-17
--	-------------	-----------------------------------	----------

1.内方/1.14.寺社/1.14.1.菩提寺浄福寺

(書状、法華堂並びに渡辺大藏罷り越し、別条無く去年中御引合いたす金談の儀御勘考成し下さる様願ひ上げ奉るに付) 小松郷右衛門盛俊(花押)→和合院様参人々御中	正月17日	横切継紙・1通	え4653-28
(書状、田中の一件、御両君様御厚恩をもって熟得和談有難く御請申すべきところ、妻不快により登館難しきに付) * (端裏書)「嘉右衛門様嘉助様 重三郎几拜」 重三郎→(八田)嘉右衛門様・(八田)嘉助様	11月5日	横切継紙/(え4656-1~34は括り紐一括)・1通	え4656-2
(書状、浄福寺方丈近々材木等も取り集めるところ、彼是御相談申したく仰せ下さるに付) * (端裏書)「十一月六日名代浄福寺へ差出候心得書取」	11月6日	横切継紙・1通	え4656-16
(書状、浄福寺智宗和尚病氣養生叶わず死去致され、喜福寺へも御達し成される様願ひ奉るに付) (八田)嘉助→彦大夫様	9月22日	横切継紙/(え4663-1~45は括り紐一括)・1通	え4663-35
(書状、御内話申し上げた吉田兵左衛門儀此表へ罷り越す様仕りたく差し向け御取り計らい願うに付) * (端裏書)「松本嘉十郎様侍史 柄沢孝左衛門吉村隼人」	5月23日	横切継紙/(虫損)/(え4674-1~35は括り紐一括)・1通	え4674-22
(書状、拙僧儀当寺方丈法縁の者にて寺中人少なく当分の内扶助致し呉れる様御内意を得たきに付) * (端裏書)「八田嘉右衛門様玉床下御内見 岡碓社当 浄福寺随徒」	9月5日	横切継紙/(え4676-1~11は括り紐一括)・1通	え4676-3
(書状、浄福寺再建手充金とするため祢津公発起頼母子にて備えたきに付) * (包紙上書)「天保二卯歳六月 浄福寺再建存念書取」 (八田)知義	天保2卯年6月	横切継紙/(え4681-1~32は括り紐一括)・1通	え4681-3
(書状、浄福寺先住代差纏れ筋のため村方旦中・町方惣代の者不和合、和合を進めるところ、伊惣太の一件差し発するに付)		横切継紙/(え4682-1~35は紙紐一括)・1通	え4682-33
丑年頭配物覚(浄福寺・八幡神宮寺ほか寺社へ青銅・初穂・並扇子箱など)		折紙/(え4683-1~19は紙紐一括)・1通	え4683-3
(書状、今一応貴眉を得たく、御越し下されたきに付) 太左衛門→土笠井様貴下	11日	横切紙・1通	え4683-4
覚(御布施50疋など確かに受け取るにより今晚より御回向仕るに付) 浄福寺納所→八田五十司様御内萩野半右衛門様	8月18日	横切継紙/(え4686-1~44は括り紐一括)・1通	え4686-37
覚(大嶋徳右衛門殿懸りより浄福寺へ御口入金当酉利足調達しかねるところ、御立替え御返金下され忝く存じるに付) 関田守之丞(印)→八田嘉助殿	天保8酉年12月晦日	横切継紙/(え4702-1~37は括り紐一括)・1通	え4702-3
覚(御齋米1袋など確かに受け取り、披露仕るに付) 浄福寺納所→八田嘉右衛門様御使衆中	12月27日	横切継紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-1-1~15は括り紐一括)・1通	え4704-1-8

1.14.2. 松代大林寺

(書状、寒松山御隠居に参る由、私方海老等今日は備えかね御繰廻し成し下さるに付) * (端裏書)「口上 愿」	4月12日	横切紙/(え4673-1~7は括り紐一括)・1通	え4673-3
---	-------	--------------------------	---------

1.14.3. 和合院

(書状、都合800両・利金一鉢の金子差し上げその上無尽御出金の御約束相違仕り、尊公様の御取り計りにて御聞き済まし下さるべきに付) *(包紙上書)「和合院様尊下 法華堂渡邊大蔵並木甚右衛門」 並木甚右衛門・渡邊大蔵・法華堂→和合院様	12月26日	横切継紙/黒色罫紙(10行)/(え4674-1~35は括り紐一括)・1通	え4674-2
---	--------	--------------------------------------	---------

1.14.4. 江戸

水天宮御守 *(包紙上書)「水天宮 御守」		小切紙/(え4669-1~9は括り紐一括)/(え4669-1-1~17は括り紐一括)・1通	え4669-1-17
(書状、先住雄山和尚も5月14日遷宮仕る事御聞き遊ばされ御香資100疋御備え下され有り難きに付) *(包紙上書)「松代八田嘉右衛門様御報 喜福寺」/(包紙裏書)「江戸本郷六町目より」 喜福寺真龍→八田嘉右衛門様御侍中	11月23日	折紙/(え4673-1~7は括り紐一括)・1通	え4673-1
覚(春日形燈籠代金13、4両ほか燈籠代書上) 江戸屋七兵衛[印「大坂長堀佐野屋橋南詰江戸屋七兵衛諸石所」]→桜井半右衛門様	9月16日	縦継紙/(え4676-1~11は括り紐一括)・1通	え4676-4
(書状、菩提所惣代の者が帰国、思し召しにより公方様御上り御紋付・御吸物椀・御蓋を拝領、永宝とするに付) *(端裏書)「本郷へ十月六日遣候下案」 八田嘉右衛門→喜福寺方丈様・侍者御中	7月4日	横切継紙/(え4682-1~35は紙紐一括)・1通	え4682-11

1.14.5. 諏訪宮

口上覚(去る天明8年焼失諏訪宮本社幣殿ほか建立・御寄附物経緯御尋により由緒書付)		横切継紙/(え4649-1~15は括り紐一括)・1通	え4649-13
(享保2年西4月3日焼失のところ、同12年4月立てるなど諏訪社再建経過書付)		切紙・1通	え4649-14
(包紙) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様 伊藤傳吾 西村角南」 伊東傳吾・西村角南→八田嘉右衛門様		包紙/(え4703-1~13は括り紐一括)/(え4703-12-1~3は包紙一括)・1点	え4703-12-1
(書状、諏訪宮普請の儀、万端御取り計らい御出精御勤めにより、大殿様より御小袖御拝領成られるに付) 伊東傳吾→八田嘉右衛門様	12月29日	横切継紙・1通	え4703-12-2
(書状、諏訪宮へ御寄附金御取扱う御普請の儀、御骨折り御出精の段御聴に達し、御小袖1御拝領に付) 西村角南重郷(花押)・小野齊二正(花押)・富永治左衛門直治(花押)・伊東傳吾周久(花押)→八田嘉右衛門様	12月28日	横切継紙・1通	え4703-12-3
(包紙) *(包紙上書)「諏方宮御再建御成就二付御遷宮迄相済候付従 大殿様御紋御小袖一卷拝領右二付御側御納戸江御請申上候付御披露被成下候段申来」		包紙/(え4703-1~13は括り紐一括)・1点	え4703-13
覚(銀2匁銭300文河内屋茅右衛門ほか合わせて金4両3分4匁6厘金銭書上)	申4月	横長半/(え4707-1~3は括り紐一括)・1冊	え4707-1

1.内方/1.14.寺社/1.14.5.諏訪宮

覚(瓦普請代メ分金1両1分187文金銭書上) * (端裏書) 「未年 普請方」 東寺尾村瓦師安吉→八田様御内 (諏訪宮普請関係綴)	(未)6月5日	横切継紙・1通	え4707-2
		綴/(え4707-1~3 は括り紐一括)/ (え4707-3-1~13 は一綴)・1綴	え4707-3-0
覚(職人・材料代メ77匁3分7厘5毛金銭書上) 大工登七→ 三海屋三五郎様・形屋藤吉様	未4月	折紙・1通	え4707-3-1
覚(大工・材木・釘代ほか惣メ金2両700文受け取るに付) 藤吉・三五郎	5月15日	横切紙・1通	え4707-3-2
覚(竹・葭・縄ほかメ7匁6分2貫555文金銭書上) 辰巳屋善 藏→三五郎様	4月28日	横切紙・1通	え4707-3-3
覚(職人代二口メ金2両28文受け取るに付) 平兵衛→上		横切紙・1通	え4707-3-4
覚(職人51人半分手間代銀のうち差し引きメ金3分ト3匁4 分請け取るに付) 畔敏寿作(爪印)→平兵衛様	5月3日	横切紙・1通	え4707-3-5
覚(床張り直し材料代ほかメ626文金銭書上) 西木町元治	5月7日	横切紙・1通	え4707-3-6
覚(5月22日分218文ほか受け取るに付) きくのや吉兵衛	5月	横切紙・1通	え4707-3-7
覚(材木借料2朱400文請け取るに付) 大工忠右衛門→菊 屋栄八様	未6月2日	横切紙・1通	え4707-3-8
覚(木代金1メ600文受け取るに付) 山本屋はつ[印「信松代 紺屋町山本屋」]→かじ町栄八様	6月26日	横切紙・1通	え4707-3-9
覚(諏訪宮屋根葺惣メ金3分363文請け取るに付) * 後欠 東寺尾村瓦師安吉→八田様御内 (銀兵衛の練光寺ほか人足働日数など書上)	7月6日	横切紙・1通	え4707-3-10
		横切紙・1通	え4707-3-11
覚(大工手間賃・材木代ほかメ39匁7分5厘受け取るに付) かち町万吉[印「信州松代鍛冶町□□屋」]→当町栄八様	未7月	横切紙・1通	え4707-3-12
覚(十歳ほか職人日数書上) □宗兵衛→八田様御内御役人 衆中様	未7月	横切紙・1通	え4707-3-13

1.14.6. 高野山蓮華定院

(手元より出金3両の内奥の院御初穂代1分など代金書付)		横切継紙/(え 4665-1~27は括 り紐一括)/(え 4665-19-1~2は 括り紐一括)・1通	え4665-19-2
(書状、愚院方類焼後再建なきにより御苦労ながら何卒御 寄付なし下される様頼み上げ奉るに付) * 前欠/(包紙 上書)「八田嘉右衛門様 高野山蓮華定院」 蓮華定院唯静 (花押)→八田嘉右衛門様	3月27日	折紙/(え4692-1 ~26は括り紐一 括)・1通	え4692-26

1.14.7. 尾張

(書状、御初穂金100疋御神納なし下され祝納仕とこ ろ、御神占の御趣意一応申し上げたきに付) * (包紙 上書)「八田御隠居様貴下 戸田伊勢」 戸田伊勢→八田御 隠居様貴下	8月日	横切継紙/(え 4656-1~34は括 り紐一括)・1通	え4656-28
---	-----	------------------------------------	----------

覚(御初穂として青銅50疋例年の通り奉納仕るに付) 戸田斎宮亮→八田嘉右衛門様	7月20日	横切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-2-1~91は括り紐一括)・1通	え4704-2-20
---	-------	---	------------

1.15. 家財

1.15.1. 武具

(書状、外より刀身1本到来仕り何卒御目利き願ひ奉りたく、代料も如何程位の物か仰せ蒙りたきに付) *勘返状/(端裏書)「下々袋町様包添 上々嘉助様」	菊月20日	横切紙/(え4663-1~45は括り紐一括)・1通	え4663-8
(書状、助広御刀の拵え目貫・柄糸伺うに付) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様用兼 松木源八」(松木)源八→(八田)嘉右衛門様御尊下	4月6日	横切紙/(え4684-1~15は括り紐一括)・1通	え4684-1

1.15.2. 衣類・諸道具・書画ほか

覚(140匁小松井衣10枚ほか反物代書上) 鍵屋芳左衛門→八田様御内	西8月30日	横切紙/(え4651-1~34は括り紐一括)・1通	え4651-3
(御神棚の事、物干取立ての事など箇条書付)		横切紙/(え4665-1~27は括り紐一括)・1通	え4665-2
(梢絵図)		切紙/(え4666-1~19は括り紐一括)・1通	え4666-3
覚(唐銅風爐については念を入れ仕立ての上相納め奉るに付) *(包紙上書)「石州形台子一疋寸法書」 御釜師山城藤兵衛	寅6月	横切紙/赤色罽紙(10行)・1通	え4666-16
覚(かんざし25匁・下駄37匁5分など品物代金書上) 善次郎→上	第7月	横切紙/(え4671-1~26は括り紐一括)・1通	え4671-11
(書状、ご注文の布類でよろしき品欠品のため、よんどころ無くこの品を差し上げるに付) *(封筒表書)「八田お嶋様人々申上給へ 伊藤いく」(伊藤)いく→(八田)お嶋様		横切紙・1通	え4671-13
(書状、御三所物拜見、返上に付) 松山→伊勢街様	4月24日	横切紙/(虫損)・1通	え4671-19
(書状、佐久間先生一幅鑑定結果に付) *(封筒表書)「松代八田知道様 村山村 松木董正」(松木)董正→伊勢町様	9月20日	縦紙/黒色罽紙(16行)・1通	え4671-20
(書状、知恩院宮様吹上の御庭御一覧の御風流御手元に承知仕り拝借仕りたきに付) *(端裏書)「伊勢町様」 竹山丁	7月26日	横切紙/(え4674-1~35は括り紐一括)/(え4674-34-1~2は括り紐一括)・1通	え4674-34-1
(幸貫公御筆拝領に付書付)	弘化3丙午年	切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-2-1~91は括り紐一括)・1通	え4704-2-89

1.内方/1.15.家財/1.15.2.衣類・諸道具・書画ほか

(天保十五甲辰新暦) 鱗形屋小兵衛		切紙/(え4704-1 ~3は括り紐一 括)/(え4704-3-1 ~74は括り紐一 括)・1通	え4704-3-16
(書状、拝借の御書物返納御落手願ひ上げ奉るに付) 喜 承拜→紫都雄様	4月3日	横切継紙・1通	え4704-3-23

1.15.3. 武具・印章等注文

(書状、刀拵えの儀年内にも出来致す様仰せ付けられたく 願ひ上げ奉るに付) *(包紙上紙)「八田慎蔵様無別条 坂 原啓十郎」 坂原啓十郎→八田慎蔵様	9月23日	横切継紙/(え 4651-1~34は括 り紐一括)・1通	え4651-34
おぼえ(金2朱御刀柄巻代受け取るに付) 中町川嶋内(印 「御大小柄巻師神田寿扇」)→八田様御取次衆中様	申10月29日	横切紙/(え 4655-1~11は括 り紐一括)・1通	え4655-2

1.15.4. 諸道具貸出

(書状、紺屋町蔵屋敷物借仕りたく願人あり物借仕り引越 す様申すべきに付) *(端裏書)「喜兵衛様御案用代 儀左 衛門」	25日夜中認置	横切継紙/(え 4654-1~27は括 り紐一括)・1通	え4654-11
(書状、拝借御品の内御床机・御合羽返上奉るに付) *(端 裏書)「嘉助様 陽之助」	26日	横切継紙/(え 4663-1~45は括 り紐一括)・1通	え4663-1
(書状、目利の書・香道の書・諸具寸法御図書・屏風寸法な ど、認め差し上げ置き御内々恩借仰せ付けられ成し下 さるに付) 松雪庵→山長舎君		横切紙/(え 4663-1~45は括 り紐一括)/(え 4663-39-1~2は 折込一括)・1通	え4663-39-2
(大鉢3つほか岡野陽之助殿よりの借物書上) *(端裏書) 「御預所之内松平周防守様富竹御陣屋江御引渡地所御座候 ニ付右役人出張御預り役所ニ而御料理被下候右ニ付岡野陽 之助殿より借物申来ル」		横切継紙/(え 4673-1~7は括 り紐一括)・1通	え4673-6
(書状、書跡手本の御蔵帖拝借、聖經の序等2、3日御下し置 かれたきに付) 松山丁→伊勢町様	5月9日	横切継紙/青色 罫紙(8行)/(え 4680-1~57は括 り紐一括)・1通	え4680-35
(書状、御品御返し成し下されるところ、落手仕るに付) *(端裏書)「伊勢町様 片は」 片は(片葉)伊勢町様		切継紙/(全2丁 を糊付け)/(え 4685-1~25は括 り紐一括)・1通	え4685-8
(書状、昨今茂右衛門様大武鑑御差し上げるにより一寸御 借用したきに付) (幡場)潤蔵→(八田)慎蔵様	5月7日	横切紙/(え 4686-1~44は括 り紐一括)・1通	え4686-8
(書状、吸い物椀10人前など拝借致したきに付) いせ町→ 松山丁様		切継紙/(虫損甚 大)・1通	え4686-32
(卸し身鯉吸い物など献立書付)		横切継紙・1通	え4686-33
(書状、茶入・酒桶など願ひ奉るに付) *前欠		横切紙/(え 4704-1~3は括 り紐一括)/(え 4704-2-1~91は 括り紐一括)・1通	え4704-2-3

(書状、先日中御内々御話下された品物拝見仰せ付けられるか、御伺い下される様願うに付) 政吉→八田様御内御取次中様	23日	横切継紙・1通	え4704-2-40
口上(御喰籠・文鎖の2品何分乞い申すに付)		切紙・1通	え4704-2-41
(書状、御上へ差し上げた御菓子盆何分拝借したきに付) 大沢→八田様御内御取次中様	24日	切紙・1通	え4704-2-45
覚(大平1つ・小皿20人何分拝借願ひ上げ奉るに付) 柴丁		横切紙・1通	え4704-2-65
(書状、書物永恩借御礼に付) *下書	時雨月	横切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-3-1~74は括り紐一括)・1通	え4704-3-54
覚(御掛物1幅など諸品拝借願ひ上げるに付)		切継紙・1通	え4704-3-70
御請(唐書拝借に付) □治		横切継紙/(え4710-1~117は括り紐一括)・1通	え4710-61
楊誠齋月下傳杯詩云老夫渴急月更急酒落杯中月(唐書の一節抜書、書籍返却に付)		横切紙・1通	え4710-62
(井・かつの子ほか献立書付)		横切紙・1通	え4710-65
(書状、先夜頂戴の品物の御入物を返上に付) 謙兵衛→(八田)鉄次郎様	4月12日	横切紙・1通	え4710-66
(書状、拝借していた大切な御本返上に付) (町田)権之介→(八田)鉄次郎様	27日	横切継紙・1通	え4710-67
(書状、御内借の返上は不本意ながら御取延べ下されたきに付)	3月9日	横切継紙・1通	え4710-71
(書状、先月19日状に記した御道具の儀の返事を伺いたきに付) 惣次郎→(八田)嘉助様	7月24日	横切紙・1通	え4710-98

1.16. 見聞・風説書

(天明3年浅間山噴火絵図)		28.0×37.7/(え4649-1~15は括り紐一括)・1鋪	え4649-12
(戊辰太政官日誌・行在所日誌ほか諸日誌・新聞の頁数書上)		横切紙/(え4651-1~34は括り紐一括)・1通	え4651-14
(書状、当春以来追々出兵のところ諸所において賊徒雷掃、御重臣共も誠忠補翼致し感泣に付) *(端裏書)「宇和高老公御直書写」(伊達)宗城→信濃守殿几下		横切継紙・1通	え4651-26
(山縣大式一件により織田美濃守不埒の品あるにより隠居仰せ付け並びに蟄居申付書) *(包紙上書)「山縣大式一件付織田美濃守様蟄居被 仰付候御書付写 高久喜道先生之墨書跡ニ而候」		横切継紙/(え4657-1~8は括り紐一括)・1通	え4657-1
(英雄松平春嶽など赤心報国人命書上ほか、文久2年8月の京都における状況書付)	文久2戊辰8月	横切紙/(え4662-1~25は括り紐一括)・1通	え4662-2

1.内方/1.16.見聞・風説書

(書状、台湾一条のため貫属土族より募集された壮兵解放、当十三大隊も解隊の御達しに付) * (封筒表書)「伊勢町にて八田知道様平信 小倉より 水井周礼」(水井)周礼→(八田)知道様	(明治8年)第3月23日認め	横切継紙/(え4671-1~26は括り紐一括)・1通	え4671-17
(書状、川合村にて狼を捕え、川原で料理して味わうに付ほか) * (包紙上書)「松代いせ町八田知道様 長野寺内又左衛門 平安」(寺内)又左衛門→(八田)知道様	12月3日	縦紙/(え4671-1~26は括り紐一括)/(え4671-26-1~5は括り紐一括)・1通(2枚)	え4671-26-2
天保四巳年諸国作割	巳11月	横切継紙/(え4673-1~7は括り紐一括)・1通	え4673-5
覚(増山弾正少弼病氣に付御役御免ほか聴聞書) * (包紙上書)「東武別条書」		横切継紙/(え4674-1~35は括り紐一括)・1通	え4674-4
(書状、昨3日勅使方隅田川御遊覧、格段の御饗応にて辰之口より公家衆御乗船御召船のきゆん丸にて江府より申すに付)	9月□日	横切紙/(え4674-1~35は括り紐一括)/(え4674-35-1~9は括り紐一括)・1通	え4674-35-5
(日記書抜、正月10日~3月17日条、佐久間先生上京出立の日までの記事)	(文久4年)	堅半半/(え4678-1~17は紙紐一括)・1冊	え4678-12
(包紙) 鈴木復一郎→八田慎蔵様		包紙/(え4680-1~57は括り紐一括)・1点	え4680-22
(書状、当表近来珍しき大雪に付) * (端裏書)「伊勢町様/え4680-23の包紙の中身カ (鈴木)復一郎→(八田)慎蔵様	2月7日	横切紙・1通	え4680-23
(陽明熱書付) 玄又	如月稔6日	横切紙・1通	え4680-48
(松前志摩守領地へ前々の如く東西蝦夷地御返地、幕府申し渡しに付書付) * (包紙上書)「松前志摩守様御領内蝦夷地御返地被仰出候御書附写」		横切継紙/(え4681-1~32は括り紐一括)・1通	え4681-4
(書状、差し上げた新報よりいつにてもよろしく御覧済少々御借願いたきに付) 六蔵→い勢町様		横切紙/(え4686-1~44は括り紐一括)・1通	え4686-28
(内外新報1より19まで雑誌号数書付)		切紙・1通	え4686-30
(書状、下筋戦争如何の御様子か、この程上田夫人足15日出立にて罷り帰るに付) * 後欠		横切継紙・1通	え4686-31
(本庄神保左京家家老押領より、御改易後母娘弟刀傷沙汰書付)		横切継紙/(え4692-1~26は括り紐一括)・1通	え4692-2
(書状、新大橋去年火事後仮橋のところ、今度囲米御蔵公儀より御作り下し置かれるに付)		切紙/(後欠)・1通	え4692-3
(御当家1騎当たり若党1人ほか7人合8人連、御番頭は12人連など武士陣立書付)		横切継紙・1通	え4692-10
(書状、長野表市中不景気、佐久間先生揚屋入の節書付の写を拝見したきに付ほか) 又右衛門→子斯様	(近代)9月11日	縦紙/(え4701-1~29は括り紐一括)・1通(2枚)	え4701-2
條約改正ニ付外務大臣宣告案略記 * 写	(明治期)	半・1冊	え4701-24

(書状、当年は唐船1船より着致し申さず、大いに人参手本直段相違致するような相場承るに付)		切紙/(え4702-1~37は括り紐一括)・1通	え4702-16
(書状、馬喰町儀八今日御咎御赦免成し下し置かれる儀ほか相違無きに付) 介添義兵衛		縦継紙・1通(2枚)	え4702-28
臘轔獸(オットセイの名称・産地などに付)		縦紙・1通	え4702-29
なそうかれ都々ーツふし(都々逸節) 版元竹沢小傳		半/(え4704-1~3は括り紐一括)/ (え4704-1-1~15は括り紐一括)・1冊	え4704-1-10
(書状、善光寺大騒一件、町々の人気も不届至極にて罪人も出で申すべきやに付) (深美)甚十郎→(八田)嘉助様	3月25日	横切紙/(え4709-1~22は括り紐一括)・1通	え4709-15
(書状、若年時に奉公人として伊勢崎へ糸買に遣わされた婦りに小諸宿にて鍛冶町萬吉俸弥作に金を掠め取られる件の折、里に返された米蔵が善光寺町で商人となり、旧主人への不孝を詫びるに付ほか) 米蔵→八田鉄治郎様	正月18日	横切継紙/(え4710-1~117は括り紐一括)・1通	え4710-96

1.17. 諸芸

1.17.1. 武芸・文芸

起證文前書之事(日置流雪荷派射法) →藤田外記殿	天保11年庚子6月20日	縦紙/(え4656-1~34は括り紐一括)・1通	え4656-5
(池田寛草漢文書付「四野人稀暮色…」) *(包紙上書)「八田様梧右 寛蔵」		横切紙/(虫損)/(え4666-1~19は括り紐一括)/(え4666-1-1~13は括り紐一括)・1通	え4666-1-10
(包紙) *(包紙上書)「芝居番附 一」		包紙/(虫損)/(え4673-1~7は括り紐一括)/(え4673-7-1~3は括り紐一括)/(え4673-7-3-1~3は包紙一括)・1点	え4673-7-3-1
(芝居新役番付、荒事市川団十郎) *(端裏書)「木挽町」板元田所町小川半助		47.6×35.4/(虫損)・1鋪	え4673-7-3-2
(芝居新役割番付、菅原傳授手習鑑) *(端裏書)「堺町」板元せとの丁村山源兵衛正		47.3×35.4/(虫損)・1鋪	え4673-7-3-3

1.17.2. 茶の湯

(書状、茶道について奢侈なるも世風流行するところ、外聞にも拘るにより一部残し跡は売払うも苦しからざるに付)		切継紙/(虫損)/(え4656-1~34は括り紐一括)・1通	え4656-25
(松井佐渡守康之、慶長16年に卒去し遺物として家来へ差し上げた以来の山の井の御茶入の由来書)		堅切継紙/(虫損)/(え4662-1~25は括り紐一括)・1通	え4662-19

1.内方/1.17.諸芸/1.17.2.茶の湯

(夕鉢塩引さしみ等16～17日の献立書上)		横切紙・1通	え4662-20
会石(むしまつたけ他献立書上)		縦紙/(え4663-1～45は括り紐一括)・1通	え4663-19
(茶箱2つほか茶道具類など諸物書上) 八田鏡之助→辻左兵衛	4月8日	折紙/(え4666-1～19は括り紐一括)・1通	え4666-7
(赤胴下地金3分ほかメ2両1分余りほか諸品金銭勘定書付)		横切継紙・1通	え4666-8
(剛堅のチャンは木地も下地なしがよし等塗物指南など書付)		横切継紙/(え4666-1～19は括り紐一括)/(え4666-9-1～3は括り紐一括)・1通	え4666-9-1
堅剛のチャンの法(風雨を凌ぎ湿邪を防ぐ等に指南書付)		横切継紙・1通	え4666-9-2
楽之法(楽焼配合書付) 此君庵宗祐(花押)		豎半半・1冊	え4666-9-3
覚(水指・香炉分金ほか金銭勘定書付)		横切継紙/(え4666-1～19は括り紐一括)・1通	え4666-11
覚(黒落一入茶碗1つ、代金1両1分請け取るに付) 高田道具屋と惣兵衛(印)→八田様御内御役人中様	午10月21日	横切継紙/(え4673-1～7は括り紐一括)・1通	え4673-2
(書状断簡) 堀内文吾→八田嘉右衛門様人々御中	7月29日	折紙/(え4678-1～17は紙紐一括)・1通	え4678-1
(茶巾地麻1丈ほかメ84匁6分、茶道具類代金書上)		横切紙・1通	え4678-2
(包紙) 江戸芝堀江惣藏→松代八田嘉助様	6月19日	包紙/(え4709-1～22は括り紐一括)/(え4709-4-1～5は包紙一括)・1点	え4709-4-1
(書状、茶道具の売品、江岑宗左在判の小棗や又玄斎一灯作の茶杓に付ほか) * (端裏書)「申六月廿五日 佐竹より来」 堀江(惣藏)→八田(嘉助)公御披露	(申)6月19日	横切継紙・1通	え4709-4-2
注文(筒型火入・水差・小板・建水など注文の茶道具書上)		横切紙/(え4710-1～117は括り紐一括)・1通	え4710-76

1.17.3. 学芸

(道徳倫理書付)		横切紙/(え4656-1～34は括り紐一括)・1通	え4656-31
(大坂陣の節、権現様より拝領に付書付) 本多家御身付吉見孫八郎		切紙/(え4659-1～22は括り紐一括)・1通	え4659-12
通国使命戒第十一		切紙/(え4666-1～19は括り紐一括)/(え4666-1-1～13は括り紐一括)・1通	え4666-1-8

八田氏子説(八田孫太郎名を乞うに対し、君子の行い等について語った内容を贈る) 宮下重武再拜[朱印]・[朱印]	天保11年庚子	豎紙/(え4667-1~15は括り紐一括)・1通	え4667-8
口授(垂加神道山崎先生より土御門三位殿へ御伝えに付) 守始斎		横切継紙/(え4696-1~20は括り紐一括)・1通	え4696-5
(四書五経左伝ほか書抜)		横切紙・1通	え4696-18
(漢文の賀状、「氤氲城華古祇林」) 大定上人転昇松城願行寺正源了玉拜稿[朱印]・[朱印]		豎紙/(え4701-1~29は括り紐一括)・1通	え4701-25
(寛保元辛酉12月晦日庚申により文亀元辛酉年より当年301年庚申大晦日にあたるなど享和元年庚申日思案書付)		横切継紙/(え4702-1~37は括り紐一括)・1通	え4702-18
(「華嚴宗長吏安井門主大僧正道恕撰拜書從二位家隆卿墓碣銘并序」拓本)		豎切紙・1通	え4702-37
(「莊子」の一節書抜、「莊子之文以無為有戰国策之文」)		横切継紙/(え4710-1~117は括り紐一括)・1通	え4710-64

1.17.4. 能

楽(庄兵衛流能楽囃子笛方) *(端裏書)「小」		豎継紙/(え4702-1~37は括り紐一括)・1通	え4702-35
-------------------------	--	---------------------------	----------

1.17.5. 柔術

(書状、佐久間一学殿より常田雄治殿・佐久間啓之助殿印可御伝達、拙者罷り出る様仰せ付けられ御流儀の儀書留致さず方宜しきに付) *(包紙上書)「文政十亥年三月廿四日佐久間一学殿より常田雄治殿佐久間啓之助殿印可御伝達ニ付罷出候而承り居候事」		横切継紙/(え4674-1~35は括り紐一括)・1通	え4674-11
---	--	----------------------------	----------

1.17.6. 水術

(書状、牧之助様水練について外へ申し込み相願うところ、小林氏より斎藤馬公へ譲り申すに付) (酒井)市治→(八田)慎蔵様	22日	横切紙/(え4686-1~44は括り紐一括)・1通	え4686-17
---	-----	---------------------------	----------

1.17.7. 手習

(習字手習、「相」「示」「者」「也」ほか) *反故紙利用		横切継紙/(え4657-1~8は括り紐一括)・1通	え4657-2
(習字手習、「鴻」「東」「出」「西」ほか) *反故紙利用		横切継紙/(え4657-1~8は括り紐一括)/(え4657-3・4は巻込一括)・1通	え4657-3
(習字手習、「境」「外」「空」「納」) *反故紙利用		横切継紙・1通	え4657-4

1.内方/1.17.諸芸/1.17.7.手習

(習字手習、「聞」「道」「神」「仙」ほか) *反故紙利用	横切継紙/(え4657-1~8は括り紐一括)/(え4657-5・6は巻込一括)・1通	え4657-5
(習字手習、「想」「衣」「裳」「花」ほか) *反故紙利用	横切継紙・1通	え4657-6
(習字手習、「蔣」「裏」「再」「至」ほか) *反故紙利用	横切継紙/(え4657-1~8は括り紐一括)・1通	え4657-7
(習字手習、「今」「見」「封」「題」ほか) *反故紙利用	横切継紙・1通	え4657-8
(戸隠蕎麦など習字書付)	切紙/(え4691-1~50は括り紐一括)・1通	え4691-42
(「実実方十万十十」など書付)	切紙・1通	え4691-43
(「陶器 陶器」習字書付)	切紙・1通	え4691-44
(習字、「伊勢町傳兵衛」など)	切紙・1通	え4691-46
(習字、「諸色買物御帳」など)	切紙・1通	え4691-48
(習字、「伊勢町傳兵衛」など)	切紙・1通	え4691-49
(篆書字、「□」書付)	小切紙/(え4698-1~23は括り紐一括)・1通	え4698-4
(白紙)	横切紙・1通	え4698-5
(手習、「納綬三拾表…」)	横切紙・1通	え4698-6
(書状手習)	切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-2-1~91は括り紐一括)・1通	え4704-2-4
(書状手習、久々御不音失敬に付)	横切紙・1通	え4704-2-36
(書状手習、益々御機嫌よろしきに付)	切紙・1通	え4704-2-39
(「杉」書付)	切紙・1通	え4704-2-51
(書状手習、「不勝天氣御座候処」) *書き損じ	切紙・1通	え4704-2-53
(手習、「床」「れ」ほか)	横切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-3-1~74は括り紐一括)・1通	え4704-3-1
(手習、「行」「程」「耳」ほか)	横切紙・1通	え4704-3-2
(手習、「年」「加」「男」ほか)	横切紙・1通	え4704-3-3
(手習、「字」「とこ」「夜」ほか)	横切紙・1通	え4704-3-4
(手習、「よろ」「三」ほか)	横切紙・1通	え4704-3-5
(手習、「し」「耳」「夜」「女」ほか)	横切紙・1通	え4704-3-6
(「今日儀」書付)	切紙・1通	え4704-3-20

(習字)		切紙・1通	え4704-3-25
(手習、「暮」「武」「蔵」ほか)		横切紙・1通	え4704-3-28
(手習、「蔵」「様」「金」「酒」ほか)		横切紙・1通	え4704-3-34
(習字、「傳兵衛様」ほか)		横切紙・1通	え4704-3-56
(習字、「八田嘉助」ほか)		切紙・1通	え4704-3-58
(書状、御世話成し下された松蔵不埒に付ほか) *裏面に書状書き損じ他		切紙・1通	え4704-3-60
(書状、「今日者少々者薄暑」) *書き損じ		切紙・1通	え4704-3-74

1.17.8. 占い・観相

(風水占い書付、「財・病・難・儀・官・劫・害・吉」ほか)		縦切紙/(え4681-1~32は括り紐一括)・1通	え4681-31
(書状、拝借していた古易断を返上に付) * (端裏書)「嘉助様キ答 新兵衛」 新兵衛→(八田)嘉助様	7月18日	横切紙/(え4701-1~29は括り紐一括)・1通	え4701-14

1.17.9. 俳句・和歌

(歌書付) * (包紙上書)「真田図書君御跡蔵為石刻風あきはき帖神戸子を以御恵借御願候節御金如意御即吟御手法神戸より貰置候 天保十三寅年七月」		切紙/(え4656-1~34は括り紐一括)・1通	え4656-1
(「花と友に開くおもひや恣水園」俳句) 八十一翁素弓		横切紙・1通	え4656-19
(切たれはちの出そふなり梅の花など俳句書付) 若人		横切紙・1通	え4656-20
(生垣を声のよく越す水鶏哉など俳句書付) 月外		横切紙・1通	え4656-22
(相沢老君にあやかり俳句「百近き…」) 書鳩(八田嘉右衛門)		切紙/(え4663-1~45は括り紐一括)・1通	え4663-2
(相沢老君にあやかり俳句「百近き…」)		横切紙・1通	え4663-3
(十汐作「千鳥去高跡を雨夜としたりけり」ほか和歌書付)	11月23日	横切紙/(え4666-1~19は括り紐一括)/(え4666-1-1~13は括り紐一括)・1通	え4666-1-2
(「鶯を聞きや否と人立て道もせはしと馬の鈴振」など素弓和歌書付) * (封筒表書)「星春観素弓雅兄より送る、哥仙子睦月」 素弓		横切紙・1通	え4666-1-9
(「みつさつて土となりにし古人の今も私のちかひかはらて」和歌書付)		横切紙/(え4702-1~37は括り紐一括)・1通	え4702-30
(紫都雄俳句書付) 紫都雄		折紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-3-1~74は括り紐一括)・1通	え4704-3-15
(歌書付「鞭取て…」)		横切紙・1通	え4704-3-42

1.内方/1.17.諸芸/1.17.9.俳句・和歌

(歌書付「ところ…」) *前欠		切紙・1通	え4704-3-52
物見乃拙子名々乃には(「蕪村 蝶多 關吏」ほか人名書付)		横切紙・1通	え4704-3-53
(紫都雄亭興行の歌会にて形代・青田の詠草7首書付)		横切紙/(え4710-1~117は括り紐一括)・1通	え4710-1
酔中の呼蕪(俳句、「夏の夜や 酒の座いまを 古めかす」ほか)		横切紙・1通	え4710-2
五月雑題(俳句20句、「日々遣 水下自由な 皐月哉」ほか) *朱書 文起→花屋御尊君		横切紙・1通	え4710-3
(書状、青楼方は御延引、草庵のみにて待ち上げるに付ほか) 千葉亭米斗→旦那様	2月28日	横切紙・1通	え4710-4
(素池・青々庵先生ほか人名・庵名書上)		横切紙・1通	え4710-5
(書状、尊を待ち申上げているに付) 南原二而五遊→喜年大介	閏4月17日	横切紙・1通	え4710-6
(書状、俳句の高評願うに付ほか) 千葉亭米斗→旦那様		横切紙・1通	え4710-7
(書状、発句御評願うに付ほか) 木鷺草→紫都雄君へ		横切紙・1通	え4710-8
舌代(御茶を御用試み下されたきに付) 阜そ→鉄治郎様		横切紙・1通	え4710-9
皐月乱題(俳句、「曲めや 顔するやうに 飛螢」ほか) 佐藤意徹十休拜→御催主君		横切紙・1通	え4710-10
中夏題(俳句、「あての有 道に迷ひし 五月闇」ほか) 白桃→紫都雄様		横切紙・1通	え4710-11
(書状、春の句を少々御目に懸けるに付ほか) 月外兎		横切紙・1通	え4710-12
(俳句、「ほととぎす も一つなかば しめせねむ」ほか) 衾水拜→上		横切紙・1通	え4710-13
(書状、俳句「星壺ツ 残て寒し 鹿のかな」高評願うに付ほか) 米泉拜		横切紙・1通	え4710-14
(書状、俳句「自から 淋しみのかく 鶉舟哉」高評願うに付) 玉翠→紫都雄様		横切紙・1通	え4710-15
(書状、宜しき俳句「我先と 大工集る 春なれや」を見立て下されたきに付ほか)		横切紙・1通	え4710-16
仲夏乱題 衆儀評(俳句、「早乙女の 植勝老の 皴手かな」ほか) 寸中拜→御催主様		横切紙・1通	え4710-17
(俳句「夏菊の 嬉しけに見ゆ 雨の空」ほか) 華朗		横切紙・1通	え4710-18
(書状、2・3人も大人のお力にてお連れ下されたきに付) □□→(八田)鏡次郎様	8月19日	横切紙・1通	え4710-19
(俳句、「声あらハ うきを鳴らむ ねり雪屋」ほか) 荷宋 □→上		横切紙・1通	え4710-20
(書状、俳句「五月雨や 時雨に似たる 陣も有」ほか添削願うに付) □十三→紫都雄尊夫人玉机下		横切紙・1通	え4710-21
(俳句、「手伝之 子もほとかする 粽かな」ほか) 花重□ →紫都雄様		横切紙・1通	え4710-22
(俳句、「雲懸り々 月を隠せよ ほたる狩」ほか) 秀種		横切紙・1通	え4710-23

(俳句、「短夜乃 寝るともなく 明にけり」)		小切紙・1通	え4710-24
(俳句3句、「しはらくは 松のなかめや 初霞」ほか)		横切紙・1通	え4710-25
御笑草(俳句、「いくつきても 逃しそせしな 飛ほたる」 ほか) 梅客		横切継紙・1通	え4710-26
(俳句、「竹植て 折のくけふハ 小雨ふる」ほか) 精月拜		横切継紙・1通	え4710-27
(俳句、「明け安き 夜と知りながら 寝惜ぬ」ほか) 喜平 九拜→紫都雄先生		横切紙・1通	え4710-28
(俳句、「朝露の 有る間に菖蒲 かさられる」ほか)		横切継紙・1通	え4710-29
(俳句、「鶯の なくやおもてに 梅そわん」ほか)		横切紙/(虫損)・ 1通	え4710-30
(俳句、「元日や くらももちたる もの、味」ほか)		横切継紙・1通	え4710-31
(俳句、「三か月に 初秋ちらと 見えにけり」ほか)		横切紙/(一部破 損)・1通	え4710-32
表六句(俳句「秋の際 香のあらは丈け 喰ふへし」ほか 高評願うに付) 文起拜→喬善楼尊師	文月9日	横切紙・1通	え4710-33
(俳句、「浅ましく 実のこほる、や 女郎花」ほか)		横切紙・1通	え4710-34
(書状、善光寺奉額の発句「今日の雪 春の雨とも 言つ らん」ほか高評願うに付) *後欠 文起拜→喬花楼御尊師	8月25日	横切継紙・1通	え4710-35
五戒之内(俳句「盃江 茶を継て見る 夕かな」ほか高評 願うに付) 花重軒→雄様	弥生18日	横切紙・1通	え4710-36
(書状、俳句「山吹や 瓢預る いともなき」ほか高評願う に付) 雉懸□拜→志都雄賢兄		横切継紙・1通	え4710-37
(書状、俳句「名月や 禁酒したるそ 言上戸」ほか高評願 うに付) 文起拜→華屋尊師		横切紙・1通	え4710-38
(書状、俳句「くぼくなつたる 雨たれのあと」ほか高評願 うに付)		横切紙・1通	え4710-39
(俳句、「鳳巾 暫し休ろふ 花の影」ほか)		横切紙・1通	え4710-40
(俳句、「傘をほす 隙も無き 菊の頃」ほか)		横切紙・1通	え4710-41
(書状、俳句「木曾殿を 思へは淋し 小田の雁」ほか高評 願うに付) 文起拜→喬華楼御尊師		横切紙・1通	え4710-42
(書状、俳句「やり持の 見上ケて行や 若葉陰」ほか高 評願うに付) *(端裏書)「喬花楼高師 玉机下 弟子 星 晴観」 星晴観十拜→喬花楼大君師		横切紙・1通	え4710-43
(俳句、「春雨や 長起をする 両隣」ほか)		横切紙・1通	え4710-44
(俳句、「雲かすみ なき初空乃 廣みかな」ほか)		横切継紙・1通	え4710-45
(書状、俳句「朝旁や 笠着た顔に露二つ」ほか高評願うに 付)		横切継紙・1通	え4710-46
(俳句、「ちる花も 咲花もあり 朝のうめ」ほか)		横切継紙・1通	え4710-47
(俳句、「鶏に今夜 又気かつ、や 夏の月」ほか)		横切紙・1通	え4710-48
(書状、一昨日お断した名家録をさし上げるに付) 啓十郎 →(八田)鉄治郎様	5月26日	横切紙・1通	え4710-49
(俳句、「久しうて 富士を見にけり 五月晴」ほか)		横切継紙・1通	え4710-51

1.内方/1.17.諸芸/1.17.9.俳句・和歌

(書状、俳句「名月や 人に能にた 峯の鹿」ほか高評願うに付) 文起拝→喬華楼尊師	□月3日	横切継紙・1通	え4710-52
卯月雑題(俳句「新らしき 風の吹けり 更衣」ほか高評願うに付) *句評書き込みあり 文起→華屋御尊師	卯月9日	横切継紙・1通	え4710-53
夏雑題(俳句「傘畳む 間にほんのりと 夏の月」ほか高評願うに付) 文起→喬華楼尊君師		横切紙/(虫損)・1通	え4710-54
夏三題(俳句、「合歓咲や 御寺の前の 豆腐店」ほか)		横切紙・1通	え4710-55
(書状、昨夜の俳句寄合は尊君来なく、種々の論は一々埒明き申さざるに付) 三草・□白→紫都男雅兄□足下		横切紙(虫損)・1通	え4710-56
(書状、俳句「蟬の音に 秋をわすれし 残暑哉」ほか高評願うに付) 文起拝→華屋尊師	7月19日	横切紙・1通	え4710-57
(俳句、「友達へ 僕を飛する 新茶哉」ほか) □・開叢		横切紙・1通	え4710-58
(俳句、「私の 名なんとつけて 呑新茶」ほか)		横切紙・1通	え4710-59
(弥生3日夜の句会の作句書付) □□→喬華楼尊師		横切継紙・1通	え4710-60

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

2. 店方

2.1. 酒造方

2.1.1. 酒造鑑札

(清酒造元石400石御免許鑑札願) 長野縣支配信濃国埴科郡松代伊勢町住士族八田知道(印)	明治6(年)	切紙/(え4651-1~34は括り紐一括)・1通	え4651-13
金札相場(金札相場書付並びに株式御廃止になるも酒造株を始め相願えば何程にても新株御免じ相成るに付)		横切継紙/(え4665-1~27は括り紐一括)・1通	え4665-27
(町方酒造人出造稼、酒造株冥加金を村方同様の増金額にて納めるべきに付請書) 伊勢町伝兵衛役代義左衛門印	天保2卯(年)11月	横切継紙/(え4681-1~32は括り紐一括)・1通	え4681-7
(書状、京都より酒造御鑑札について仰せ出されるところ、その御筋より御達しにより御礼有るべきに付)(色部)義太夫→(八田)慎蔵様貴答	8月7日	横切継紙/(え4686-1~44は括り紐一括)・1通	え4686-38

2.1.2. 内方より拝借金・上納金

(松代町より回り申すべき分金100両、酒店より返済受け取り金100両ほか金銭書付)		切継紙/(え4665-1~27は括り紐一括)・1通	え4665-1
(書状、内借金返上、今晚迄に申し聞きくださされたきに付) 水井(忠蔵)→角店佐助殿	9月28日	横切紙/(え4671-1~26は括り紐一括)・1通	え4671-8
(書状、悪銀1分引き替え並びに頼金3分差し越し願うに付) 水井(忠蔵)→角店佐助殿	7月20日	横切紙・1通	え4671-9
(書状、酒造方200金御内借金の納方都合に付) 水井(忠蔵)→角店佐助殿	6月3日	横切紙・1通	え4671-10

2.1.3. 酒造入用

覚(金1分2朱余清水紙3束ほかメ金2両3分余子年酒店入用書上) *(端裏鉛筆書)「文政二」	丑2月	横切継紙/(え4652-1~31は括り紐一括)・1通	え4652-20
(酒造仕入金150両など金銭勘定書付)		横切継紙/(え4685-1~25は括り紐一括)・1通	え4685-9
酒米春覚(車屋磯右衛門中白32石代金銀ほか金銀書付)		折紙/(虫損甚大)/(え4703-1~13は括り紐一括)/(え4703-4-1~4は括り紐一括)・1通	え4703-4-1

2.1.4. 棚卸

(去卯年新酒造入本数ほか酒店在庫・売上など書上) *下書		横切継紙/(え4701-1~29は括り紐一括)・1通	え4701-10
------------------------------	--	----------------------------	----------

2.1.5. 酒蔵・酒店勘定

記(1朱坂木宿弁当ほか掛り入用書上) 善治郎→角御店様	西6月	折紙/(え4651-1~34は括り紐一括)・1通	え4651-8
覚(焚炭×8俵代金2分) 酒店	西7月	横切継紙/(え4701-1~29は括り紐一括)・1通	え4701-13
覚(正月より6月分の塩×3石9斗3升5合代金4兩と5匁9分4厘書上) 酒店	西7月	横切継紙・1通	え4701-19
(書状、かの儀早速御答えしたきものの角店・酒店・東店の状況に付)		横切紙/(え4710-1~117は括り紐一括)・1通	え4710-63
酒店囲樽(一斗入10丁ほか樽数書上)		横切紙・1通	え4710-90

2.1.6. 奉公人

(書状、私孫おかふ御世話忝きところ、この度着物送り申すにより御届け下されるべきに付) (八田)嘉右衛門→松代八田酒蔵平八様用事入	9月10日	横切継紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-3-1~74は括り紐一括)・1通	え4704-3-17
--	-------	--	------------

2.1.7. 道具調

酒見世道具覚(酒店の諸道具24品) →増田惣右衛門様	9月17日	折紙/(え4682-1~35は紙紐一括)・1通	え4682-9
----------------------------	-------	-------------------------	---------

2.1.8. 借地

口上覚(貴殿酒蔵南通明地27間の際床店建てたき旨、多分の入用相掛り3ヶ年は借地代御勘弁下さるべきに付) 一→菊屋傳兵衛殿	年月月	縦継紙/(え4662-1~25は括り紐一括)・1通	え4662-7
--	-----	---------------------------	---------

2.1.9. 普請

三月十二日吉日(酒店手入請普之事ほか店方規定書付)		横長半/(え4700-1~6は括り紐一括)・1冊	え4700-4
---------------------------	--	--------------------------	---------

2.2. 呉服店**2.2.1. 売買**

(書状、先日申し上げる方は取り決め追々代金請け取り当月の御礼金相加え上納仕るべく一両日中には皆済上納仕るに付) 勝之助	3月24日	横切紙/(え4654-1~27は括り紐一括)・1通	え4654-1
---	-------	---------------------------	---------

覚(2尺×1丈5切ほか×37切5丈2尺5寸書上) 重郎次	12月13日	横切紙・1通	え4654-2
覚(×19切2丈9尺1寸、代金1分3匁余、大嶋殿へ遣す分控) (「此外ニ有之候…」) *後欠		横切紙・1通	え4654-2
(縮緬1反×36匁4分余、小林へ返すに付)		切紙・1通	え4654-3
(縮緬1反×36匁4分余、小林へ返すに付)		切紙・1通	え4654-4
口上(白黒砂糖御遣わし依頼、杉皮の質問ほか) 坂内内→ 角店清七殿		横切継紙/(え 4671-1~26は括 り紐一括)・1通	え4671-6

2.3. 油店

2.3.1. 金銭請払

調書事(9月朔日より12月晦日まで油仕入金×高辻金159 両余など金銭勘定書付) * (端裏書後筆)「天保10」		横切継紙/(え 4702-1~37は括 り紐一括)・1通	え4702-4
---	--	------------------------------------	---------

2.4. 醤油店

2.4.1. 内方より拝借金・上納金

覚(金10両拝借金ほか×金37両4分と1貫175文御上納金差 引御下げ金成し下さるべきに付) *裏書あり 中町醤油 方	午閏正月14日	横切継紙/(え 4653-1~29は括 り紐一括)・1通	え4653-8
---	---------	------------------------------------	---------

2.5. 質店

2.5.1. 内方より拝借金・上納金

覚(金255両1歩正金ほか×金560両3分余上納金書付) 質店	辰2月	横切継紙・1通	え4653-9
覚(金281両質店正金ほか×376両2朱上納金書上)	午閏正月14日	横切紙・1通	え4653-10

2.5.2. 入用

覚(3匁茶1片ほか×25両2分余諸品代書上) 質店	閏正月14日	横切継紙・1通	え4653-22
---------------------------	--------	---------	----------

2.5.3. 取替

覚(金22両2分余巳年御取替物ほか×金125両1分余金銭 書上)	午閏正月14日	横切継紙・1通	え4653-23
(書状、御下屋敷様質方御掛りのところ、去未年中取替金 80両3分余当惑に付) 勝之助	正月	横切紙/(え 4681-1~32は括 り紐一括)・1通	え4681-18

2.6. 陶器店

(書状、寺尾竈御懸り様より御頼むため、明28日杭全平左 衛門店にて焼物店したきに付)	6月27日	切紙/(え4667-1 ~15は括り紐一 括)・1通	え4667-9
(書状、陶器方御大入料詮議仕るところ、相違なきに付)		切紙/(え4692-1 ~26は括り紐一 括)・1通	え4692-7

2.店方/2.6.陶器店

覚(木町店陶器入代ノ金31両2朱余差引金1両1分余売出しに相成り申すに付ほか陶器仕入・売上勘定書付) 中町店	卯2月	横切継紙・1通	え4692-18
覚(御手懸り陶器売立て代金2口ノ171貫余上納に付) 中町松井店	午閏正月	折紙/(え4701-1~29は括り紐一括)・1通	え4701-4

2.7. 赤倉松井店

御内借申金子証文之事(金500両年1割2分利付にて抛無き要用にて御内借に付) *(端裏書)「明治二巳年十一月十六日赤倉温泉場和吉被預候而持参之書付写し置候事」 真田 弾正大弼内御内借主八田嘉右衛門印・同断立会所人岡川左十郎殿→榊原遠江守様御内松本斧次郎殿	文化13子年12月	横切継紙/(え4649-1~15は括り紐一括)・1通	え4649-5
(書状、赤倉中店留守居繁八より店の屋根や柱等の破損に付)		横切紙/(え4696-1~20は括り紐一括)・1通(2枚)	え4696-17

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

3. 町方

3.1. 諸役・貢税

3.1.1. 年貢諸役

(堤入用・町内年賦など金銭勘定帳) 八田嘉右衛門内嶺村吉兵衛印→名主助右衛門殿	文化6年巳2月4日	横長半/(え4662-1~25は括り紐一括)・1冊	え4662-3
---	-----------	---------------------------	---------

3.2. 殿様御用

3.2.1. 殿様御入接待

(倭假名色七文字・千本楼道行ほか演日書上) * (端裏書)「文政三庚辰年九月十八日殿様岡嶋平治殿江被為 入候節」		横切継紙/(え4651-1~34は括り紐一括)・1通	え4651-1
--	--	----------------------------	---------

3.2.2. 殿様御巡見

覚(いせ町・中町等の御本陣・御下宿、亭主・役人名前・料理人・手伝・給仕・風呂働人数書上)		横切継紙/(え4682-1~35は紙紐一括)・1通	え4682-34
(包紙) * (包紙上書)「文政四巳五月朔日御前水於御場内不足二相成候付田町抱屋敷湧泉御貫被成度々御臺所目附竹花伴十郎手紙」		包紙/(え4689-1~17は括り紐一括)/(え4689-1-1~3は包紙一括)・1点	え4689-1-1
(書状、御膳水御用立申し付けず田町抱屋敷井水御膳水致したく、田町へ御案内下され相汲ませる様願うに付) * (端裏書)「八田嘉右衛門様 竹花伴十郎」	5月朔日	横切紙・1通	え4689-1-2
(書状、田町御抱屋敷井水御膳水相成るところ、井水御延引罷り成り御承知下さるべきに付) * (端裏書)「八田嘉右衛門様 竹花伴十郎」	5月29日	横切紙・1通	え4689-1-3
(書状、御借入家具類差し出され滞りなく相済み、鯉2尾御内々下され御頂戴成さるべく私より御意を得る様鞞負殿仰せ渡さるに付) * (包紙上書)「天保三辰年二月二日鯉式尾拝領仕候草間権平殿より手紙」/(端裏書)「嘉右衛門様 権平」	2月2日	横切継紙/(え4689-1~17は括り紐一括)/(え4689-13-1~3は括り紐一括)・1通	え4689-13-1
(書状、御酒下され家具御借入れ滞りなく御間に合い忝く、鯉2尾下さるに付) * (包紙上書)「天保二卯年十一月廿五日鯉式尾頂戴仕候二付小幡官太夫殿より書帖」/(端裏書)「八田嘉右衛門様 小幡官太夫」	11月25日	横切継紙・1通	え4689-13-3
(書状、内々申し立て抱屋敷の儀御聴に達し御悦び遊ばされ、御沙汰申し立ての通り相心得る様申し聞き置くべきに付) * (包紙上書)「田町抱屋敷江被為入候儀二付被仰渡候御書付壱通 天保三辰十二月九日於御蔵ニ名代喜兵衛江被仰渡」	12月9日	横切継紙/(え4689-1~17は括り紐一括)・1通	え4689-14
口上覚(恣水園へ度々御立ち寄り有難く、折々御入の儀願ひ奉りたきに付) * (端裏書)「恣水園江御入之儀付内伺之下案 天保三辰閏十一月廿四日」 八田嘉右衛門→興津権右衛門様・岡島莊蔵様・金児丈助様	閏11月	横切継紙・1通	え4689-15

3.町方/3.2.殿様御用/3.2.2.殿様御巡見

(書状、中島三右衛門殿御内話の趣は菅沼殿御話の由、殿様御遊山所諸方御穿鑿、田町抱屋敷湧泉の場所御借り入れ在らせられたきに付)	天保3辰(年)11月17日	横切継紙・1通	え4689-16
(書状、東国の儀、御内談の趣意を相含み庭主へ申し談ずに付)		横長半・1冊	え4689-17
(書状、9日は御野掛ののち抱屋敷に入る儀を内々報せるに付) 鹿野牧人→八田嘉右衛門様	3月25日	横切継紙/(え4695-1~28は括り紐一括)・1通	え4695-24
七日御野懸先(大英寺で殿様献立の書上、御吸物・硯蓋・大平ほか)		横長半/(え4700-1~6は括り紐一括)・1冊	え4700-3
(3月24日~4月朔日までの朝・昼・夕飯献立書付)		横長半/(包紙共)・1冊	え4700-5
(7月27日献立書付、大平・鉢・井)		横切継紙/(え4701-1~29は括り紐一括)・1通	え4701-26
(書状、御目付衆より図面差し出す様口演あるにより今日図面持参下されるべきに付) (松木)東→(八田)孫太郎様	10月16日	横切継紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-2-1~91は括り紐一括)・1通	え4704-2-15
(11月14日献立書付) *後欠		切継紙・1通	え4704-2-78

3.3. 救済

3.3.1. 手当・施行

覚(極難渋にて当時夫食ニ差支える人別御繰り申上げたきに付)		横切継紙/(え4663-1~45は括り紐一括)・1通	え4663-40
(書状、夫食差支えの様子にて外聞にも宜しからず、極難渋の者を御救助、1人前玄米5升等御手充下されたきに付)	12月	横切継紙/(下札あり)/(え4678-1~17は紙紐一括)・1通	え4678-15
(12月27日御救人数書付カ、1415人・45人非人共) *え4701-17の関連史料カ		横切紙/(え4701-1~29は括り紐一括)・1通	え4701-16
(書状、旧臘27日に難渋人へ烏日・米を下されたもの、日雇共が刻限後も罷り越し相繰り、取り計い方願うに付) *(端裏書)「御内々申上候書取 八田嘉右衛門」 八田嘉右衛門	7月	横切紙・1通	え4701-17

3.4. 町政

(書状、当方町方は以前とは雲泥の相違により追々は元禄・享保頃の人気にもなるべき哉に付) *(端裏書)「いせ町様」(柿崎)源左衛門→(八田)嘉右衛門申上	9月5日	横切継紙/(え4656-1~34は括り紐一括)・1通	え4656-21
(書状、町方よりも願いを指し出し、並びに在々へ仰せ出された御条目の写など御貸し下されたきに付) *前欠	3月21日	横切紙/(え4682-1~35は紙紐一括)・1通	え4682-24

(書状、今夕御透あらば御尊来願い上げ奉りたく申しあげ るに付) 柴丁拜→伊勢町様	9月5日	横切継紙/(え 4686-1~44は括 り紐一括)・1通	え4686-15
(書状、御手形木町御役所へ御下場にて相廻す様含み蒙 るに付)	28日	横切継紙・1通	え4686-42
(書状、別紙愚案に賢評下されたきに付) 寺町→いせ町様	12月28日	横切紙/(え 4710-1~117は括 り紐一括)・1通	え4710-114

3.5. 貸借

一札之事(飯山御物成糶買入れ融通致したく貴殿へ 元方の儀御無心申し入れ、最早相片付き申すべきと ころ、相済まし兼ねるに付) *下書 穀屋惣代・八町御 役人御連印→一殿	月	縦紙/(え4702-1 ~37は括り紐一 括)・1通	え4702-20
--	---	----------------------------------	----------

3.6. 祭礼

(書状、御祭礼務方の儀、問合せ申聞かせたならばその方 勝手次第に致さるべく、挨拶申すべき趣有るに付) *(端 裏書)「御祭礼一件付町方へ及挨拶候一条」	4月10日	横切継紙/(え 4666-1~19は括 り紐一括)/(え 4666-1-1~13は 括り紐一括)・1通	え4666-1-13
(書状、御祭礼御棧橋御見物成し下さるべきに付)		横切継紙/(え 4674-1~35は括 り紐一括)・1通	え4674-14
(書状、来る13日よりその御地御祭礼私罷り出でたくも参 上仕りかねるに付ほか)		横切継紙/(え 4704-1~3は括 り紐一括)/(え 4704-3-1~74は 括り紐一括)・1通	え4704-3-11

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
覚(金10両、村々へ上納金分御渡し受け取るに付) (長崎源吾(印)→(吉野)勝之助殿	酉12月21日	横切紙/(え4652-1~31は括り紐一括)・1通	え4652-3
覚(未年分粳83反1斗1升2合2勺など、御年貢取立粳高3か年分書上) * (貼書)「金拾六両拾四匁四分八厘」 和平	戌4月17	横切継紙/(え4659-1~22は括り紐一括)/(え4659-4-1~3は包紙一括)・1通	え4659-4-3
(書状、岩村田御用達金の儀、徳兵衛名目にて差し出すところ、近来必至と差し支え、日光御門主様御令のため金の名目にて懸け合い申すべきに付) * 下書/(端裏書)「十月十三日岩村田一儀二付甲田氏へ頼書状下案」 (八田)嘉右衛門→十左衛門御下	10月13日	横切継紙/(え4659-1~22は括り紐一括)・1通	え4659-16
(書状、別紙の通り仰せ渡され、差し越し申し御承知の上御返し下され、辰三郎殿・喜兵衛殿へも御通達下さるべきに付) * (端裏書)「八田嘉右衛門様 矢野倉惣之進」	10月14日	横切紙/(え4662-1~25は括り紐一括)・1通	え4662-12
(河原160俵余ほか人別俵数書上)		横切紙・1通	え4662-17
(書状、今以て御沙汰なく少しは手間取り申すべく、7ツ時には引き取り明朝御役所へ待ち奉るに付) * (端裏書)「八田嘉助様 矢野倉惣之進」	9月21日	横切継紙/(え4663-1~45は括り紐一括)・1通	え4663-22
覚(新潟表積出しの御用米200俵、才領岸田鉄治持参、御取り計い願うに付) (宮下)兵馬・良右衛門→(八田)慎蔵様・(大里)忠一郎様	3月30日	横切継紙/(え4667-1~15は括り紐一括)・1通	え4667-11
(書状、御用米を寺尾河岸より運送の差図別紙に付) 整兵衛→(八田)慎蔵様	4月17日	横切継紙/(え4680-1~57は括り紐一括)・1通	え4680-13
(御用石1俵御用により念仏寺村より八田嘉助殿へ送付するところ、村々地遅滞なく継ぎ送るに付廻状) 鈴木藤太→岩草村・大安寺村・笹平村・山布施村(印)・有旅村・布施五明村(印)・布施高田村・東福寺村・清野村(印)右村々三役人	8月12日	横切継紙/(え4691-1~50は括り紐一括)・1通	え4691-7
(本口20俵3斗9升余り等メ21俵3斗2升余未年御年貢皆済目録) 名主祖右衛門(印)→八田様方与三郎殿	文政6年末12月	横切継紙/(え4692-1~26は括り紐一括)・1通	え4692-11
覚(去未年分金1両余ほかメ金2両14匁7厘未申両年分御役金受け取るに付) * (包紙上書)「文政七甲申年四月廿四日東寺尾村月割上納金貳両拾四匁七厘長岡氏江渡之印書」 東寺尾村組頭友左衛門(印)→長岡様御役代嘉伝治殿	文政7年申4月	横切紙・1通	え4692-15
(本口7俵1斗3升余りなど差し引き4俵4斗1升余不納に付丑年御年貢皆済目録) 名主源三郎(印)→八田様分	文政12年12月	横切継紙・1通	え4692-24
(書状、本口1俵1斗3升余り代金1両4匁余り御返し下さるべきに付)		切紙・1通	え4692-25

4.2. 御勝手御用役

4.2.1. 役人任免・俸禄

(書状、別紙の通り松木氏より申し来り如何挨拶申し遣わすべきか相伺うに付) *勘返状/(端裏書)「下竹村先生 申上 申 上幾太」	28日	横切紙/(え 4674-1~35は括り紐一括)・1通	え4674-6
(書状、御勝手方御用罷り出でる様仰せ渡され有難く、当人へ別段仰せ渡され御請け申し上げる次第御教示願うに付) *(端裏書)「幾太様内用 束」	12月28日	横切継紙・1通	え4674-7
(御勝手御用役八田喜兵衛宗洪御宛行玄米5人扶持書付)		縦切紙/(え 4678-1~17は紙紐一括)・1通	え4678-16
(書状、明日出勤に付) (青柳)増太郎→(八田)慎蔵様	5月5日	横切継紙/(え 4680-1~57は括り紐一括)・1通	え4680-40

4.2.2. 褒賞

(八田嘉助、出精相勤め銀3枚下し置かるに付) *(包紙上書)「天保十四卯年十二月十八日御用番鎌原石見殿被仰渡候」	12月18日	横切紙/(え 4689-1~17は括り紐一括)・1通	え4689-2
--	--------	----------------------------	---------

4.3. 川船会所

4.3.1. 通船免許

(書状、川船の儀不用に相成り、私儀御役御免に付) 御葉→伊勢丁様	8月13日	横切継紙/(え 4696-1~20は括り紐一括)・1通	え4696-19
----------------------------------	-------	-----------------------------	----------

4.3.2. 通船取締

(書状、川田・福嶋両村口銭取立の儀、通船艘数などに付) (青柳)増太郎→(八田)慎蔵様		横切継紙/(え 4680-1~57は括り紐一括)・1通	え4680-5
(河岸場改・御蔵改銀差引書付、河岸場改2849/700匁)		横切紙・1通	え4680-6
(書状、長沼村問屋にて河岸場俵数見改が行われなくては通船相成らず、又右衛門御呼出しの触遣わされたきに付) (青柳)増太郎→(八田)慎蔵様	4日	横切継紙・1通	え4680-33
(書状、御用米100俵の件河岸場へ申し達し置くに付) (青柳)増太郎→(八田)慎蔵様	4月29日	横切紙・1通	え4680-42

4.3.3. 金子・田畑屋敷貸下

(書状、川船運送中船会所に用いていた東寺尾村にある蔵の建物を貰い請けたく左源太と内談に付)	5月	横切継紙/(え 4681-1~32は括り紐一括)・1通	え4681-12
---	----	-----------------------------	----------

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
(書状、金50両、増田孫兵衛へ産物代金など送り御納戸へ相取め証文並びに御郡方よりの御用状1本差し上げ御取計下さるべきに付) * (包紙上紙)「御用八田喜兵衛殿堀内宗右衛門様 佐竹周蔵松沢文右衛門」江府掛り→御在所御掛り中様	10月24日	横切継紙/(え4650-1~22は括り紐一括)・1通	え4650-1
(書状、御手元御内用向きにてこの度和七出府に付) * (包紙上書)「八田嘉助様 佐竹周蔵」(佐竹)周蔵→(八田)嘉助様申上	2月22日	横切継紙/(え4656-1~34は括り紐一括)・1通	え4656-18
(書状、会所懸合70両御時借願い奉りたきに付) (酒井)市治→(八田)慎蔵様	6月2日	横切継紙/(え4686-1~44は括り紐一括)・1通	え4686-21
(書状、御一人御用繁察し奉るにより今日は引き取り仕るところ、改めて矢代付銀3分より改相願うに付) (幡場)潤蔵→(八田)慎蔵様	5月晦日	横切継紙/(虫損)・1通	え4686-27
(長国寺へ20両・紙漉丈助親類小右衛門清蔵へ20両ほか貸金書上)	(文政元年~文政6年)	横長半/(え4700-1~6は括り紐一括)・1冊	え4700-6
(糸方へ御預け金の分髓かに請け取り、御貸下金引当の内へ差し出し申す旨証書) * 前欠 八田辰三郎(印)・八田喜兵衛(印)→徳田五百人殿	天保3辰年正月	堅切継紙/(え4702-1~37は括り紐一括)・1通	え4702-33
(書状、別紙1封差し遣わし申すにより宜しく御取計らい下さるべきに付) * (端裏書)「八田辰三郎殿 岡嶋庄蔵」岡嶋庄蔵→八田辰三郎殿	2月22日	切継紙/(虫損)/(え4703-1~13は括り紐一括)・1通	え4703-7
(書状、よんどころなき入用のため、何卒御手元御繰合せを以て10月10日前に相届くよう20両御内借願い奉るに付) * (包紙上書)「小林勘平様 水井忠蔵 八田喜兵衛様 要用 水井忠蔵」(水井)忠蔵→(八田)喜兵衛様	9月朔日	横切継紙・1通	え4703-9
(書状、金12両明夕までに御下金願い奉りたきところ、近々御不用であればその段仰せを蒙りたきに付) * 書き損じ		折紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-2-1~91は括り紐一括)・1通	え4704-2-14
覚(金8両内借に付) 沼田屋九兵衛(印)→御産物御会所	天保5年午5月3日	折紙/(え4706-1~60は括り紐一括)・1通	え4706-1
覚(金3両時借に付) * (端裏書)「済切」長岡助右衛門(印)→八田嘉助殿	天保3辰年9月10日	横切紙・1通	え4706-2
覚(金9両3分10匁9分4厘借用に付) * (端裏書)「済切」長岡助右衛門(印)→八田嘉右衛門殿	天保3辰年3月	横切紙・1通	え4706-3
覚(封金9両預るに付) 八田嘉右衛門内浦野忠七(印切取)→岩都座頭之坊・城房座頭之坊	文政8酉年10月4日	横切継紙・1通	え4706-4
覚(産物会所へ貸下げ金の内上納分50両請け取るに付) 宮澤彦左衛門(印)→八田嘉助殿	天保10亥年4月4日	横切紙・1通	え4706-5

覚(御貸下金差し引き残金4両3朱2匁2分5厘)		横切紙・1通	え4706-33
(書状、16両余の金子を利附にお繰り廻しなしたされたきに付) (八田)喜兵衛→(八田)嘉助様	30日	横切継紙/(え4710-1~117は括り紐一括)・1通	え4710-72

5.2. 借入金・預り金・貸付金

(書状、毎度申上げる段、御手元より会所へ御預け金当午御元金如何程か御記し成し下されたきに付) * (端裏書)「下之徳田五百人様内用書入事共ニ被成候 上之八田喜兵衛様」		横切紙/(え4654-1~27は括り紐一括)・1通	え4654-10
覚(助弥産物方8ヶ年暮方諸雑用減金の金193両程の旨書付)		切紙/(え4667-1~15は括り紐一括)・1通	え4667-10
覚(御産物紬代金御中借受取金5550両、内訳・返上分ほか書付)		堅紙/(え4678-1~17は紙紐一括)/(え4678-17-1~2は括り紐一括)・1通	え4678-17-1
覚(御産物紬代金御中借5150両受取書) * 下書 → 三人殿	天保11子年正月	堅紙・1通	え4678-17-2
(包紙) * (包紙上書)「文政七申年正月十三日長谷川藤五郎殿より軍用金五両預候付先方より頼紙面并此方より指出候書面下案入」		包紙/(え4681-1~32は括り紐一括)/(え4681-28-1~3は包紙一括)・1点	え4681-28-1
(書状、金5両1分余を出役の時節まで御預り下されたきに付) 長谷川藤五郎→八田嘉右衛門殿	文政7年申正月13日	横切継紙・1通	え4681-28-2
覚(御援藩用御控仰せ付けられ御手元金として拝領した金5両を御入用の節まで預かるに付) 八田嘉右衛門印→長谷川藤五郎殿	文政7申年正月13日	横切紙/(虫損)・1通	え4681-28-3
(書状、昨日も山寺御奉行御出光あれば少々願い奉りたき儀あるに付) * (端裏書)「嘉助様 喜兵衛」(八田)喜兵衛→(八田)嘉助様		横切紙/(虫損)/(え4685-1~25は括り紐一括)・1通	え4685-10
(書状、馬喰町御郡代金御貸付筋内々問合せのところ、御取り扱いとなるに付) * (端裏書)「申六月廿五日 佐竹より来」	(申)	横切紙/(え4709-1~22は括り紐一括)/(え4709-4-1~5は包紙一括)・1通	え4709-4-3
(書状、別紙の通り御貸付金筋並びに小棗・茶杓・建水の売り渡しの件に付) * (端裏書)「申六月廿五日 佐竹より来」堀江惣藏→八田嘉助様御披露	(申)6月19日	横切継紙・1通	え4709-4-5

5.3. 冥加金

(書状、去々申年中産物などの冥加金送り帳御返しこれなく早速御返し下さるべきに付) * (端裏書)「八田喜兵衛様八田慎藏様 御余斗掛」	6月9日	横切紙/(え4652-1~31は括り紐一括)/(え4652-22-1~8は括り紐一括)・1通	え4652-22-5
--	------	--	------------

5.4. 絹紬類売捌

(書状、絹縞4疋1反・紬縞22反、御廻し成し下され有難きに付) * (端裏書)「喜兵衛様久右衛門様 盛之丞」	2月5日	横切継紙/(え4650-1~22は括り紐一括)・1通	え4650-21
(書状、御店より225両3分を替申し来り江府への御受取証文御廻し下さるに付) * (端裏書)「八田喜兵衛様 水野友作」	2月21日	横切継紙/(え4654-1~27は括り紐一括)・1通	え4654-12
(書状、須坂一条について御問合せの注文通御見成し下され有難きところ、役柄相違せざるに付) * (端裏書)「伊勢老人様 竹山丁拜」 竹山丁拜→伊勢老人様	八朔	横切継紙/(え4656-1~34は括り紐一括)・1通	え4656-4
(包紙) * (包紙上書)「八田嘉右衛門様 北沢源次兵衛」/(包紙裏書)「菊月三日来状」		包紙/(え4659-1~22は括り紐一括)/(え4659-22-1~3は包紙一括)・1点	え4659-22-1
(書状、糸相場出立後も下落の趣もなく売方気強のところ、持ち出し上糸の分置買方迷惑の由も相応に引き受けるに付) (北沢)源次兵衛→(八田)嘉右衛門様	8月27日	横切継紙・1通	え4659-22-2
(書状、私途中滞りなく帰府致すにより御礼に付) 北沢源次兵衛→八田嘉右衛門様御報	8月26日	横切紙・1通	え4659-22-3
(書状、為替にて取り捌いた金200両の内訳、原や惣兵衛へ送った仕掛が替金200両に付ほか) (水野)友作→(八田)嘉助様	正月28日	横切継紙/(え4672-1~11は括り紐一括)・1通	え4672-1
(書状、昨日申上げた処は外出にて委細は拜上にて申上げ奉りたきに付) * 勘返状 上柴町→いせ町様	菊月25日	横切紙・1通	え4672-2
(書状、今夕扱無き要用、明日相伺いたきに付) * 勘返状 (水野)友作→(八田)嘉助様	後3月	横切紙・1通	え4672-3
(書状、720両御下金の件) 水野友作→八田嘉助様	12月28日	横切継紙・1通	え4672-4
(辰3月より巳年の内2両ほか金銭書上)		小切紙・1通	え4672-5
(書状、難渋者に渡すための玄米を受け取りたきに付) 上柴町→伊勢町様	12月19日	横切継紙・1通	え4672-6
覚(赤銅馬劔・獅子劔・秋野草劔の3品の目貫を1両1分2朱で御買い下されたきに付) (水野)友作→(八田)嘉助様	11日	横切紙・1通	え4672-9
(書状、小千谷縮が近日参るので御用筋を申し上げるに付) (八田)慎蔵→松山町様	24日	横切紙/(え4680-1~57は括り紐一括)・1通	え4680-4
(書状、仙台平袴地を買うため越後屋へ罷り越したところ、先年より品質は下がり値段も高値に付) 善四郎→(八田)慎蔵様	4月14日	横切継紙・1通	え4680-10
(書状、越後筋より小千谷縮参るよし坂本蛮助申し聞け、ご注文なら持参に付) (八田)慎蔵→根井様申上	4月27日	横切継紙・1通	え4680-43
(書状、三井宿御引き受けのところ、故障がましく申すにより聞き入れなければ上田表へ差し通るに付) * 後欠		横切継紙/(え4691-1~50は括り紐一括)・1通	え4691-1
(書状、当節不繰合にて代金払いにも当惑の状況を御賢考下されたきに付) 芳二郎→(八田)嘉助様	26日	横切継紙/(え4710-1~117は括り紐一括)・1通	え4710-108

5.5. 麻・木綿売買

乍恐以書付奉願候(麻布尺幅の儀御触示有り難きところ、御触以前より織立て糸拵え仕る分は買い取り願うに付) *後欠		縦紙/(貼紙あり)/(え4674-1~35は括り紐一括)・1通	え4674-17
(書状、裏柴町岩下孫之丞様御長家安左衛門麻1貫目遣わずに付)		切紙/(え4691-1~50は括り紐一括)・1通	え4691-47

5.6. 産物無尽

(柳沢金15両など差引2口×8両余り中島手へ受け取る分金銭書付) *(端裏書)「産物無尽品々差引ニ移し反古仕廻置可申事」		横切紙/(え4703-1~13は括り紐一括)/(え4703-4-1~4は括り紐一括)・1通	え4703-4-3
--	--	---	-----------

5.7. 産業統制

5.7.1. 鑑札

(書状、布施高田村嶋五郎、種蘭買鑑札厳重返上の儀申し渡し、否申立てたならばその趣早速役所へ罷出で申し立てるべきに付) 産物方御役所→右(布施高田村)村三役人		横切紙/(え4665-1~27は括り紐一括)・1通	え4665-16
(此封急ぎ申し遣わずにより順村継滞なく相届けるべきに付廻状) 富岡良右衛門(印)→福嶋村・町川田村・東寺尾村右村々三役人	6月5日	横切紙/(虫損甚大)/(え4686-1~44は括り紐一括)・1通	え4686-3
(書状、稻荷山杏仁鑑札願い出るところ、昨日御評議の次第もあるにより坂本公へ御問い合わせるに付) (酒井)市治・(水野)清右衛門→(八田)慎蔵様	5月27日	横切紙・1通	え4686-20
(1本差懸かり御用申し越すにより村継滞りなく相達するに付廻状) 幡場潤蔵(印)→羽尾村・須坂村(印)・向八幡村・矢代村(印)・雨宮村(印)・土口村(印)・岩野村(印)右村々三役人	5月晦日	横切紙・1通	え4686-26
乍恐御内々申上候(力石村蘭御鑑札12枚7月中差し上げず名主不納仕るにより恐れ入るに付) 高井善右衛門	6日	横切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-2-1~91は括り紐一括)・1通	え4704-2-68

5.7.2. 陶器竈場

(書状、加賀井村竈場の儀、国産御取立の御趣意を以て内命あるも取立に成らず、この節渡世取り続きの姿となり、諸道具・地面建屋坪数など心得申したきに付) *(端裏書)「天保六年二月 喜惣治へ承度書類」	天保6午(年)2月	横切紙/(え4701-1~29は括り紐一括)・1通	え4701-3
覚(子年冥加金39両1分余のうち陶器竈冥加金4両ほか差し引き金銭書上)	丑4月	横切紙・1通	え4701-6

5.7.3. 蚕種・絹紬

(紬方3月中御中借不足金266両2分余内訳書上)		横切紙/(え4654-1~27は括り紐一括)・1通	え4654-26
(包紙) 福嶋村竹内文八→産物御役所	4月13日	包紙/(え4680-1~57は括り紐一括)・1点	え4680-15
(廻状、桑皮剥人足差し遣わし日限を連絡すべきに付) *え4680-15の包紙の中身カ 産物御役所(印)→福島村竹内文八・大豆橋村三役人	4月13日	横切継紙・1通	え4680-16
(書状、小堀村佐兵衛蚕種紙5分付838枚相改めるところ、7日児島孝之助一同差し出したく申し聞くに付) (富岡)良右衛門→(八田)慎蔵様	6月6日	横切継紙/(え4686-1~44は括り紐一括)・1通	え4686-22
(8月5日より27日迄分の生糸・蚕種代金と名前書上、分金25両2分7匁3分1厘)		横長半/(え4708-1~4は括り紐一括)・1冊	え4708-3
(6月20日より8月13日分の生糸提数と目方・冥加金ほか書上)		横長半・1冊	え4708-4

5.7.4. 甘草

覚(大干甘草15貫目入70箇ほかメ100箇に付) 栄八	申5月	横切継紙/(え4662-1~25は括り紐一括)・1通	え4662-16
(書状、甘草について福嶋村定之助などが申すには当春上方筋値段2割5分引上り苗も準ずるに付) *(端裏書)「甘草之儀ニ付福嶋村ニ而寄合仕候義御聞置申上 産物会所掛り」 産物会所懸	2月	横切継紙/(え4691-1~50は括り紐一括)・1通	え4691-10
覚(10貫500目入30箇太甘草など御蔵入願ひ奉るところ、金子差し支えるにより御貸金150両御聞き済ましに付) 伊勢町傳兵衛→御産物御会所	嘉永3午年10月3日	横切継紙・1通	え4691-11

5.7.5. 杏仁

覚(上平村佐市ほかより杏仁カ140石余買入代金書上、並びに松代から飯山・高田・今町を経て大坂まで運送賃の見積書)		横切継紙/(え4682-1~35は紙紐一括)・1通	え4682-35
(書状、何か御用か石川村も出居るによりこの段申上げ奉るに付)	11月11日	横切継紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-2-1~91は括り紐一括)・1通	え4704-2-42
(書状、仰せ越されるの由石川村も出居りにより少々御繰り合せ御出張に付) *書き損じ		切継紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-3-1~74は括り紐一括)・1通	え4704-3-73

5.7.6. 木綿

(書状、大塚氏の木綿方調について愚意井稿仕るところ、如何のものかに付) (八田)喜兵衛→(八田)嘉助様	11月11日	横切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-2-1~91は括り紐一括)・1通	え4704-2-88
(書状、別紙徳武源五右衛門内話の趣に付) (松本)嘉吉郎→(八田)嘉助様御直披	7月8日	横切継紙/(え4709-1~22は括り紐一括)・1通	え4709-10
(書状、手拭地の売り捌き方、愚意申上げ、麻其外の方は産物会所懸りへ内談に付) 松本嘉吉郎→八(八田)嘉助様	3月9日	横切継紙・1通	え4709-11

5.7.7. 規定

(書状、近来引き続き御変革、商売向き旧来の仕法渡世成り行き当午年より商法相改め御規則に付)		横切継紙/(え4652-1~31は括り紐一括)/(え4652-22-1~81は括り紐一括)・1通	え4652-22-8
---	--	--	------------

5.8. 大坂交易

(書状、塩の儀仰せ下され帰宅の節塩行司へ申し聞かせ、別紙の通り申し来り其俣御覧に入れ奉るに付) *(包紙上書)「いせ町様尊下 寿一郎」/(包紙裏書)「印紙当方へ寿一郎殿より到来ニ付被下二候 十月十七日」(深美)寿一郎→いせ町様申上	神無月14日発	横切継紙/(え4655-1~11は括り紐一括)/(え4655-10-1~2は折込一括)・1通	え4655-10-1
覚(吠塩10駄10両1分ほか松代迄10駄に付賃1分2朱) 木屋専助(印「本信州善行寺嘉重助」)→深美(寿一郎)様	酉10月14日発	横切継紙・1通	え4655-10-2
(包紙) *(包紙上書)「八田嘉右衛門様左右 山極源右衛門」/(包紙裏書)「十一月九日到来帖」		包紙/(え4655-1~11は括り紐一括)/(え4655-11-1~3は包紙一括)・1点	え4655-11-1
(書状、京都へ山城屋久五郎と申すもの発足仕り御用あれば仰せ付けられるべきに付ほか) (山極)源右衛門→(八田)嘉右衛門様	11月9日	横切継紙・1通	え4655-11-2
覚(金3両、守京幡代として落手仕るに付) 金子三平(印)→山極源右衛門殿	霜月	横切継紙・1通	え4655-11-3
(包紙) *(包紙上書)「嘉右衛門様内用 陽之助」		包紙/(え4664-1~24は括り紐一括)/(え4664-1-1~3は包紙一括)・1点	え4664-1-1
(書状、昨日枉駕成し下された節御内話の趣、辰三郎様へ御咄仕り、殊の外御驚き成られ、仰せ聞かされるに付) *(端裏書)「嘉右衛門様 陽之助 御内披可被成下候」(岡野)陽之助→(八田)嘉右衛門様	6月28日	横切継紙・1通	え4664-1-2
(書状、昨晚嘉助様も御遣わし下され、着のおていれ・御支度向の御咄もこれ有る等に付) *(端裏書)「御内披可被成下候」	6月28日	横切継紙・1通	え4664-1-3

5.会所・商社/5.8.大坂交易

(松代から越州今町32両2分ほか運賃金額・諸雑用金など勘定書付)		小切紙/(え4669-1~9は括り紐一括)/(え4669-1-1~17は括り紐一括)・1通	え4669-1-3
(書状、大津宿甚兵衛勝手向不如意、帰宿日限も分からざるに付ほか) *下書カ		小切紙・1通	え4669-1-4
(荷物送りどころ越後今町問屋柴山作右衛門殿、信州松代八田孫左衛門様行) 金沢嘉兵衛[印「大坂道頓堀幸橋北詰 []」]	申5月16日	切紙・1通	え4669-1-13
(御廻米・積下シ塩引請船主、今宮在宿の者2名書上)		堅紙/(え4674-1~35は括り紐一括)・1通	え4674-21
(書状、この書付太助仕る所、当会所へ出でられるべきところ、間違いあるまじきに付) *下書 湯田中村六右衛門		横切紙/(え4685-1~25は括り紐一括)・1通	え4685-16
(書状、その節御内見の喜左衛門の書付宜しければ印形仕らせ申すべきに付)	12月25日	横切紙・1通	え4685-17
(交易所の方平兵衛上坂御聞済に相成る上は留守中引請人申立の事など簡条書)		横切紙/(虫損)・1通	え4685-19
(書状、仰せを蒙った京為替金10両今日差し上げるにより御人御遣わし下されるべきに付) 酒井市治→八田慎蔵様御用状入	7月8日	横切紙/(え4686-1~44は括り紐一括)・1通	え4686-36
(書状、この程内願仕る為御替のことは如何の御様子御伺いたきに付) *勘返状 (八田)慎蔵→(水野)清右衛門様御用申上		横切紙・1通	え4686-44
覚(三井金300疋同100疋・大丸300疋など京都大店御所届入料当夏御聞済により御渡しなしくだされるべきに付) 松本嘉十郎	酉12月16日	横切継紙/(え4688-1~10は括り紐一括)・1通	え4688-8
(書状、御道中御滞りなく御帰坂とのこと御悦申し入れるに付) 八田嘉助→□様		横切継紙/(え4691-1~50は括り紐一括)・1通	え4691-16
(書状、会所見込御尋ねにより申し談ずるところ、当時大津表において屋敷地御買入れに300両余の御入料に付) *前後欠		横切継紙/(破損)/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-1-1~15は括り紐一括)・1通	え4704-1-1
(書状、大津駅納屋甚兵衛へ申し談じるところ、御用達金については同人所持罷り在るに付) *(端裏書)「西木町平兵衛御内々申立之儀御尋二付申上 産物会所懸」/後欠		横切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-3-1~74は括り紐一括)・1通	え4704-3-39
(書状、この度仕切目録・染もの仕切を差し下すに付、並びに為御登金工面の儀に付ほか) いせ茂安兵衛[印「京都富小路通六角上町伊勢屋」]→八田左助様人々御中	5月5日	横切継紙/(え4705-1~17は括り紐一括)・1通	え4705-3
(書状、左助様御上京の儀、並びにほうろく・ふくへ・茶杓などの茶道具送付に付) いせ茂安兵衛[印「京都富小路通六角上町伊勢屋」]→八田孫左衛門様・大八様・庄兵衛様人々御中	3月12日	横切継紙・1通	え4705-4

(書状、左助様京都御発足、この度御召類残らず出来、当春御買物の儀も左助様と相談にて買い付けるに付ほか) いせ茂安兵衛[印「京都富小路通六角上町伊勢屋」]→八田大八様・庄兵衛様人々御中	巳4月3日	横切継紙・1通	え4705-5
(書状、道中無難に御帰国と遠察、先達て御調物・御備物は太物小間物にて取り揃えて両御店へ差し下しに付ほか) いせ茂安兵衛[印「京都富小路通六角上町伊勢屋」]→八田左助様人々御中	4月7日	横切継紙・1通	え4705-6
覚(京より松代まで荷物8箇・紙包1つ御受取のうえ駄賃御渡し下されたきに付) 松本田村又右衛門[印「信州松本小□町」]→松代八田様御方ニ而かつら木久五郎様	巳6月6日	縦紙・1通	え4705-7
(書状、御注文物の袋物大方出来、差下しに付、ほか御注文の和けん堂・黒縹子・縮緬物などに付) 近江屋金左衛門・宇兵衛・伝蔵(印)→八田孫左衛門様・傳兵衛様・兵助様参人々御中	9月29日	横切継紙・1通	え4705-8
(書状、先達て仰せ付けられた御召類漸々出来、江戸御屋敷へ差し下すに付ほか) いせや茂兵衛[印]→八田左助様人々御中	12月27日	横切継紙・1通	え4705-9
(書状、飛脚にて金子70両御登せ遊ばされ慥かに請け取り、伝兵衛が罷り下る際に染地類を持参し松本より送るに付ほか) 平岡金左衛門・宇兵衛(印)→八田孫左衛門様・傳蔵様・兵助様	9月23日	横切継紙・1通	え4705-10
(書状、左助様勢州表へ御下りなされ随分御堅身と安堵、急御入用の縹子差し送るに付ほか) 伊勢屋茂兵衛・安兵衛[印「京都富小路通六角上町」]→八田大八様・庄兵衛様人々御中	後3月10日	横切継紙・1通	え4705-11
(書状、鎌原長門様その外御連中当地出立のためかわこ荷物差し下し、ほか茶の湯道具値段連絡に付) いせ茂安兵衛[印「京都富小路通六角上町伊勢屋」]→八田大八様・庄兵衛様	後3月24日	横切継紙・1通	え4705-12
(書状、左中様御上りなされ伊勢茂方にて御用仕入のことに珍重、黒紬2疋差し下すに付) 岸甚左衛門→八田兵助様	3月2日	横切継紙・1通	え4705-13
(書状、先達て御誂えのちりめん2反・染物ほか差し送るに付) いせ茂安兵衛[印「京都富小路通六角上町伊勢屋」]→八田兵助様	正月22日	横切継紙/(え4705-1~17は括り紐一括)/(え4705-15-1~3は巻込一括)・1通	え4705-15-1
初相場(中国米等の諸国米相場、大豆・水油等の諸品相場書上) 伊勢茂		横切紙・1通	え4705-15-2
口上(京より松本まで菴包荷物2箇駄賃書付) 松本伊左衛門→松代八田兵助様	2月11日	横切紙・1通	え4705-15-3
(書状、染地荷物6箇等請け取り、御注文の内金井様・寺沢様の袴出来、差し下すに付ほか) * (端裏書)「カ」 いせ茂安兵衛[印「京都富小路通六角上町伊勢屋」]→八田佐助様・(八田)大八様・庄兵衛様人々御中	4月17日	横切紙/(虫損)/(え4705-1~17は括り紐一括)・1通	え4705-16
(書状、注文の品差し送り、入日記と引き合わせ下されたきに付) いせ茂安兵衛[印「京都富小路通六角上町伊勢屋」]→八田左助様人々御中	5月25日	横切紙・1通	え4705-17
(書状、産物方のため布甚・鴻池・加島屋などに1万両の融通金の内談取り極めの件に付) 松本嘉重郎→八田嘉助様	3月21日	横切継紙/(え4709-1~22は括り紐一括)・1通	え4709-5

5.会所・商社/5.8.大坂交易

(書状、例の一条存外手間取り出立の日限も知れかね、日々才足ばかり致し居り、京都にて島原の太夫を見るに付ほか) * (端裏書)「戌四月五日到来 嘉助様」(八田)喜兵衛→(八田)嘉助様	(戌)3月23日	横切継紙・1通	え4709-9
(書状、茶入「富士無音」をお上にて懇望ながら金の出所覚束なく、御勝手元締御勘定吟味などにていかが申すべきやに付) (深美)甚十郎→伊勢町様	10月27日	横切紙・1通	え4709-13
(書状、御上御居間御座敷向御手狭、屋敷を広げたいものの、大災以来公儀拝借金等返済に至らず、大坂炭彦など懇望の茶入「富士の音なし」を預けて2000両位用立て申すべきやに付) 小嘉→八嘉(八田嘉助)様几下	1月27日	横切継紙・1通	え4709-16
(書状、別紙茶器売立ての儀、御上御ためしのうえ炭彦へ遣わす場合と、江戸加島屋より大坂へ払う場合の金額の見込ほかに付) 小嘉→(八田)嘉助様	1月27日	横切継紙・1通	え4709-17
(書状、京都御勘定返済方引替口の儀に付) 甚郎→(八田)嘉助様	2月28日	横切継紙・1通	え4709-18
(書状、塩代金200両程入用、大坂より為替参らざる故如何ともしがたきに付) 松嘉(松本嘉十郎)→戸佐久様	11月21日	横切継紙・1通	え4709-20
(書状、炭彦の一条骨折るも1000両だけの為替出来、寺町公の御見込にてはとても難しきに付、友七帰坂のところにて決合に付ほか) 松本嘉十郎→八(八田)嘉助様	3月19日	横切継紙・1通	え4709-22
(大坂平野町壺丁目炭屋彦五郎・同所瓦町壺丁目彦五郎支配人懸り炭屋孫七人名書上)		横切紙/(え4710-1~117は括り紐一括)・1通	え4710-107

5.9. 近郷での取引

(書状、清水屋善兵衛へ売渡荷物出荷仕り堀内様御手元まで差し上げ、同人出府の節代金引替御渡し成し下さる様友吉申し聞けるに付) (岡野)陽之助		横切継紙/(え4663-1~45は括り紐一括)・1通	え4663-36
(書状、相衰い木綿商売も取り失うところ、御慈悲の御手段を以て養蚕糸の御国益御取り立て下され広大の御救いと相成るに付ほか) * (包紙上書)「口上認取 与一右衛門九郎右衛門」		横切継紙/(え4675-1~3は括り紐一括)・1通	え4675-1
(書状、当御城下先年は繁昌も追年衰微、弊を取り直し御町一統繁昌致す様手段工風見込み申すべく御尋ねを蒙り有難きに付) *え4675-3と同内容		横切継紙・1通	え4675-2
(書状、当御城下先年は繁昌も追年衰微、弊を取直し御町一統繁昌致す様手段工風見込み申すべく御尋ねを蒙り愚意申上げるに付) *朱書きの添削あり 何兵衛		横切継紙・1通	え4675-3
(書状、御郡中へ御触案東京より御廻しの分拝借したきに付) (太田)藤右衛門→(八田)慎蔵様	5月7日	横切紙/(え4680-1~57は括り紐一括)・1通	え4680-39
(書状、荷出について会所へ関わらず全て相對と御触流のみでは差し支えもあるまじきやに付) *前欠 産物会所懸	8月	横切継紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-1-1~15は括り紐一括)・1通	え4704-1-3

5.10. 江戸での取引

(書状、江戸より産物代為替申し来り江戸への御受け取りの100両に御認め相成る様仕りたきに付) * (端裏書)「喜兵衛様 友作」	3月21日	横切紙/(え4654-1~27は括り紐一括)・1通	え4654-6
(書状、産物代金を替御受け取り落手仕るに付) * (端裏書)「喜兵衛様 友作」	3月21日	横切紙・1通	え4654-9
(代金上納の分通帳メ分、江戸持替分通帳メ分ほか金銭書上)		横切紙/(え4654-1~27は括り紐一括)・1通	え4654-27
為替金一札之事(金100両、大丸屋次郎兵衛殿へ為替取り組み正金請け取りに付)		縦紙/(え4662-1~25は括り紐一括)・1通	え4662-24
(書状、割印について2ヶ所あるもやはり一割切の方御勘考願うに付)		横切紙/(え4686-1~44は括り紐一括)・1通	え4686-4
(書状、江戸表の送書認方仰せを蒙るところ、宛所わからず江戸蚕種問屋中など仕るべきやに付) * 後欠 (坂本)斎助→(八田)慎蔵様御答		横切紙・1通	え4686-5
(書状、小野氏への返書並びに播磨氏へ別付御廻し下されるべきにより御手数ながら御配慮願うに付) 坂本斎助→八田慎蔵様御用状入		横切紙・1通	え4686-6
(書状、松本御氏御内用の御世話に預かり武田氏下金21両この節御取替金をもって上方へ御送りに付ほか) 江戸産物掛→御在所御掛様	3月15日	横切紙/(え4703-1~13は括り紐一括)・1通	え4703-2
(書状、江戸上納方の御様子如何のところ、この表も口金御払底に付) (片桐)重之助→(八田)嘉助様	12月2日	横切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-3-1~74は括り紐一括)・1通	え4704-3-49
(書状、注文の品を柏屋藤蔵船へ積み入れて江戸京橋具足町の問屋新城屋清兵衛へ差し下すに付ほか) 鉄屋平右衛門→八田佐介様参人々御中	4月16日	横切紙/(え4705-1~17は括り紐一括)・1通	え4705-14
(書状、店一条は江戸大火のため大不印となり売買所の者も心配、ほか大坂の状況や無尽に付) * (包紙上書)「八田嘉助様 八田喜兵衛」/(端裏書)「嘉助様」 (八田)喜兵衛→(八田)嘉助様	3月7日	横切紙/(え4709-1~22は括り紐一括)・1通	え4709-6

5.11. 松前での取引

(書状、良右衛門より蝦夷一件御手の方へ委細申上げるやに付) 元之丞→(八田)慎蔵様	4月3日	横切紙/(え4680-1~57は括り紐一括)・1通	え4680-53
(書状、新潟よりの来状よろしく願うに付) (八田)芳三郎→(八田)慎蔵様	3日	横切紙・1通	え4680-54

5.12. 駄送

(書状、越州表より藤村四郎兵衛先触などもなく、早駕籠にて新町駅より乗り込むに付) * (包紙上書)「八田慎蔵様御内 御役人中様 新町駅出役道橋附堀内友蔵」道橋附堀内友蔵→八田慎蔵様御内御役人中様	9月8日	豎継紙/(え4671-1~26は括り紐一括)/(え4671-25-1~4は括り紐一括)・1通	え4671-25-2
(書状、昨夜は急ぎのため御人数を申上げず、上下2人に付) * (包紙上書)「八田慎蔵様御内 御役人中様 大急御用 新町駅出役道橋附堀内友蔵 丹波島宿より」堀内友蔵→八田慎蔵様御内御役人中様	9月9日	豎紙・1通	え4671-25-3
(米糶馬送・牛送の穿鑿、村方の者へ駄賃支払ほか書付)		横切紙/(え4678-1~17は紙紐一括)・1通	え4678-7

5.13. 入用

(書状、船頭とも喰米に差し支え、御米俵くれる様願ひ奉るに付) 才領組元吉→御役人中様	午6月9日	横切紙/(え4662-1~25は括り紐一括)・1通	え4662-9
(書状、商社出金、藤五郎わがままの件、留次郎を綿内へ遣わす件ほか) (坂本)秀→御兄上様	3月3日	横切継紙/(え4671-1~26は括り紐一括)・1通	え4671-3
(書状、金五郎一条いまだ決まらず困り居るに付) 坂本秀→八田御兄上様		横切継紙・1通	え4671-4
(書状、私事も13日頃に伺うため、その際に万々申上げたきに付) * (封筒表書)「松代八田様平信 井上村 坂本」(坂本)ひて→御母上様・御姉上様	4月7日	横切継紙・1通	え4671-18
(書状、会所惣調を心得なくては貸出などの次第も弁えかね、心添えを頼むに付) 富永新平→坂本高助	9月29日	横切紙・1通	え4671-21
(中之条・中野止宿料ほかメ金6両御入料受け取るに付) 中村仲多(印)→産物方	寅6月23日	横切継紙/(え4674-1~35は括り紐一括)・1通	え4674-13
(書状、会所より私方へ参る奉書紙などの品代料願うに付) 松山丁→伊勢町様	5月8日	横切継紙/(え4680-1~57は括り紐一括)・1通	え4680-37
覚(御賄御酒御肴代惣御入用35匁去11月掛樋尾張之助様御出により御入用に付) 増田邦治郎手代弥吉→御産物方御會所	弘化3午年12月	横切紙/(え4691-1~50は括り紐一括)・1通	え4691-2
(書状、御用紙代銀の儀、今以て御廻し下されず、御勘定差し支えのため早速御廻し下さるべきに付) * (端裏書)「喜兵衛様 辰三郎様 右兵衛 渡浪」右兵衛・渡浪→(八田)喜兵衛様・(八田)辰三郎様	11月4日	横切紙/(え4703-1~13は括り紐一括)・1通	え4703-3
(書状、片桐氏へ申し遣わす趣申上げるところ、同人方へ御差し引き仰せ越され同人より承知仕るに付) (八田)嘉兵衛→(八田)嘉助様	24日	横切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-1-1~15は括り紐一括)・1通	え4704-1-6
(包紙) * (包紙上書)「産物方会所 急御用 伊勢町惣八郎」/(包紙裏書)「十二月廿五日戌之刻出ス」		包紙・1点	え4704-1-7

覚(戌年油代×高2匁5分) 菊屋伝兵衛→産物方御役所	亥4月	横切紙/(え 4706-1~60は括 り紐一括)・1通	え4706-34
----------------------------	-----	-----------------------------------	----------

5.14. 日記・用留

(書状、日誌閲覧有難く返上するところ、この写書並びに 手紙御目に懸けるに付) 兵衛→八田様	9日	横切継紙/(え 4686-1~44は括 り紐一括)・1通	え4686-41
--	----	------------------------------------	----------

5.15. 会所役人心得方

(書状、慶左衛門不行状御教諭なし下されたきに付) *(包 紙上書)「口上覚」(関田)守之丞→(八田)嘉右衛門様	11月	横切継紙/(え 4681-1~32は括 り紐一括)・1通	え4681-1
(書状、別紙口上書を差し上げのため御賢慮くだされたき に付) (関田)守之丞→(八田)嘉右衛門様	11月3日	横切継紙・1通	え4681-6
口上覚(江戸留守中心得違いの詫書、並びに御役向出精・ 禁酒に付) 関田慶左衛門	文政12丑年8月14日	横切継紙・1通	え4681-9

5.16. 会所運営

口上覚(私眼病により養生したく御奉行所へ御届け申上 げるに付) *(包紙上書)「口上覚 酒井七郎太」 酒井七郎 太→御元方様	辰2月28日	横切紙/(え 4649-1~15は括 り紐一括)・1通	え4649-9
(書状、別紙の通り申し来る儀、御寄合の趣申上げ御承知 成し下さるべきに付) *(端裏書)「伊勢町様 産物會所」	17日	横切紙/(え 4663-1~45は括 り紐一括)・1通	え4663-18
(書状、為之進殿より不都合のため正4時から御懸合との こと御苦勞ながら御出席下されるべきに付) (小野) 唯之進→(八田)慎蔵様	5月16日	横切継紙/(え 4686-1~44は括 り紐一括)・1通	え4686-10
(書状、大御面倒懇願並びに用懸りの方調印については如 何の御様子であるか窺い上げ奉るに付) (八田)知禮→ (八田)知道様	9月22日	横切紙・1通	え4686-12
(書状、鼠宿のことについては御役所へ罷り出で殊に近藤 氏へ御取り成し願うに付) (坂本)斎助→(八田)慎蔵様 御受	5月27日	横切継紙・1通	え4686-16
(書状、矢代について松崎市左衛門方昨年中益後出役賄 代如何ほどばかりか御調べ願うに付) (小野) 唯之進→(八田)慎蔵様	4月8日	横切継紙・1通	え4686-18
(書状、善右衛門昨夕罷り帰り、矢代・土口村などへも立 ち寄るところ、幸松方にては今日揃うに付) *勘返状 (八田)慎蔵→(坂本)斎助様	20日	横切継紙・1通	え4686-24
佐竹周蔵産穢御免之儀申上(周蔵妻出産産穢、この節御 用多く御免に付) 産物会所掛	2月22日	横切継紙/(え 4699-1~40は括 り紐一括)・1通	え4699-10
(書状、昨日御談しの歎願書について今朝水井公へ御談じ 申すにより御来光下されたきに付) (八田)喜兵衛→(八 田)嘉助様	3日	横切継紙/(え 4704-1~3は括 り紐一括)/(え 4704-2-1~91は 括り紐一括)・1通	え4704-2-32

5.会所・商社/5.16.会所運営

(書状、別紙只今申し来たるところ、柴丁へ差し出し下されたく願ひ奉るに付) 斎兵衛→(八田)嘉助様	12月22日	横切紙・1通	え4704-2-34
(書状、過日願ひ置いた証文御下げ成し下され有り難きところ、落手奉るに付) (佐竹)周蔵→(八田)嘉助様御口	10月29日	横切紙・1通	え4704-2-58
(書状、春日氏へも御談じ相済むところ、水井氏は御同氏御引き受け御談じ下されるべき筈に付) (八田)喜兵衛→(八田)嘉助様	3日	横切紙・1通	え4704-2-59
(書状、嘉助様へ申し上げ置いた通り昨夜書取より細々仕るも趣意は同様(に付) (八田)嘉右衛門→(八田)辰三郎様・(八田)嘉助様	6日	横切継紙・1通	え4704-2-67
(書状、別紙の趣水井殿申し来たるところ、返報申し遣わずにより松本氏へそのように挨拶するに付) (八田)喜兵衛→(八田)嘉助様	21日	横切紙/(え4704-1~3は括り紐一括)/(え4704-3-1~74は括り紐一括)・1通	え4704-3-48
(「八田孫太郎 病氣八田嘉右衛門 名代八田嘉助 同道八田喜兵衛 八田辰三郎」書付)		切紙・1通	え4704-3-61
(包紙) *(包紙上書)「八田嘉助様用答 大塚孝三郎」		包紙・1点	え4704-3-64
(書状、取り調べに対し思し召しなくば御一筆願いたきに付) (八田)嘉助→(八田)孫兵衛様	12月26日	横切継紙/(え4710-1~117は括り紐一括)・1通	え4710-91
(書状、過月末より咽痛なれど漸く昨日より食物が喉を通るようになったため罷り出るに付) 藤左衛門→(八田)嘉助様	2月15日	横切継紙・1通	え4710-99
(手札、「松代産物会所附売買所懸り伊勢町伝兵衛清十」)		小切紙・1通	え4710-105
(書状、内覧に入れた書面の儀、仰せを蒙りたきに付ほか) (水井)忠蔵→(八田)嘉助様	3月24日	横切紙・1通	え4710-116

5.17. 役人任免・俸禄

(書状、昨年中勤書を差し出すべきに付) 岡野敬一郎→伊東磯之進殿・関口守衛殿・山崎彦之進殿・八田喜兵衛殿・伊藤一学殿・柳沢一郎殿・塚田源吾殿・尾林菊太殿・小出謹三郎殿・山崎治助殿	4月2日	横切継紙/(え4680-1~57は括り紐一括)・1通	え4680-11
(書状、中野局下中町町田儀平が御入用筋により錢幣引換・商社役など仰せ付けられ、野生共一同勤め居るに付ほか) 坂本拝→八田様尊下	4月6日	横切継紙・1通	え4680-45
(包紙) *(包紙上書)「天保五年三月廿八日被仰付候 御書付二通」		包紙/(え4689-1~17は括り紐一括)/(え4689-9-1~3は包紙一括)・1点	え4689-9-1
(産物会所掛惣元方兼相勤めらるべきに付) *(端裏書)「八田嘉助」		横切紙・1通	え4689-9-2
(八田嘉右衛門・同嘉助、内願の趣倅嘉助召出され御勝手御用役見習い仰せ付けらるに付)	3月28日	横切継紙・1通	え4689-9-3

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

6. 松木家

6.1. 砲術

召仕江申含方之事(砲術御稽古、鉄塩硝御入用も多く何程あるか詮議いたすに付) *(端裏書)「御公用之趣相含候而申聞候ハ、自然与秘□申付候而も事立可申儀付」	10月	横切継紙/(え4674-1~35は括り紐一括)/(え4674-35-1~9は括り紐一括)・1通	え4674-35-2
--	-----	---	------------

6.2. 松木家家族

(書状、とんださいなんに出逢い、委細御父上様より御承分下さるべき儀、御せんぎ最中御父上様へは申上げがたく御まへより御申上げるべきに付ほか) (松木)源八→お長との	正月12日傳法船開認	横切継紙/(え4651-1~34は括り紐一括)・1通	え4651-4
---	------------	----------------------------	---------

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

7. 混入文書

7.1. 信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書

(書状、坂本様御養子の儀に付中山氏へ無心に及び亥之助儀は病身ゆえ準養子に仕りたきに付) 東江部村山田理右衛門→井上村竹前傳右衛門様	10月20日	横切継紙・1通	え4651-10
---	--------	---------	----------

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

8. 欠番

(欠番、え4710-77の継紙剥離したものであり、ひとつとした)		横切継紙/(え4710-1~117は括り紐一括)	え4710-78
----------------------------------	--	--------------------------	----------

既刊目録に見られる八田家文書群の階層構造一覧

凡 例：大＝大項目、中＝中項目、小＝小項目、小々＝小々項目とする。

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14	その15
01	内方(御茶之間)			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	01	系図・親類書		1	2				6		8		10	11		13	14	15
		01	由緒		2				6		8		10				14	
		02	扶持方請取			2												15
	02	相続／家督／隠居		1	2				6		8			11	12		14	
	03	家訓・規定		1	2				6		8			11				15
		01	条目・遺言			1					8			11				15
		02	東条村養父運右衛門殺害候八十吉磔罪一件							8								
		03	勝手向取締(家政立て直し)			1	2											15
		04	役代調印規定			1												
		05	帳簿口立規定			1												
		06	店人足規定(奉公人規定)			1												
		07	帳面仕立方				2											
		08	元方・勘定一式				2											
	04	人別改		1														15
	05	家族・奉公人(別家・日傭)		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
		01	鉄之助内室出産					4										
		02	市兵衛意見書					4										
		03	増田徳左衛門家勝手向き立て直し								8					13	14	
		04	本家勝手向立直し									9		11				
		05	婚姻											11	12	13	14	15
		06	鉄之助(嫡子)							8				11			14	
		07	大瀬登へ養女縁組							8								
		08	鉄治郎松村家養子入り							8					12			
		09	嘉永7年江戸表鉄冶郎離縁一条書類綴／鉄冶郎不行跡							8				11				15
		10	鉄冶郎金井家養子入り							8				11	12	13		
		11	辰三郎引き取り							8				11				
		12	八田喜兵衛(一件)								9			11		13	14	
		13	人名・年齢書上				4									13	14	15
		14	儀礼					5										
		15	役代					5		8				11				15
		16	店人別規定(奉公人規定)			2												
		17	奉公人請状									9						
		18	奉公人動向			2				8	9	10	11	12				15
		19	奉公人給金(不払一件／出入)			2	3			8				11			14	
		20	貸付金							8								
		21	送金												12			15
		22	八田鉄之助前髪剃										10					
		23	八田辰三郎													13		
		24	改名															15
		25	書状その他											11	12			
	06	親類				3								11	12	13	14	
		01	増田徳左衛門家勝手向立て直し			3											14	
		02	親類不埒示談仲介			3												
		03	八田本之進跡目申立入用書類											11				
		04	柿崎源左衛門一件												12			
		05	書状											11	12		14	
		06	師岡七郎右衛門縁組														13	
		07	甲州八代郡八田村八田新太郎														13	
		08	その他											11	12		14	
	07	田村半右衛門書状綴				4												
	08	家政						5								12		14
	09	藩への上納金・才覚金				4	5			7	8	9	10	11	12	13	14	
	10	藩関係								7	8	9		11	12	14	15	
		01	御目見(御入・拝領)							7		9		11	12		14	
		02	救恤							7								
		03	勤務									9		11	12		14	15
		04	献上									9						
		05	藩士との交際									9		11	12		14	
		06	藩士への縁組への助力									9						
		07	藩主相撲上覧一件									9						
		08	他藩ほかの情報									9						
		09	樋口民衛												12			
		10	諸伺・諸届												12		14	
		11	書状												12		14	
		12	苗字帯刀															15
		13	秩禄															15
		14	その他							7				11	12			

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14	その15
	11	町関係								7								14
		01	立入人							7								
		02	上水関係							7								
	12	給人格取立・扶持加増					4	5			8					13	14	
	13	土地経営(所有地経営)		1	2	3			6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
		01	持地	1					6		8	9	10			13		15
		02	借家(借家・借地経営)						6			9	10	11	12	13		15
		03	江戸屋敷						6									
		04	持地・抱屋敷絵図	1										11	12		14	15
		05	抱屋敷肝煎用留	1														
		06	買取・質取	1					6		8	9		11	12		14	
		07	売渡	1								9		11	12		14	
		08	田畑見廻	1														
		09	田地譲渡						6							13		
		10	(家賃・)小作年貢取立	1	2									11			14	
		11	小作年貢滞納出入	1	2													
		12	小作方日記	1														
		13	年貢諸役上納	1							8		10	11	12		14	15
		14	米・桑売渡	1							8						14	
		15	家屋敷建築		2								10					15
		16	下屋敷		2				6				10	11				15
		17	抱屋敷引請		2						8							
		18	抱屋敷普請		2													
		19	手作地		2													
		20	田地譲渡取調		2													
		21	質地証文・借用証文				4(小々々)											
		22	所持地年貢目録綴									9						
		23	所持地石高取調									9						
		24	土地絵図									9			12			15
		25	小作			4(小々々)			6		8		10			13		15
		26	土口村(小作)		2						8	9					14	
		27	矢代村(小作)		2					7	8	9	10	11			14	15
		28	生菅村小作		2													
		29	長岡助右衛門小作		2													
		30	古川敷小作		2													
		31	東寺尾村新堰		2													
		32	居屋敷・土蔵			3					8				12			
		33	自作・小作貸出			3												
		34	質入						6									
		35	根津村								8			11				
		36	小作米日延								8							
		37	赤倉温泉								8		10					15
		38	鹿沢温泉・山野湯温泉								8						14	
		39	取米(正徳米)												12			
		40	御安口堤土手								8							
		41	井上村								8							
		42	東寺尾村								8	9			12		14	15
		43	西寺尾村								8	9						
		44	沓野村								8							
		45	上徳間村								8							
		46	皆神山								8	9	10					
		47	牧内村								8	9					14	
		48	田野口村							7	8							
		49	後町							7								
		50	清野村							7		9				12		
		51	東条村							7		9		11	12			
		52	平林村							7	8	9			12			
		53	赤岩村									9						
		54	田中村									9						
		55	河原新田									9			12			
		56	浦新田									9						
		57	木町									9						
		58	西条村									9	10	11				
		59	岩野村新田									9						
		60	会村									9						
		61	東荒町村									9						
		62	中条村									9		11				
		63	荒町村									9						
		64	御安口村									9						
		65	新御安口村									9						
		66	荒町									9	10	11				
		67	浄行寺									9						
		68	練光寺							7				11				

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14	その15	
69	地券										8								
70	所持地年貢皆済明細勘定書綴												10						
71	山林																14		
72	堤普請																14		
73	その他									7			10	11					
14	小作年貢滞出入一件			2				6(中中)						11				15	
01	岩村田小作年貢滞一件			2															
02	飯山小作年貢滞一件			2															
03	田野口村小作年貢滞一件			2															
04	中野質地一件			2										11				15	
05	赤倉湯一件			2															
06	その他														11				
15	材木方			1	2				6		8				11				
16	通船方			1	2						8				11				
17	金融			1	2	3		5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
01	借入金・預り金			1		3		5	6		8	9	10	11	12		14	15	
01	松代藩御用達金預り運用					3													
02	貸付金			1	2	3		5	6		8	9	10	11	12	13	14	15	
03	他家借財片付			1					6						11				
04	無尽			1	2	3(中)		5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
05	預り金利払			2									10		12				
06	貸付金調			2															
07	貸付金返済滞り			2												12		14	
08	広田筑後・岩出六右衛門無尽一条			2											11				
09	皆神山無尽			2															
10	家中侍借財勝手向立直し			2					6							12			
11	質地(・借金)							5										14	
12	飯山藩・岩村田藩領(小作年貢滞一件)							5							11		13		
13	伊勢山田御師広田筑後一件							5			8				11	12	13	14	15
14	貸借金									7				10	11	12		14	
15	宿方式割増御手充積金										8								
16	余計金上納										8								
17	下屋敷御助成金										8								
18	拝借米										8					12	13		
19	高遠へ御貸金取立方一件													10		12			
20	八田家私底一件															12			
21	その他															12			
18	飯山領									7	8(小)	9	10	11	12	13	14		
01	無尽									7		9		11	12			14	
02	訴訟									7				11	12			14	
03	貸付金											9		11			13	14	
04	質地											9		11					
05	本多豊後守婚礼													10					
06	本多豊後守松代城下止宿関係綴													10			13		
07	芝津村斧右衛門借財片付方一件													10					
08	音信															12		14	
09	藩御用(年貢扱払)															12		14	
19	上田領												9						
20	岩村田領									7	8(小)	9	10	11	12	13	14	15	
01	御勝手御用											9						14	
02	仕送金											9						14	
03	地所改											9							
04	小作											9				12			
05	貸付金											9			11	12	13	14	15
06	無尽													10		12	13	14	
07	訴訟													10	11			14	15
08	岩村田差引方調書類綴													10					
09	岩村田村法華堂差引勘定一件													10					
10	内藤豊後守大番頭就任																	13	
11	音信																	14	
12	その他														11	12			
21	田野口領											9	10						
22	埴科郡下戸倉村(幕領)											9							
23	小県郡根津(旗本知行所)											9							
24	赤倉温泉											9			11	12			
25	出張			1	2										11	12			
26	金銭・穀物請払			1	2			5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
01	店方江下ヶ金・上納金			1	2						8							15	
02	金銭請取			1	2										11		13	14	
03	暮方見積			1															
04	入用			1							8						13	15	
05	買物方日記			1															
06	金銭出入帳(金銭請払帳)			1															

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14	その15
			07 金銭差引(金銭差引帳)	1							8		10	11				
			08 穀物・諸品請払	1		4(中)					8	9	10	11		13	14	15
			09 金銭穀物請払取調勘定	1														
			10 請払勘定覚		2													
			11 木町伊勢町差引帳		2											13		
			12 金銭払方		2				6					11	12		14	
			13 雑穀		2													
			14 売掛金滞		2													
			15 金銭勘定						6						12	13	14	15
			16 普請						6			9		11	12			
			17 近代税金領収書								8							15
			18 近代諸領収書								8							
			19 小切手								8							
			20 株券・(公債)								8			11				
			21 両替												12			
			22 その他												11	12	13	
	27 賄			1	2			5	6						11	12	14	
			01 賄穀物請払	1											11			
			02 入用	1											11			
			03 勝手方日記・控帳	1														
			04 御膳日記	1														
			05 諸品通帳(家計)		2										11			
			06 諸品請払						6						11	12	14	
			07 献立												11	12		
			08 移送													12	14	
	28 勝手向					3					8		10	11			14	15
			01 勝手向立て直し			3					8		10					15
			02 勝手向取極・諸入用			3												
			03 金銭出入帳			3												
	29 棚卸			1	2													
	30 家計取調											9						
	31 日記・控留			1	2													
			01 被仰付書・願書控留	1														
			02 状留	1														
			03 茶之間日記・元方日記・役代日記他	1														
			04 万書留帳	1														
			05 手控	1	2													
			06 殿様湧泉亭御入一条		2													
	32 儀礼(家族)			1	2	3			6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
			01 為知帳	1	2													
			02 赤飯配	1	2													
			03 出生／節句									9				13	14	15
			04 元服(・成人)									9		11	12		14	15
			05 献上・進物	1		3					8							15
			06 献上・寄付						6									
			07 来訪(人名面帳)	1													14	
			08 到来物	1	2	3									12			
			09 贈答覚帳(贈答)	1						7								
			10 贈答・進物									9		11	12	13	14	15
			11 婚姻・離縁	1	2				6	7		9	10	11		13	14	15
			12 葬儀・法事	1	2				6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
			13 先祖供養									9		11			14	
			14 大福帳(諸儀礼覚帳)	1														
			15 年中行事(帳)	1									10	11				
			16 宴会	1							8		10				13	14
			17 引越為知		2												13	15
			18 祝儀入料		2													
			19 書状[儀礼の書状]				3			6			8	10	11			
			20 中島三右衛門書状															8
			21 目録・目録包紙一括															8
			22 年賀状(・暑中見舞・寒中見舞)															13
			23 御目見・代替・就任挨拶・許可／加増															13
			24 見舞い															13
			25 御礼															15
	33 旅			1									10	11	12	14	15	
			01 社寺参詣(寺社参詣)	1										10	12	14	15	
			02 入湯	1										10			14	
			03 経費															14
	34 寺社(寺社奉加)			1	2			5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
			01 寺社奉加		2										12	13	14	
			02 浄福寺借財関係									9	10					
			03 浄福寺(無尽一件)											11			14	
			04 浄福寺祠堂金貸付一件									9						

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14	その15	
			05 菩提寺浄福寺(一件)		2				6	7	8		10	11	12		14	15	
			06 松代大林寺								8			11	12	13		15	
			07 松代清瀧山観音堂								8					13			
			08 松代証蓮寺								8				12				
			09 湯田中梅翁寺								8								
			10 高野山明泉院								8					13	14		
			11 松代興善寺								8								
			12 松代離山神社								8								
			13 埴科郡倉科村福昌寺										10						
			14 和合院												12		14	15	
			15 戸隠山善法院												12				
			16 江戸								8			11				15	
			17 松代練光寺														13	14	
			18 松代福德寺														13		
			19 白鳥宮													13			
			20 海野宿奥善寺															14	
			21 良性院															14	
			22 諸寺社															14	
			23 水銭															14	
			24 諏訪宮															15	
			25 高野山蓮華定院															15	
			26 尾張															15	
			27 その他							7	8	9	10	11	12				
35	家財			1	2	3					8			11	12	13	14	15	
		01	武器(武具)	1	2						8			11	12		14	15	
		02	衣類・諸道具・書画ほか	1	2									11	12	13	14	15	
		03	武具・印章等注文			3									12	13		15	
		04	茶道具等売払			3													
		05	諸道具貸出			3									12	13	14	15	
36	運送														12				
		01	荷札												12				
37	投資									7									
		01	松代貯積銀行							7									
38	蔵書(・読書)			1		3			6					11	12				
39	見聞・風説書			1	2	3			6		8		10	11	12	13	14	15	
40	アメリカ船渡来情報収集						4												
41	外交・軍事情報							5			8								
42	諸情報														12		14		
43	諸芸			1	2	3			6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
		01	武芸・文芸	1	2			5(中)			8		10	11	12	13	14	15	
		02	茶の湯	1	2						8	9		11	12	13	14	15	
		03	学芸			3									12		14	15	
		04	能			3												15	
		05	柔術			3								11				15	
		06	水術			3												15	
		07	松明製法			3													
		08	手習								8			11		13	14	15	
		09	占い(・親相)										9	11		13		15	
		10	泰全様御在命中山口専始斉先生より御伝達書類綴										10						
		11	俳句・和歌														13	14	15
		12	将棋														13		
		13	その他											11	12				
44	学校			1		3			6		8								
		01	試験問題			3													
		02	教科書								8								
45	証書			1															
		01	生糸改会社証記簿			1													
		02	横浜正金銀行創立証書			1													
46	養蚕					3													
47	信心					3								11		13			
48	諸家交流														12		14		
		01	音信												12		14		
		02	礼状												12		14		
		03	贈答物												12				
		04	依頼												12				
49	書状類							5		7			10	11	12		14		
		01	嘉永6年12月中到来書状綴												11				
		02	嘉永7年正月より到来書簡												11				
		03	嘉永7年3月よりの到来書簡												11				
		04	嘉永7年4月よりの到来書簡												11				
		05	安政2年10月よりの来状												11				
		06	安政2年11月中よりの書簡綴												11				
		07	安政2年12月よりの来簡												11				

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14	その15
			57 その他												12		14	
			51 吹直金銀引替										10				14	
			52 泰全院一代一卷綴										10					
			53 その他									9	10	11				
02	店方			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
		01	酒造方(酒蔵・酒店)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
			01 酒株・酒造高書上／酒造株高	1		3	4	5						11				
			02 酒造鑑札	1								9						15
			03 内方より拝借米金・上納金	1								9						15
			04 酒造入用	1								9						15
			05 酒蔵より酒店出酒	1														
			06 売渡	1		3												
			07 金銀出入帳	1														
			08 取替(立替)	1														
			09 棚卸	1	2							9						15
			10 酒蔵・酒道具貸付	1	2													
			11 諸控留	1	2													
			12 蔵書	1														
			13 酒蔵・酒店勘定		2						8		10	11			14	15
			14 酒売掛帳		2													
			15 酒蔵普請		2													
			16 水油		2													
			17 質地証文				4											
			18 酒株・鑑札						6		8							
			19 仕法						6		8		11	12				
			20 酒造高								8		10	11				
			21 酒造米(貸付)								8							14
			22 奉公人(使用人)						6		8			11				15
			23 手充						6									
			24 諸品請払						6									
			25 借入金						6		8	9						
			26 一件						6									
			27 道具調						6									15
			28 書状						6						11	12		
			29 褒賞								8							
			30 酒造関係綴								8		10	11				
			31 酒造関係重要古書類									9						
			32 藩関係											11	12			
			33 借地															15
			34 普請															15
02	呉服店			1	2			5		7	8			11		13	14	15
		01	売買	1							8			11				15
		02	御会符荷物	1														
		03	棚卸	1														
		04	控留	1														
		05	呉服仕入勘定		2													
		06	古着		2													
		07	その他											11				
03	油店			1	2				6		8				12		14	15
		01	内方より拝借金・上納金	1														
		02	金銭請払	1														15
		03	棚卸	1											12			
		04	油・醤油		2													
		05	奉公人(使用人)								8				12			
04	醤油店(松井店)			1	2	3			6	7	8	9		11			14	15
		01	内方より拝借金・上納金	1														15
		02	仕入	1														
		03	売渡	1														
		04	売買差引勘定	1												11		
		05	入用	1								9		11				
		06	取替(立替)	1														
		07	棚卸	1							8							
		08	道具調	1														
		09	越後赤倉松井店	1						7								
		10	店立て直し			3					8							
		11	他店立て直し									9						
		12	藩御用			3								11				
06	質店			1	2				6		8			11		13		15
		01	内方より拝借金・上納金	1														15
		02	入用	1														15
		03	取替(立替)	1														15
		04	棚卸	1														
		05	控留	1														

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14	その15
	07	角店・酒店												11				
	08	陶器方(店)			2	3	4											15
	09	甘草方					4								12			
	10	諸勘定						5										
	11	諸情報													12			
	12	赤倉松井店														13	14	15
	13	その他												11				
03	町方	町年寄		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	01	控留		1							8		10					
		01 高札・条目写控		1							8		10					
		02 町年寄用留		1			4											
	02	触留						5								13		
03	宗門改							5			8	9	10	11	12	13		
	04	諸役・貢税		1							8				12		14	15
		01 家数・町役書上		1							8							
		02 伝馬役		1							8				12			
		03 巡見本陣役		1														
		04 明治期貢税取調		1													14	
		05 御用金									8							
		06 年貢諸役													12			15
05	殿様御用			1					6		8		10	11	12	13		15
		01 殿様帰城出迎		1														
		02 殿様御入接待		1									10	11				15
		03 殿様御巡見													12			15
	06	救済		1							8			11	12	13		15
		01 飢饉		1							8			11		13		
		02 火災・水害		1							8			11	12			
		03 御買上米													12			
		04 手当・施行													12			15
	07	講		1											12			14
		01 町内無尽講		1											12			
		02 恵比寿講		1														
	08	町会所			2													
	09	穀行司			2													
	10	御巡見様入用			2												13	
	11	大庄屋			2													
	12	触書写控					3							11				14
	13	軀切支丹類族改					3											
	14	殿様御入					3				8							
	15	飢饉時米調達					3											
	16	町政／一件							6	7	8	9	10	11	12			14 15
	17	御取締							6									
	18	御巡見様御用							6		8				12			
	19	貸借							6		8							15
	20	社倉							6						12			
	21	町内無尽							6									
	23	祭礼									8			11				14 15
	24	相場									8							
	25	町役金									8				12			
	26	酒造													12			
	27	水道方															13	
04	松代藩御用			1	2	3			6		8	9	10	11	12	13	14	15
	01	年貢諸役取立請負・御用米金調達		1	2						8		10	11		13		15
	02	御勝手御用役		1		3								11				15
		01 月番表		1														
		02 用留・日記		1														
		03 融通金		1														
		04 役人任免・俸禄																15
		05 褒賞																15
	03	産物御用掛		1		3	4				8			11	12			
		01 用留		1														
		02 産物取立無尽		1		3									12			
		03 国産方入用		1														
		04 産物御用掛任命				3	4											
		05 藩より拝借金				3												
	04	手控		1														
	05	御用達金預り運用				3					8							
	06	産物売捌方問屋				3												
		01 褒賞				3												
	07	川船会所				3					8	9	10	11	12	13	14	15
		01 通船免許				3					8	9	10			13	14	15
		02 通船貸下				3												
		03 通船取締				3										13		15

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14	その15	
			04 会所世話料			3													
			05 金子・田畑屋敷貸下			3					8					13		15	
			06 冥加金			3													
			07 飯山一件									9						14	
			08 中野一件									9						14	
			09 貸付金									9							
			10 諸書類綴								8								
			11 殿様田植見物													13			
		08	接待用諸道具貸出			3													
		09	御用金・御用米／御用米納入						6			9		11					
		10	江戸運送						6										
		11	人足						6										
		12	漬物御用								8								
		13	荷物札差認方								8								
		15	巡見使接待									9						14	
		16	分量金									9							
		17	荷物差札認方									9							
		18	融通米世話										10					14	
		19	椀類挽物問屋										10					14	
		20	飛脚会所											11				14	
05	会所・商社／糸会所			1(中)	2	3	4	5			8	9			11	12	13	14	15
	01	藩より拝借金品	1(小)			3													
	02	諸方より預り金・借入金	1(小)			3									12				
	03	会所貸下金	1(小)			3								11	12				15
	04	借入金・預り金・貸付金					4	5						11					15
	05	蘭中買人仲間・糸元師仲間／蘭仲買	1(小)											11					
	06	糸元師への鑑札給付					4												
	07	糸元師不正取り締まり					4												
	08	糸元師の統制						5											
	09	紬市統制					4							11					
	10	紬中買人仲間	1(小)									9							
	11	糸売買	1(小)											11		13			
	12	買物帳	1(小)																
	13	取替(立替)	1(小)																
	14	金銀請払	1(小)																
	15	日記・用留	1(小)																
	16	御内用荷	1(小)																
	17	糸会所締掛任命				3													
	18	糸元師				3													
	19	紬類売捌				3													
	20	上州売り捌き					4				8								
	21	紬会所			2														
	22	木綿行司			2														
	23	諸書類(綴)					4								11				
06	会所・商社／産物会所			1(中)		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
	01	触順	1(小)																
	02	拝借金							6			9		11	12	13	14		
	03	藩より拝借金(上納金)	1(小)			3	4	5						11					
	04	会所江献上金	1(小)																
	05	会所貸下金	1(小)			3					8	9		11		13	14	15	
	06	会所より貸下げ品・拝借金					4	5						11					
		01	蚕種紙				4												
		02	拝借金				4							11					
		03	諸品				4												
	07	産物改	1(小)																
	08	出役	1(小)																
	09	鑑札渡	1(小)																
	10	産物会所鑑札名面			2														
	11	冥加金(取立)	1(小)	2								9		11	12		14	15	
	12	絹紬類買入	1(小)																
	13	絹紬類売捌	1(小)											11	12				15
	14	絹紬類貸下	1(小)																
	15	甘草・杏仁大坂取引	1(小)												12				
	16	駄送／江戸への荷物運送駄賃・取引	1(小)						5	6		8		11		13			15
	17	麻・木綿売買	1(小)								8								15
	18	蚕種・生糸売買	1(小)																14
	19	入用	1(小)	2											12				15
		01	諸入用												12				
	20	金銭請払	1(小)								8			11	12				
	21	金銭請払取調勘定	1(小)											11					14
	22	棚卸	1(小)																
	23	日記・用留	1(小)																15
	24	褒賞	1(小)									9				13	14		

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14	その15
25	過料			1(小)														
26	産物助成講			1(小)							8							
27	道具帳			1(小)														
28	蔵書			1(小)														
29	会所役人心得方・取計方条々					3								11				15
30	藩江献上金					3												
31	藩入用品調達					3												
32	諸方より預り金					3	4				8							
33	産物会所仕入金融通					2												
34	産物無尽					2					8			11			14	15
35	産業統制					3	4	5			8		10	11	12	13	14	15
	01	市役金・店口銭				3												
		01	系市役金			3												
		02	店口銭			3												
	02	絹紬・木綿布・麻布等他製品商売禁制				3												
	03	諸国より城下入込商人改				3					8							
	04	行司				3								11		13		
	05	産物改				3												
		01	木綿改所			3												
		02	縮緬改			3												
		03	産物会所并取締役			3												
	06	鑑札				3		5						11	12	13		15
		01	領産取締			3												
		02	絹紬仲買鑑札			3	4											
		03	繭仲買・蚕種商売・系繭買・唐糸師等の鑑札			3	4	5										
		04	蚕種・生糸鑑札			3	4											
		05	木綿商買・木綿布仲買鑑札			3												
		06	杏干仁商売鑑札			3	4											
		07	甘草仲買鑑札			3	4											
		08	天秤振商売(香具)鑑札			3	4	5										
		09	煙草鑑札			3												
		10	楮商人荷宿并鑑札			3	4	5										
	07	系商売免許				3												
	08	冥加金				3					9(中)				12			
		01	絹紬仲買冥加金			3	4											
		02	繭仲買冥加金			3	4											
		03	唐糸師冥加金			3												
		04	木綿師冥加金			3												
		05	品々冥加金			3												
	09	陶器竈場				3		5	6								14	15
	10	桑畑				3												
	11	縮緬製造				3												
	13	関係書類綴						5										
	17	蚕種・絹紬					4	5			8					13	14	15
		01	紬売り代金書上				4	5										
		02	隠糸挽				4	5										
		03	触留					5										
		04	仕法替え					5										
		05	系繭取引					5										
		06	紬ほか売り代金書上					5										
		07	荷札					5										
		08	冥加金					4										
	18	甘草					4				8			11	12			15
		01	取締筋				4											
		02	植え付け				4											
		03	鑑札				4				8							
	19	杏仁					4				8	9(中)	10	11	12		14	15
		01	買入れ				4										14	
		02	惣勘定				4											
		03	「杏仁御買上二付入用之雑書類入」				4											
		04	諸書類綴				4						10					
		05	書状												12			
	20	杏仁・甘草				2(中)	4	5									13	
	21	楮					4								11			
	22	天秤振					4											
	23	蚊帳					4											
	24	明礬					4	5										
	25	白粉					4											
	26	硫黄					4				8							
	27	木綿					4	5			8							15
	28	麻						5										
	29	薬草								6								14
	30	銅山								6								

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14	その15
		31	諸品				4							11				
		32	規定															15
		33	その他				4											
			01 鑑札給付				4											
			02 鑑札制作				4											
		36	絹紬類売買				3											
			13 絹紬類織立				3											
			14 絹紬類買上				3											
			15 絹紬類売捌				3											
			01 絹紬類専売仕法替				3											
			02 上州吹屋村一件				3											
			16 絹紬類貸下				3											
		37	葉藍			2								11				
		38	陶器竈			2								11				
		39	大坂交易				3	4	5	6		8	10	11		13	14	15
			01 嘉永期甘草・杏仁等大坂売捌仕法				3	4	5			8	10			13		
			01 大坂交易関係文書留				3											
			02 甘草相場下落				3											
			03 炭屋孫七手許不繰合一件				3											
			04 大坂表無心一件				3											
			05 御用場								8							
			02 西国産物買入／西国産諸品買い上げ				3	4						11		13		
			03 安政期杏仁大坂売捌仕法／杏仁売捌				3	4	5					11				
			01 杏仁買上				3											
			02 杏仁大坂試捌				3											
			04 維新时期大坂交易				3											
			05 北国への荷物運送駄賃・取引				4	5					10					
			06 炭屋孫七割済金関係				4											
			07 炭屋彦五郎からの預り金				4											
			08 炭屋孫七関係書状など綴				4	5					10	11				
			09 諸仕切状綴				4											
			10 年賀状・暑中見舞・寒中見舞														13	
			11 その他				4							11				
		40	大坂にて金子調達			2								11				
		41	京都での取引				4	5	6					11	12			
		42	横浜での取引				4							11				
			01 才覚金徴集				4											
			02 横浜交易取扱所				4											
		43	近郷での取引				4	5										15
		44	江戸での取引				4	5			8		10	11		13	14	15
			01 諸品				4	5										14
			02 売捌代金滞り				4	5			8							14
			03 荷物送り状				4											
			04 取引					5			8		10					
		45	松前での取引															15
		46	その他地域での取引					5								13		
		47	麻(・木綿)売買				3								12		14	
			01 麻売買				3											14
			02 木綿売買				3											
			03 繰綿												12			
		48	明礬江戸送り				3											14
		49	蚕種・生糸改井外国交易				3											
		50	検断・調停				3											
			01 不実商い吟味				3											
			02 商い出入調停				3											
		51	入用				3							11				15
			01 諸入用				3											
			02 会所普請・作事入用				3							11				
		52	勘定				3			6								
		53	会所運営(・賄い領収書)				4	5						11	12		14	15
			01 近代産物会所領収書綴				4											
			02 御用米世話料				4											
			03 荷物駄賃				4								12			
			04 諸品				4							11				
			05 通船川岸端地所売り渡し				4											
			06 役人任免・俸禄					5						11	12			
			07 用地取得					5							12			
			08 賄い領収書					5						11			14	
			09 相場情報					5										
			10 会所締方													12		
			11 諸勘定													12		
		54	産物会所手控				2											
		55	産物会所勤人別				2											

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14	その15
56	産物会所仲間給金			2														
57	川船会所						4	5					11				14	
	01 貸付金						4											
	02 廻送荷物の改め						4											
	03 船手の者の願書受付						4											
	04 川船会所への地所売り渡し						4											
	05 小作証文						4											
	06 その他						4											
58	藩内地域の産物会所						4	5										
	01 力石村						4											
	02 内川村						4											
	03 向八幡村						4											
59	役人任免・俸禄						4				8			11				15
60	一件								6									
61	諸書類綴					3	4	5	6		8		10					
	01 東京より来状綴										8							
	02 産物方用事書状										8							
62	用状					3								11	12		14	
63	関田家文書														12			
64	その他					3								11	12			
07	会所・商社/松代商法社			1(中)		3	4	5	6	7		9	10	11	12		14	
	01 商法社貸出金			1(小)														
	02 貸付金の貸与						4											
	03 蚕種・生糸売買			1(小)														
	04 商社手形・太政官札引換			1(小)														
	05 入用			1(小)														
	06 棚卸			1(小)														
	07 商社引払			1(小)														
	08 諸書類綴								6				10					
09	商社			2														
	10 書状								6						12		14	
08	会所・商社来状一括											9		11				
09	長野県					3									12			
	01 勸業					3									12			
	01 蚕種・生糸交易					3									12			
10	松木家					3								11	12	13	14	15
	01 松代藩士																	14
	02 藩勤役														12			14
	御警衛方御番士																	14
	御吟味役																	14
	銃兵小隊長																	14
	役職不明																	14
	03 護国隊																13	14
	04 砲術																13	15
	05 御賞典																	14
	06 教育職																	14
	教授																	14
	訓導																	14
	07 求職/上京																	14
	08 家経営																	14
	借金																	14
	貸付金・無尽																13	14
	株																	14
	金銭勘定																	14
	金銭授受																	14
	諸品請払														12			14
	土地・建物																	14
	その他																	14
09	教育																	14
	手習																	14
	董宣																	14
	董隆																	14
10	董隆徴兵																	13
11	(松木家)家族																	13
	董正(源太郎・源八)																	14
	長(てふ・ちやう)																	14
	栄太郎																	14
	董宣																	14
	董隆																	14
	姉妹																	14
	作成者不明																	14
12	縁談																13	14
13	交際																	14

大	中	小	小々	その1	その2	その3	その4	その5	その6	その7	その8	その9	その10	その11	その12	その13	その14	その15
	14	挨拶・連絡																14
	15	贈答																14
	16	依頼																14
	17	接待																14
	18	購入																14
	19	文芸														13		14
	20	情報																14
	21	寺社																14
	22	書簡				3									11	12		
	23	その他													11			
11		副区長(第六区小区)							6									
12		第六十三国立銀行頭取							6	7	8							
	01	借用									8							
	02	預金									8							
13		電信切手売下所									8							
14		混合文書								7		9						
	01	内方・糸会所混合文書										9						
	02	内方・産物会所混合文書										9						
		01「有用之紙曆」				4	5											
		02 書状・領収書ほか一括				4	5											
		03 白紙・断簡					5											
16		内方・店方・産物会所混在文書							6									
17		その他				4		6	7	8	9			11	12	13	14	
	01	諸書類綴				4												14
	02	真田家郡方当番日記				4												
	03	不明								8			11	12	13			
	04	袋・包紙・こより等								8			11					
	05	白紙											11	12				
18		混入文書								8	9		11	12			14	15
	01	信濃国佐久郡御馬寄村町田家文書								8			11	12				
		01 町田家								8			11					
		02 収集史料								8								
	02	信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書																15
	03	下総国相馬郡藤代村飯田家文書								8								14
	04	下総国北相馬郡																14
	05	出羽国村山郡山家村山口家文書												11				
	06	陸奥国白河郡栃本村根本家文書												11	12			14
	07	甲斐国山梨郡下井尻村												11				
	08	不明								8								
19		欠番																15

『信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録(その1～15)』より作成。

丸括弧やスラッシュで示した項目名は、類似の項目をまとめるための表現である。

例えば、「奉公人給金(不払一件ノ出入)」は、「奉公人給金」「奉公人給金不払一件」「奉公人給金出入」という三種類の項目表現をまとめた表現であることを意味する。

史料目録 第117集

信濃国埴科郡松代伊勢町八田家文書目録（その15）

印刷発行 令和5年3月31日
発行者 人間文化研究機構 国文学研究資料館
編集 学術資料事業部
〒190-0014
東京都立川市緑町10-3
電話 050-5533-2900（代）
印刷 株式会社トリッド

©人間文化研究機構 禁無断複写

本目録は国文学研究資料館史料館の『史料館所蔵史料目録』（第78集まで発行）を継続しています。

ISBN 978-4-87592-209-3

ISSN 2435-2055



9784875922093

ISBN 978-4-87592-209-3

ISSN 2435-2055